

ステップアップガイド

PC-9821 *Nr15*

- 各部の名称と役割
- 本機の機能を知る
- 本機の機能を拡張する
- システムの設定を変更する



98 NOTE *Lavie*^{ラヴィ}

安全にお使いいただくために

- ・ 注意事項を守って製品をご使用ください。
- ・ このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に保管してください。

このマニュアルでは、製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

指示に従っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表しています。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定されること、および、物的損害のみの発生が想定されることを示します。

何に対する注意が必要かを表す記号です。

 毒物注意	毒性の物質による傷害の可能性が想定されることを示します。	 感電注意	感電の可能性が想定されることを示します。
 発火注意	発煙または発火の可能性が想定されることを示します。	 けが注意	けがを負う可能性が想定されることを示します。
 破裂注意	破裂の可能性が想定されることを示します。	 高温注意	高温による傷害の可能性が想定されることを示します。

安全に使うための説明は、絵でも表示しています。



禁止

禁止事項を示します。



電源プラグを抜く

電源コードのプラグを抜くように指示するものです。

この枠の中では、本機を安全に使うための注意事項を説明しています。必ずお読みください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意.....

⚠注意



感電注意

- 増設RAMボードの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、増設RAMボードの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 雷が鳴りだしたら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。



高温注意

- 本機の使用直後は、ハードディスクやハードディスクの周辺に触れないでください。

ハードディスクが熱くなっていますので、手をふれるとやけどをするおそれがあります。増設RAMボードの取り付け/取り外しは電源をOFFにしたあと30分以上たってから行うことをおすすめします。

※ このページは説明用のもので本文とは異なります。

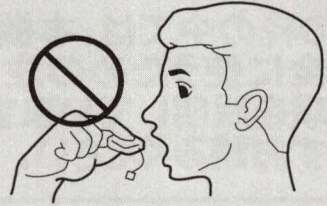
⚠警告



毒物注意

- **内蔵のサブバッテリーは、絶対に口に入れないでください。**

本機にはサブバッテリーが内蔵されています。サブバッテリーの内部には、人体に有害な物質が含まれています。万一、口に入れたり飲み込んだ場合はすぐに吐き出し、うがいをして、医師に相談してください。サブバッテリーは、廃棄するとき以外は取り外す必要はありませんが、万一、間違って取り外してしまった場合にも、上記の点に注意してください。



- **サブバッテリーは、短絡(ショート)防止対策をしてください。また、他の電池と混ぜないでください。**

本機にはサブバッテリーが内蔵されています。本機を廃棄するときにはサブバッテリーを取り外す必要がありますが、端子に絶縁テープを貼るなどの短絡(ショート)防止対策をせずに乾電池など他の電池と混ぜると、化学反応がおこり、内部の液が漏れて皮膚などを痛めることがあります。

- **リチウムバッテリーは、短絡(ショート)防止対策をしてください。また、他の電池と混ぜないでください。**

本機にはリチウムバッテリーが内蔵されています。端子に絶縁テープを貼るなどの短絡(ショート)防止対策をせずに乾電池など他の電池と混ぜると、化学反応がおこり、内部の液が漏れて皮膚などを痛めることがあります。

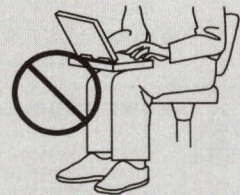


高温注意

- **ひざの上で長時間使用しないでください。**

使用中、本機底面が熱くなり、低温やけど*を起す可能性があります。

*低温やけどは、長時間にわたり一定個所に発熱体が触れたままになっているときなどに肌に紅斑、水泡などの症状をおこすやけどのことです。肌の弱い方などは、特にご注意ください。



発火注意



破裂注意

- **バッテリーパックは、分解しないでください。**

分解すると、破裂したり液もれしたりすることがあります。

- **バッテリーパックには強い衝撃を加えないでください。また、このマニュアルの指定の方法で充電してください。**

衝撃を加えたり指定以外の方法で充電したりすると、発熱、発火、破裂、液もれすることがあります。



毒物注意

- **バッテリーパックは、火の中に入れてください。**

火の中に入れると、爆発したり、破裂したりすることがあります。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。
これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Pentiumは Intel Corporationの登録商標です。

TranXitは Puma Technology, Inc. の商標です。

Hayesは米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

OS/2は米国IBM Corporationの商標です。

NIFTY Managerは、ニフティ(株)の商標です。

BitWareはCheyenne Software, Inc.の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 1996

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。
本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品
に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っておりません。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

正誤表

PC-9821Nr15「ステップアップガイド」

1996年11月

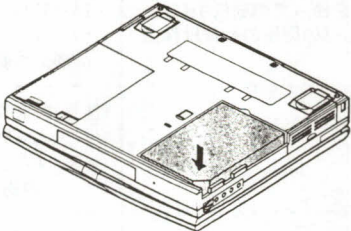
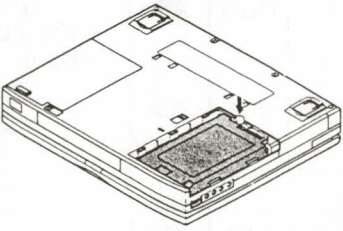
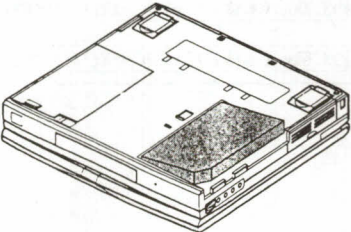
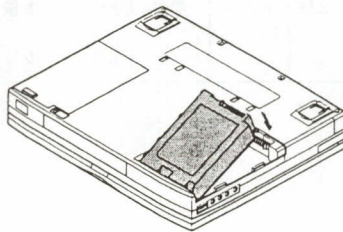
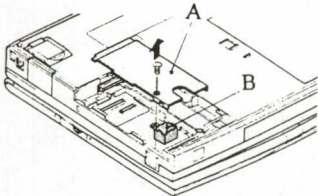
頁	行	区分	誤	正																																																																										
42	下から7行目	追加		解像度を1024×768ドットまたは1280×1024ドットに設定したままCRTディスプレイを取り外した場合には本機の液晶ディスプレイにも表示されなくなります。CRTディスプレイを接続して解像度を設定しなおすか、WindowsをSafeモードで起動して解像度を設定しなおしてください。Safeモードについては「Microsoft Windows95ファーストステップガイド」をご覧ください。Windows3.1の場合は「ソフトウェア補正ガイド」をご覧ください。ディスプレイの設定を変更してください。																																																																										
50 236	表	変更	「バッテリーパックでの使用時間」の表を以下のように読み替えてください。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>使用時間*</td> <td>約1.0時間～1.2時間</td> </tr> </table> <p>*:ドライブベイにバッテリーパックを増設した場合、使用時間は約2倍になります。</p>	使用時間*	約1.0時間～1.2時間																																																																									
使用時間*	約1.0時間～1.2時間																																																																													
76	6行目	追加		CPU速度を設定しているときにWindowsを起動しなおすと、自動的に設定前の値に戻ります。再度設定しなおしてください。																																																																										
86	下から8行目	追加		構内変換機（内線発信・0発信）を利用する場合は、ATX3の設定を行ってください。																																																																										
154	表	変更	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>INT0</th> <th>INT1</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤外線通信機能</td> <td></td> <td>◎*5*6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内蔵サウンド機能</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCカード*9スロット</td> <td>☆*9</td> <td>☆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスロット</td> <td>○*8</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		INT0	INT1		赤外線通信機能		◎*5*6		内蔵サウンド機能				PCカード*9スロット	☆*9	☆		コミュニケーションスロット	○*8	○		<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>INT0</th> <th>INT1</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤外線通信機能</td> <td></td> <td>●*5*6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内蔵サウンド機能</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCカード*9スロット</td> <td></td> <td>☆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスロット</td> <td>◎*8 *10</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		INT0	INT1		赤外線通信機能		●*5*6		内蔵サウンド機能				PCカード*9スロット		☆		コミュニケーションスロット	◎*8 *10	○																																			
	INT0	INT1																																																																												
赤外線通信機能		◎*5*6																																																																												
内蔵サウンド機能																																																																														
PCカード*9スロット	☆*9	☆																																																																												
コミュニケーションスロット	○*8	○																																																																												
	INT0	INT1																																																																												
赤外線通信機能		●*5*6																																																																												
内蔵サウンド機能																																																																														
PCカード*9スロット		☆																																																																												
コミュニケーションスロット	◎*8 *10	○																																																																												
154	最下行	追加		●:98NOTEメニューで「赤外線通信機能」を「使用する」にするとINT1(IRQ5)に設定されます。																																																																										
154	下から6行目	変更	*9:16ビットPCカード*9を使用するPCカードでは使用できません。	*9:16ビットPCカード*9を使用するPCカードを使うときには、あらかじめIRQ3、IRQ9、IRQ11、IRQ13以外の割り込みを予約しておいてください。割り込みの予約については、Windows95のAMFをご覧ください。Windows3.1の場合はPCカードユーティリティのAMFをご覧ください。																																																																										
154	下から5行目	追加		*10:PC-9821Nr15/S10では別売のFAXモデム*10を取り付け時にINT0(IRQ3)に割り込みが設定されます。																																																																										
154	下から3行目	変更	また、PCカード*9スロットは、INT3、INT42、INT6には設定できません。	また、PCカード*9スロットは、INT0、INT3、INT42、INT6には設定できません。																																																																										
155			誤) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="8">DMAチャネル</th> </tr> <tr> <th></th> <th>#0</th> <th>#1</th> <th>#2</th> <th>#3</th> <th>#4</th> <th>#5</th> <th>#6</th> <th>#7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インターフェイス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>内蔵フロッピーディスクインターフェイス</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>内蔵サウンド機能</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>赤外線通信機能</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>		DMAチャネル									#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	インターフェイス									内蔵フロッピーディスクインターフェイス			◎						内蔵サウンド機能		◎							赤外線通信機能								◎	正) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">DMAチャネル</th> </tr> <tr> <th></th> <th>#0</th> <th>#1</th> <th>#2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インターフェイス</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>内蔵フロッピーディスクインターフェイス</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>内蔵サウンド機能</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		DMAチャネル				#0	#1	#2	インターフェイス				内蔵フロッピーディスクインターフェイス			◎	内蔵サウンド機能		◎	
	DMAチャネル																																																																													
	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7																																																																						
インターフェイス																																																																														
内蔵フロッピーディスクインターフェイス			◎																																																																											
内蔵サウンド機能		◎																																																																												
赤外線通信機能								◎																																																																						
	DMAチャネル																																																																													
	#0	#1	#2																																																																											
インターフェイス																																																																														
内蔵フロッピーディスクインターフェイス			◎																																																																											
内蔵サウンド機能		◎																																																																												

頁	行	区分	誤	正																																																				
158 161 162	画面 画面 下の画面	変更	サウンド マイク*リューム 16M*バ*イ*システム空間 ハ*ッテリフレッシュモ*ド*	使用する OFF 使用する 設定しない	サウンド マイク*リューム MIDIの割り込み 16M*バ*イ*システム空間 ハ*ッテリフレッシュモ*ド*	BIOSを切り離す OFF 使用しない 使用する 設定しない																																																		
162 163 233	上の画面 画面 1つ目の かみ内	変更	98NOTEメニューの項目と既定値を以下のように読み替えてください。 誤) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">動作環境</td> </tr> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px;">サウンド</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">使用する</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">BIOSを切り離す</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">使用しない</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">マイク*リューム</td> <td style="padding: 5px;">OFF</td> <td style="padding: 5px;">ON (い*ん 5/8)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">16M*バ*イ*システム空間</td> <td style="padding: 5px;">使用する</td> <td style="padding: 5px;">切り離す</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">ハ*ッテリフレッシュモ*ド*</td> <td style="padding: 5px;">設定しない</td> <td style="padding: 5px;">設定しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="padding: 5px;">終了</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">使用する……サウンドBIOSを使用し、サウンド機能を有効にする 使用しない……サウンドBIOSを切り離し、サウンド機能を無効にする</p> 正) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">動作環境</td> </tr> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px;">サウンド</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">使用する</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">BIOSを切り離す</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">使用しない</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">マイク*リューム</td> <td style="padding: 5px;">OFF</td> <td style="padding: 5px;">ON (い*ん 5/8)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">MIDIの割り込み</td> <td style="padding: 5px;">使用する</td> <td style="padding: 5px;">使用しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">16M*バ*イ*システム空間</td> <td style="padding: 5px;">使用する</td> <td style="padding: 5px;">切り離す</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">ハ*ッテリフレッシュモ*ド*</td> <td style="padding: 5px;">設定しない</td> <td style="padding: 5px;">設定しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="padding: 5px;">終了</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">使用する……サウンドBIOSを使用し、サウンド機能を有効にする BIOSを切り離す……サウンドBIOSを切り離すが、サウンド機能を有効にする 使用しない……サウンドBIOSを切り離し、サウンド機能を無効にする</p>	動作環境				サウンド	使用する	BIOSを切り離す	使用しない	マイク*リューム	OFF	ON (い*ん 5/8)		16M*バ*イ*システム空間	使用する	切り離す		ハ*ッテリフレッシュモ*ド*	設定しない	設定しない		終了				動作環境				サウンド	使用する	BIOSを切り離す	使用しない	マイク*リューム	OFF	ON (い*ん 5/8)		MIDIの割り込み	使用する	使用しない		16M*バ*イ*システム空間	使用する	切り離す		ハ*ッテリフレッシュモ*ド*	設定しない	設定しない		終了				
動作環境																																																								
サウンド	使用する	BIOSを切り離す	使用しない																																																					
マイク*リューム	OFF	ON (い*ん 5/8)																																																						
16M*バ*イ*システム空間	使用する	切り離す																																																						
ハ*ッテリフレッシュモ*ド*	設定しない	設定しない																																																						
終了																																																								
動作環境																																																								
サウンド	使用する	BIOSを切り離す	使用しない																																																					
マイク*リューム	OFF	ON (い*ん 5/8)																																																						
MIDIの割り込み	使用する	使用しない																																																						
16M*バ*イ*システム空間	使用する	切り離す																																																						
ハ*ッテリフレッシュモ*ド*	設定しない	設定しない																																																						
終了																																																								
163	下から 4行目	追加		●MIDIの割り込み 本機にMIDI機器を接続して使用するときに「使用する」に設定します。「サウンド」が「使用しない」になっているときには設定できません。																																																				
167	画面	変更	誤) 液晶ディスプレイ自動停止 内蔵固定ディスク自動停止 CPU自動停止 正) 液晶ディスプレイ自動停止 内蔵固定ディスク自動停止 CPU自動停止	設定する (約11分) 設定しない 設定する (約3分) 設定しない 使用する 切り離す 設定する (約11分) 設定しない 設定する (約3分) 設定しない 設定する 設定しない																																																				
170 233	画面 下から 2番目の かみ内	変更	誤) 赤外線通信機能 モデム 正) 赤外線通信機能 モデム	使用する 使用しない 使用する 使用しない 使用する 使用しない 使用する 使用しない																																																				
171	下から 6行目	変更	モデムを使うかどうかを設定します。モデムを使うときには、「使用する」に設定してください。PC-9821Nr15/S10では、別売のFAXモデム*ド* (PC-9821NR-B05)を取り付けた場合のみ設定できます。	PC-9821Nr15/S14Fでは「使用する」に設定されています。PC-9821Nr15/S10では、別売のFAXモデム*ド* (PC-9821NR-B05)を取り付けると自動的に「使用する」に設定されます。																																																				

正誤表

PC-9821Nr15「ステップアップガイド」

1996年11月

頁	行	区分	誤	正
56	1行目	変更	<p>7 図の矢印の部分に指をかけてバッテリーバックを取り出します。</p> 	<p>7 図の矢印の部分に指をかけてバッテリーバックを取り出します。</p> 
56	5行目	変更	<p>9 新しいバッテリーバックを本機に取り付けます。</p> 	<p>9 新しいバッテリーバックを本機に取り付けます。</p> 
150	最下行	追加		<p>8 PC-9821Nr15/S10では、Aのカバーをはずした後、Bのカバーも取り外します。 (Bのカバーはコミュニケーションスロットに何も取り付けない場合に使用しますので大切に保管してください)</p> 

頁	行	区分	誤	正		
70	下から 5行目	変更	ここをクリックして□にすると、Windows上での設定の有効/無効が表示される	ここをクリックして□にすると、Windows上での設定が無効になる		
71	6行目	変更	Windows上でハイパーネーション機能を無効にする	Windows上でハイパーネーション機能を有効にする		
83	13行目	変更	・FAXモデムを使っての通信中には、サスペンド/レジュームの機能の動作は保証されません。	・FAXモデムを使っての通信中には、サスペンド/レジュームの機能およびハイパーネーション機能の動作は保証されません。		
85	12行目	追加		(注意)98NOTEメニューの「動作環境の設定」の「サウンド」を「使用しない」にすると、留守番電話機能やスピーカ機能は使用できません。		
85	下から 10行目	追加		(参考)付属のソフト「BitWare」を使用してFAX情報サービスを利用する場合、市販の二股の中継アダプタと電話機が必要となります。		
236	上の表 内	変更	誤) <table border="1" data-bbox="369 609 805 636"> <tr> <td>重量</td> <td>約3.4kg (本体にバッテリーパック取り付け時)</td> </tr> </table>	重量	約3.4kg (本体にバッテリーパック取り付け時)	
重量	約3.4kg (本体にバッテリーパック取り付け時)					
			正) <table border="1" data-bbox="369 662 805 689"> <tr> <td>重量</td> <td>約3.6kg (本体にバッテリーパック取り付け時)</td> </tr> </table>	重量	約3.6kg (本体にバッテリーパック取り付け時)	
重量	約3.6kg (本体にバッテリーパック取り付け時)					

ハイバネーション機能使用上の注意

Windows 95でハイバネーション機能を使うときには、ハイバネーションの設定のあと「EXIT」と入力してEnterキーを押し、Windows 95を再起動してください。

ビデオ出力機能の利用について

本機のビデオ出力端子を利用したビデオ出力機能は、本機にインストールされているWindows 95でのみ使用できます。

表示方法の切り替えについて

タスクバーの「画面出力切替」アイコンをクリックしても「ディスプレイ出力」や「テレビ出力」を選択できない場合には、次の操作を行ってから再度選択しなおしてください。

- ①タスクバーの「画面出力切替」アイコンを右クリックします。
- ②「プロパティ」をクリックします。
- ③「使用する」をクリックして「OK」ボタンをクリックします。

スピーカホン機能利用上の注意

本機のスピーカホン機能をご使用の際、回線の接続場所や状態により内蔵スピーカからの音量が小さくなる場合があります。

その場合は、ヘッドホンやイヤホンでのご使用をお勧めします。



はじめに

このマニュアルは、本機の基本的な操作方法を習得された方のために、より詳しい使用方法を説明しています。

本機固有の機能や機器の拡張方法について詳しく説明していますので、必要に応じてご利用ください。

1996年 11月 初 版

このマニュアルの構成

このマニュアルは次のような構成になっています。



Part1 各部の名称と役割

本機の各部の名称や役割、操作方法について説明しています。



Part2 本機の機能を知る

本機で使用できる各種の機能について説明しています。



Part3 本機の機能を拡張する

別売の周辺機器の接続方法や設定方法を説明しています。



Part4 システムの設定を変更する

システムの設定を変更する方法について説明しています。



付録

Windows 95でMS-DOSモードを使用するときの注意や、本機のお手入れ、廃棄方法などについて説明しています。また、用語集や索引、機能仕様などを収録しています。

■Windows 95を使用される方へ

次の情報については、本機に添付されている次のマニュアルをご覧ください。

- Windows 95の基本操作について知りたい
『かんたんスタートガイド』
『Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド』
- インターネットを使いたい
『インターネットスタートガイド』(PC-9821Nr15/S14F)
『アプリケーション操作ガイド』(PC-9821Nr15/S10)
- Windows 95以外のOSを使いたい
『再セットアップガイド』
- システムを再セットアップしたい
『再セットアップガイド』
- アプリケーションソフトを使いたい
『アプリケーション操作ガイド』
- 困ったときの解決方法
『困ったときにお読みください』

■MS-DOSとWindows 3.1を使用される方へ

このマニュアルに記載されているマニュアルのうち、MS-DOS、Windows 3.1、プラグ&プレイサポートソフトウェアのマニュアルは、購入時には添付されていません。

MS-DOS 6.2とWindows 3.1を選択された方は、「Microsoft Windows 3.1を使用される方へ」をご覧ください。MS-DOSとWindows 3.1のマニュアルを入手してください。

このマニュアルの本文中の **Windows 95** と表記されている部分はWindows 95をお使いの方のための説明ですので、この部分の内容についてはMS-DOSとWindows 3.1のマニュアルをご覧ください。





■リセットについて

本機にはリセットスイッチはありません。


ソフトウェアを使用中にリセット指示、リセットメッセージ表示があり、リセット操作が必要な場合は、電源スイッチで一度電源をOFFにしたあと、再度電源スイッチで電源をONにしてください。

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性があります。
	参考にしていただきたいことを説明しています。
	本文中に出てくる用語の説明や、知っておくとよいことなどを説明しています。
	参照ページを表しています。
Windows 95	Windows 95をお使いの方のための説明です。MS-DOS 6.2とWindows 3.1をお使いの場合は、MS-DOSとWindows 3.1のマニュアルをご覧ください。マニュアルの入手方法については、「Microsoft Windows 3.1を使用される方へ」をご覧ください。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

本機	次の2モデルを総称しています。 PC-9821Nr15/S14F PC-9821Nr15/S10
Windows	Microsoft® Windows® 95とMicrosoft® Windows® 3.1の両方を指します。
MS-DOS	MS-DOS® 全般を指します。 特に必要な場合は、バージョン名を記載します。
[XXX]	[]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。例：[OK]ボタン
	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。

記載されているアプリケーションソフトなどの正式名称は、以下のとおりです。

本文中の表記	正式名称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows 3.1	Microsoft® Windows® 3.1
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51およびMicrosoft® Windows NT® Server Operating System Version 3.51
Netscape	Netscape Navigator Ver2.02[JA]

本文中で使われている用語で、わからない用語が出てきた場合は、「付録」の「パソコン用語集」をご覧ください。

※本文中の画面は、実際の画面と異なることがあります。

目次

安全にお使いいただくために

はじめに

このマニュアルの構成 vi

このマニュアルの表記について viii



Part 1 各部の名称と役割

各部の名称と役割一覧	2
動作表示用LED	7
ステータスインジケータ	8
ドライブベイ	11
キーボード	12
キーの名称と働き	12
日本語入力について Windows 95	14
キーボードの設定を変更する Windows 95	15
98スライドパッド	16
98スライドパッドのしくみ	16
98スライドパッドを使用するときの注意	16
マウスポインタの移動	17
クリックボタンの操作	18
タップ&ドラッグの操作	19
98スライドパッドの環境を設定する Windows 95	21
フロッピーディスクドライブ	22
フロッピーディスクを取り扱うときの注意	22
フロッピーディスクドライブ	23
フロッピーディスクを入れる/出す	25
フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する Windows 95	27
フロッピーディスクの内容を保護する	28
ハードディスク	30
ハードディスクを取り扱うときの注意	30
ハードディスクについて	31
ハードディスクのメンテナンス Windows 95	32
ハードディスクのバックアップ	33
CD-ROMドライブ	34
CD-ROMを取り扱うときの注意	34
CD-ROMドライブを取り扱うときの注意	35
CD-ROMをセットする/取り出す	35
CD-ROMを利用するときの注意	40
画面表示	41

表示できる解像度と表示色	41
解像度と表示色を変更する Windows 95	42
密度変換ユーティリティを使用する Windows 95	45
表示方法を切り替える	46
バッテリー	47
バッテリーパックを取り扱うときの注意	47
バッテリーパックを取り付けて充電する	47
バッテリーパックで本機を使用する	50
バッテリーパックを交換する	55

Part 2 本機の機能を知る

サスペンド/レジューム機能	58
サスペンド/レジューム機能とは	58
サスペンド/レジュームする	59
サスペンド/レジュームするときの注意	61
ハイバネーション機能	64
ハイバネーション機能とは	64
ハイバネーション機能を設定する	65
ハイバネーション機能を使う	68
ハイバネーション機能を使うときの注意	69
ハイバネーション機能を無効にする	69
省電力機能	72
98NOTEメニュー/98NOTEメニューユーティリティで 設定できる機能	72
Hibernation設定ユーティリティで設定できる機能	73
Windowsで設定できる機能 Windows 95	73
セキュリティ機能	79
パスワードを設定しているときの電源のON(Windows 95および Windows 3.1)	81
パスワードを設定しているときのレジューム	82
通信機能	83
赤外線通信機能	87

Part 3 本機の機能を拡張する

接続できる周辺機器について	92
別売の周辺機器について	96
周辺機器の取り付け/取り外しの注意	96

周辺機器用のドライバ	96
メモリを増やす	98
増設RAMボードとメモリ容量	98
増設RAMボードを取り扱うときの注意	99
増設RAMボードを取り付ける/取り外す	100
増やしたメモリを確認する	103
PCカードを使う	105
PCカードについて	105
PCカードを取り扱うときの注意	108
PCカードを使う前に確認する	108
PCカードを入れる/出す	109
PCカードサポートの設定をする Windows 95	112
PCカードサポートの設定を変更する Windows 95	118
ドライブベイを活用する	119
取り付けられる機器の種類	119
ドライブベイに機器を取り付ける	120
いろいろな入力装置を使う	122
マウスを使う	122
サムマウスを使う	123
キーボード/テンキーボードを使う	123
MIDI対応機器とジョイスティックを使う	125
MIDI対応機器およびジョイスティックの接続	125
ジョイスティックの設定を変更する	126
サウンド機器を使う	127
本機のサウンド機能	127
外部オーディオ機器を使う	131
マイクロホンを使う	133
ヘッドホンを使う	135
プリンタを使う	136
プリンタを接続する	136
プリンタの設定をする Windows 95	138
CRTディスプレイを使う	141
CRTディスプレイを接続する	141
CRTディスプレイに合わせて本機を設定する Windows 95	143
CRTディスプレイの種類と解像度	146
テレビを接続する	147
テレビを接続する	147
コミュニケーションスロットを活用する	148
接続できる機器の種類	148
コミュニケーションスロットに機器を取り付ける	148
シリアルコネクタに通信機器を接続する	153
割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間	154
設定の変更	154



Part 4 システムの設定を変更する

98NOTEメニューで設定する	158
98NOTEメニューを起動する	158
98NOTEメニューを操作する	161
98NOTEメニューを終了する	162
各メニューの設定	163
98NOTEメニューユーティリティで設定する	179
98NOTEメニューユーティリティを起動する	179
98NOTEメニューユーティリティを終了する	180
各メニューの設定	181
メモリスイッチ(98環境設定ユーティリティ)	183
メモリスイッチを変更する前に	183
メモリスイッチを変更する Windows 95	184



付録

Windows 95でMS-DOSモードを利用する Windows 95	188
MS-DOSモードを利用する	188
DOS環境設定ユーティリティ	190
USKCGMコマンド	193
AVGDRVコマンド、AVSDRVコマンド	198
日本語入力機能	200
CD-ROMドライバ	202
本機のお手入れ	206
本機の廃棄方法について	208
バッテリーパックの廃棄について	208
サブバッテリーの廃棄について	208
ATコマンド(電話回線接続時)	212
コマンドの構成	212
ATコマンド一覧	213
パソコン用語集	223
目的別索引	229
索引	231
98NOTEメニュー早見表	233
98NOTEメニューユーティリティ早見表	234
機能仕様	235
FAXモデムボード機能仕様	237

Part 1

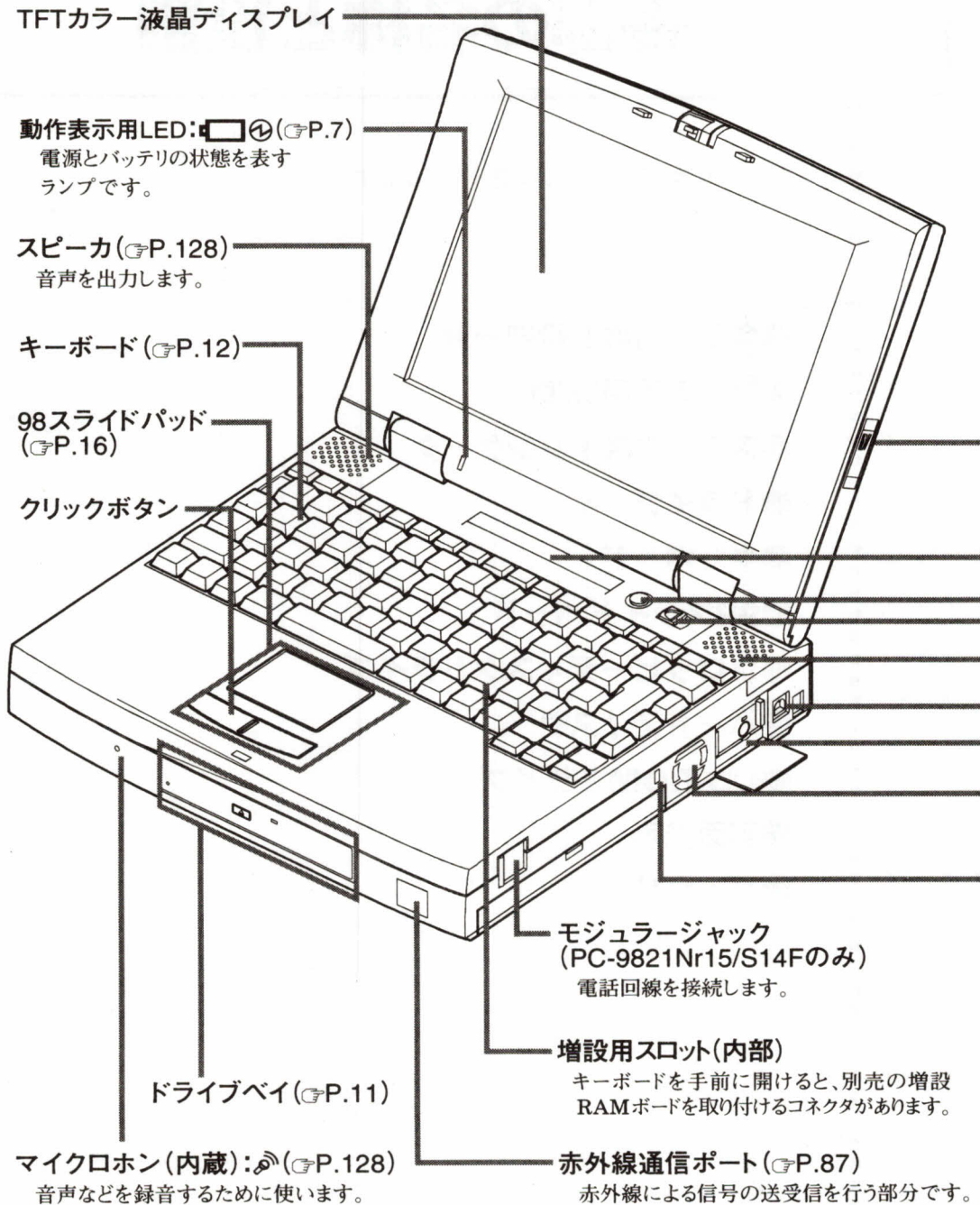
各部の名称と役割

各部の名称と役割について説明しています。

- 各部の名称と役割一覧
- 動作表示用LED
- ステータスインジケータ
- ドライブベイ
- キーボード
- 98スライドパッド
- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスク
- CD-ROMドライブ
- 画面表示
- バッテリー


各部の名称と役割一覧

ここでは、本機の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。



輝度調節つまみ: 

カラー液晶ディスプレイの明るさを調節するつまみです。上にスライドさせると明るく、下にスライドさせると暗くなります。

ステータスインジケータ (P.8)**サスペンドスイッチ:**  (P.58)

サスペンド/レジューム機能を利用するときに使います。

電源スイッチ: 


本機の電源をON/OFFにするスイッチです。

スピーカ (P.128)

音声を出力します。

DCコネクタ: 

添付のACアダプタを接続するコネクタです。

ビデオ出力端子:  (P.147)

市販のビデオケーブルを接続するための端子です。

空冷用ファン

内部の熱を外部に逃がすためのファンです。

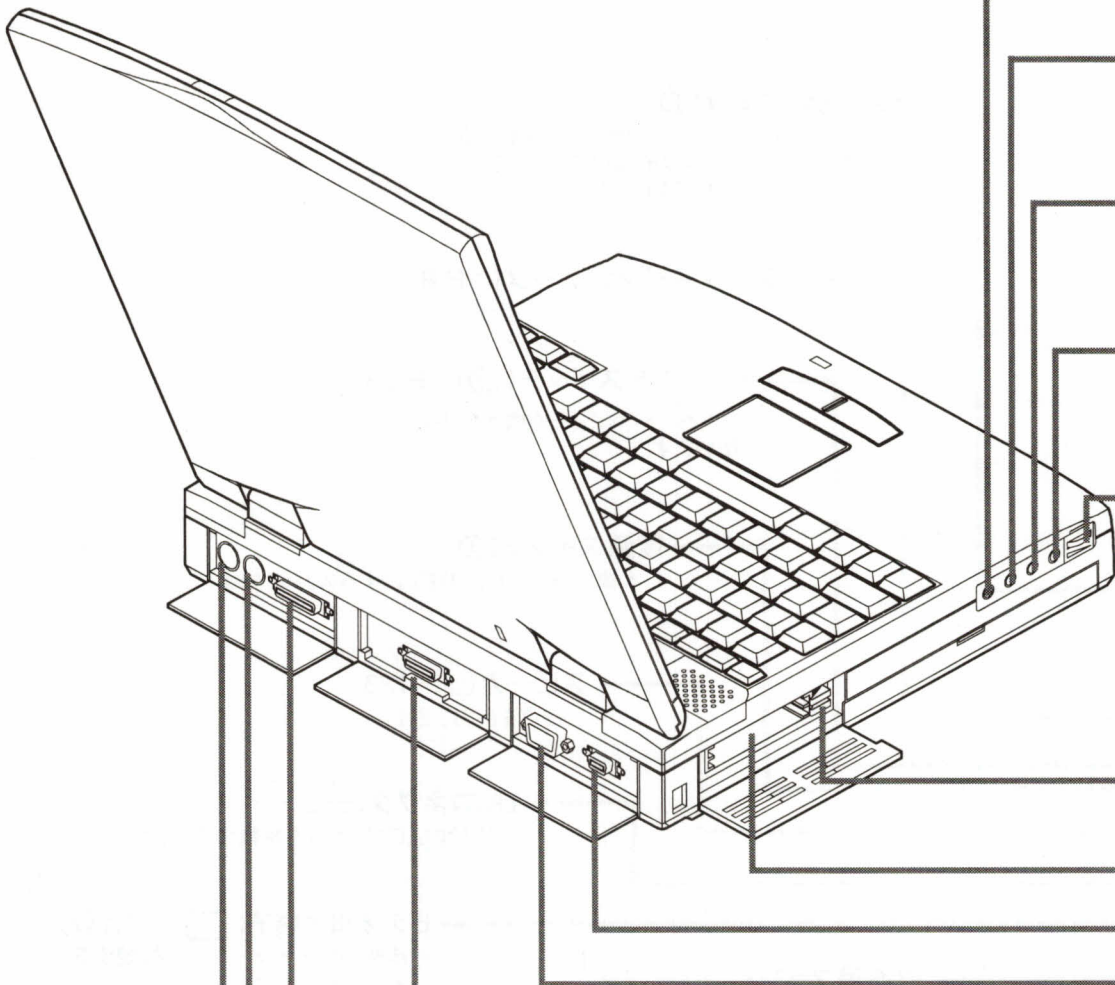
盗難防止用ロック: 

市販の盗難防止用ケーブル(Kensington社製)などを接続することができます。

**盗難防止用ロック**

盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。日本国内総販売代理店の連絡先は、以下のとおりです。

日本パロイド株式会社 電子映像事業部
〒105 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号 第30森ビル
Tel: 03-3438-8879 Fax: 03-5473-1630



フロッピーディスクドライブ用コネクタ: □ (P.23)
フロッピーディスクドライブを接続するコネクタです。

プリンタ用コネクタ: ▣ (P.137)
プリンタを接続するためのコネクタです。

マウス用コネクタ: ◐ (P.122)
別売のマウスやサムマウスを接続するコネクタです。


キーボード用コネクタ: ▨/▩ (P.123)
別売のキーボード、テンキーボードを接続するコネクタです。

マイクロホン端子(モノラル):  (P.133)

市販のマイクロホンを接続するためのミニジャック端子です。

オーディオ入力端子(ステレオ):  (P.131)

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本機に
入力するためのミニジャック端子です。

オーディオ出力端子(ステレオ):  (P.131)

市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力
するためのミニジャック端子です。

ヘッドホン端子(ステレオ):  (P.135)

市販のステレオミニプラグ付きのヘッドホンを接続するた
めのミニジャック端子です。

スピーカ音量調節つまみ:  (P.128)

内蔵スピーカの音量を調節するつまみです。

PCカードイジェクトボタン (P.110)


差し込んだPCカードを取り出すためのボタンです。

PCカードスロット (P.109)

別売のPCカードを使うためのスロットです。上がスロット1、下がスロット0です。



- ・ Windows 95では、上がソケット2、下がソケット1と表示されます。
- ・ スロット0はZVポート/Card Bus対応のスロットです。

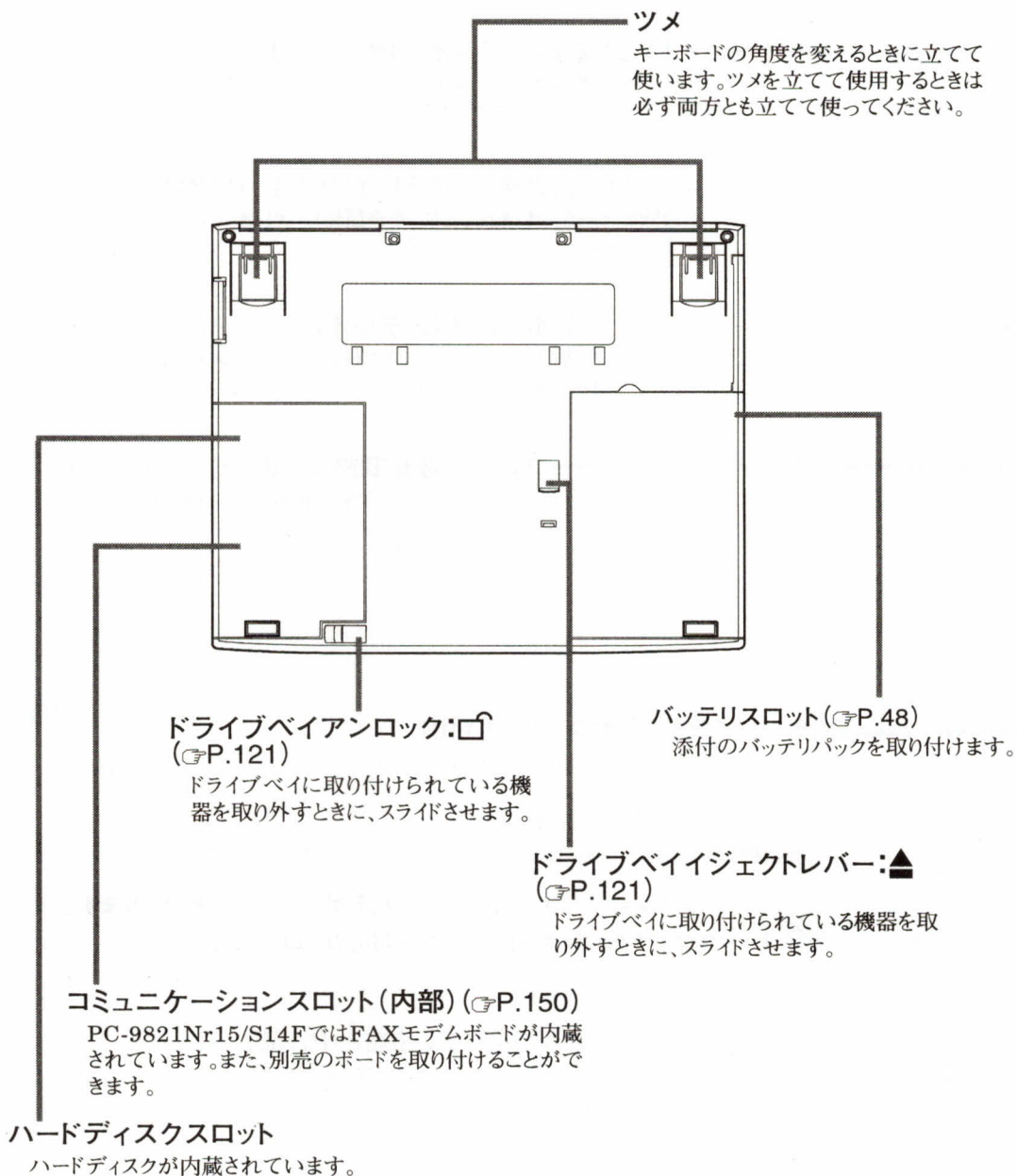
シリアルコネクタ:  (P.153)

モデムやイメージスキャナなどの周辺機器
を接続するコネクタです。

CRTコネクタ:  (P.141)

アナログRGB入力対応のCRTディスプレイ
を接続するコネクタです。

■底面



動作表示用LED

ここでは、動作表示用LEDのランプについて説明しています。

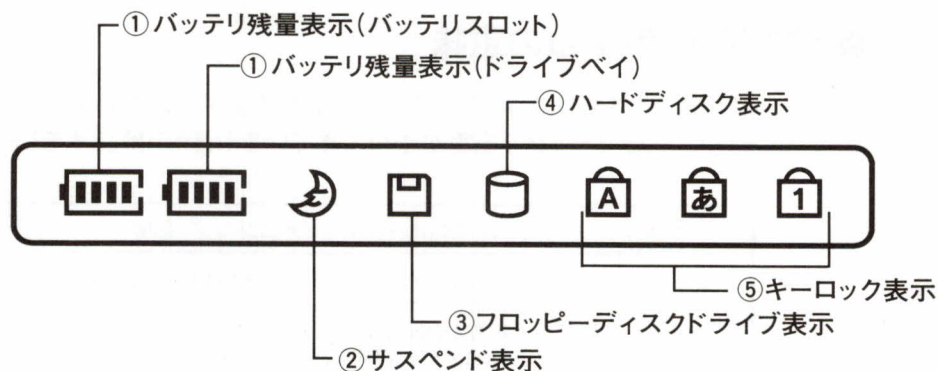
■ 動作表示用LEDの意味

動作表示用LEDは、電源とバッテリーの状態を表すランプです。電源のON/OFFの状態や、バッテリーパックの充電が十分できているかどうか確認することができます。

表示	意味
消灯	電源がOFFになっている、またはサスペンド中
緑	電源がONになっている (ACアダプタを接続しているか、バッテリーで使用できる状態)
オレンジ	バッテリーパックの容量がなくなりかけている
黄色	バッテリー充電中
緑と黄色の交互点灯	バッテリーリフレッシュ要求(本機電源ON時)
黄色の点滅	バッテリーリフレッシュ要求(本機電源OFFまたはサスペンド時)

ステータスインジケータ

ここでは、ステータスインジケータに表示されるマークについて説明しています。



① バッテリ残量表示

本機にバッテリーパックを取り付けているとき、バッテリーパックの残量が表示されます。左側はバッテリースロットのバッテリーパック、右側はドライブベイに別売のバッテリーパックを取り付けた場合の残量を示しています。バッテリーパックが本機に取り付けられていないときは表示されません。


表示	バッテリーの状態
	約100～76%のバッテリー残量がある
	約75～51%のバッテリー残量がある
	約50～26%のバッテリー残量がある
	約25～5%のバッテリー残量がある
:点滅	バッテリー残量5%未満
:点滅	バッテリー残量なし
	バッテリーの残量が正しく認識されていない (完全に充電されると、正しく残量表示が行われる)
:点滅	バッテリーリフレッシュ要求(☞P.54)
何も表示されない	バッテリーパックが取り付けられていない



- ・ バッテリーパックが、取り付けられているときでも、ACアダプタを接続せずに電源をOFFにしているときには、バッテリー残量は表示されません。
- ・ 購入直後や本機を長期間放置しておいた場合、ACアダプタを接続してもしばらくの間バッテリー残量が表示されない場合があります。
- ・ サスペンド状態のときにはACアダプタが接続されていなくても、バッテリー残量が表示されます。

② サスペンド表示

サスペンド(データの保持)の状態を表示します(☞P.58)。



表示	サスペンドの状態
表示されない	サスペンドされていない。
点灯 	サスペンドされている。



- ・サスペンド表示が点灯しているときには、電源スイッチをスライドさせても本機の状態は変わりません。
- ・サスペンド表示が点灯しているときには、本機の機器を取り付け/取り外ししないでください。

③ フロッピーディスクドライブ表示

フロッピーディスクドライブの状態を表示します。



表示	フロッピーディスクの状態
表示されない	フロッピーディスクドライブが取り付けられていない。
点滅 	フロッピーディスクのデータを読み書きしている。
点灯 	フロッピーディスクのデータの読み書きをしていない。



- ・表示が点滅しているときには、電源をOFFにしたりフロッピーディスクを取り出したたりしないでください。データが壊れたり、本機が故障する原因になります。

④ ハードディスク表示

ハードディスクの状態を表示します。




表示	ハードディスクの状態
点滅 	ハードディスクのデータを読み書きしている。
点灯 	ハードディスクのデータの読み書きをしていない。



表示が点滅しているときには、電源をOFFにしないでください。データが壊れたり、本機が故障したりする原因になります。

⑤ キーロック表示

キーボードの **CAPS** **かな** **NUM** の3つのキーは、一度押すと押されたままの状態になります(ロックされた状態)。ロック状態を解除するには、もう一度キーを押します。

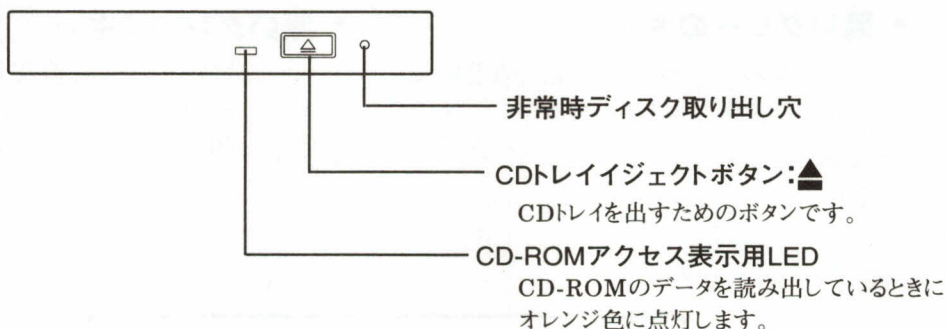
表示	キーロックの状態
	CAPS をロックすると表示されます。 ロックされているときにローマ字を入力すると、大文字で入力されます。
	かな をロックすると表示されます。 ロックされているときは、キーボードのひらがなの文字が入力されます。
	NUM をロックすると表示されます。 ロックされているときは、キーボードの前面の文字が入力されます。

ドライブベイ

本機には、簡単に機器を取り付け、取り外しできるドライブベイが用意されています。着脱が簡単なバック式ですので、自由にシステム構成を変更できます。

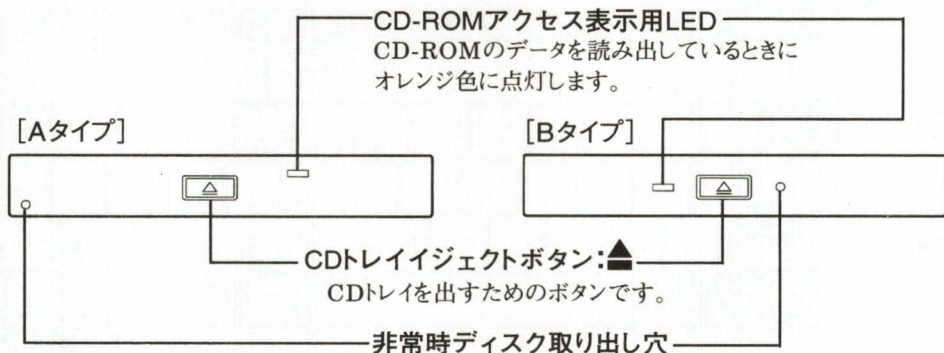
ご購入時にはドライブベイには、CD-ROMドライブが取り付けられています。CD-ROMドライブはCD-ROMのデータを読み取るための装置です。CD-ROMドライブの操作方法については「CD-ROMドライブ」(P.34)をご覧ください。

■PC-9821Nr15/S14Fの場合



■PC-9821Nr15/S10の場合

PC-9821Nr15/S10のCD-ROMドライブには次の2つのタイプがあります。



お手持ちのCD-ROMドライブがどちらのタイプか確認のうえ、使用してください。なお、このマニュアルに記載しているイラストはAタイプのものです。



CD-ROMを使用しないときには、添付のフロッピーディスクドライブをドライブベイに取り付けることができます。取り付け方法はP.120をご覧ください。

キーボード

ここでは、キーボードのキーの名称と一般的な機能、キーボードの設定を変更する方法について説明しています。

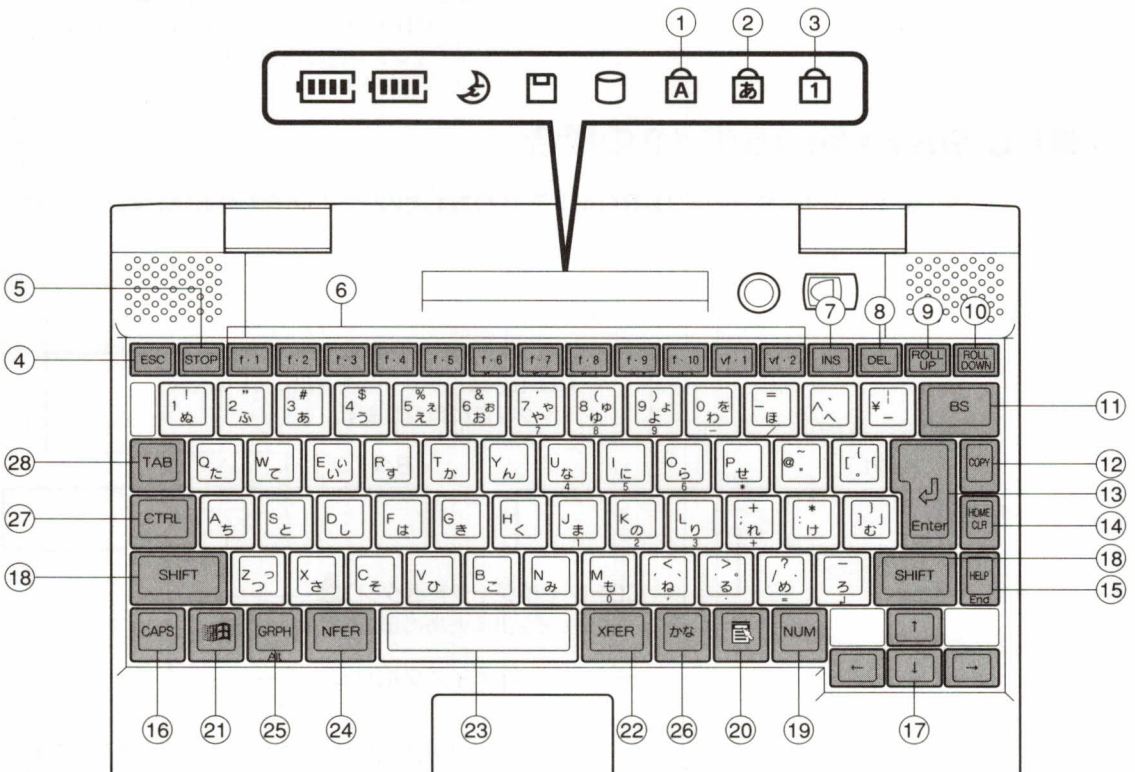
キーの名称と働き

● 薄いグレーのキー

英数字やカタカナ、記号などの文字を入力するキーです。

● 濃いグレーのキー

コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。このキーの働きはお使いになるアプリケーションソフトによって違います。



- ① キャップスキーロック表示
- ② かなキーロック表示
- ③ ニューメリックキーロック表示
それぞれのキーをロックすると、ステータスインジケータにそれぞれマークが表示されます。
- ④ **[ESC]**: エスケープキー
- ⑤ **[STOP]**: ストップキー
- ⑥ **[f.1]** ~ **[f.10]** **[vf.1]** ~ **[vf.2]**
: ファンクションキー
- ⑦ **[INS]**: インサートキー
- ⑧ **[DEL]**: デリートキー
- ⑨ **[ROLL UP]**: ロールアップキー
(PgDn: ページダウンキー)
- ⑩ **[ROLL DOWN]**: ロールダウンキー
(PgUp: ページアップキー)
- ⑪ **[BS]**: バックスペースキー
- ⑫ **[COPY]**: コピーキー
- ⑬ **[Enter]**: エンターキー (リターンキー)
- ⑭ **[HOME CLR]**: ホームクリアキー
- ⑮ **[HELP]**: ヘルプキー
(End: エンドキー)
- ⑯ **[CAPS]**: キャップスキー
- ⑰ **[↑]** **[↓]** **[→]** **[←]**: カーソル移動キー
- ⑱ **[SHIFT]**: シフトキー
- ⑲ **[NUM]**: ニューメリックキー
- ⑳ **[Application]**: アプリケーションキー
- ㉑ **[Windows]**: Windowsキー
Windows 95使用時に使うことができます。
- ㉒ **[XFER]**: エクスファーキー
- ㉓ **[Space]**: スペースキー
- ㉔ **[NFER]**: エヌファーキー
- ㉕ **[GRPH]**: グラフキー
(Alt: オルトキー)
- ㉖ **[かな]**: かなキー
- ㉗ **[CTRL]**: コントロールキー
- ㉘ **[TAB]**: タブキー


アプリケーションキーとWindowsキーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindows 95で使用できるキーです。アプリケーションソフトによってどのように利用するかは異なりますが、Windows 95で使用するときには標準で次のような機能が割り当てられています。

● (アプリケーション)キー

画面をポイントして、アプリケーションキーを押すと、右クリックしたときと同じことになります。

● (Windows)キー

- ・  キーだけを押すと、[スタート]メニューを表示します。
- ・ 他のキーと組み合わせると、次のような機能を利用することができます。

- [Windows]+[R]** [ファイル名を指定して実行]ウィンドウを表示する
- [Windows]+[M]** 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
- [SHIFT]+[Windows]+[M]** **[Windows]+[M]**でアイコン化したウィンドウを元に戻す
- [Windows]+[f.1]** Windowsのヘルプを起動する
- [Windows]+[F]** ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
- [CTRL]+[Windows]+[F]** コンピュータを検索するウィンドウを表示する
- [Windows]+[TAB]** タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える
- [Windows]+[STOP]** [システムプロパティ]ウィンドウを表示する

日本語入力について

Windows 95

日本語を入力するには、日本語入力システムをONにする必要があります。日本語入力の方法については『かんたんスタートガイド』および日本語入力システムのヘルプをご覧ください。



キーボードを使って、日本語入力システムのON/OFFを切り替えることもできます。**[CTRL]**を押しながら**[XFER]**を押すと、日本語入力をONにできます。もう一度押すと、日本語入力がOFFになります。




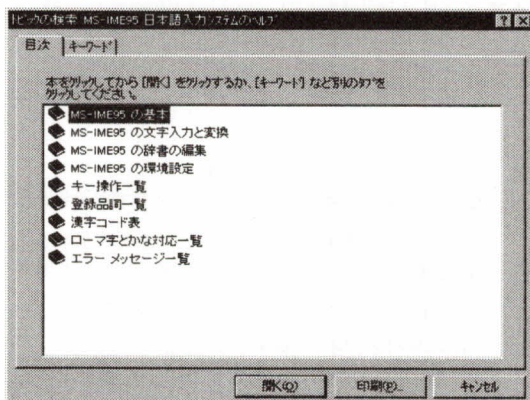
[田]を押した後は、**[CTRL]**を押しながら**[XFER]**を押しても、日本語入力システムのON/OFFを切り替えることができなくなります。この場合は、次のいずれかの方法で日本語入力のON/OFFを切り替えてください。


- ・タスクバーの日本語入力インジケータで切り替える。
- ・[コントロールパネル]ウィンドウから[キーボードプロパティ]ウィンドウを表示させ、[情報]タブをクリックして表示される画面で、[日本語入力モードの切り替えキー]の設定を変更する。

■ 日本語入力システムのヘルプの見かた

ご購入時には日本語入力システムとしてMS-IME95が使用できるように設定されます。

- 1 ツールバーから、 ボタンをクリックします。
- 2 ヘルプの画面が表示されますので、知りたい項目をダブルクリックします。



ヘルプを終了したいときは [キャンセル] ボタンまたは  ボタンをクリックします。

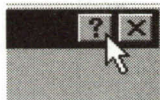
キーボードの設定を変更する Windows 95

Windows 95上でのキーボードの設定を変更することができます。文字の入力速度を変えたり、使用する言語とレイアウトを変えたり、別売のキーボードを使うための設定などがあります。

キーボードの設定は、[スタート]—[設定]—[コントロールパネル]の[キーボード]アイコンをダブルクリックして表示される[キーボードのプロパティ]ウィンドウで行います。詳しくはヘルプをご覧ください。



- ・キーボードの詳しい設定については、[キーボードのプロパティ]ウィンドウの右上にある **?** ボタンをクリックし、マウスポインタが **?** に変わったら、さらに知りたい箇所をクリックし、表示される内容をご覧ください。またはヘルプの[キーワード]画面で「キーボード」を選択して表示される説明をご覧ください。



ヘルプが表示されます

- ・[速度]タブの画面で、カーソルの点滅速度を速くすると、カーソルの位置がわかりやすくなります。



ホームポジション

キーボードを操作するとき、両手の指を置く基準となる位置をホームポジションといいます。

左手の人差し指を **F** (は)、右手の人差し指を **J** (ま) に置いた位置がホームポジションです。

F (は) と **J** (ま) の表面には突起があり、キーを見なくても指先の感覚でこのキーが探せるようになっています。

キーボードに手を伸ばしたときには、両手の指がホームポジションに置かれているようにしましょう。



手首が極端に曲がらないように自然に手を置いてください。

98スライドパッド

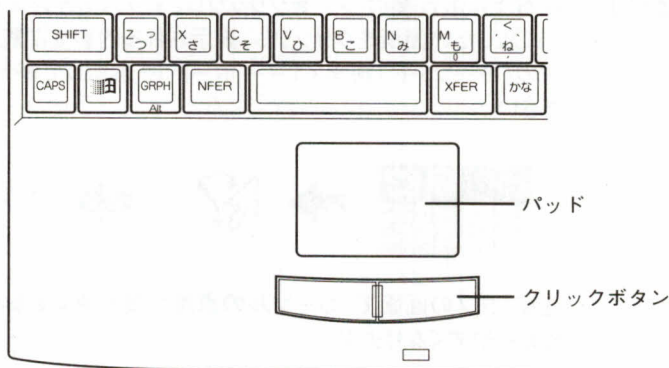
98スライドパッドは、コンピュータに指示を与えるためのポインティングデバイスです。ここでは、98スライドパッドの取り扱い上の注意と、動作環境の変更方法を説明します。

98スライドパッドのしくみ.....

98スライドパッドは、パッドとクリックボタンで構成されています。

パッド上で指先をスライドさせると、スライドした移動量と移動方向がコンピュータに伝達され、ディスプレイ上のマーク(マウスポインタ)が動きます。

このマウスポインタで、画面上のメニューを選んだり、図形を描いたりします。

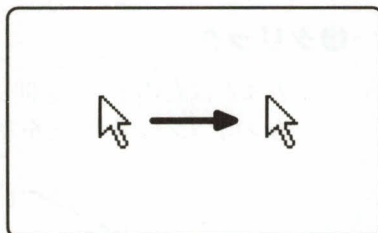
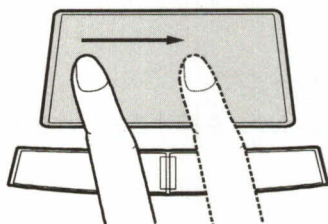


98スライドパッドを使用するときの注意.....

- 98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティの「入出力デバイスの設定」で「98スライドパッド」が「使用しない」になっているときには、98スライドパッドは使用できません。(P.170)
- コンパスなどの先のとがったもので、98スライドパッドを操作しないでください。パッドの表面に傷がついたり、パッドが破損したりする原因になります。
- 水分や油分がついている手では、98スライドパッドに触らないでください。水分や油分がついていると、マウスポインタが移動しなくなります。
- パッド上の2カ所以上に同時に触れないでください。98スライドパッドが正常に動作しません。
- 98スライドパッドに触れるときには、指先に力を入れる必要はありません。軽く触れるだけで操作ができます。軽く触れるだけでマウスポインタが動くため、ファイルの削除などを行う場合、誤って操作しないように注意してください。
- 指の爪が長いと、マウスポインタの動きが悪くなることがあります。
- パッド上で指を止めていても微妙にマウスポインタが動くことがありますが、故障ではありません。
- 98スライドパッドを使うためには、OSやアプリケーションソフトが98スライドパッドに対応していることが必要です。

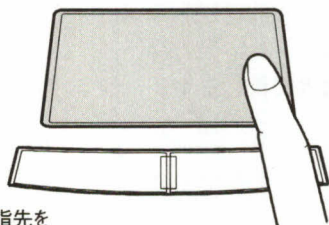
マウスポインタの移動.....

次の図のように、指先をパッド上でスライドさせ、マウスポインタを動かします。
指先をスライドさせた方向にマウスポインタが移動します。

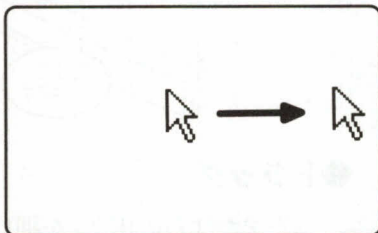
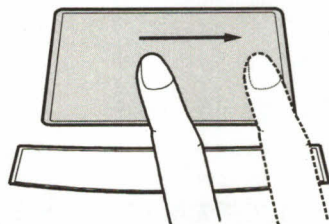
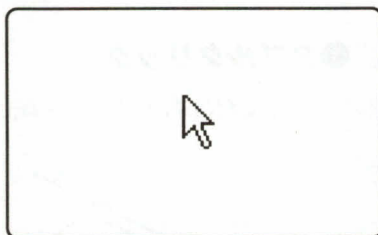


●パッドの端まで指がきてしまったら？

スライドさせた指がパッドの端に達したら、いったんパッドから指先を離し、パッドの中央に指先を戻してから再度スライドさせます。



いったん指先を
離してから



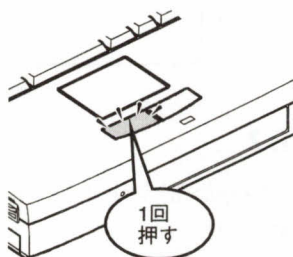
クリックボタンの操作.....

クリックボタンを使ってコンピュータに指示を与える方法には、次の3種類の方法があります。

●クリック

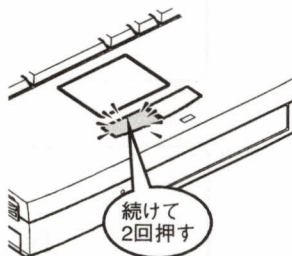
左または右のボタンを押して、すばやく離します。

左のボタンを押すことを左クリック、右のボタンを押すことを右クリックといいます。



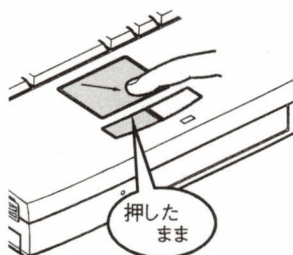
●ダブルクリック

左または右のボタンを続けて2回すばやく押します。



●ドラッグ

左または右のボタンを押したまま、パッド上で指先をスライドさせます。



アプリケーションソフトによって、クリック、ダブルクリック、ドラッグの機能が異なります。詳しくはアプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。



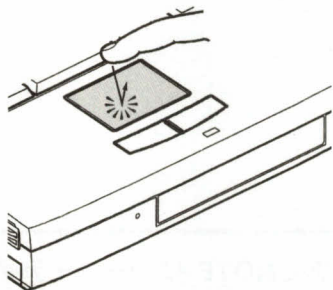
タップ&ドラッグの操作

クリックボタンを使わずに、パッドだけでクリックボタンと同じ操作をすることができます。

●タップ

クリックと同じ機能です。

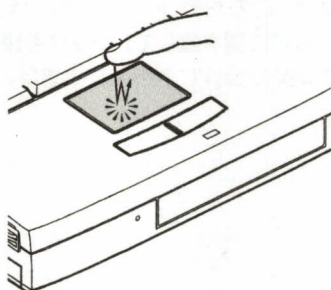
指先でパッド上に軽く触れ、すばやく離します。パッド上を軽くたたくような感じですが。



●ダブルタップ

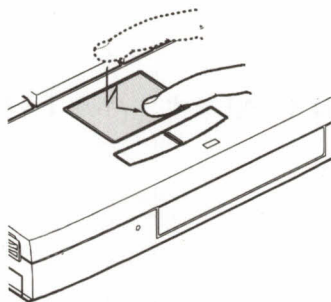
ダブルクリックと同じ機能です。

指先でパッド上を2回続けてタップします。パッドをリズムよく2回軽くたたくような感じですが。



●ドラッグ

指先でパッド上に続けて2回すばやく触れ、2回目に触れたときにパッド上から指先を離さずにスライドさせます。



- ・98NOTEメニューおよび98NOTEメニューユーティリティの「入出力デバイスの設定」の「タップ&ドラッグ機能」を「無効」に設定しているときには、タップ&ドラッグの操作はできません。
- ・Windows 95でクリックボタンの左右の機能を交換した場合、タップ&ドラッグの操作はできません。



98スライドパッドでは、ドラッグの途中でパッドから指を離しても約0.7秒間ドラッグの状態が保持されます。このため、ドラッグ中にパッドの端まで指が達してしまっても、指をパッドに置き直してドラッグを続けることができます。パッドから指を離してすぐに次の操作に移りたいときは、タップするとドラッグの状態が解除されます。



98スライドパッドとマウス

98スライドパッドもマウスも、コンピュータに指示を与えるための装置(入力装置)です。

98スライドパッドは、マウスのように操作する場所を必要としないので、本機を携帯するときには便利です。本機には、マウスやサムマウスを接続することもできるので、用途や使用環境に合わせて入力装置を使い分けると便利です。

98スライドパッドの環境を設定する Windows 95.....

Windows 95で、ポインティングデバイスの動作やマウスポインタの形の設定を変更することができます。

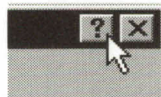


98スライドパッドの操作は、OSやアプリケーションソフトによって異なります。詳しくは、OSやアプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

98スライドパッドの設定は[スタート]—[設定]—[コントロールパネル]の[マウス]アイコンをダブルクリックして表示される[マウスのプロパティ]ウィンドウで行います。詳しくはヘルプをご覧ください。



- 98スライドパッドの詳しい設定については、[マウスのプロパティ]ウィンドウの右上にある「?」ボタンをクリックし、マウスポインタが「?」にかわったら、さらに知りたい箇所をクリックし、表示される内容を参照してください。または、ヘルプの[キーワード]画面で「マウス」を選択して、表示される説明をご覧ください。



ヘルプが表示されます

- [ボタン]タブの画面で「右きき用」に設定すると、左ボタンに「標準の選択」や「標準のドラッグ」の機能が割り当てられ、右ボタンには「コンテキストメニュー」や「補助ドラッグ」の役割が割り当てられます。
- [ボタン]タブで「左きき用」に設定すると、タップ&ドラッグの操作はできません。

■ MS-DOSアプリケーション上で98スライドパッドを操作するときの注意

MS-DOSアプリケーション内で左右のボタンの設定を変更した場合、MS-DOSアプリケーションを終了してWindowsの画面に戻ったとき、パッド上でのタップやドラッグができなくなることがあります。

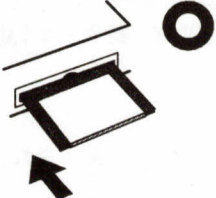
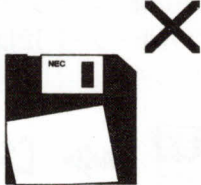
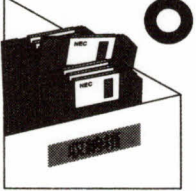

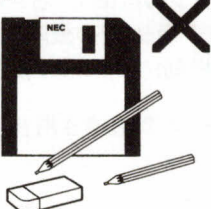
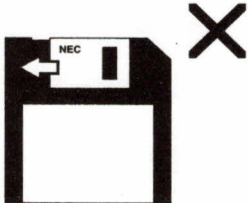
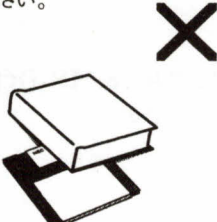
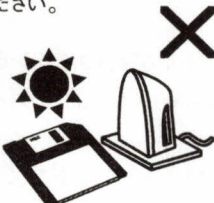


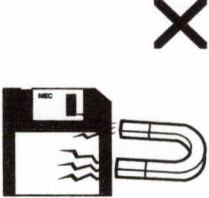

この場合は、[マウスのプロパティ]ウィンドウでボタンの設定を変更してください。

フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブは、プログラムやデータをフロッピーディスクに書き込んだり、フロッピーディスクに保存されているデータを読み書きするための装置です。本機では3.5インチのフロッピーディスクを使用することができます。

フロッピーディスクを取り扱うときの注意.....

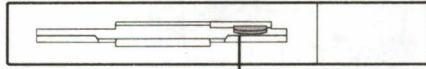
フロッピーディスクが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。次のことに注意して大切に取り扱いしてください。

<p>フロッピーディスクドライブには、ていねいに奥まで静かに挿入してください。</p> 	<p>ラベルは正しい位置に貼ってください。</p> 	<p>使用後は収納箱へ入れて保管してください。</p> 
<p>ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。</p> 	<p>鉛筆での記入や消しゴムの使用は避けてください。</p> 	<p>シャッターは開けないでください。</p> 
<p>フロッピーディスクの上にものを載せないでください。</p> 	<p>直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど、温度の高くなる場所に置かないでください。</p> 	<p>飲食、喫煙しながらの使用は避けてください。</p> 
<p>溶剤類、飲み物などを近づけないでください。</p> 	<p>磁石などの磁気をおびたものを近づけないでください。</p> 	<p>クリップ等ではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。</p> 

フロッピーディスクドライブ.....

■ フロッピーディスクドライブの各部の名称

フロッピーディスクドライブの各部の名称は次のとおりです。



フロッピーディスクイジェクトボタン(㊦P.26)
差し込んだフロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

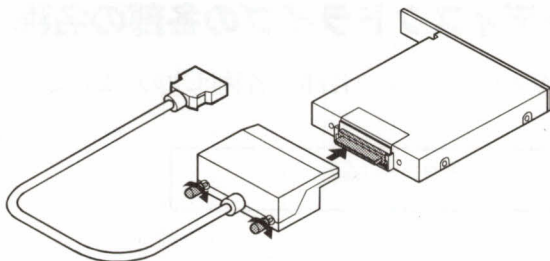
■ フロッピーディスクドライブを取り付ける

フロッピーディスクを使用するには、本機に添付のフロッピーディスクドライブを接続します。

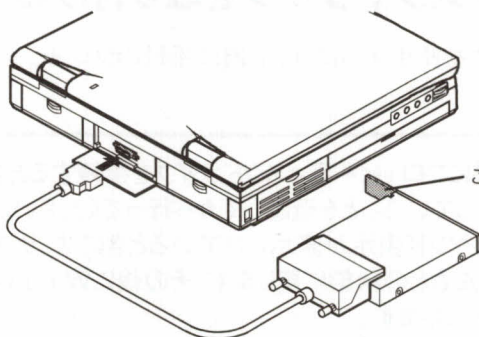


- ・本機にフロッピーディスクドライブを接続するときには、本機の電源がOFFになっていることを確認してから行ってください。ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後にWindowsを終了し、本機の電源をOFFにします。
- ・フロッピーディスクドライブを取り扱う場合は側面を持つようにし、天面や底面への圧迫を避けてください。
- ・フロッピーディスクドライブは、水平な場所に置いてください。また、フロッピーディスクドライブの上に物などを載せないでください。
- ・本機背面のフロッピーディスクドライブ用コネクタには、添付の専用FDD外付ケーブル(PC-9821NB-K01)以外は接続しないでください。

- 1 フロッピーディスクドライブに専用FDD外付ケーブルを接続し、ネジを左右均等にまわしてしっかり固定します。



- 2 本機背面のフロッピーディスクドライブ用コネクタに、専用FDD外付ケーブルを奥までしっかり差し込みます。



- ・フロッピーディスクドライブは、ドライブベイに取り付けて使用することもできます。
- ・ドライブベイとフロッピーディスクドライブ用コネクタの両方に同時に2台のフロッピーディスクドライブを接続して使用することはできません。



フロッピーディスクの種類

フロッピーディスクには、データを記憶できる容量によって、次のような種類があります。

種類	記憶容量	
2HD (両面高密度倍トラック)	1Mバイト ^{※1} ※2	1.44Mバイト ^{※1}
2DD (両面倍密度倍トラック)	640Kバイト	

※1 フォーマット方式によって選択できます。

※2 OSによっては、1.2Mバイトと表示される場合があります。

3.5インチサイズフロッピーディスク



2HDタイプのフロッピーディスクは、右側にも四角い窓があります。

本機のフロッピーディスクドライブでは、2HDタイプと2DDタイプのどちらでも使えます。

フロッピーディスクを入れる/出す.....

ここでは本機のフロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクを入れる方法と出す方法を説明します。



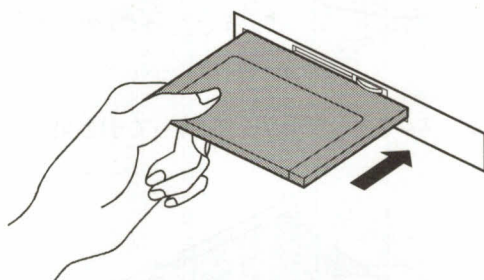
フロッピーディスクは、必ずラベルの部分を持つようにしてください。中のディスク部分をさわると、データが壊れてしまうことがあります。



ドライブベイにフロッピーディスクドライブが取り付けられているときには、底面のツメを立てた状態ではフロッピーディスクの出し入れがしづらいので注意してください。

■フロッピーディスクを入れる

- 1 フロッピーディスクを、ラベルの貼ってある面を上向きにして、ラベル側が手前になるように持ちます。
- 2 フロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブに奥までしっかりと差し込みます。完全に差し込むと、イジェクトボタンが少しとび出します。

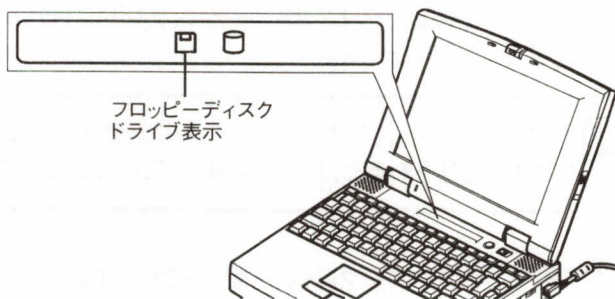


■フロッピーディスクを出す

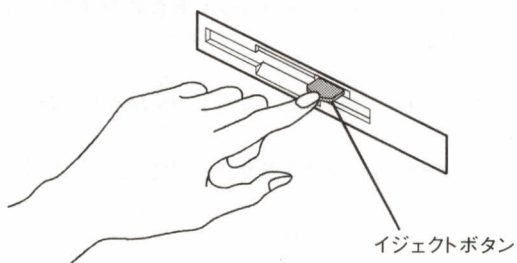


フロッピーディスクを取り出すときは、必ずステータスインジケータのフロッピーディスクドライブ表示が点滅していないことを確認してください。フロッピーディスクドライブ表示が点滅しているときに取り出すと、フロッピーディスクの内容が壊れてしまうことがあります。

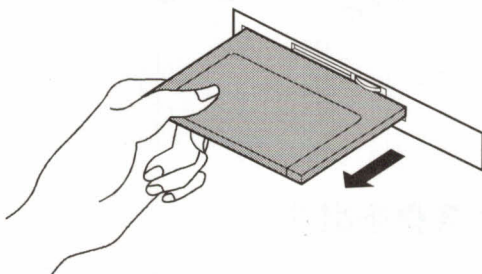
- 1** ステータスインジケータのフロッピーディスクドライブ表示が点滅していないことを確認します。



- 2** イジェクトボタンを押します。
フロッピーディスクが少し出てきます。



- 3** フロッピーディスクを、ラベル部分を持って引き出します。



フロッピーディスクを フォーマット(初期化)する **Windows 95**

購入したばかりのフロッピーディスクは、「フォーマット済み」と書かれているもの以外は、そのままではデータを保存することができません。

データを保存できるようにするには、「フォーマット」(初期化)という作業が必要です。フォーマットの方式や方法は、OSによって異なります。

Windows 95以外のOSをお使いの方は、各OSのマニュアルをご覧ください。フロッピーディスクのフォーマットのしかたは、『かんたんスタートガイド』をご覧ください。



- ・すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクをフォーマットすると、それまで書き込まれていたデータはすべて消えてしまいます。大切なデータが書き込まれているフロッピーディスクは、誤ってフォーマットしないように注意してください。
- ・2DDタイプのフロッピーディスクには2DDの形式、2HDタイプのフロッピーディスクには2HDの形式でフォーマットしてください。異なった形式でフォーマットするとデータの読み書きができなくなることがあります。

Part 1
各部の名称と役割

■1.44Mバイトフォーマットのフロッピーディスクを使用する際の注意

本機で、1.44Mバイトでフォーマットされたフロッピーディスクを使う場合には、次のような制限があります。

- ・システムディスクとしては使用できません。データの読み書き用としてのみお使いください。
- ・2DDタイプの起動ディスクでシステムを起動した場合は、1.44Mバイトフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。



フォーマット(初期化)

フォーマット作業をすると、どこにどのようにデータを書き込めばよいかわかるようにフロッピーディスクが磁気的に区画整理され、データが保存できるようになります。

フォーマットの形式は、使用するOSによって異なりますが、Windows 95ではWindowsとMS-DOSでフォーマットされたフロッピーディスクを使用することができます。

フロッピーディスクの内容を保護する.....

フロッピーディスクに保存したデータを誤って消さないようにするには、次のような方法があります。

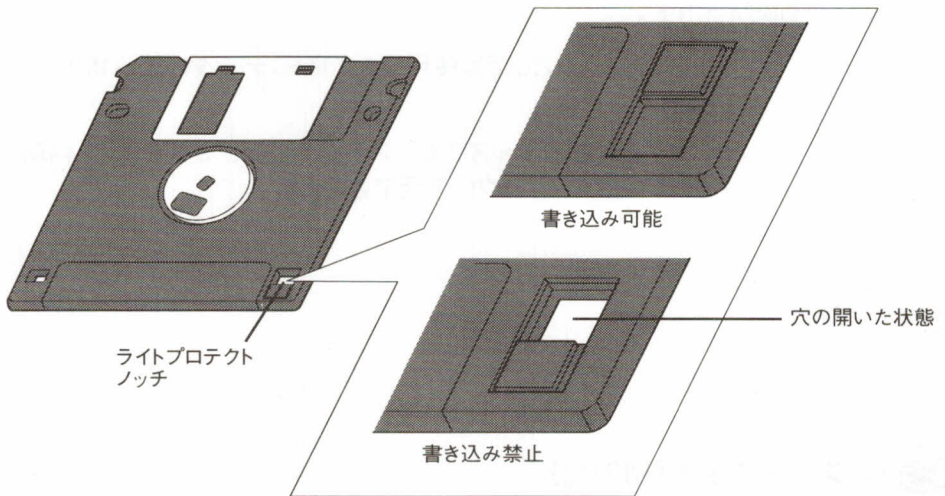
■ライトプロテクト

保存している内容を消してしまうことのないように、フロッピーディスクを書き込み禁止にすることを「ライトプロテクト」といいます。ライトプロテクトしているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、データの書き込みやフォーマット(初期化)することはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。



- ・アプリケーションソフトのシステムディスクをライトプロテクトすると、正常に動作しない場合があります。その場合は、ライトプロテクトしないでください。
- ・フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フォーマットしたりするときは、ライトプロテクトしないでください。
- ・フロッピーディスクによってはライトプロテクトノッチがついていない(常にライトプロテクトされた状態になっている)ものもあります。

図のようにライトプロテクトノッチをずらすと、フロッピーディスクがライトプロテクトされた状態になります。



■ バックアップ Windows 95

保存しているデータを他の記憶媒体にコピーしておくことを「バックアップをとる」といいます。

フロッピーディスクは非常にデリケートにできています。ほこりが入ってしまったたり、折れてしまったたりなど、何らかの事故によって保存しているデータが壊れてしまうことがあります。万一に備えて、大切なデータは定期的にバックアップをとっておきましょう。フロッピーディスクのデータを他のフロッピーディスクにバックアップする方法の1つに「ディスクコピー」があります。

ディスクコピーについては、Windows 95のヘルプをご覧ください。

Windows 95以外のOSをお使いの方は、各OSのマニュアルをご覧ください。



- ・すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクにデータをバックアップすると、もともと書き込まれていたデータは全て消えてしまい、二度と取り戻せなくなってしまいます。大切なデータが書き込まれているフロッピーディスクを、バックアップ先のフロッピーディスクと間違えてセットしないように注意が必要です。
- ・ディスクのコピーをするときには、必ず同じ容量でフォーマットしたフロッピーディスクを使用してください。

ハードディスク

本機にはハードディスクが内蔵されています。ハードディスクは、フロッピーディスクと同様に、プログラムやデータを保存する装置です。

ここでは、ハードディスクを取り扱うときの注意やメンテナンス方法、バックアップの方法について説明しています。

ハードディスクを取り扱うときの注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。次のことに注意して取り扱ってください。

- ・電源がONになっているときやサスペンド中は、本機に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源をOFFにして本機を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。



本機を使用中、底面(ハードディスクの下部)が熱くなることがあります。周辺機器の接続や使用ソフトウェアによって、発熱量は多少異なりますが、普段より熱い場合や、手を触れられないほど熱い場合は、すぐに電源をOFFにして電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ご購入元、最寄りのBit-INN、または当社指定のサービス窓口にご相談ください。



ドライブ番号

ハードディスクやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。本機のハードディスクは、ご購入時には2つの領域に分割されており、それぞれの領域にドライブ番号が割り当てられています。



Windows 95
(A.)

Aドライブ：ハードディスク



(B.)

Bドライブ：ハードディスク



3.5インチFD (C.)

Cドライブ：フロッピーディスクドライブ



(D.)

Qドライブ：CD-ROMドライブ

ハードディスクについて.....

■ハードディスクの領域について

ハードディスクは、領域を分割して確保することができます。
本機に内蔵されているハードディスクは、あらかじめ2つの領域に分割されています。



- ・本機で使用できるハードディスクのセクタ長は、512バイトです。
- ・ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイトで計算したときのMバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を計算していますので、巻末の「機能仕様」の値よりも小さな値で表示される場合があります。
- ・領域を2つに分割している場合、2つの領域は、それぞれ別のドライブとして扱われます。
- ・ハードディスクの領域は変更することができます。Windows 95の場合は、『再セットアップガイド』をご覧ください。MS-DOSの場合は、FORMATコマンドを使用してください。

■ハードディスクの容量

各モデルに内蔵されているハードディスクの容量は次のとおりです。

モデル	ハードディスク
PC-9821Nr15/S14F	約1.4Gバイト
PC-9821Nr15/S10	約1Gバイト

ハードディスクのメンテナンス Windows 95

■ スキャンディスク

スキャンディスクを使うと、ハードディスク自体やハードディスクに保存されているデータに障害がないかどうかを調べることができます。

スキャンディスクは[スタート]—[プログラム]—[アクセサリ]—[システムツール]—[スキャンディスク]をクリックすると、起動することができます。

詳しくは「Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド」をご覧ください。

■ 不良セクタ、スキップセクタについて

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows 95の「スキャンディスク」やMS-DOSのCHKDSKコマンドを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されたことを表しており、異常ではありません。

なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または全ディスク容量のバイト数が、次の表の値以上であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

モデル	正常値
PC-9821Nr15/S14F	1,400,000,000バイト以上
PC-9821Nr15/S10	1,000,000,000バイト以上

* 内蔵ハードディスクは、あらかじめ2つの領域に分けられています。正常値は、2つの領域のバイト数を合計した値です。

■ デフラグ

ハードディスクやフロッピーディスクなどを長い間使っていると、データが空いている場所に、ばらばらに保存されるようになります。データが連続していないと、データを読み書きする時間が長くなります。デフラグを使うと、このようなばらばらになったデータを、最適な場所に整理することができます。

デフラグは、[スタート]—[プログラム]—[アクセサリ]—[システムツール]をクリックすると起動できます。

詳しくは「Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド」をご覧ください。



デフラグの実行中は、絶対に本機の電源をOFFにしたりサスペンド状態にしたりしないでください。

ハードディスクのバックアップ.....

保存されているプログラムやデータを、保管のために別の記憶媒体にコピーすることを、バックアップといいます。

ハードディスクは、大量のデータやプログラムを記憶しています。

それだけに、ハードディスクが壊れてしまった場合にはたいへんな損害になります。万一に備えて、必ず定期的にハードディスクのデータのバックアップをとるようにしましょう。

■購入時のハードディスクの内容のバックアップ

本機を使用中にハードディスクを購入時の状態に戻したい場合は、添付のバックアップCD-ROMを使用します。

本機をご購入時の状態に戻す詳しい方法については、『再セットアップガイド』をご覧ください。



バックアップCD-ROMによる再セットアップでは、お客様がご自身でインストールしたアプリケーションソフト、作成したデータ、各種設定やドライバは元の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。



本機にインストールされているMS-DOSとWindowsは、市販品と異なり、本機固有の機能に対応しています。本機のハードディスクを初期化して市販のWindowsをインストールしても本機固有の機能は使用できません。

なお、本機にインストールされているOSからしか利用できない機能には次のようなものがあります。

- ・ハイバネーション機能
- ・Tranxite 3
- ・密度変換 など

■大切なデータをバックアップする Windows 95

お客様がインストールされたソフトウェアや作成されたデータ、各種設定が壊れてしまった場合、元に戻すことはできません。大切なデータは、別の媒体(フロッピーディスク)にバックアップしてください。

フロッピーディスクにファイルをコピーする方法は、『かんたんスタートガイド』をご覧ください。



バックアップをこまめにとりましょう

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読みとる磁気ヘッドの間は、わずか数ミクロン(1000分の数ミリ)しか空いていません。このため、ハードディスクのデータの読み書き中(ステータスインジケータのハードディスク表示の点滅中)には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう。大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。


CD-ROMドライブ

CD-ROMドライブは、CD-ROMを読み出すための装置です。

CD-ROMは1枚で大きな記憶容量を持ち、動画や音声、電子辞典などの大量のデータを扱うことができます。ここでは、CD-ROMを取り扱うときの注意や、CD-ROMの入れ方、出し方について説明しています。

CD-ROMを取り扱うときの注意.....

CD-ROMを壊さないよう、次のことに注意して大切に取り扱いってください。

<p>信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。</p> 	<p>ケースの中央を押しながら取り出してください。</p> 	<p>文字の書かれている面を上にして、CDトレイに正しい向きに置いてください。</p> 
<p>CD-ROMの上にもものをのせたり曲げたりしないでください。</p> 	<p>ラベルなどを貼らないでください。</p> 	<p>キズをつけたり字などを書いたりしないでください。</p> 
<p>落として強い衝撃を与えないでください。</p> 	<p>指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けて拭いてください。</p> 	<p>清掃の際は、CD専用のクリーナーをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使わないでください。</p> 
<p>ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。</p> 	<p>直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に置かないでください。</p> 	<p>使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。</p> 

CD-ROMドライブを取り扱うときの注意.....

CD-ROMドライブを取り扱うときには、次の点に注意してください。

△注意

- CD-ROMドライブのレンズを真上から見ないでください。
レーザー光線を真上から見ると、視覚に悪影響を及ぼす可能性があります。

- ・ CD-ROMドライブのレンズには触れないでください。
- ・ CDトレイにCD-ROM以外のものを置いたり、無理な力をかけたりしないでください。
- ・ CDトレイの出し入れは静かにゆっくりと行ってください。
- ・ CD-ROMを入れたまま本機を持ち運ばないでください。
- ・ 本機底面のツメを立てた状態でCD-ROMを出し入れしないでください。ツメを立てたままCDトレイをイジェクトすると、トレイの故障や破損の原因となることがあります。
- ・ ラベルを貼ってあるなどの重心バランスの悪いCD-ROMを使用すると、本機操作中手に振動を感じる場合があります。

CD-ROMをセットする/取り出す.....



ここではPC-9821Nr15/S10のAタイプのイラストを使用して説明しています。場合によってイジェクトボタンやLED、穴の位置が多少異なりますが操作方法は同様です。

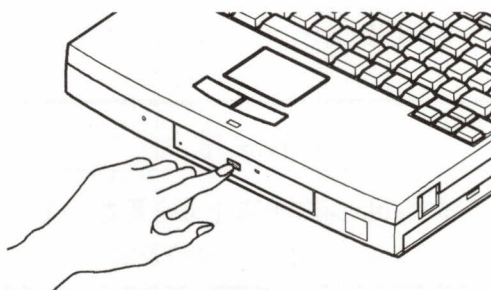
■CD-ROMをセットする



- ・ 本機をバッテリーパックで使用中に動作表示用LEDがオレンジ色に点灯しているときには、CD-ROMを入れないようにしてください。
- ・ CD-ROMの信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないようにしてください。CD-ROMに指紋や傷がつき、データが読み出せなくなることがあります。

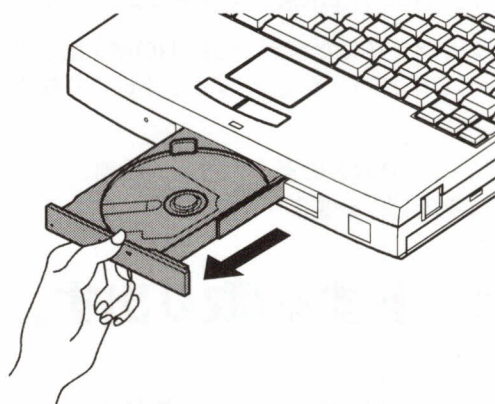
- 1 電源がONになっていることを確認します。電源がOFFになっているときは、電源スイッチで電源をONにします。

- 2** CDトレイジェクトボタンを押します。

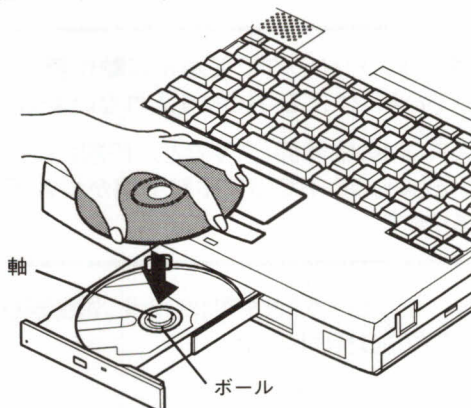


CDトレイが少し出てきます。

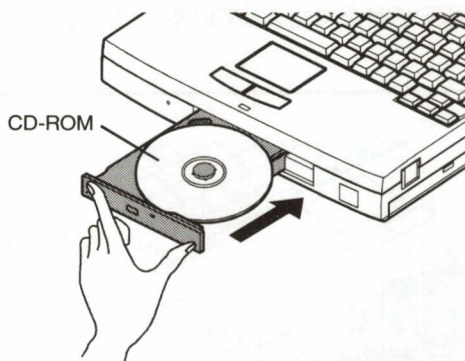
- 3** CDトレイの前面の部分を持って本機から引き出せなくなるまでゆっくりと引き出します。



- 4** 文字の書いてある面を上にして、CD-ROMをCDトレイの中心にある軸にはめ込みます。このとき、軸についている3つのボールがディスクより上側になっていることを確認してください。



- 5** CDトレイジェクトボタンに触れないようにして、CDトレイ前面を押し、本機に収納します。

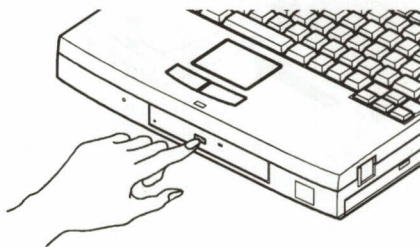


CDトレイから手をはなしてもCDトレイが出てこないことを確認してください。

これでセットは完了です。

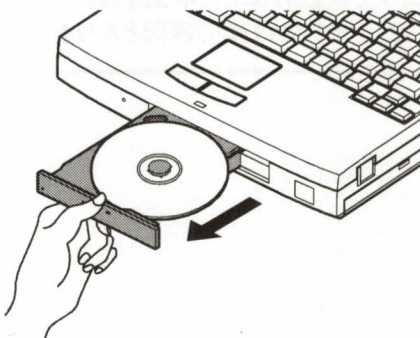
■CD-ROMを取り出す

- 1** CD-ROMアクセス表示用LEDが点灯していないことを確認します。
- 2** CDトレイジェクトボタンを押します。



CDトレイが少し出てきます。

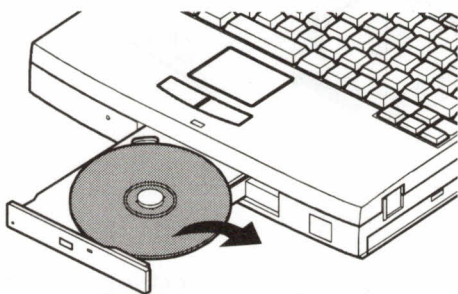
- 3** CDトレイの前面の部分を持って本機から引き出せなくなるまでゆっくり引き出します。



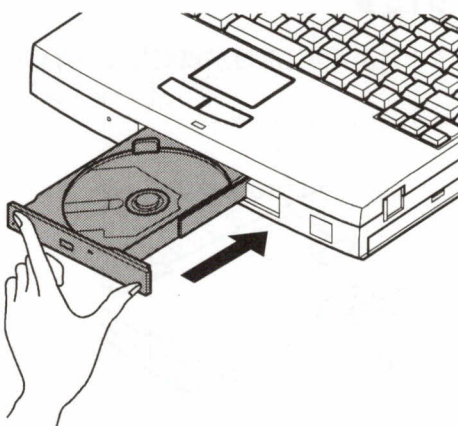
4 CD-ROMを取り出します。



CD-ROMの回転が完全に止まっていることを確認してから取り出してください。



5 CDトレイジェクトボタンに触れないようにして、CDトレイ前面を押し、本機に収納します。



CDトレイから手をはなしても、CDトレイが出てこないことを確認してください。



CDトレイを出した状態のまま本機を放置したり、移動したりしないでください。CD-ROMドライブの故障の原因となります。

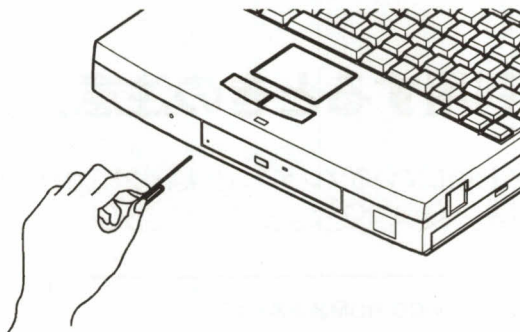
■非常時のCD-ROMの取り出し方

停電やソフトウェアの暴走などにより、CDトレイジェクトボタンを押してもCDトレイが出てこなくなった場合には次のようにしてCD-ROMを取り出してください。



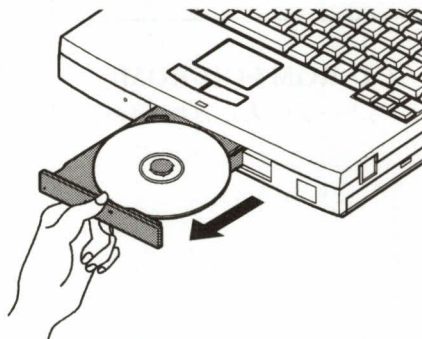
本機を正常に操作できるときには、この操作は行わないでください。

- 1 太さが1.0mm程度、まっすぐな部分の長さが20mm以上(指でつまむ部分を除く)の針金を用意してください。大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。
- 2 CDトレイ前面の下部に直径2mm程度の穴(非常時ディスク取り出し穴)があります。その穴の中に1で用意した針金を差し込み強く押します。

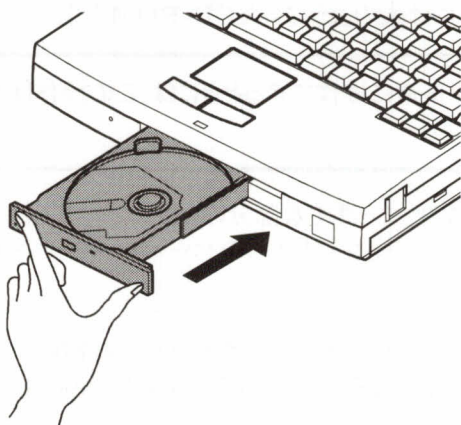


CDトレイが1cmほど飛び出します。

- 3 CDトレイを手前に引き出しCD-ROMを取り出します。



- 4** CDトレイジェクトボタンに触れないようにして、CDトレイの前面を押し、本機に収納します。



CD-ROMを利用するときの注意.....


CD-ROMから起動しているプログラムを実行中に、CD-ROMを取り出すと次のようなメッセージが表示されます。

ドライブX:のCD-ROM読み取りエラー

シリアル番号 XXXX-XXXXのCD-ROM*****を、
ドライブX:に入れてください。

CD-ROMがドライブに入っている場合は、クリーニングが必要です。

OKはEnter、キャンセルはEscキーを押してください。 :OK

この場合には、取り出したCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしなおしてキーボードの  を押してください。メッセージに表示されているシリアル番号は無視してください。

画面表示

ここでは、本機の液晶ディスプレイや別売のCRTディスプレイ、テレビでの解像度と表示色について説明しています。



別売のCRTディスプレイやテレビの接続についてはPart3をご覧ください。

表示できる解像度と表示色

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図形などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、細かな表現ができます。

本機のカラー液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と色を表示できます。

解像度	表示色	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示	別売のCRTディスプレイのみに表示	TVのみに表示
640×400ドット*	4,096色中16色	●	○	×
	4,096色中256色	●	○	×
640×480ドット	4,096色中256色	●	○	×

※：水平走査周波数を31kHzに設定している場合、CRTディスプレイにのみ表示可能です。

- ：画面のまわりが黒く表示されます
- ：フルスクリーンで表示可能
- ×：表示不可



表の解像度をCRTディスプレイで表示するには、CRTディスプレイがその解像度に対応している必要があります。ご使用になるCRTディスプレイが表示できる解像度を確認してください(☞P.146)。

また、本機は、ウィンドウアクセラレータ機能を標準で搭載しています。
 ウィンドウアクセラレータ機能は、Windowsの実行スピードを向上させ、Windowsの高解像度・多色表示を行う機能です。本機のカラー液晶ディスプレイでは、上記の解像度と表示色に加え、Windows使用時のみ次の解像度と表示色で表示できます。

解像度	表示色	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示*1	別売のCRTディスプレイのみに表示	TVのみに表示
640×480ドット	26万色中256色	●	○	○
	65,536色	●	○	○
	1,677万色	●	○	○
800×600ドット	26万色中256色	○	×	×
	65,536色	○	×	×
	1,677万色	○	×	×
1,024×768ドット	26万色中256色	×	○	×
	65,536色			
1,280×1,024ドット	26万色中256色	×	○	×

- :画面のまわりが黒く表示されます。(Windows 95使用時には密度変換機能でフルスクリーン表示可能)
- :フルスクリーンで表示可能
- ×
- *1 :本機にCRTディスプレイが接続されていないときには、液晶ディスプレイにのみ表示可能


別売のCRTディスプレイの接続方法は、Part 3の「CRTディスプレイを使う」をご覧ください。



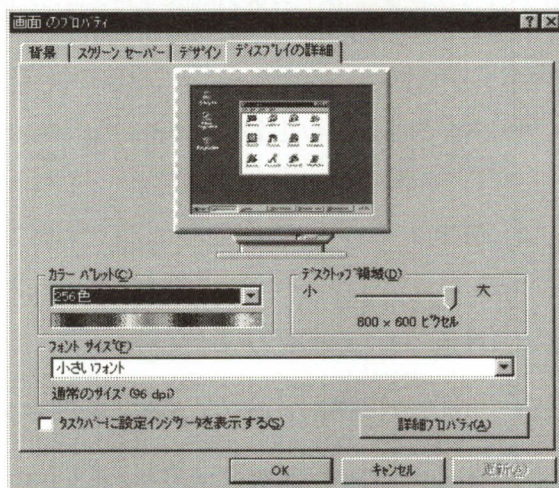
320×200ドットおよび320×240ドットのGAME SDK対応のアプリケーションソフトなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。

このようなときには、Windows 95の密度変換機能でフルスクリーン表示が可能です。また、320×200ドットおよび320×240ドットの解像度はテレビのみに表示することもできます。

解像度と表示色を変更する **Windows 95**

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
 [コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面]アイコン  をダブルクリックします。
 [画面のプロパティ]ウィンドウが表示されます。

3 [ディスプレイの詳細]タブをクリックします。



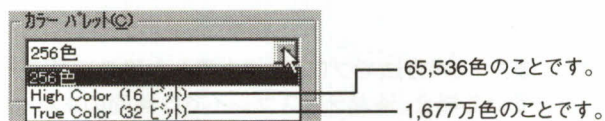
4 解像度または表示色を変更します。

・ 解像度の変更

解像度を高解像度に設定する場合は、[デスクトップ領域]のつまみを「大」の方向へドラッグしてずらしします。低解像度に設定する場合は、つまみを「小」の方向へドラッグしてずらしします。

・ 表示色の変更

表示色を変更するには、[カラーパレット]の欄で選択します。カラーパレットの選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されています。



5 設定が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。

[画面のプロパティ]ウィンドウが閉じます。



640×480ドット表示固定のプロジェクタ等と本機の液晶ディスプレイで同時表示をする場合、以下のようにしてプロジェクタ等の表示をフルスクリーンにすることができます。

- 1 [スタート]ボタンの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]タブをクリックします。
- 3 [詳細プロパティ]ボタンをクリックします。
- 4 [アダプタ]タブをクリックし、さらに[変更]ボタンをクリックします。
- 5 [すべてのドライバを表示]のラジオボタンをクリックします。
- 6 製造元から[NEC]を選択し、モデルから[スタンダードディスプレイアダプタ(9821シリーズ)]を選択します。
- 7 [OK]ボタンをクリックします。

続けて[閉じる]をクリックします。

さらに[閉じる]をクリックします。

Windowsを再起動するダイアログボックスが表示されるので、他のアプリケーションが終了していることを確認してから[はい]をクリックすると、プロジェクタ表示をフルスクリーンにすることができます。このとき、プロジェクタの最大発色数は256色になります。

また、この方法でプロジェクタ等と本機の液晶ディスプレイの同時表示を行っている場合、液晶ディスプレイでは画面のまわりが黒く表示されます。

密度変換ユーティリティを使用する **Windows 95**

本機で画面の解像度を640×480ドットの通常表示モードで使用していると、表示画面は、本機のカラー液晶ディスプレイの中央に表示され、画面の上下左右に黒い部分ができます。

Windows 95の密度変換ユーティリティで拡大表示モードに設定すると、画面いっばいに拡大表示されます(ただし文字や罫線の太さは不均一になります)。

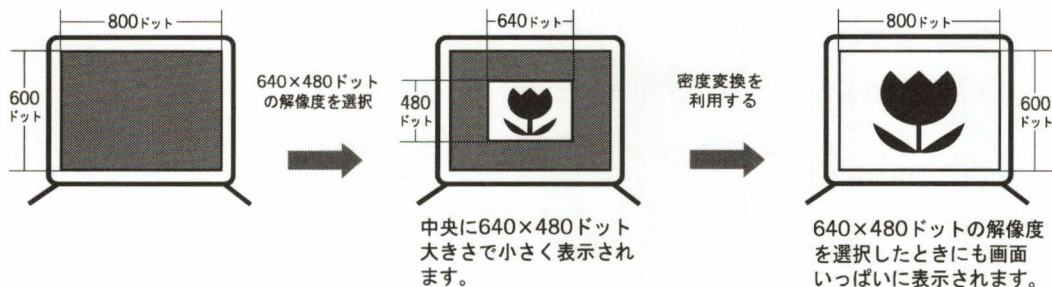


- ・密度変換ユーティリティが使用できるのは、640×480ドットのときのみです。これ以外の解像度と色数を使用している場合に密度変換ユーティリティを起動すると、「表示モードの変更はできません。」という内容のメッセージが表示されます。この場合、[OK]ボタンをクリックしてください。
- ・本機でWindows 3.1を選択した場合は、密度変換ユーティリティは使用できません。また、Windows 3.1を選択し、Windows 95にアップグレードした場合にも使用できません。



密度変換

本機の液晶ディスプレイは、最大で横800ドット、縦600ドットが表示できます。640×480ドットの解像度を選択したときには、液晶ディスプレイのドット数のうち選択したドット数のみ使って画面が表示されるため、800×600ドットの解像度を選択したときに比べ、液晶ディスプレイ上に表示される画面の大きさが小さくなります。640×480ドットを選んだときの画面表示サイズは9.6インチです。Windows 95使用時に密度変換機能を実行した場合は、画面いっばいに拡大表示されます。



表示方法を切り替える.....

本機に別売のディスプレイやテレビを接続した場合、表示する先を切り替えたり、また、表示方法を変えたりすることができます。

表示方法を切り替えるには次のようにします。

1 起動しているすべてのアプリケーションソフトを終了します。

2 タスクバーの  アイコンをクリックします。

3 メニューが表示されますので、切り替えたい表示方法をクリックしてください。

・密度変換

密度変換ユーティリティが起動します。表示方法を選択することができます。

表示モードは、次の中から選択できます。表示モードを選択したら[OK]ボタンをクリックしてください。

・640×480ドット 拡大表示(CRTディスプレイ+本体液晶ディスプレイ)

・640×480ドット 通常表示(CRTディスプレイ+本体液晶ディスプレイ)

・本体表示

本体液晶ディスプレイに表示します。CRTディスプレイが接続されている場合はCRTディスプレイにも同時表示します。

・ディスプレイ出力

別売のCRTディスプレイにのみ表示します。

・テレビ出力

別売のテレビにのみ表示します。表示方法は次の2つから選択できます。

・オーバースキャン…画面全体を見るために画像を縮小して出力

・アンダースキャン…画像を縮小せずにそのまま出力

バッテリー

添付のバッテリーパックを取り付けると、ACコンセントがない場所で本機を使用することができます。ここでは、バッテリーパックの取り付け方や充電方法、バッテリーの交換方法などについて説明しています。

バッテリーパックを取り扱うときの注意.....

⚠警告



発火注意



破裂注意



毒物注意

- バッテリーパックは、分解しないでください。
分解すると、破裂したり液もれしたりすることがあります。
- バッテリーパックには強い衝撃を加えないでください。また、このマニュアルの指定の方法で充電してください。
衝撃を加えたり、指定以外の方法で充電したりすると、発熱、発火、破裂、液もれすることがあります。
- バッテリーパックは、火の中に入れてしないでください。
火の中に入れると、爆発したり、破裂したりすることがあります。

バッテリーを取り扱うときには、次のことに注意してください。

- ・ 水などの液体がかからないようにしてください。
- ・ 金属端子部分を他の金属類に触れさせないでください。ショートの原因となります。

バッテリーパックを取り付けて充電する.....

⚠注意



感電注意

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。
- 雷が鳴りだしたら、電源コードに触れないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

バッテリーパックは、ご購入時には充電されていません。バッテリーパックを使用する場合は本機に取り付けて充電してください。



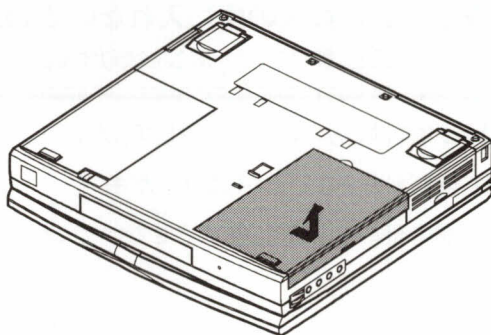
周囲の温度によって、充電による電池容量は変わります。18°C～28°Cでの充電をおすすめします。

- 1 本機の電源がOFFになっていることを確認します。



ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後にWindowsを終了し、電源スイッチで本機の電源をOFFにします。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機にケーブル類が接続されている場合は、それらをすべて取り外します。
- 5 本機のカバー(カラー液晶ディスプレイ)を閉じて、本機を裏返します。
- 6 バッテリスロットのカバーを矢印の方向にずらして起こし、取り外します。



- 7 端子の向きに注意して、バッテリーパックをバッテリスロットに取り付けます。
 - 8 バッテリスロットに、手順6で取り外したカバーを取り付けます。
 - 9 本機にACアダプタを接続します。
 - 10 電源コードのプラグをACコンセントに接続します。
- 動作表示用LEDが黄色に点灯し、自動的にバッテリーの充電が始まります。



充電中はバッテリーパックを外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。

充電が完了すると、動作表示用LEDが消灯します。

これでバッテリーはフル充電されました。

バッテリーパックだけで本機を使用する場合には、本機にACアダプタと電源コードを接続せずに電源をONにしてください。



ACコンセントから電源を供給したいときに、バッテリーパックを取り外す必要はありません。



バッテリーが十分に充電されているときは、バッテリーパックの不必要な抜き差しをしないでください。故障の原因となります。



- ・バッテリーの過充電や劣化を防ぐため、バッテリーがフル充電に近い状態では充電されません。このため充電しようとしても動作表示用LEDが点灯しないことがあります。故障ではありません。
- ・バッテリーは、わずかずつ自然放電しています。これを補充するため、フル充電から一定量放電されると、自動的に充電が始まります。このため、ACアダプタが接続されているときには動作表示用LEDがまれに点灯することがありますが、故障ではありません。
- ・バッテリー充電中やバッテリーパックだけで本機を使用しているときは、バッテリーパックが熱くなることがあります。これは、バッテリーパック内部で電気エネルギーを発生させる化学反応が起きているためであり、故障ではありません。
- ・バッテリーパックだけで本機を使用している場合には、ACアダプタでの使用時にくらべ液晶ディスプレイの明るさが自動的に抑えられます。
- ・添付のバッテリーパックと別売のバッテリーパックを両方とも取り付ければ、本機をより長時間バッテリー駆動で使用することができます(☞P. 62)。

■ バッテリーパックの充電時間

充電に必要な時間は次のとおりです。

電源の状態	充電時間
ON	約4.0時間
OFF	約2.5時間



本機にCD-ROMドライブを取り付けているときには、電源ONの状態ではバッテリーを充電することはできません。



- ・ 本機の電源がONの状態での充電時間は、本機の使用状況によって変わります。
- ・ ドライブベイにバッテリーパックを取り付けた場合、ドライブベイのバッテリーパックの充電時間もバッテリースロットの場合と同じです。
- ・ バッテリースロットとドライブベイの両方にバッテリーパックが取り付けられているときには、先にバッテリースロットのバッテリーパックが充電されます。
- ・ バッテリーパックだけで本機を使用しているときは、バッテリーパックが熱くなることがあります。熱くなった状態で充電を行うとバッテリーパックの性能が低下するため、本機はバッテリーパックの温度が下がるまで充電待ちをします。このため、バッテリー充電時間が長くなることがありますが、故障ではありません。

バッテリーパックで本機を使用する.....

■ バッテリーパックでの使用時間

本機をバッテリーパックだけで使用できる時間は、次のとおりです。

バッテリーの状態	使用時間
バッテリースロットのみ	約**時間～**時間
ドライブベイにバッテリー増設時	約**時間～**時間



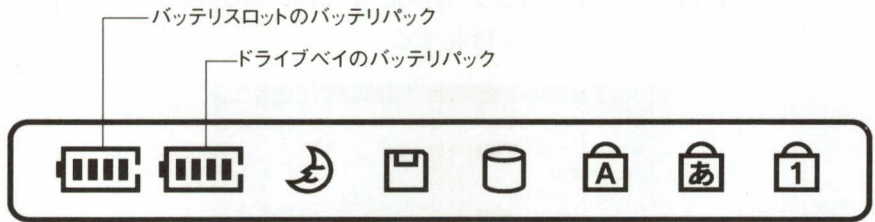
- ・ バッテリーパックでの使用時間は、本機の使用状況や、周辺機器の接続状況により変わる場合があります。
- ・ ドライブベイとバッテリースロットの両方にバッテリーパックを取り付けた場合には、先にドライブベイのバッテリーパックが消耗します。
- ・ 周囲の温度が低くなると、化学反応が緩慢になり、バッテリーパックでの使用時間が短くなります。バッテリーパックで本機を使用する場合は、本機を使用するときの温度条件に従って使用してください(☞P.236)。

■ バッテリー残量を確認する Windows 95

バッテリーの残量は、ステータスインジケータの表示で確認できます。また、Windows 95では、タスクバーの[パワーマネジメント]アイコンで確認できます。

● ステータスインジケータで確認する

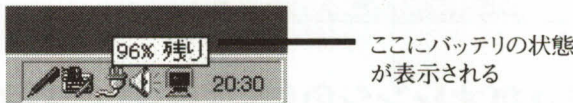
左側はバッテリースロットのバッテリーパック、右側はドライブベイに追加したバッテリーパックのバッテリーの残量を表しています。バッテリーの残量は電源をOFFにしているときでも表示されます。詳しい表示内容については、「ステータスインジケータ」(P.8)をご覧ください。



● Windows 95で確認する

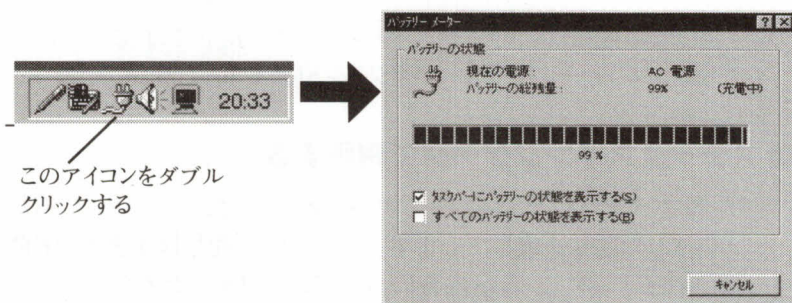
Windows 95を利用している場合は次の方法でバッテリー残量を確認することができます。

- ・タスクバーの電源アイコンをポイントする



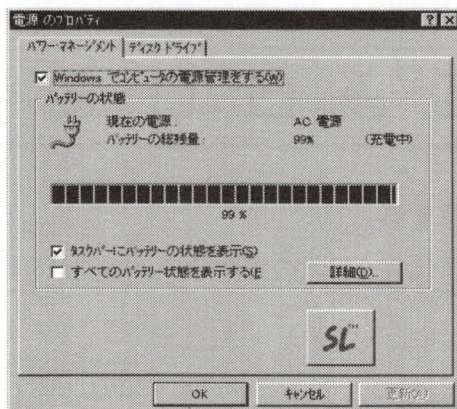
電源をACアダプタからではなくバッテリーからとっている場合は、[電源]アイコンは次のように変わっています。

- ・タスクバーの電源アイコンをダブルクリックする



このアイコンをダブル
クリックする

- ・[スタート]-[説明]-[コントロールパネル]-[パワーマネジメント]で表示される[電源のプロパティ]ウィンドウで確認する。




■ 動作表示用LEDがオレンジ色に点灯したときは

バッテリーでの使用中にバッテリー残量が少なくなると、動作表示用LEDがオレンジ色に点灯し、同時に内蔵ブザーが「ピッピッ」という警告音を鳴らします。このような状態になったら、次のいずれかの操作をしてください。

- ・ ACアダプタを接続し、ACコンセントから電源を供給します。

電源を供給すると、バッテリーの充電が始まり、動作表示用LEDが黄色に点灯します。



ACアダプタを接続すると、ディスプレイの表示が少し明るくなり、タスクバーの電源アイコンが  に変わります。

- ・ お使いになっていたソフトウェアを終了して、電源をOFFにします。

上記のいずれかの操作を行わないでしばらくたつと、次のようになります。

- ・ハイバネーション機能が設定されている場合…ハイバネーション状態になります。
- ・ハイバネーション機能が設定されていない場合…サスペンド状態になります。

動作表示用LEDがオレンジに点灯している状態で本機の電源をOFFにしたり、本機がサスペンド状態やハイバネーション状態になった場合、次に電源をONにするときはACアダプタを接続するか、充電されたバッテリーパックに交換してください。そのままの状態では電源をONにしたりレジュームしたりすることはできません。



フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリーの残量がなくなり、電源がOFFになってしまうと、作成中のデータが失われるだけでなく、フロッピーディスクやハードディスクのデータが壊れてしまうことがありますのでご注意ください。



スピーカのボリュームを最小にしていると、バッテリーの消耗を知らせる警告音が鳴りません。バッテリーパックで本機を使用する場合は、なるべくスピーカのボリュームを最小にしないでください。

■バッテリーの上手な使い方

●省電力の設定をする

バッテリーパックだけで長時間本機を使用したい場合は、省電力機能を設定してください。

省電力機能についてはP.72をご覧ください。

●バッテリーパックは取り付けたままで使う

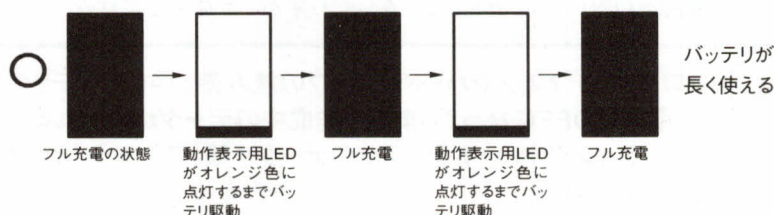
バッテリーパックは、不意の停電や電圧変動に対して、本機の動作を安定させる働きがあります。ハードディスクやPCカードを使うときなどは、ACアダプタを接続していても、なるべくバッテリーパックを取り付けた状態で本機を使用してください。

●ACアダプタはなるべく接続したままで使う

ACアダプタは、バッテリーの充電状態を最適に保持する働きがあります。

●バッテリーパックは十分使い切ってから充電する

バッテリーパックは、動作表示用LEDがオレンジ色に点灯してから、充電するようにしてください。バッテリーの残量がなくなりきらないうちに充電を始めたり、逆に完全に充電しないうちに充電をやめたりすることを繰り返すと、バッテリーがフル充電されなくなったり、バッテリーでの使用時間が短くなることがあります。




●2～3ヵ月に一度はバッテリーを充電する

バッテリーは、フル充電されていても、長時間放置すると、自然放電してしまいます。本機をご使用にならない場合でも、2～3ヵ月に一度はバッテリーを充電することをおすすめします。

●バッテリーリフレッシュを行う

本機のバッテリーリフレッシュ機能は、バッテリーを完全に放電させる機能です。バッテリーを十分に充電しても、バッテリーパックでの使用時間が極端に短くなってしまった場合に、この機能を使用します。

バッテリーリフレッシュが必要な場合には、次のような状態になります。

- ・ステータスインジケータのバッテリー残量表示枠が点滅 () する
- ・動作表示用LEDが次のように点灯する
電源ON時 : 緑と黄色の交互点灯
電源OFF時 : 黄色の点滅

バッテリーリフレッシュは、98NOTEメニューの「動作環境の設定」の「バッテリーリフレッシュモード」で行います。詳しい操作方法についてはP.164をご覧ください。



バッテリーリフレッシュを行っても、すぐにステータスインジケータの残量表示枠が点滅する場合は、バッテリーパックの寿命が尽きたものと判断してください。

●1ヶ月以上使わないときは本機から取り外す

バッテリーパックを1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーパックの性能を維持するために本機から取り外し、涼しい場所に保管してください。

バッテリーパックを交換する.....

バッテリーパックは消耗品です。

長期間使用すると、自然に充電能力が低下します。

バッテリーを充電してもバッテリーパックだけでの本機の使用時間が極端に短くなった場合は、バッテリーパックの寿命です。バッテリーパックの寿命がきたら、別売のバッテリーパック(PC-9821NR-U02)をご購入のうえ、新しいバッテリーパックと交換してください。

⚠注意



- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。
- 雷が鳴りだしたら、電源コードに触れないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

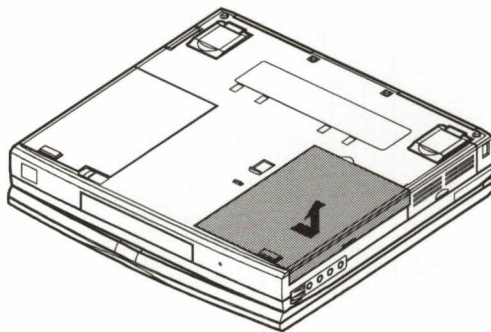
ここでは、バッテリースロットのバッテリーパックを交換する手順を説明しています。ドライブベイにバッテリーパックを取り付け/取り外しする手順についてはPart3の「ドライブベイを活用する」をご覧ください。

- 1 本機の電源がOFFになっていることを確認します。

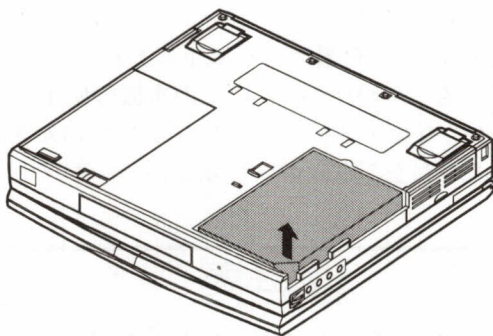


ステータスインジケータに「サスペンド」表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後Windowsを終了し、電源スイッチで本機の電源をOFFにします。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機にケーブル類が接続されている場合は、それらをすべて取り外します。
- 5 本機のフタ(カラー液晶ディスプレイ)を閉じて、本機を裏返します。
- 6 バッテリスロットのカバーを図の矢印の方向にずらして取り外します。



- 7** 図の矢印の部分に指をかけてバッテリーパックを取り出します。

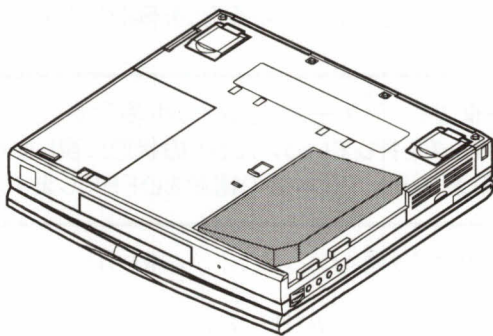


- 8** 新しいバッテリーパックの端子部分を、柔らかい布などでよく拭きます。



バッテリーパックの端子部分は、絶対に手で触れないでください。接触不良の原因になります。

- 9** 新しいバッテリーパックを本機に取り付けます。



- 10** 手順6で取り外したカバーを本機に取り付けます。

これでバッテリーパックの交換ができました。
不要になったバッテリーパックの廃棄方法についてはP.208をご覧ください。

Part 2

本機の機能を知る

本機に用意されている各種機能について説明しています。

- サスペンド/レジューム機能
- ハイバネーション機能
- 省電力機能
- セキュリティ機能
- 通信機能
- 赤外線通信機能

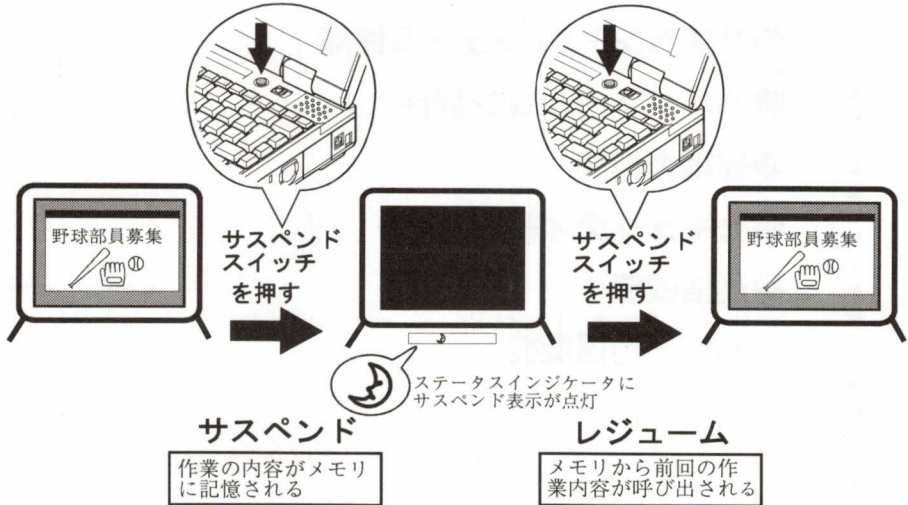
サスペンド/レジューム機能

本機ではサスペンド/レジューム機能を使うことができます。ここでは、サスペンド/レジューム機能の設定のしかたや、サスペンド/レジューム機能を利用する際の注意事項などについて説明しています。

サスペンド/レジューム機能とは.....

本機では、作業を一時中断したいときなどのために便利なサスペンド/レジューム機能があります。作業を一時中断したいときに作業中の内容をメモリに保存することをサスペンドといいます。

サスペンド状態にすると、本機の動作が一時停止状態になります。サスペンドされている内容は作業再開時に自動的に復元されます。このことをレジュームといいます。





- ・ サスペンド状態のとき(ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているとき)には、電源スイッチをスライドさせても本機の状態は変わりません。もとの作業状態に戻したいときにはサスペンドスイッチを押してください。
- ・ サスペンド状態のとき(ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているとき)には、機器の取り付け/取り外しをしないでください。機器の取り付け/取り外しをすると、本機が正常に動作しなくなることがあります。
- ・ 使用するPCカードによってはレジュームできないことがあります。詳しくはPCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・ 使用するアプリケーションソフトによってはレジュームできなかつたり、アプリケーションソフトが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションソフトの使用時にはサスペンド/レジューム機能を使用しないでください。



- ・ 通信ソフト使用中には、通信ソフトを終了させてからサスペンド状態にしてください。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにサスペンド状態にした場合は、レジュームに若干時間がかかることがあります。

サスペンド/レジュームする.....

本機でサスペンド/レジュームするには、つぎのような方法があります。

■サスペンドスイッチを押してサスペンド/レジュームする

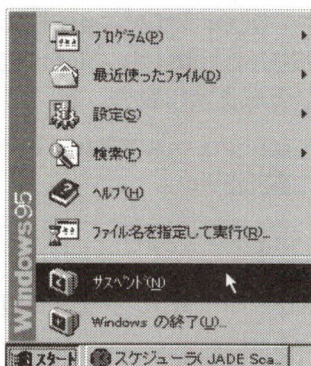
作業を中断したいときにサスペンドスイッチを押すと、サスペンド状態になります。作業を再開したいときにはサスペンドスイッチを押すと自動的にレジュームされます。



サスペンドスイッチを連続して押すときには、本機の負担になりますので少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

■Windows 95でサスペンドする

[スタート]ボタンをクリックし、[サスペンド]をクリックするとサスペンド状態になります。作業を再開したいときには、サスペンドスイッチを押すと自動的にレジュームされます。



[コントロールパネル]の[パワーマネージメント]を起動して表示された画面で、[パワーマネージメント]を[オフ]に設定しているときには、この機能は使用できません。

■液晶ディスプレイの開閉に連動させてサスペンド/レジュームする

液晶ディスプレイを閉じると自動的にサスペンド状態にすることができます。また、液晶ディスプレイを開けると自動的にレジュームさせることができます。この機能を使うには、98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティでの設定が必要です(☞P.169)。



液晶ディスプレイの開け閉めは、少なくとも5秒以上の間隔をあけて行ってください。

■オートサスペンド機能でサスペンド/レジュームする

設定時間が経過するまで作業をしないでいると、自動的に本機をサスペンド状態にすることができます。作業を再開したいときにはサスペンドスイッチを押すと自動的にレジュームされます。この機能を使うには、98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティでの設定が必要です(☞P.169)。Windows 95では[パワーマネジメント]の[SLエンハンスオプション]で設定します。

■モデムによりレジュームする(FAXモデムボード内蔵時のみ)

サスペンド中に電話がかかってくると自動的にレジュームするように設定できます。この機能は、コミュニケーションスロットにFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)を取り付けて電話回線を接続している場合のみ使用できます。

また、この機能を使うには、Windows 95での設定が必要です。(☞P.75)



本機をバッテリーパックで使用している場合でハイバネーション機能を設定していないときには、バッテリーの残量が少なくなると、上記の操作を行わなくても自動的にサスペンド状態になります。作業を再開したいときには、ACアダプタを接続するか、充電されたバッテリーパックを取り付けてからサスペンドスイッチを押します。

サスペンド/レジュームするときの注意

■サスペンドの内容が失われる場合

次の場合は、サスペンドの内容が失われます。

- ・ ACアダプタを未接続で、バッテリーが消耗したとき
- ・ キーボードの[HELP]を押しながらサスペンドスイッチを押して98NOTEメニューを起動したとき
- ・ 電源スイッチをスライドさせながらサスペンドスイッチを押したとき
- ・ ACアダプタを未接続で、バッテリーパックを本機から取り外して一定時間が経過したとき

●バッテリーによるサスペンド内容の保持時間

本機の状態	保持時間
バッテリーフル充電時※1	約5日
バッテリーパックを本機から取り外してから※2	約1時間

※1: ドライブベイに別売のバッテリーパックを追加した場合、保持時間は約2倍になります。

※2: サブバッテリーのみの保持時間です。



バッテリースロットとドライブベイの両方にバッテリーパックを取り付けて使用している場合で、どちらか一方のバッテリーパックの残量がなくなったとき(ステータスインジケータのバッテリー残量表示の枠のみ点灯)にバッテリーパックを交換するときは、必ずドライブベイのバッテリーパックを交換してください。誤ってバッテリースロットのバッテリーパックを取り外すと、サスペンド内容が失われてしまいますので、注意してください。

■サスペンド内容の復元が保証されない場合

次のような作業をしているときに、サスペンドを実行した場合には、レジューム内容は保証されません。

次のような場合には、サスペンドは実行しないでください。

- ・ サスペンド内容の記憶中、または復元中にフロッピーディスクを入れ替えたとき
- ・ サスペンド内容の記憶中、または復元中にCD-ROMを入れ替えたとき
- ・ サスペンド内容の記憶中、または復元中にPCカードなどの抜き差しをするなど、本機の環境を変更したとき
- ・ サスペンド状態のときに本機の機器構成を変更したとき
- ・ 98標準キーボード(PC-9801-106)または98標準キーボード95(PC-9801-119)以外の外付けキーボードを接続しているとき

また、次のような状態でサスペンド状態にしたときには、レジュームの内容は保証されません。

- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 赤外線通信を使用しているとき(赤外線通信用のアプリケーションソフトを実行中のとき)
- ・ モデムなどを使って通信中のとき
- ・ サウンド機能により音声を再生しているとき
- ・ 動画を再生中のとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMを読み取り中のとき
- ・ 16ビットPCカードサポートを使用しているとき

■サスペンド/レジューム機能が正しく実行されない場合

カラー液晶ディスプレイに「RESUME FAILURE」と表示されたときは、サスペンド/レジューム機能による作業内容の復元に失敗したことを表しています。

また、サスペンド/レジュームを行った場合に、アプリケーションソフトによっては次の症状がでることがあります。

- ・ アプリケーションソフトが動作しない
- ・ サスペンド/レジューム機能が正しく動作しない
(内容を復元できない)
- ・ 電源スイッチで、電源をOFFにできない

これらの場合には、サスペンド/レジューム機能は使わないでください。

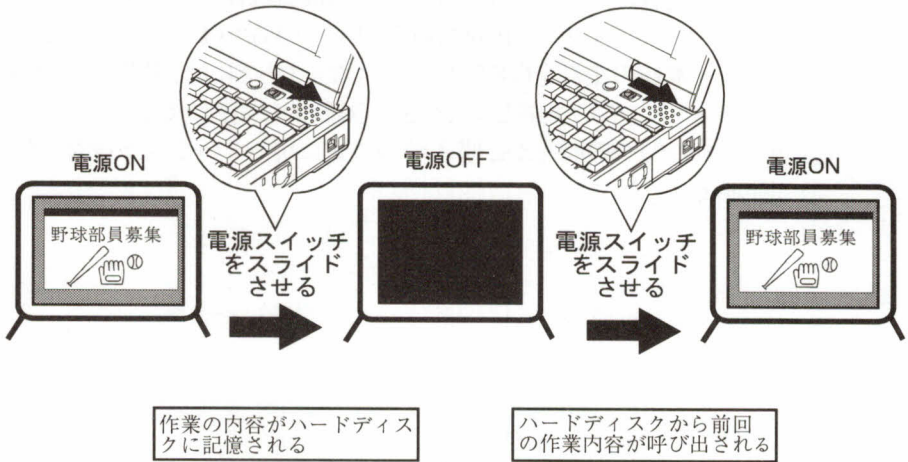
サスペンド/レジュームを正常に行うことのできないアプリケーションソフトを使用していて、万一本機の電源をOFFにできなくなったときには、電源スイッチをスライドさせながらサスペンドスイッチを押してください。強制的に電源がOFFになります。また、この場合ディップスイッチの設定がご購入時の設定に戻っていることがあります。必要な場合は設定し直してください。

ハイバネーション機能

本機では、ハイバネーション機能を利用できます。ここでは、ハイバネーション機能の設定のしかたや、使用する際の注意事項などについて説明しています。

ハイバネーション機能とは.....

ハイバネーション機能は、サスペンド/レジューム機能と同様に、作業を一時中断するときに便利な機能です。サスペンド/レジューム機能ではメモリに作業内容を保存するのに対し、ハイバネーション機能では作業内容がハードディスクに保存されます。このため、バッテリー残量がなくなっても保持されている内容は失われません。



- ・ハイバネーション状態のときは、機器の取り付け/取り外しをしないでください。機器の取り付け/取り外しをすると、本機が正常に動かなくなることがあります。
- ・使用するPCカードによっては、ハイバネーション機能を使用できないことがあります。詳しくはPCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・使用するアプリケーションソフトによっては、ハイバネーション機能を使用できないことがあります。このようなアプリケーションソフトの使用時には、ハイバネーション機能を使用しないでください。



ハイバネーション機能は、本機固有の機能ですので、市販のWindows 95やWindows 3.1、MS-DOSでは使用できません。本機でMS-DOS 6.2とWindows 3.1を選択し、Windows 95にアップグレードしても使用できません。ただし、Windows 95を選択し別のドライブに市販のMS-DOS 6.2とWindows 3.1をインストールして、『再セットアップガイド』の「MS-DOSを利用する」と「Windows 3.1を利用する」に記載されている作業を実行した場合は使用できます。

ハイバネーション機能を設定する.....

本機では、本機にインストールされているWindows 95または、Windows 3.1、MS-DOS 6.2でハイバネーション機能を利用できます。なお、ハイバネーション機能は、作業内容をハードディスクの一部に保存するようになっているため、ハードディスクにある程度の空き容量を必要とします。Hibernation設定ユーティリティでハイバネーションを実行するように設定すると、作業内容を記憶するためのファイルがハードディスクに自動的に作成されます。次の手順で、ハイバネーション機能を設定します。

1 Hibernation設定ユーティリティを起動します。

・Windows 95の場合

- ①Windows 95の[スタート]—[Windowsの終了]をクリックします。
- ②[コンピュータをMS-DOSモードで再起動する]をクリックして[はい]ボタンをクリックします。
本機がMS-DOSモードで再起動します。
- ③キーボードから次のように入力します。

HIBER 



Windows 95の[MS-DOSコマンドプロンプト]ウィンドウでは、この機能を実行することはできません。必ず、MS-DOSモードで実行してください。

・Windows 3.1とMS-DOS 6.2の場合

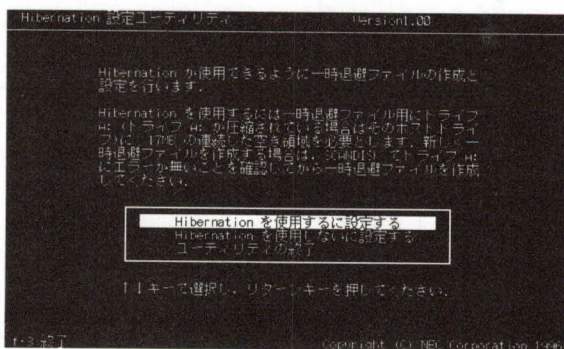
- ①MS-DOSプロンプトの画面を表示させておきます。
Windows 3.1を使用中の場合は、Windows 3.1を終了します。MS-DOSコマンドメニューが表示された場合は、キーボードの[STOP]を押してMS-DOSコマンドメニューも終了します。
- ②キーボードから次のように入力します。

HIBER 



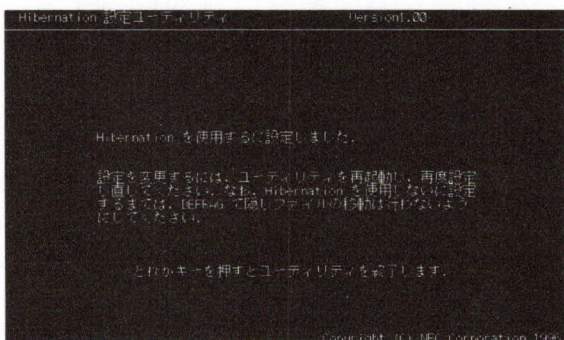
- MS-DOS 6.2とWindows 3.1でハイバネーション機能を利用するには、POWER.EXEを組み込む必要があります。POWER.EXEについては『再セットアップガイド』をご覧ください。
- Windows 95のMS-DOSモードでは本機能は使用できません。
- 本機でMS-DOS 6.2とWindows 3.1を選択した場合は、すでにPOWER.EXEが組み込まれています。
- Windows 3.1のスタンダードモードでは、本機能は使用できません。

2 次の画面が表示されたら、キーボードの \uparrow / \downarrow を押して反転表示を[Hibernationを使用するに設定する]に移動して、 \rightarrow を押します。



ハードディスクの空き容量が不足していることを示すメッセージがされた場合には、画面の指示に従ってハードディスクの空き容量を確保した後、手順1からやり直してください。その他のエラーメッセージが表示された場合は、それぞれの画面の指示に従って処置したあと手順1からやり直してください。

3 次の画面が表示されたら、キーボードのキーのどれかを押します。



Hibernation設定ユーティリティが終了します。
Windows 95で使用する場合は、これで設定は終了です。

Windows 3.1で使用する場合は、さらに次の設定が必要です。
 SEDITコマンド等を利用して次のファイルを書き換えてください。



初回起動時にMS-DOS 6.2とWindows 3.1を選択した場合は、次のような内容に設定されているので、この作業は必要ありません。

- ・AUTOEXEC.BATの先頭行に次の1行を追加

```
HIBER /I
```

- ・WINA.BATを次のように変更

```
WIN
@ECHO OFF
IF ERRORLEVEL 255 GOTO ERROR1
HIBER /I
GOTO JUMP
:ERROR1
HIBER /I
ECHO.
ECHO 何かキーを押して下さい
PAUSE >NUL
:JUMP
ECHO ON
CD ¥
```



Windows 3.1を起動するときには、MS-DOSコマンドメニューから起動するか、WINA[Ⓜ]と入力して起動してください。この方法で起動しなかった場合は、Windows 3.1終了後ハイバネーション機能が利用できません。
 WIN[Ⓜ]として、Windows 3.1を起動した場合は、Windows 3.1終了後ハイバネーション機能は利用できませんので、Windows 3.1終了後、「HIBER / I[Ⓜ]」と入力してください。

MS-DOS 6.2で使用する場合は、さらに次の設定を行ってください(なお、MS-DOS 6.2とWindows 3.1を選択した場合には、この作業は必要ありません)。

- ・SEEDITコマンド等を利用して、AUTOEXEC.BATファイルの先頭に次の一行を追加してください。

```
HIBER /I
```

↑

半角スペース入る

4 ハイバネーション機能の設定が完了したことを確認します。

- ・Windows 95、Windows 3.1の場合

Windows 95またはWindows 3.1起動時には指定しないかぎりメッセージは表示されません。

- ・MS-DOS 6.2の場合

MS-DOS 6.2起動時にハイバネーション機能が使用できるようになったことを表すメッセージが表示されます。

ハイバネーション機能を使う.....

作業中、ハイバネーション機能が設定されている状態で、本機の電源スイッチをスライドさせると、「ハードディスクに退避中!」というメッセージの表示後、本機の電源が自動的にOFFになり、ハイバネーション状態になります。

作業を再開したいときには電源スイッチをスライドさせると本機の電源がONになり、「ハードディスクから復旧中!」というメッセージの表示後、自動的に保存されていた内容が表示されます。



- ・ハイバネーション機能が設定されていない場合に電源スイッチで電源をOFFにすると、作業中の内容はすべて失われてしまいます。無造作に電源スイッチを操作するとデータを破壊してしまったり、機器やシステムの故障の原因となることがありますので、注意してください。
- ・電源スイッチによる電源のON/OFFを連続して行うときは、本機の負担になりますので少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。
- ・電源スイッチをスライドさせながらサスペンドスイッチを押して本機の電源をOFFにした場合には、ハイバネーション状態になりません。



本機をバッテリーパックで使用している場合にハイバネーション機能が設定されていると、バッテリーパックの残量が少なくなると自動的にハイバネーション状態になります。



Windows 3.1を起動する場合はWINA.BATで起動してください。WINA.BATで起動しない場合は、Windows 3.1終了後ハイバネーション機能が利用できません。

ハイバネーション機能を使うときの注意.....

■ハイバネーションの内容が失われる場合

次の場合は、ハイバネーションの内容が失われます。

- ・ キーボードの[HELP]を押しながら電源をONにして98NOTEメニューを起動したとき

■ハイバネーションの保存内容の復元が保証できない場合

以下のように、ハイバネーション状態の本機の状態を変更したり、一部のハードウェアが処理中の場合には、ハイバネーション機能の動作が保証されません。

- ・ ハイバネーションの内容を記憶中、または復元中にフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えたとき
- ・ ハイバネーションの内容を記憶中、または復元中にPCカードなどの抜き差しをするなど、本機の環境を変更したとき
- ・ ハイバネーション状態のときに本機の機器構成を変更したとき
- ・ 98標準キーボード(PC-9801-106)または98標準キーボード95(PC-9801-119)以外の外付けキーボードを接続しているとき

また、次のような状態で本機をハイバネーション状態にしたときには保存内容の復元は保証されません。

- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 赤外線通信を使用しているとき(赤外線通信用のアプリケーションソフトを実行中のとき)
- ・ モデムなどを使って通信中のとき
- ・ サウンド機能により音声を再生しているとき
- ・ 動画の再生中のとき
- ・ CD-ROMを読み取り中のとき
- ・ 16ビットPCカードサポートを使用しているとき

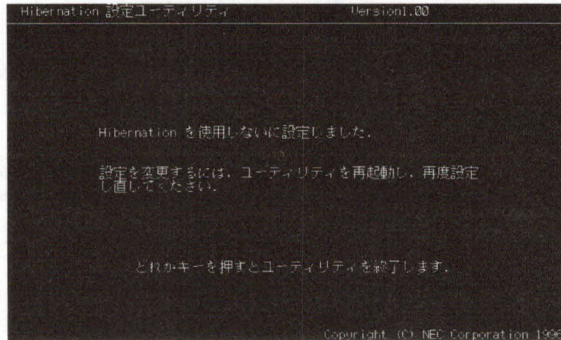
ハイバネーション機能を無効にする.....

一度ハイバネーション機能を設定した後でも、ハイバネーション機能を無効に設定できます。

- 1 「ハイバネーション機能を設定する」の手順1と同じ方法で、Hibernation設定ユーティリティを起動します。

2 キーボードの \uparrow \downarrow を押して反転表示を[Hibernationを使用しない設定にする]に移動して、 \rightarrow を押します。

3 次の画面が表示されたら、キーボードのキーのどれかを押します。





これで、ハイバネーション機能が使えなくなります。

■Windows上でハイバネーション機能を無効にする

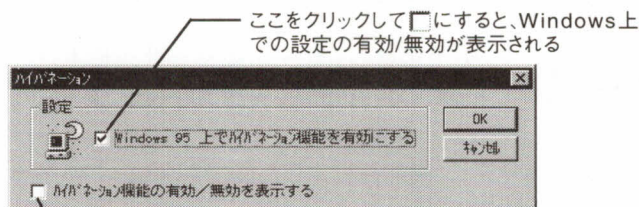
Windows 95やWindows 3.1でハイバネーション機能を使用している場合は、Hibernation設定ユーティリティを起動しなくても、ハイバネーション機能を無効にすることができます。

1 [ハイバネーション]機能を起動します。

・Windows 95の場合 … スタートボタンをクリックし、[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックして[ハイバネーション]アイコン  をダブルクリックします。

・Windows 3.1の場合 … [コントロールパネル]をクリックして[ハイバネーション]アイコン  をダブルクリックします。

2 次のような画面が表示されたら、[Windows 95上でハイバネーション機能を有効にする]のチェックボックスをクリックします。



ここをチェックして \checkmark にすると、Windows起動時などにハイバネーション機能の有効/無効が表示される

Windows 3.1の場合は実際の画面と多少異なります。

- 3 [OK]ボタンをクリックします。

これでWindows上でハイバネーション機能が無効になりました。

■無効にしたハイバネーション機能を再度使えるようにする

- 1 「Windows上でハイバネーション機能を無効にする」の手順1と同じ方法で、[ハイバネーション]機能を起動します。
- 2 [Windows上でハイバネーション機能を無効にする]のチェックボックスをクリックしてにします。
- 3 [OK]ボタンをクリックします。

これでハイバネーション機能が使えるようになりました。

■ハイバネーション機能の再設定が必要な場合

次のような場合は、ハイバネーション機能の再設定が必要となります。「ハイバネーション機能を設定する」の手順に従って、再設定してください。

- ・メモリの取り付け／取り外しを行った
- ・本機を再セットアップした
- ・ハードディスクにあるハイバネーション用の一時退避ファイルを削除した(一時退避ファイルとは、「ハイバネーション機能を設定する」の手順を行うと自動的に作成されるファイルです)。

省電力機能

本機には、さまざまな省電力機能が用意されています。バッテリー駆動時などに省電力機能を設定しておくことで、省電力機能を設定していないときにくらべ、バッテリーでの本機の使用時間を長くすることができます。

98NOTEメニュー/98NOTEメニューユーティリティで設定できる機能.....

●省電力モード

本機の動作モードを設定する機能です。「フルパワー」「エコノミー」「カスタム」の3段階に設定することができます。「エコノミー」または「カスタム」に設定すると、消費電力を抑えることができます。

●液晶ディスプレイ自動停止

一定時間が経過すると自動的に液晶ディスプレイのバックライトが消える機能です。

●内蔵固定ディスク自動停止

ハードディスクのモータを制御する機能です。

●CPU自動停止

CPUの動作を制御する機能です。

●LCD連動サスペンド/レジューム

液晶ディスプレイの開け閉めでサスペンド/レジュームができるようにする機能です。

●オートサスペンド

設定された時間内に本機が使用されなかった場合、自動的にサスペンド状態にする機能です。

詳しい設定の方法についてはP.169をご覧ください。

Hibernation設定ユーティリティで 設定できる機能.....

●ハイバネーション

電源OFF時の作業内容を自動的にハードディスクに保存する機能です。電源をON/OFFするたびに、ソフトウェアを起動したり、終了したりする必要がありません。また、ACアダプタを未接続でもデータが保持されます。



Hibernation設定ユーティリティで「ハイバネーションを使用する」に設定すると、本機をバッテリーパックで使用しているときにバッテリー残量が少なくなると、自動的にハイバネーション状態になります。

詳しい設定の方法についてはP.65をご覧ください。

Windowsで設定できる機能 **Windows 95**

●自動中断

設定された時間内に本機が使用されないと自動的にサスペンド状態にする機能です。

●モデムによりレジュームする

本機にモデムボードを内蔵して電話回線を接続しているときに設定できます。サスペンド中に電話がかかってくると自動的にレジュームする機能です。

●ハードディスクのモータ制御

設定された時間内に本機が使用されないと、ハードディスクのモータを停止する機能です。

●CPUのクロック制御

CPUのクロック速度を制御することで節電をします。

●ディスプレイのバックライトを消灯する

設定された時間内に本機が使用されないと、液晶ディスプレイのバックライトを消灯する機能です。パワーマネジメントに対応した別売のCRTディスプレイを接続しているときには、CRTディスプレイの表示が消えます。



Windows 3.1では[メイン]—[コントロールパネル]—[電源管理]—[SLエンハンスオプション]で設定します。詳しくは「ソフトウェア補足ガイド」をご覧ください。

■ Windows 95での設定方法 Windows 95

Windows 95では、[パワーマネジメント]ウィンドウで省電力の設定ができます。

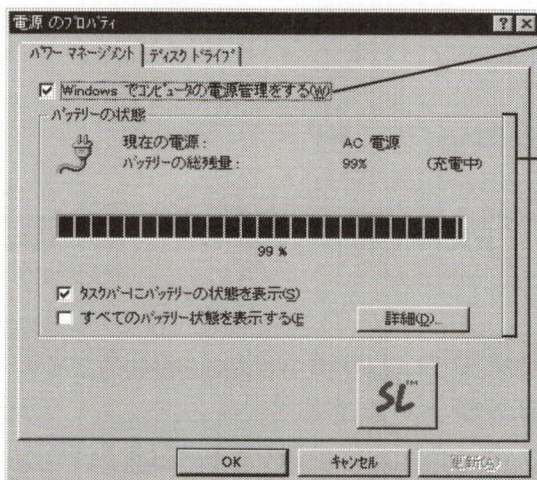
- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]—[コントロールパネル]をクリックし、[パワーマネジメント]アイコンをダブルクリックします。

[電源のプロパティ]ウィンドウが表示されます。

・[パワーマネジメント]タブでの設定

[パワーマネジメント]タブをクリックします。

次のウィンドウが表示されますので、必要な設定をします。



Windowsの[電源のプロパティ]で電源管理を行う場合はチェックします。

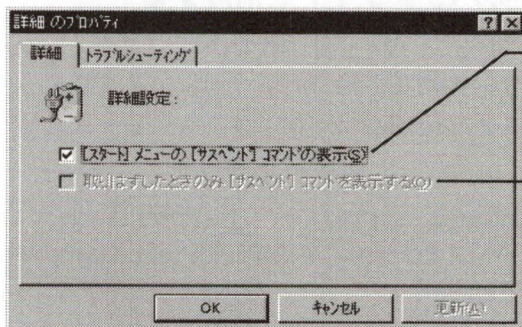
現在の電源の状態を表示しています。

他に設定する必要がない場合は、[OK]ボタンを、その他の設定をする場合は[更新]ボタンをクリックします。

・[パワーマネジメント]タブの[詳細プロパティ]での設定

[パワーマネジメント]タブの[詳細]ボタンをクリックします。

[詳細]タブのウィンドウが表示されますので、必要な項目を設定します。

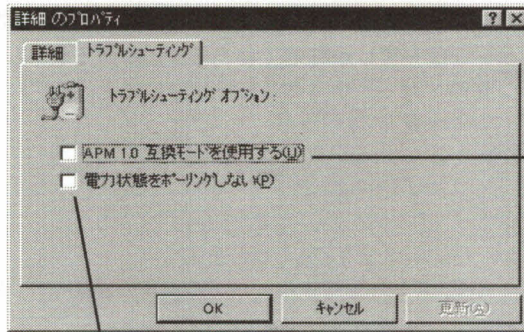


にしておくともスタートメニューにサスペンドコマンドが表示され、サスペンドコマンドをクリックすると、サスペンド状態にできます。

本機では設定できません。

他に設定する必要がない場合は、[OK]ボタンを、その他の設定をする場合は[更新]ボタンをクリックします。

[トラブルシューティング]タブをクリックします。
 [トラブルシューティング]タブのウィンドウが表示されますので、必要な項目を設定します。



本機では設定できません。

Windows 95が電源の状態をチェックなくなります。
 タスクバーに[電源]アイコンが表示されなくなり、[パワーマネジメント]アイコンをダブルクリックしても、電源の状態が表示されなくなります。

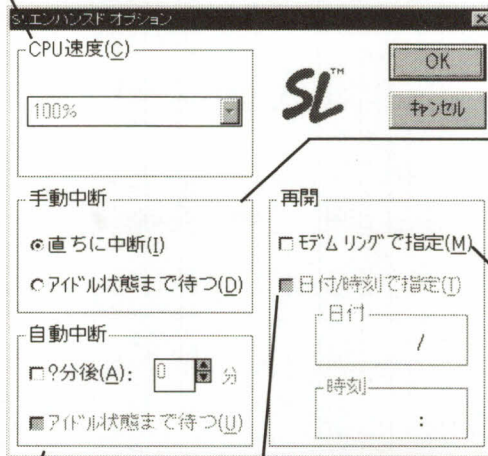
他に設定する必要がない場合は、[OK]ボタンを、その他の設定をする場合は[更新]ボタンをクリックします。

・[パワーマネジメント]タブの[SLエンハンスストップション]での設定

[パワーマネジメント]タブの **SL** ボタンをクリックします。

次の画面が表示されますので、必要な項目を設定をします。

CPUのクロック速度を制限することができます。
 100%、50%、25%、10%の中から選択できます。割合が減るに従って、クロック速度は遅くなりますが、電力はより節約されます。ただし、10%は未サポートのため、選択しても25%に設定されます。



サスペンドを実行するときすぐにサスペンド状態にするか、Windows 95がアイドル状態になったときにサスペンド状態にするかを設定します。

本機に内蔵のモデムボードが接続されている場合に設定できます。レジャーム機能を利用してサスペンド状態にしている状態の時に電話がかかってきたら、自動的にレジャームされます。

サスペンド/レジャーム機能を利用してサスペンド状態にしている状態の時に設定した時間になると、自動的にレジャームされます。

ポインティングデバイスまたはキーボードからの入力がなく、設定した時間が経過したら、すぐにサスペンド状態にするか、Windows 95がアイドル状態になったときにサスペンド状態にするかを設定します。

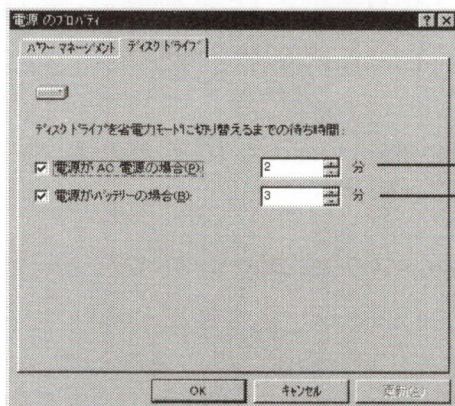
設定が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。
[パワーマネジメント]タブのウィンドウに戻ります。



オートサスペンドを設定しないで、「モデムリングで指定」を設定した場合、レジュームは一度しか有効ではありません。「モデムリングで指定」を設定するときと同時にオートサスペンドを設定しておくくと便利です。

・[ディスクドライブ]タブでの設定

[ディスクドライブ]タブをクリックします。
次の画面が表示されますので、必要な項目を設定します。



本機の電源をACコネクタから取っているとき、ハードディスクのモータを停止させるまでの時間を設定します。

本機の電源をバッテリーから取っているとき、ハードディスクのモータを停止させるまでの時間を設定します。

2 必要な項目の設定がすべて終了したら、[OK]ボタンをクリックします。



アイドル状態

アイドル状態とは英語で書くと「idle」のことで、Windows 95が何の処理もおこなってなく、命令がくるのを待っている状態をいいます。簡単に言えば、暇にしているときのことです。

■ディスプレイのバックライトを消灯する

省電力のため、ディスプレイのバックライトを消すようにするには、次のように操作します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。

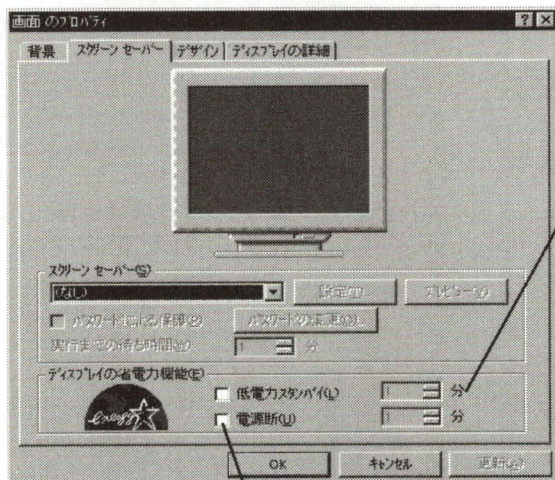
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- 2 [画面]アイコン  をダブルクリックします。

[画面のプロパティ]ウィンドウが表示されます。

- 3 [スクリーンセーバー]タブをクリックします。

次の画面が表示されます。



低電力スタンバイ

にして、時間を設定すると、設定時間経過後に液晶ディスプレイのバックライトが消え、画面が真暗になります。パワーマネジメントに対応したCRTディスプレイを接続しているときには、CRTディスプレイの表示が消えます。

電源断

にして、時間を設定すると、[低電力スタンバイ]と同じように設定時間経過後に液晶ディスプレイのバックライトが消えます。パワーマネジメントに対応したCRTディスプレイを接続しているときには、CRTディスプレイの電源がOFFになります。

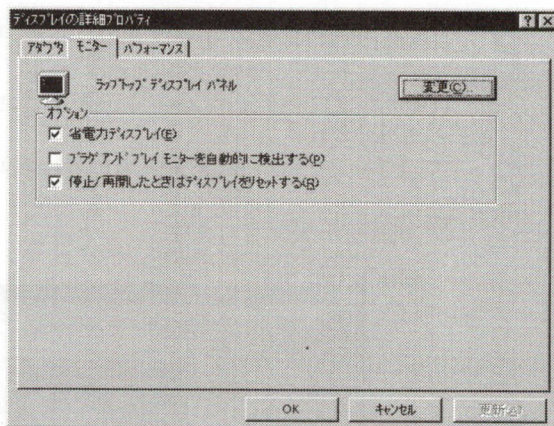
- 4 設定が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。

[画面のプロパティ]ウィンドウが閉じます。



ディスプレイの省電力機能が選択できないときは次の方法で確認してください。

- 1 [画面のプロパティ]ウィンドウの[ディスプレイの詳細]タブの[詳細プロパティ]ボタンをクリックします。
- 2 [ディスプレイの詳細プロパティ]ウィンドウが表示されるので、[モニター]タブをクリックします。



- 3 [省電力ディスプレイ]の項目が、になっているか、確認してください。ならば、クリックしてにしてください。
- 4 [OK]ボタンをクリックします。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。ここでは、セキュリティ機能の概要と、設定しているときの電源のON/OFFについて説明しています。



セキュリティ機能を使用した場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの取り扱いには、充分にご注意ください。

■ パワーオンパスワード

パワーオンパスワードを設定すると、本機の電源をONにしたときに、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力しないと、本機を使用することができません。パスワードを知らない人が無断で本機を使用するのを予防することができます。パワーオンパスワードは98NOTEメニューで設定します(☞P.173)。



パワーオンパスワードを忘れると、本機を使用できなくなります。設定したパスワードは忘れないよう控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要ですので、Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください(『サービス網一覧表』をご覧ください)。

- ・パスワード解除処置は保証期間内でも有償です。
- ・パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・パスワード解除処置を依頼される際には、下記のことをすべてご用意ください。
 - ①本機の購入を証明するもの(保証書等)
 - ②身分証明(お客様ご自身を確認できるもの)
 - ③印鑑
- ・パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応いたしかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ セットアップパスワード

セットアップパスワードを設定すると、98NOTEメニューを起動するときに、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力しないと、98NOTEメニューを起動することができません。パスワードを知らない人が、無断で98NOTEメニューの設定を変えるのを予防することができます。セットアップパスワードは98NOTEメニューで設定します(☞P.173)。



- ・ セットアップパスワードを設定していない場合、使用者以外が故意に、または誤ってパワー オンパスワードやセットアップパスワードを設定してしまうと、本機が使用できなくなったり、98NOTEメニューが起動できなくなります。このような恐れがある場合は、セットアップパスワードを設定してください。
- ・ セットアップパスワードを忘れると、98NOTEメニューを起動できなくなります。設定したパスワードは忘れないよう控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください(『サービス網一覧表』をご覧ください)。

- ・ パスワード解除処置は保証期間内でも有償です。
- ・ パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・ パスワード解除処置を依頼されるときには、下記のをすべてご用意ください。
 - ①本機の購入を証明するもの(保証書等)
 - ②身分証明(お客様ご自身を確認できるもの)
 - ③印鑑
- ・ パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応いたしかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ I/Oロック

シリアルインターフェイス、赤外線通信機能、プリンタ、フロッピーディスクドライブを使用できないように設定することができます。この機能により、プログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。I/Oロックは、98NOTEメニューで設定します(☞P.176)。



- ・ I/OロックはWindows 3.1、Windows 95、Windows NT、OS/2にのみ対応しています。
- ・ MS-DOS用のアプリケーションソフトを利用する場合には、I/Oロック機能は使用できません。

■ セキュリティ機能の使用例

セキュリティ機能は、本機の使用状況にあわせて次のようにご利用ください。

例1 利用者以外が本機の設定を管理したい場合

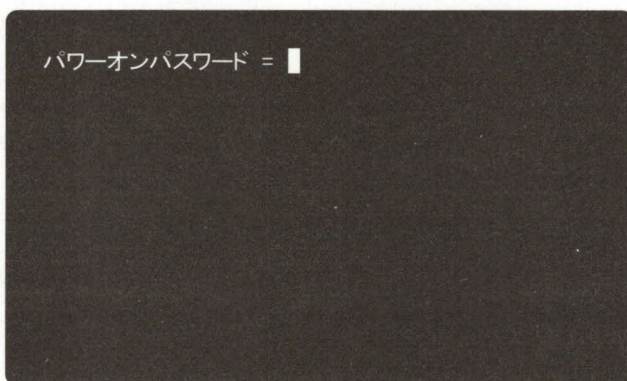
日常的に本機を使用する人とは別の人が本機の設定を管理したい場合、はじめに管理者がセットアップパスワードとパワーオンパスワードの両方を設定しておき、パワーオンパスワードのみを各利用者に通知します。この設定により、管理者以外が98NOTEメニューの設定を変更することができなくなり、管理者と利用者以外は本機の起動ができなくなります。

例2 利用者自身が本機の設定を管理したい場合

日常的に本機を使用する利用者が98NOTEメニューの設定も自由に行いたい場合、利用者がパワーオンパスワードとセットアップパスワードの両方を設定します。この設定により、利用者以外は本機を使用したり98NOTEメニューの設定を変更したりできなくなります。

パスワードを設定しているときの電源のON (Windows 95およびWindows 3.1).....

パワーオンパスワードを設定している場合は、本機の電源スイッチをスライドさせると動作表示用LEDが点灯し、次のような画面が表示されます。



- 1 キーボードから、設定されているパスワードを入力します。



パスワードの入力中に、キーボードの **[BS]** を押しても文字を修正することはできません。



パワーオンパスワードとセットアップパスワードの両方が設定されているときには、どちらのパスワードを入力しても本機を起動することができます。

2 キーボードの を押します。

正しいパスワードが入力されると、メモリチェックのあとWindowsが起動します。



- ・ 誤ったパスワードが入力されると、「パスワード不一致」と表示されます。正しいパスワードを入力してください。
- ・ パスワードの入力に3回失敗すると、「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音のあと、自動的に電源がOFFになりますので、最初からやり直してください。




- ・ セットアップパスワードを設定しているときの98NOTEメニューの起動方法については、P. 159をご覧ください。
- ・ パスワード設定中にハイバネーション状態にしたときも、上記を同じ手順で本機を起動してください。
正しいパスワードが入力されると、保存されていた内容が復元されます。

パスワードを設定しているときのレジューム...

パワーオンパスワードを設定しているときにサスペンド状態にした場合には、サスペンドスイッチを押すと動作表示用LEDが点灯し、「ピッピッピッ」と警告音が鳴ります。画面には何も表示されません。

1 キーボードから、設定されているパスワードを入力します。



パスワードの入力中に、キーボードの  を押しても文字を修正することはできません。



パワーオンパスワードとセットアップパスワードの両方が設定されているときには、どちらのパスワードを入力しても本機を起動することができます。

2 キーボードの を押します。

正しいパスワードが入力されると、レジュームされサスペンドの内容が表示されます。



- ・ 誤ったパスワードが入力されると、「ピーピッピッ」と警告音が鳴ります。正しいパスワードを入力してください。
- ・ パスワードの入力に3回失敗すると、「ピー」という警告音のあと、自動的にサスペンド状態に戻りますので、最初からやり直してください。

通信機能

PC-9821Nr15/S14Fに内蔵されているFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)では、ファクシミリ通信機能、データ通信機能、インターネット通信機能、スピーカホン機能、留守番電話機能を使うことができます。ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。回線のつなぎ方は「かんたんスタートガイド」をご覧ください。通信用のソフトウェアについては、それぞれのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。



本機でFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)を使うには、98NOTEメニューの「入出力デバイスの設定」で「モデム」を「使用する」にする必要があります。

■最高33600bpsまでの各種通信



- ・FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設定されています。加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。
- ・FAXモデムボードを使っでの通信中には、サスペンド/レジュームの機能の動作は保証されません。

電話回線を利用して最高33600bpsの全二重データ通信と最高14400bpsの半二重ファクシミリ通信ができます。

データ通信 : 300/1200/2400/4800/7200/9600/12000/14400/
16800/19200/21600/24000/26400/28800/33600bps
ファクシミリ : 300/2400/4800/7200/9600/12000/14400bps



- ・回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでファクシミリの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9600bpsにしてください。

■データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信等のデータ通信を行うことができます。

- ・ Microsoft® Windows® 95のハイパーターミナル
- ・ Microsoft® Windows® 3.1のターミナル
- ・ PC-VANナビゲータ
- ・ NIFTY Manager
- ・ Cheyenne BitWare

上記以外のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。



- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。

■ファクシミリ通信機能

パソコンデータをダイレクトにファックスに送信できます。また、パソコンでファックスを受信でき、効率的にファックスの送受信をサポートします。

本機に搭載されているFAXモデムボードのファクシミリ通信機能は、本機にインストールされている次のFAXソフトウェアでの動作を保証しています。

- ・ Microsoft® Windows® 95のMicrosoft Fax
- ・ Cheyenne BitWare

上記以外のFAXソフトウェアでは動作しない可能性があります。



- ・ スピーカホン通話から切り換えてファックス送信を行う場合(手動送信時)、スピーカからモニタ音が聞こえなくなりますが、ファックス送信は正常に行えます。
- ・ ファックスを送信する相手が音声応答機能を持ったファックスの場合、相手音声の内容によってファックスの送信が行えなくなることがあります。その場合は、スピーカホンで相手の音声が終わったのを確認してから送信を開始してください。
- ・ ファックスのしかたについては、『アプリケーション操作ガイド』をご覧ください。

■インターネット通信機能

Windows 95を使用する場合には、次のインターネットソフトウェアを使用することにより、インターネットによる通信を行うことができます。

- ・ Microsoft® Windows® 95のインターネットエクスプローラ

また、Windows 3.1では、次のインターネットソフトウェアが使用できます。

- ・別売のインターネットソフトウェアセット(スタンダード)(Windows[®]版)(Ver1.0)
- ・別売のインターネットソフトウェアセット(エントリー)(Windows[®]版)(Ver1.0)

上記以外のインターネットソフトウェアでは動作しない可能性があります。



インターネットのしかたについては、PC-9821Nr15/S14Fの場合は『インターネットスタートガイド』を、PC-9821Nr15/S10の場合は『アプリケーション操作ガイド』をご覧ください。

■留守番電話機能・スピーカホン機能

本機にインストールされている次のソフトウェアを使用することにより、パソコンで電話する以外にも留守番電話機能やスピーカホン機能を使うことができます。

- ・ Cheyenne BitWare

上記以外のソフトウェアでは動作しない可能性があります。



- ・スピーカホン機能をお使いになるときは内蔵または別売のマイクロホン、スピーカやヘッドホンなどを使用してください。
- ・スピーカホン機能とは、パソコンに接続されているマイクロホンとスピーカで電話のように通信する機能で、ハンズフリー機能と呼ばれることもあります。
- ・回線の状態により、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・スピーカホン通話中に相手側からの肉声以外の音(保留音など)が入るとスピーカからの音が大きくなったり、小さくなったりすることがあります。その場合は、送話の音量レベルを下げてください。

■MNPクラス4/5

エラー訂正を行うMNPクラス4と、エラー訂正およびデータ圧縮を行うMNPクラス5を搭載しています。

MNPクラス5では、最大2倍程度の実効通信スピードが得られます。

■V.42(LAPM)、V42bis

エラー訂正を行うV.42(LAPM)とデータ圧縮を行うV.42bisを搭載しています。

V.42とV.42bisを併用することにより、最大4倍程度の実効通信スピードが得られます。

■ATコマンド

データ通信の制御コマンドは、世界標準であるHayesATコマンド体系およびSレジスタに準拠しています。

■プラグ&プレイモード対応

FAXモデムボードは、プラグ&プレイモードに対応しています。



- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れてしまいます。
- ・ FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です。(付録のATコマンド一覧の「ダイヤルパルススピードの設定」をご覧ください)
- ・ コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・ FAXモデムボードはファクシミリ通信網には対応していません。
- ・ FAXモデムボードに接続できる回線は2線式のみです。
- ・ 加入電話回線がトーン式かダイヤル式かわかりにならないときはNTTにご確認ください。
- ・ 回線の状態によっては接続しにくい場合があります。
- ・ 回線の状況によっては、希望の通信速度で通信できない場合や接続しにくい場合があります。



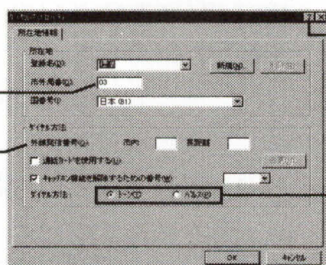
電話回線の利用

■ダイヤルの設定 Windows 95

本機に電話回線を接続したときにはWindowsのコントロールパネルでダイヤルの設定が必要です。

お使いの場所の市外局番を入力します。

外線を使用している場合は入力します。
例：0発信の場合
0,



各項目の設定について詳しく知りたい場合は、このアイコンをクリックした後で、目的の項目をクリックするとヘルプが表示されます。

お使いの電話回線を選択します。
プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線を使用するときは「パルス」に設定してください。
なお、お使いの電話回線がわからない場合はNTTにお問い合わせください。

なお、うまく回線が繋がらない場合は、このダイヤルの設定が間違っていることが考えられますので、ヘルプを参照しながら、正しく設定し直してください。

■送信レベルについて

通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、添付の「サービス網一覧表」をご覧ください。

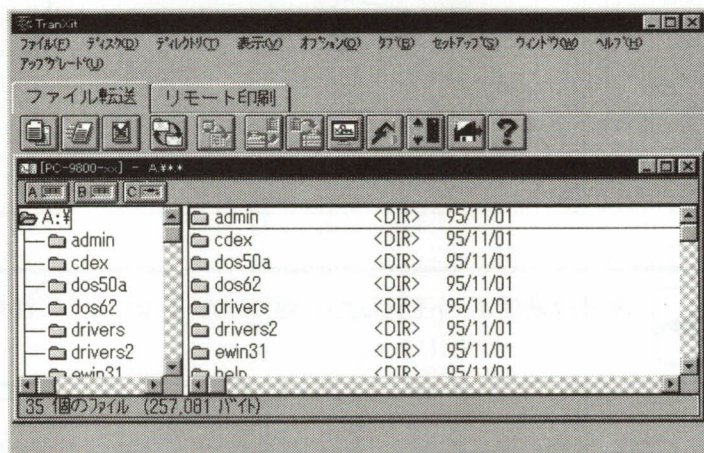
赤外線通信機能

ここでは、本機の赤外線通信ポートを使用して、他の赤外線通信機器との間で、ケーブルを接続せずにデータのやりとりをする方法について説明しています。

■ 赤外線通信機能を使う

本機の赤外線ポートでは、内蔵の「TranXit™3」を使って、IrDA SIR Data Link Std. に準拠した通信ができます。

「TranXit」に関しては、「TranXit™3クイックリファレンスガイド」をご覧ください。



TranXitの画面



異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトウェアが必要です。



赤外線通信を使用しているとき(赤外線通信用のアプリケーションソフトを実行中のとき)には、サスペンド/レジューム機能を使用できません。赤外線通信用のアプリケーションソフトを終了させてからサスペンド状態にしてください。



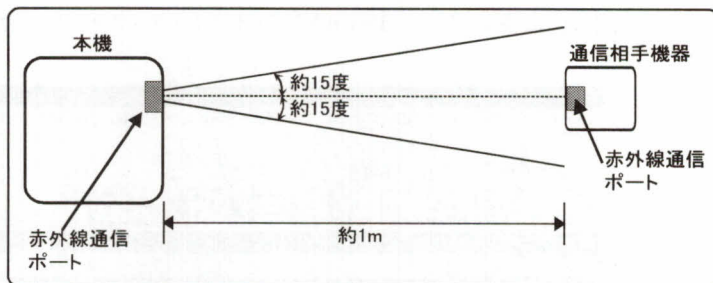
IrDAとSIR方式

IrDA (Infrared Data Association)は、米国で設立された赤外線データ通信に関する標準化団体です。SIR方式とは、IrDAの標準仕様の赤外線データ通信方式です。

■ 通信時の機器の配置について

本機で赤外線通信を行う場合には、通信を行う機器を次のように配置してください。

- 互いの機器どうしを接触させないようにしてください。
- 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにしてください。
- 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にしてください。
- 本機と通信相手機器との間に物を置かないでください。



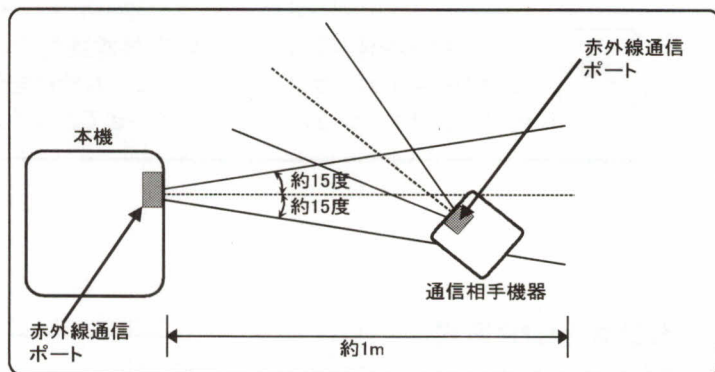
赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしないように注意してください。



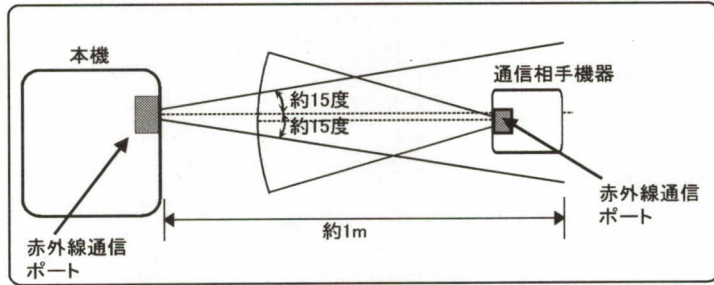
本機の赤外線通信ポートの指向性としては約15度程度の余裕がありますが、この角度が広がるにつれ、通信可能距離は短くなります。

通信相手の機器が本機の通信可能範囲内にあっても、次のような場合には通信できません。

● 通信相手機器の赤外光が本機に届かない



●通信相手機器の通信可能距離が本機より短い



このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向きあわせ、できる限り近くに置いてください。

なお、このとき装置どうしは接触させないようにしてください。

この他の注意事項については、通信相手機器のマニュアルをご覧ください。



次のようなときには、通信可能距離が短くなる場合があります。

- ・ 直射日光や蛍光灯の直下
- ・ 異なる機器との接続時(相手の機器の性能に依存します)
- ・ 機器どうしが正しく向き合っていないとき
- ・ 他の赤外線通信機器の近く
- ・ ノイズを発生する機器の近く
- ・ 通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合

本機の機能を拡張する

別売の周辺機器の接続方法や取り扱い方、注意事項を説明しています。

- 接続できる周辺機器について
- メモリを増やす
- PCカードを使う
- ドライブベイを活用する
- いろいろな入力装置を使う
- MIDI対応機器とジョイスティックを使う
- サウンド機器を使う
- プリンタを使う
- CRTディスプレイを使う
- テレビを接続する
- コミュニケーションスロットを活用する
- シリアルコネクタに通信機器を接続する
- 割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間

接続できる周辺機器について

プリンタ、ディスプレイ、モデムなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。ここでは本機に接続できる周辺機器について、一覧で説明しています。

いろいろな入力装置を使う(☞P.122)

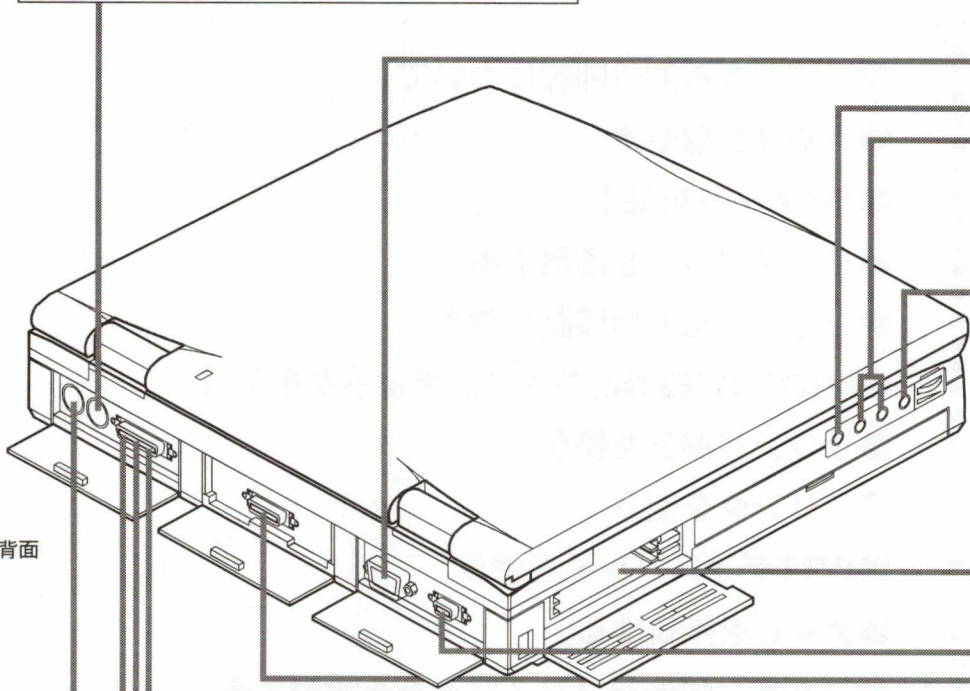
マウス
(PC-H98-U01)



サムマウス
(PC-9801NL-02)



本機背面

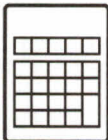


MIDI/JOYSTICK変換ケーブルB(PC-9821N-K08)

MIDI/JOYSTICK変換ケーブルA(PC-9821N-K07)

別売のキーボードを使う(☞P.123)

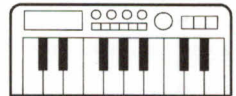
テンキーボード
(PC-9801N-23)



98標準キーボード(PC-9801-106)
98標準キーボード95(PC-9801-119)
楽々キーボード(PC-9801-98)
文豪DPキーボード(PC-9801-115)
106キーボード(PC-9801-116)など

MIDI対応機器や ジェイスティックを使う (☞P.125)

MIDI対応機器



CRTディスプレイを使う(☎P.141)

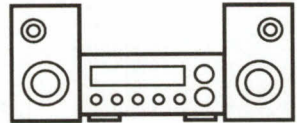
CRTディスプレイ



CRT添付のケーブル
または
ディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)

サウンド機能を使う(☎P.127)

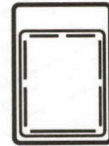
マイク
オーディオ



ヘッドフォン

PCカードを使う(☎P.105)

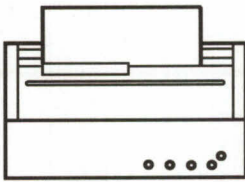
B4680インタフェースカード(PC-9801N-J12)
SCSIカード(PC-9801N-J03R)
FAXモデムカードセット(PC-9801N-J15)
デジタルセルラカード(PC-9801N-J13、PC-9801N-J06R)
フラッシュメモ리카ード(PC-FH02L/04L/10L/20L/40L)
100BASE-TXインタフェースカード(PC-9821-CS01)
ビデオキャプチャカード(PC-9821-CS02)



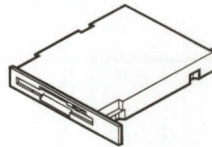
プリンタケーブル
(PC-CA202/204)

専用FDD外付ケーブル
(PC-9821NB-K01)※

プリンタを使う(☎P.136)

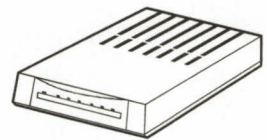


プリンタ



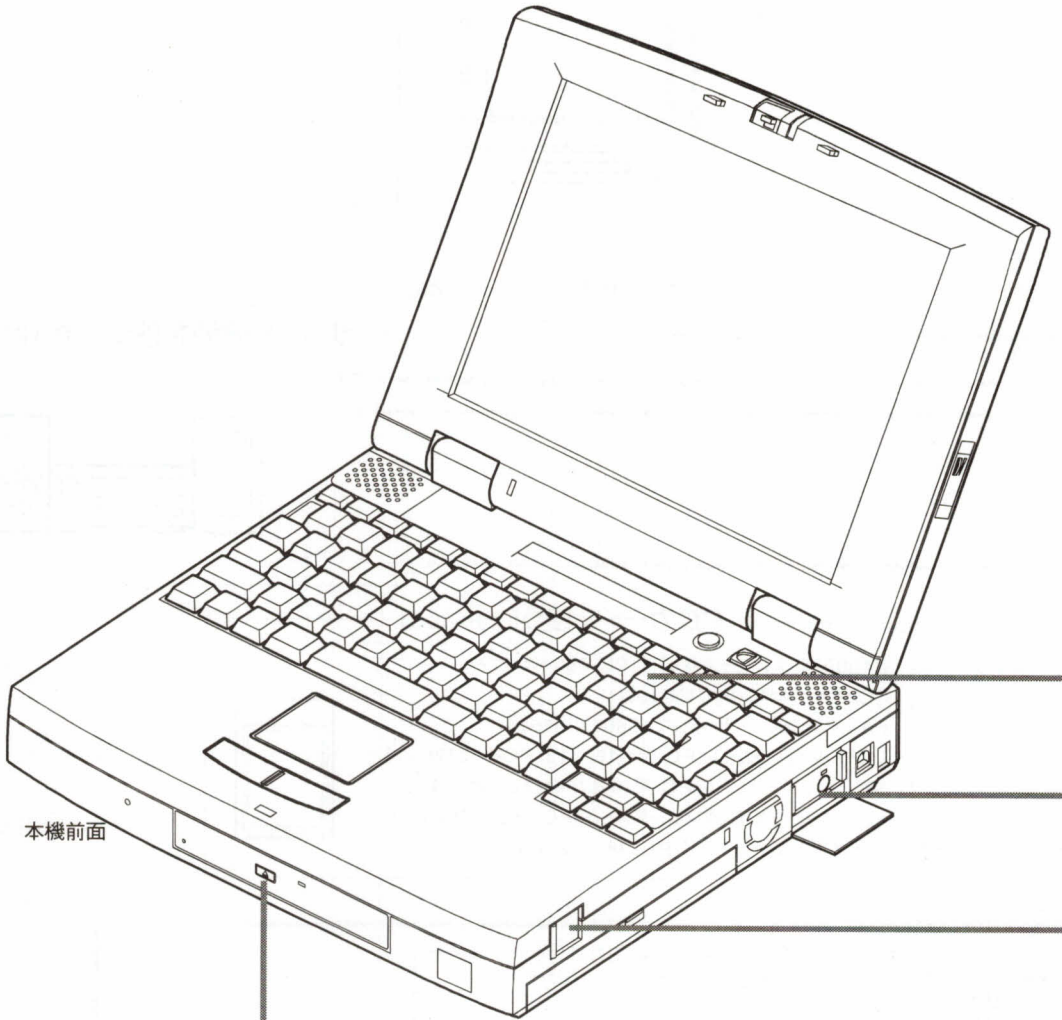
フロッピーディスクドライブ※

シリアルコネクタに通信機器
を接続する(☎P.153)



シリアルインターフェイスを
備えた機器

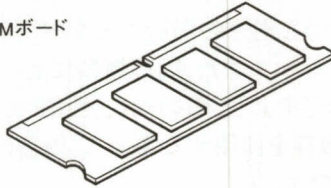
※ 本機に添付されています。



本機前面

メモリを増やす(☞P.98)

増設RAMボード

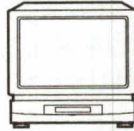


- PC-9821NR-B01 (8Mバイト)
- PC-9821NR-B02 (16Mバイト)
- PC-9821NR-B03 (32Mバイト)
- PC-9821NR-B04 (64Mバイト)

※増設RAMボードの形状はボードにより異なります。

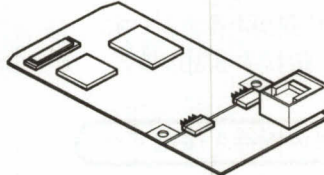
テレビを接続する(☞P.147)

市販のテレビ

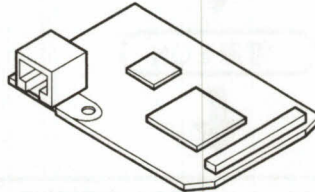


コミュニケーションスロット
を活用する(☞P.148)

FAXモデムボード(PC-9821NR-B05)※



100BASE-TXインタフェースボード(PC-9821NR-B06)



※PC-9821Nr15/S14Fには標準内蔵

ドライブベイを活用する(☞P.119)

- バッテリーバック(ニッケル水素) (PC-9821NR-U02)
- 増設用8倍速CD-ROMドライブ (PC-9821NR-C01)
- ハードディスク(PC-HD540NH、PC-HD1000NH)

別売の周辺機器について.....

本機に、前ページのような別売の周辺機器を取り付ける場合、周辺機器が本機に対応していることをご確認ください。また、周辺機器によっては、使用上の制限事項がある場合があります。説明書などをよくご覧のうえ、使用してください。

当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元または発売元などに上記の事項を確認してください。

周辺機器の取り付け/取り外しの注意.....

本機がサスペンド状態のときやハイバネーション状態のときには機器の取り付け/取り外しをしないでください。

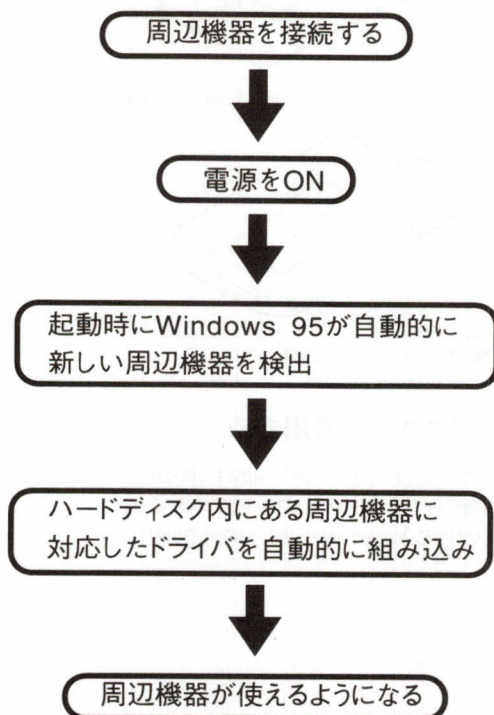
本機が正常に動かなくなることがあります。

サスペンド状態やハイバネーション状態のときに機器の取り付け/取り外しをしたいときには一度保持されている内容を復元させてデータを保存してから本機の電源をOFFにし、機器の取り付け/取り外しをしてください。

周辺機器用のドライバ.....

「ドライバ」は言葉のとおり、周辺機器を「動かす」ために必要なものです。周辺機器を増設した際には、ドライバを設定します。周辺機器をどのように動かすのか、周辺機器の決まりをパソコンに教える必要があるからです。

Windows 95では、接続する周辺機器によっては、自動的にドライバが組み込まれます。



この仕組みに対応した周辺機器であり、かつハードディスク内に対応したドライバがある場合は、何もする必要がありませんが、そうでない場合は、自分でドライバを組み込まなければなりません。このマニュアルのそれぞれの機器のページや、周辺機器に添付のマニュアルをご覧の上、ドライバの組み込みを行ってください。

■本機に添付されている周辺機器用ドライバ

本機には、周辺機器を利用するために必要なドライバが添付されています。ドライバはWindows 95がインストールされているハードディスク(Aドライブ)の[DRIVER]フォルダまたは[DRIVER2]フォルダに、種類に応じて分類し格納してあります。



- ・ドライバの機能やセットアップ方法や問い合わせ先については、各ドライバのREADMEファイルをご覧ください。
- ・ドライバを正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使えないばかりか、本機の動作も不安定になることがあります。その場合は周辺機器のマニュアルにしたがって、正しくドライバを組み直してください。

メモリを増やす

本機では、16MバイトのRAMボードがあらかじめメモリスロットに取り付けられています。別売の増設RAMボードを増設用スロットに取り付けることで、ユーザーズメモリの容量を増やし、大量のデータをより高速に、効率よく扱うことができます。ここでは、ユーザーズメモリの容量の増やし方と容量が増えたかどうかの確認方法を説明しています。



本機右側面よりのコネクタに、RAMボードを1枚も取り付けていない状態で本機を使用することはできません。

増設RAMボードとメモリ容量.....

増設RAMボード	メモリ容量
PC-9821NR-B01	8Mバイト
PC-9821NR-B02	16Mバイト
PC-9821NR-B03	32Mバイト
PC-9821NR-B04	64Mバイト



- ・ 増設RAMボードは指定のものをお使いください。
- ・ メモリ容量を最大容量(128Mバイト)に増設したいときには、あらかじめスロットに取り付けられているRAMボードを取り外してから、64Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けてください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意.....

⚠注意



感電注意

- 増設RAMボードの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、増設RAMボードの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 雷が鳴りだしたら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。



高温注意

- 本機の使用直後は、ハードディスクやハードディスクの周辺に触れないでください。

ハードディスクが熱くなっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。増設RAMボードの取り付け/取り外しは電源をOFFにしたあと30分以上たってから行うことをおすすめします。

- ・増設RAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと、増設RAMボードが破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手をふれて、静電気を取り除くようにしてください。
- ・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面に触れないように注意してください。
- ・増設RAMボードの向きに注意してください。RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機コネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。

増設RAMボードを取り付ける/取り外す.....



増設RAMボードの取り付け/取り外しには、+ (プラス) ドライバが必要です。

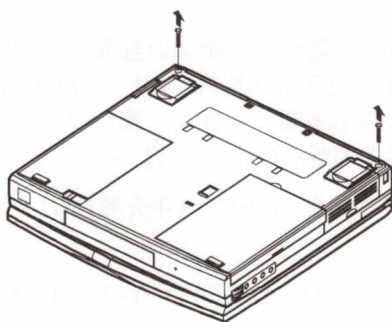
■増設RAMボードを取り付ける

- 1 本機の電源がOFFになっていることを確認します。

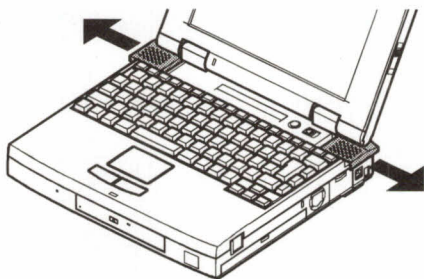


ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後にWindowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

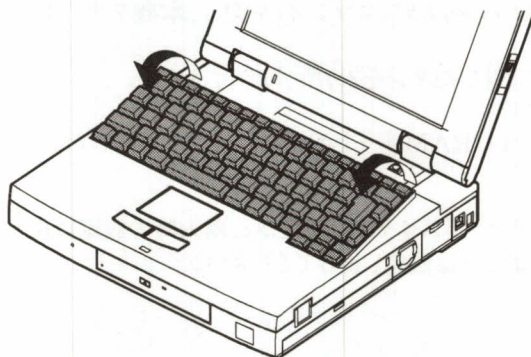
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機にケーブル類が接続されている場合、すべて取り外します。
- 5 本機のフタ(液晶ディスプレイ)を閉じて本機を裏返します。
- 6 図の2カ所のネジをプラスドライバで取り外します。



- 7 本機を裏返し、フタ(液晶ディスプレイ)を開けます。
- 8 左右のスピーカのカバーを矢印の方向にスライドさせて外します。

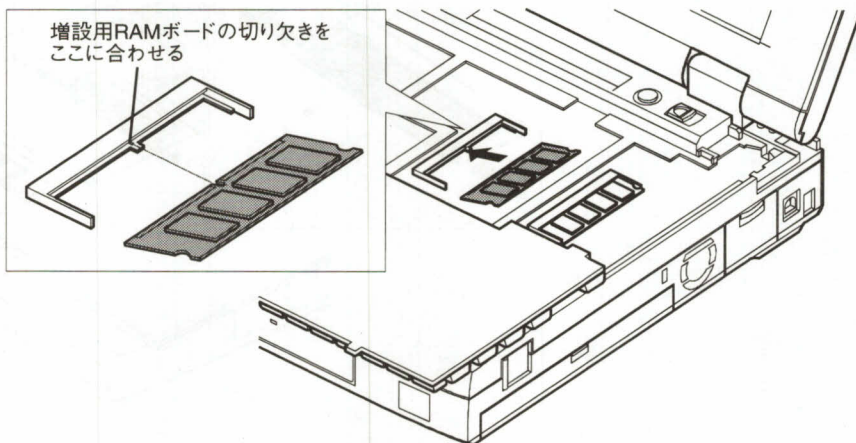


- 9 手前を軸にしてキーボードをゆっくりと起こします。

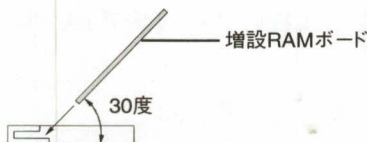


キーボードは本機とケーブルで接続されています。ケーブルを破損しないよう注意してください。

- 10 増設RAMボードを取り付けます。増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部にあわせて、端子部があたるまで挿入します。



増設RAMボードを挿入するときの角度は30度くらいにしてください。それよりも小さいと本機のコネクタが破損する恐れがあります。



- 11 カチッと音がするまでボードを本機に倒し込みます。

- 12 キーボードをゆっくりと倒して閉じます。

13 手順 8 で外した左右のスピーカのカバーをスライドさせて取り付けます。

14 本機のカバー(液晶ディスプレイ)を閉じ、本機を裏返します。

15 手順 6 で外したネジを2カ所、取り付けます。

これで、増設RAMボードの取り付けができました。

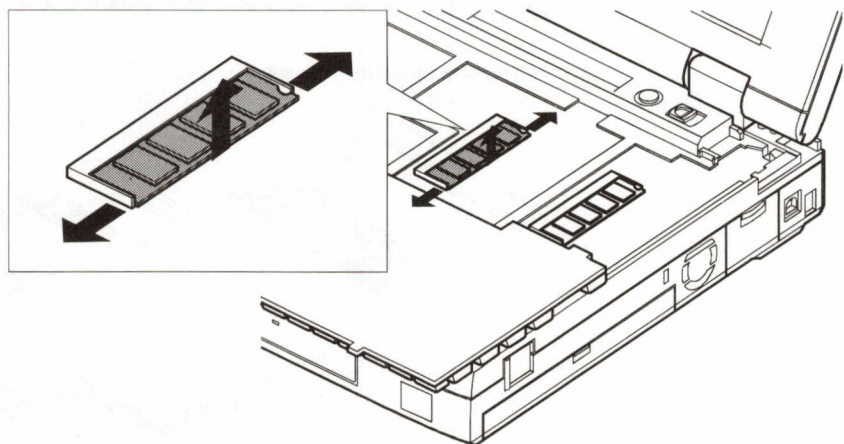


ディップスイッチの設定がご購入時の設定に戻っていることがあります。必要な場合は設定し直してください。

■増設RAMボードを取り外す

1 「増設RAMボードを取り付ける」の1～9の手順でキーボードを起こします。

2 コネクタの両端を前後に押し広げながら、増設RAMボードを引き起こして取り外してください。

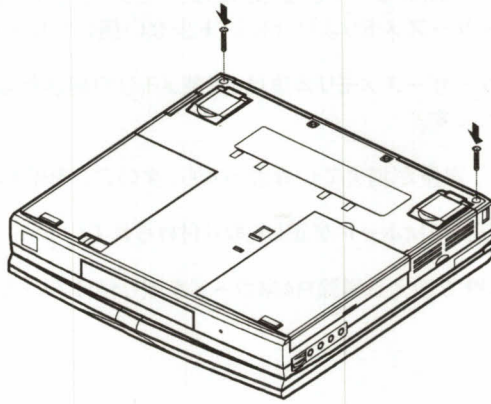


3 キーボードをゆっくと倒して閉じます。

4 外した左右のスピーカのカバーをスライドさせて取り付けます。

5 本機のカバー(液晶ディスプレイ)を閉じ、本機を裏返します。

6 外したネジを2カ所、取り付けます。



これで増設RAMボードが取り外せました。



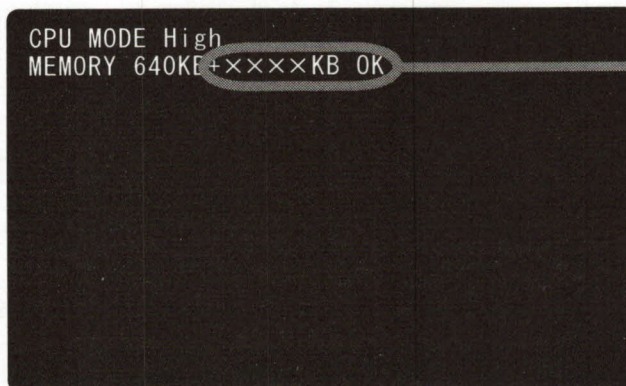
ディップスイッチの設定ご購入時の設定に戻っていることがあります。必要な場合は、設定し直してください。

増やしたメモリを確認する.....

増やしたメモリが認識されたかどうかを確認します。

1 電源をONにします。

次のようなメモリチェックの画面が表示されます。



この部分を確認します。

メモリ容量を確認します。



- ・98NOTEメニューの「動作環境の設定」で「16Mバイトシステム空間」が「使用する」になっているときには、メモリチェックで表示される容量は実際のユーザーズメモリより1Mバイト少ない値になります。
- ・ユーザーズメモリ容量は、搭載メモリの総容量より0.4Mバイト少なく表示されます。




- メモリ容量が増えていなかったら、次のことを確認してください。
- ・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
 - ・本機で使える増設RAMボードを取り付けているか



Windows 95でメモリ容量を確認する

増やしたメモリはWindows 95でも確認できます。

- 1** (スタート)ボタンをクリックし、(設定)をポイントし、(コントロールパネル)をクリックします。
(コントロールパネル)ウィンドウが表示されます。
- 2** (システム)アイコン  をダブルクリックします。
(システムのプロパティ)ウィンドウが表示されます。
(情報)タブまたは(パフォーマンス)タブで確認することができます。

PCカードを使う

本機には、PCカード(PC Card Standard準拠)が使えるPCカードスロットがあります。また、本機のPCカードスロットではCardBus/ZVポートに対応したPCカードを使うことができます。

ここでは、PCカードの種類や、PCカードスロットへのカードの入れ方/出し方、PCカードを使うために必要な設定方法などについて説明しています。

PCカードについて.....

■使用できるPCカードの枚数

PC Card Standard準拠のPCカードには、TYPE I、TYPE II、TYPE IIIの3つのタイプがあり、次のような大きさに統一されています。

- ・縦…85.6mm
- ・横…54.0mm
- ・厚さ… TYPE I …3.3mm
 TYPE II …5.0mm
 TYPE III …10.5mm

本機では、TYPE IかTYPE IIのPCカードを2枚、またはTYPE IIIのPCカードを1枚まで使うことができます。

また、CardBus/ZVポート対応のPCカードは下のスロット(スロット0)で1枚使用することができます。

■PCカードの種類

本機で使えるPCカードとしては次のようなものが用意されています。

●100BASE-TXインタフェースカード(PC-9821-CS01)

CardBus対応のPCカードです。

10BASE-T、100BASE-TXのインターフェイスに対応しています。

●ビデオキャプチャカード(PC-9821-CS02)

ZVポート対応のPCカードです。

本機とビデオデッキやビデオカメラを接続して画像を見ることができます。

●TVチューナーアダプタ(PC-9821-CS02-01)

ビデオキャプチャカード(PC-9821-CS02)に接続してテレビの映像を見るときに使います。



CardBus/ZVポート対応のPCカードは本機にインストールされているWindows 95でのみ使用できます。別売のWindows 95では使用できません。

●フラッシュメモリカード(PC-FH02L/04L/10L/20L/40L)

フラッシュメモリを使用したATAカードで、TYPE IIのPCカードです。ATAカードのインターフェイスを持っており、ハードディスクと同じように使うことができます。

●B4680インターフェイスカードT(PC-9801N-J12)

LANと接続するためのカードで、TYPE IIのPCカードです。



本機ではB4680インターフェイスカードT(PC-9801N-J02)は使用できません。

●SCSIカード(PC-9801N-J03R)

SCSIインターフェイスを持ったPCカードで、TYPE IIのPCカードです。
SCSIカードを使うと、SCSIインターフェイスに対応したハードディスクやCD-ROMドライブなどを接続することができます。



SCSIカード(PC-9801N-J03R, PC-9801N-J03)でピンタイプの周辺機器を接続する場合には、別売のSCSI機器接続用ケーブル(PC-9801N-J03-01)が必要です。

●FAXモデムカードセット(PC-9801N-J15)

FAXの送受信機能とモデム通信機能を持ったTYPE IIのPCカードです。
ファクシミリ送受信ソフトウェアなどが添付されています。



本機ではモデムカード(PC-9801N-J01)は使用できません。

●デジタルセルラカード(PC-9801N-J13, PC-9801N-J06R)

本機とデジタル携帯電話機を接続するためのカードで、TYPE IIのPCカードです。
電話回線を確保しづらい場所での無線データ通信を実現できます。



本機では、赤外線通信インタフェースカード(PC-9801N-J07, PC-9801N-J07R)を使用することはできません。

本機ではこれ以外にもさまざまなPCカードが使えます。PCカードが本機で使用できるかどうかは、PCカードのマニュアルをご覧ください。



SCSI-周辺機器をつなぐ規格

パソコンと周辺機器を接続して使うためには、標準のインターフェイス(規格)が必要です。標準のインターフェイスの中に、SCSI(スカジー)と呼ばれるものがあります。このSCSIは8ビットの並列信号を扱い7台まで周辺機器を接続することができます。本機のPCカードスロットにSCSIカードを入れると、SCSIに対応した機器を増設することができます。

SCSIに対応した機器にはハードディスク、CD-ROMドライブなどがあります。

PCカードを取り扱うときの注意.....

PCカードは非常に精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温・低温・多湿の場所に放置しないでください。
- ・ 濡らさないでください。
- ・ 重いものを載せないでください。
- ・ ぶついたり、落したりなどの衝撃を与えないでください。
- ・ PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・ PCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないカードは使えません。対応していないカードを無理に押し込まないでください。故障の原因となります。

PCカードを使う前に確認する.....

■設定について

PCカードによっては、本機側と割り込みレベルなどの設定が重なる場合があります。PCカードのマニュアルをご覧になり、重ならないかを確認してください。重なる場合は、「割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間」(P.154)とPCカードのマニュアルをご覧の上、設定を変更してください。

Windows 3.1でPCカードを使うときには別冊の「PCカードサポートソフトウェアマニュアル」をご覧ください。

PCカードを入れる/出す.....

⚠注意



高温注意

●本機の使用直後や使用後は、PCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

本機の使用直後や使用後は、PCカードが熱くなっていますので、ご注意ください。

■PCカードを入れる



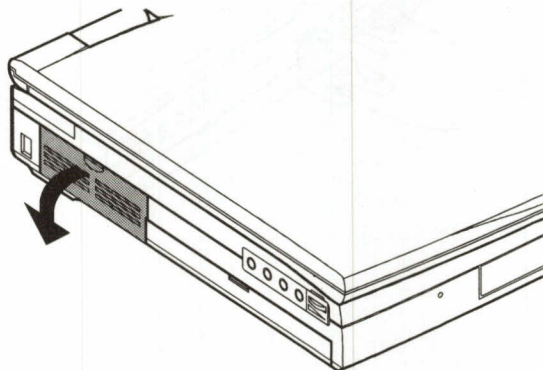
・サスペンド中に機器の取り付け/取り外しをするときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後Windowsを終了し、本機の電源をOFFにしてからカードを取り付けてください。

・PCカードの方向に注意してください。PCカードには表と裏があり、PCカードスロットに挿入する向きが決まっています。逆に挿入しようとしてもできないようになっていますが、無理に押し込もうとすると本機内のピンが折れて、PCカードスロットが壊れてしまいます。PCカードの向きは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

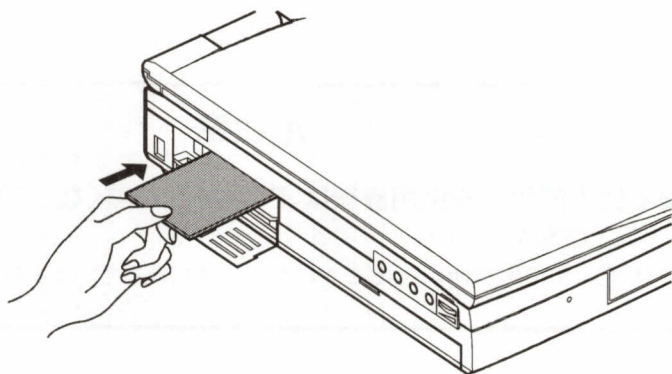


アプリケーションソフトを使用しているときは、PCカードを出し入れしないでください。PCカードの出し入れや取り扱いについては、PCカードに添付のマニュアルをあわせてご覧ください。

1 PCカードスロットのカバーを手前にひいて開けます。



- 2** PCカードの上面(表)を上にして、矢印の方向へ、静かに差し込みます。



- 3** PCカードが完全に差し込まれたかどうかを確認してください。完全に差し込まれると、PCカードスロットのイジェクトボタンが少しとび出します。

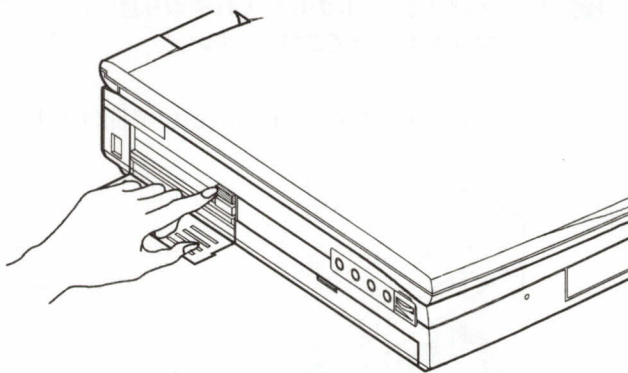


PCカードスロットのカバーは、ケーブルなどを接続しない場合は、破損防止のために閉じて使用してください。

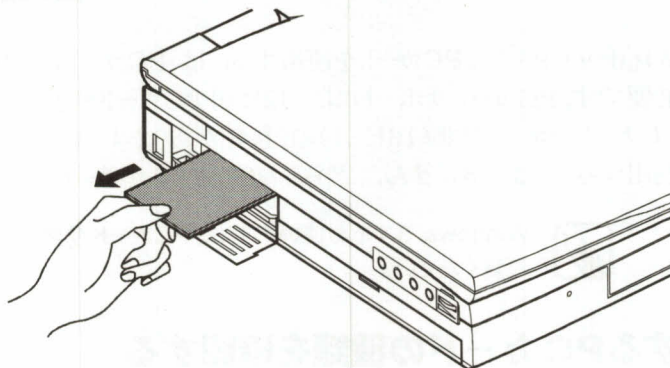
■PCカードを出す

- 1** PCカードスロットのカバーを開けます。
- 2** PCカードイジェクトボタンのうち、どちらか取り出したいPCカードが入った方に対応するイジェクトボタンを押します。

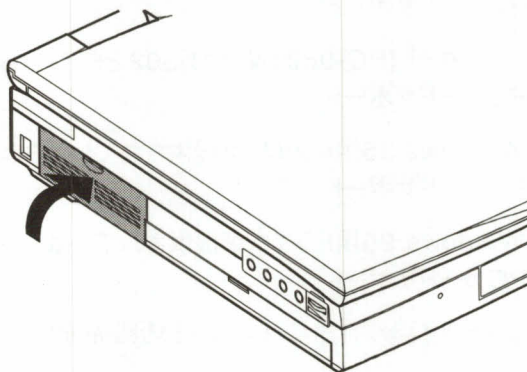
PCカードが少しとび出します。



- 3** PCカードを持ち、矢印の方向に静かに引き抜きます。



- 4** PCカードスロットのカバーを閉めます。



PCカードサポートの設定をする Windows 95

Windows 95上でPCカードを使用するには、PCカードに対応したPCカードサポートが必要です。PCカードサポートには、32ビットPCカードサポート(以降、32ビット)と16ビットPCカードサポート(以降16ビット)の2種類があります。32ビットと16ビットの両方を同時に利用することはできません。どちらのPCカードサポートを利用するか設定します。



Windows 3.1をお使いの方は「PCカードサポートソフトウェアマニュアル」をご覧ください。

■使用するPCカードの種類を確認する

まず最初に、使用するPCカードでどちらのPCカードサポートが必要かを確認します。

- ・CardBus対応のPCカードを使用する場合
32ビットPCカードサポート
- ・ZVポート対応のPCカードを使用する場合
16ビットPCカードサポート
- ・NEC製品のPCカード(PC-9801N-J01/J02を除く)のみを使用する場合
32ビットPCカードサポート
- ・販売元からWindows 95用ドライバが提供されているPCカードを使用する場合
32ビットPCカードサポート
- ・販売元からWindows 95用ドライバが提供されていないPCカードを使用する場合
16ビットPCカードサポート

Windows 95用ドライバの有無は、PCカードの販売元にお問い合わせください。



- ・16ビットでPCカードを使用する場合は、ハイパーターミナルなどの32ビットアプリケーションソフトからPCカードを使用できない場合があります。
- ・16ビットでPCカードを使用する場合は、サスペンド/レジューム機能やハイバネーション機能を使うことはできません。

■32ビットでPCカードを利用する

本機に初めてPCカードを入れると、次の新しいハードウェアのダイアログボックスが表示され、各PCカードごとに必要な設定が自動的に行われます。

※ 画面に表示されるメッセージはPCカードにより異なります。



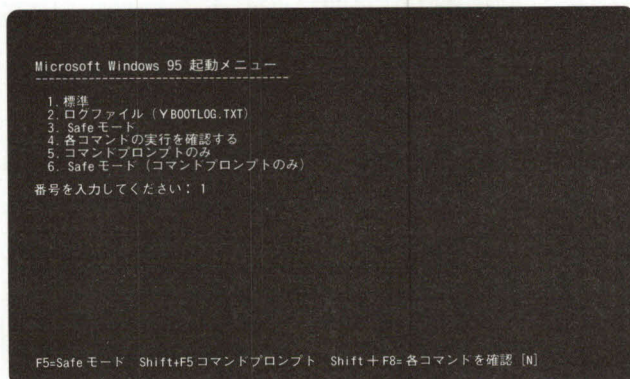
この作業には数十秒かかりますので、設定が終了するまでしばらくお待ちください。なお、同じPCカードを挿入した場合、2回目以降は上記の画面が表示されません。

■32ビットでフラッシュメモリカードユーティリティを利用する

本機でフラッシュメモリカードユーティリティを使用する場合は、次の手順でセットアップを行ってください。

- 1 本機の電源をONにします。
- 2 「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されている間に、キーボードの **[F8]** を押します。

Windows 95起動メニューが表示されます。



キーボードの **[F8]** を押すのが遅れた場合、Windows 95が起動します。その場合は、Windowsを終了させてから、手順1からやり直してください。

- 3 キーボードの **[↑]** **[↓]** を使って、「コマンドプロンプトのみ」に反転表示を合わせ、**[↵]** を押します。
- 4 メモ帳やEDIT.EXEなどのテキストエディタを使って、CONFIG.SYSファイルに次の行を追加します。

```
DEVICE=<Windows 95のドライブ名>:%WINDOWS%SYSTEM%CSMAPPERSYS
DEVICE=<Windows 95のドライブ名>:%WINDOWS%SYSTEM%CARDDRV.EXE
/SLOT=n /MODE=m
```

nの値には、本機のPCカードスロットの数を指定します。

また、CSMAPPER.SYSとCARDDRV.EXEのファイルが<Windows 95のドライブ名>:\¥WINDOWS¥SYSTEMフォルダにあることを確認してください。

mの値には、使用するPCカードの種類によって、次の値を指定します。

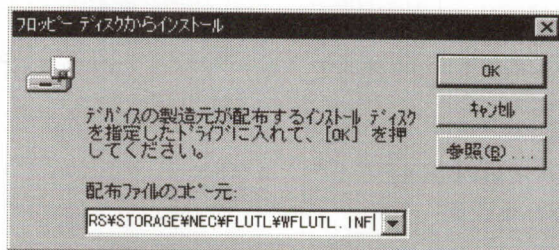
0	SRAMカード用のドライブを確保します。フラッシュメモリカードを使用することはできません。
1	フラッシュメモリカード用のドライブを確保します。SRAMカードを使用することはできません。
2	SRAMカード用とフラッシュメモリカード用のドライブを確保します。 /SLOT=2を指定した場合のドライブの割り当て方は、次の通りです。 最初の2ドライブ:SRAMカード 後の2ドライブ:フラッシュメモリカード用



ここで、エクスプローラなどを使って、CSMAPPER.SYSとCARDDRV.EXEが<Windows 95のドライブ名>:\¥WINDOWS¥SYSTEMフォルダに格納されているか確認してください。

- 5 Windowsを終了して、本機を再起動させます。
- 6 コントロールパネルの[アプリケーションの追加と削除]ダブルクリックします。
- 7 [Windowsファイル]タブで[ディスク使用]ボタンをクリックします。
- 8 [フロッピーディスクからインストール]で、WFLUTL.INFを指定してフラッシュメモリカードユーティリティをインストールします。

WFLUTL.INFは<Windows 95のドライブ名>:\¥DRIVERS¥STORAGE¥NEC¥FLUTLフォルダに格納されています。



■16ビットでPCカードを利用する

16ビットでPCカードをご利用になる場合は、次の手順が必要です。

- (1) PCカードサポートソフトウェアインストールディスクを作成する
- (2) 「16ビットPCカードサポートソフトウェア」をインストールする
- (3) 「16ビットPCカードサポートソフトウェア」を登録する

(1)PCカードサポートソフトウェアインストールディスクを作成する

次の手順で「PCカードサポートソフトウェアインストールディスク」(以降「インストールディスク」)を作成します。

あらかじめフォーマットしてもよい2HDフロッピーディスク1枚を準備しておいてください。このフロッピーディスクには、「インストールディスク」と書いたラベルを貼っておきます。

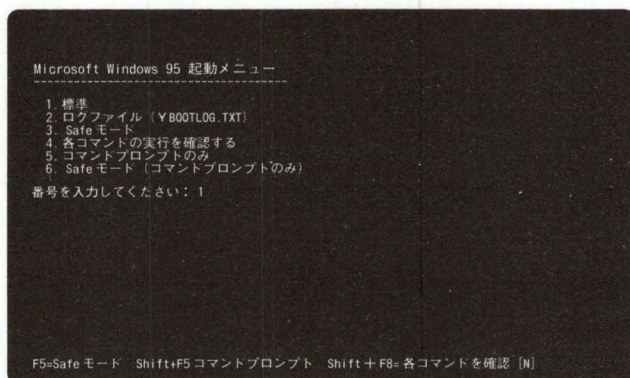


なお、インストールの作業を行う前に、「インストールディスク」の README.PCCファイルをよくお読みください。

1 本機の電源をONにします。

2 「Windows 95を起動しています...」というメッセージが表示されている間にキーボードの[F・8]を押します。

Windows 95起動メニューが表示されます。



- 3 キーボードの \uparrow \downarrow を使って、「コマンドプロンプトのみ」に合わせ、 \rightarrow を押します。
- 4 コマンドプロンプトから次のように入力します。

CD ¥PCCARD \rightarrow

CPCRDCFG <フロッピーディスクドライブ名>: \rightarrow

- 5 画面に表示されるメッセージにしたがって、フォーマットしてよい2HDフロッピーディスク(「インストールディスク」と書いたラベルを貼ったもの)をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

何かのキーを押します。

フロッピーディスクのフォーマットを開始します。フォーマットした後、「インストールディスク」の作成が行われます。

(2)「16ビット PCカードサポートソフトウェア」をインストールする

Windows 95上で、WINSTCRD.EXEは使用できません。以下の操作でインストールを行います。

- 1 本機の電源をONにします。
- 2 「インストールディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 [スタート]ボタンをクリックして、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
- 4 名前の欄に次のように入力します。

<フロッピーディスクドライブ名>: ¥WINSTCRD

WINSTCRDが起動し、「PCカードサポートソフトウェア」をインストールします。

(3) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録する

Windows 95上で、WCARDCFG.EXEは使用できません。以下の操作で登録を行います。



「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録すると、32ビットでPCカードを使用できなくなります。

- 1 電源をONにします。
- 2 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]-[PCカードユーティリティ]の順にポイントし、[WCARDCFG]をクリックします。
- 3 「起動ドライブ」を指定し、「登録」ボタンをクリックするとCONFIG.SYSの設定が変更されます。
- 4 [スタート]ボタンをクリックし、[ヘルプ]をクリックします。
- 5 [キーワード]タブをクリックします。
- 6 [キーワード]の画面で「PC」と入力します。
- 7 表示された項目から「使用できないようにする」を選択します。

32ビットで PCカードを使用できないようにすると、「16ビット PCカードサポートソフトウェア」が使用できます。

以降は、「Windowsのヘルプ」の指示にしたがって、操作を行うと「16ビット PCカードサポートソフトウェア」が利用できます。

PCカードサポートの 設定を変更する **Windows 95**

■16ビットから32ビットに変更する



本機では、購入時に32ビットPCカードサポートに設定されているため、通常は以下の手順は必要ありません。16ビットPCカードサポートから32ビットPCカードサポートに変更する場合に以下の手順を行ってください。

PCカードサポートを16ビットから32ビットに変更する場合は、次の操作を行ってWindowsのヘルプを参照してください。

- 1 電源をONにします。
- 2 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]-[PCカードユーティリティ]の順にポイントし、[WCARDCFG]をクリックします。
- 3 「起動ドライブ」を指定し、「削除」ボタンをクリックするとCONFIG.SYSの設定が変更されます。
- 4 [スタート]ボタンをクリックして、[ヘルプ]をクリックします。
- 5 [目次]の画面で[トラブルシューティング]をクリックします。
- 6 表示された項目から[PCカード(PCMCIA)に関する問題]をクリックします。
- 7 [PCカードを挿入しても自動的にインストールされません]をクリックします。

以降は、[ヘルプ]の指示にしたがって操作を行ってください。32ビットでPCカードを利用することができます。

32ビットで利用するように設定すると16ビットは利用できなくなります。

■32ビットから16ビットに変更する

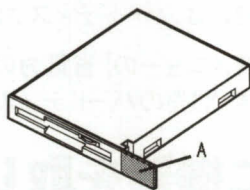
PCカードサポートを32ビットから16ビットに変更するには前ページの手順で再度登録を行います。16ビットで利用するように登録すると、32ビットは利用できなくなります。

ドライブベイを活用する

ドライブベイに取り付けられている機器を取り外すと、ドライブベイに別売の機器を取り付けることができます。ここでは、ドライブベイに取り付けられる機器の種類や、ドライブベイに取り付ける方法について説明しています。



本機に添付のフロッピーディスクドライブをドライブベイに取り付けることができます。この場合、下の図Aの部分は折りたたまれていない状態にしてください。



取り付けられる機器の種類.....

■バッテリーパック(ニッケル水素)(PC-9821NR-U02)

本機に添付されているバッテリーパックに加えて、さらにドライブベイにバッテリーパックを取り付けると、バッテリーでの使用時間を長くすることができます。

バッテリーパックの充電時間や使用時間、サスペンド内容の保持時間についてはP.249をご覧ください。



- ・ 別売のバッテリーパックをドライブベイに取り付けるときは、バッテリーパックに添付されているバッテリーケースを取り付けてください。詳しくは、バッテリーパックのマニュアルをご覧ください。
- ・ ドライブベイとバッテリスロットの両方にバッテリーパックが取り付けられている場合、バッテリスロットのバッテリーパックを先に充電してから、ドライブベイに取り付けたバッテリーパックの充電が始まります。
- ・ ドライブベイとバッテリスロットの両方にバッテリーパックが取り付けられている場合、先にドライブベイのバッテリーパックが消耗します。

■固定ディスクドライブ (PC-HD540NH、PC-HD1000NH)

本機に標準で搭載されているハードディスクに加えて、ドライブベイにもハードディスクを取り付けることができます。

別売のハードディスクを使用するときは、次の点にご注意ください。

- ・本機に内蔵のハードディスクが取り付けられていないときには、別売のハードディスクは使用できません。
- ・98NOTEメニューの「ディップスイッチの設定」でSW2-6を{切り離す}に設定しているときには、ハードディスクは使用できません。
- ・98NOTEメニューの「省電力の設定」で{内蔵固定ディスク自動停止}を設定しているとき、別売のハードディスクも内蔵ハードディスクと同様に制御されます。

ドライブベイに機器を取り付ける.....

ドライブベイに機器を取り付けるときには、すでに取り付けられている機器を取り外します。

△注意



- ドライブベイの機器の取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、ドライブベイの機器の取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

- 1 本機の電源がOFFになっていることを確認します。



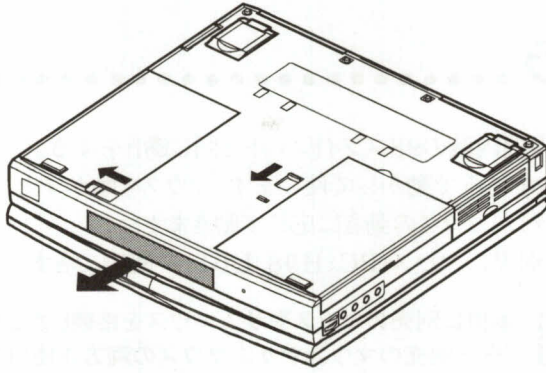
ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後にWindowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。

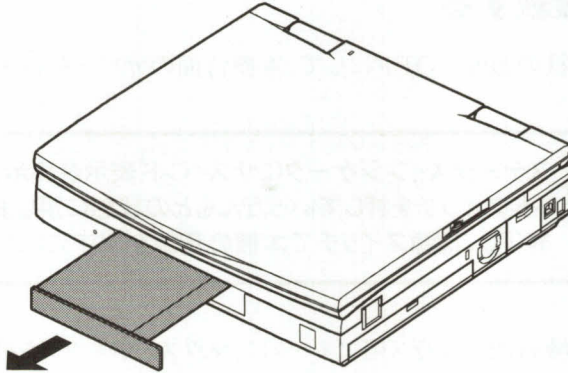
- 3 本機からACアダプタを取り外します。

- 4 本機にケーブル類が接続されている場合は、それらをすべて取り外します。

- 5 本機のフタ(カラー液晶ディスプレイ)を閉じて、本機を裏返します。
- 6 本機底面のドライブベイアンロックをスライドさせながら、ドライブベイエジェクトレバーをスライドさせると、ドライブベイの機器が少しとび出します。

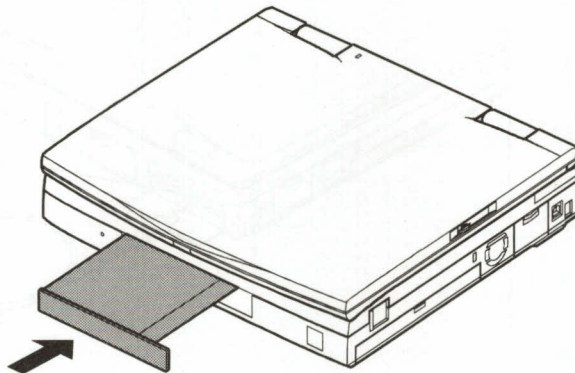


- 7 ドライブベイの機器を取り外します。



取り外した機器は、端子部分を柔らかい布などでくるみ、大切に保管してください。また、衝撃を与えないよう注意してください。

- 8 ドライブベイで使用したい機器を向きに注意しながら、奥までしっかり差し込みます。



いろいろな入力装置を使う

本機では、いろいろな入力装置を接続して使えます。ここでは、接続できる入力装置と接続方法について説明しています。

マウスを使う.....

マウスは、本機内蔵の98スライドパッドと同じ働きをするポインティングデバイスです。机の上の平らな場所で動かして使います。マウスを動かすと、ディスプレイ上のマーク(マウスポインタ)がマウスの動きに応じて動きます。

本機では、別売のマウス(PC-H98-U01)が使用できます。



本機に別売のマウスやサムマウスを接続したときには、内蔵の98スライドパッドと別売のマウスやサムマウスの両方を使用できます。

■マウスを接続する

- 1 本機の電源をOFFにして、本機背面のカバーを開けます。

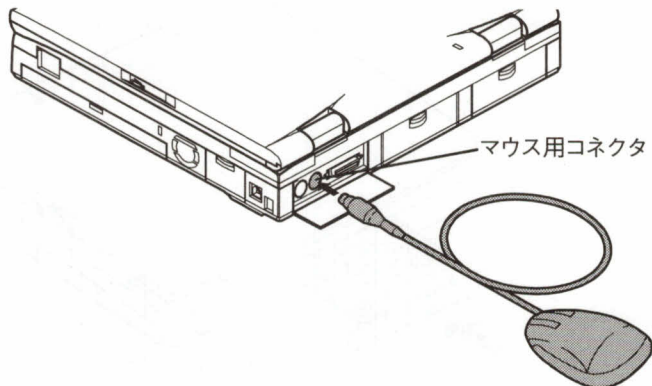


ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後Windowsを終了し、電源スイッチで本機の電源をOFFにします。

- 2 本機背面のマウス用コネクタに、マウスのコネクタを接続します。マウスのコネクタは、刻印のある方を上にして差し込みます。



マウスはほこりや消しゴムのカスなどが無い場所で使ってください。マウスの動作不良の原因になります。



サムマウスを使う.....

サムマウスも、98スライドパッドやマウスと同じ働きをするポインティングデバイスです。サムマウスは、手のひらで握り、ボールを親指で動かして使います。マウスと違って、動かすためのスペースを必要としません。

本機では、別売のサムマウス(PC-9801NL-02)を使用できます。本機との接続はマウスと同じで、本機背面のマウス用コネクタに接続します。

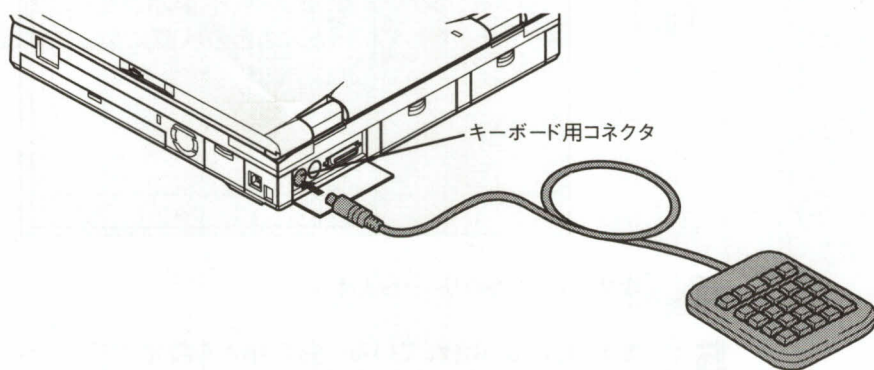
キーボード/テンキーボードを使う.....

本機では、別売のキーボードやテンキーボードなどを使用できます。

テンキーボードは、数字といくつかの記号とで構成されているキーボードです。表計算ソフトなど、数値を入力する場合に大変便利です。

■キーボード/テンキーボードを接続する

- 1 本機の電源をOFFにします。
- 2 本機背面のキーボード用コネクタに、キーボードまたはテンキーボードのコネクタを刻印のある方を上にして差し込みます。




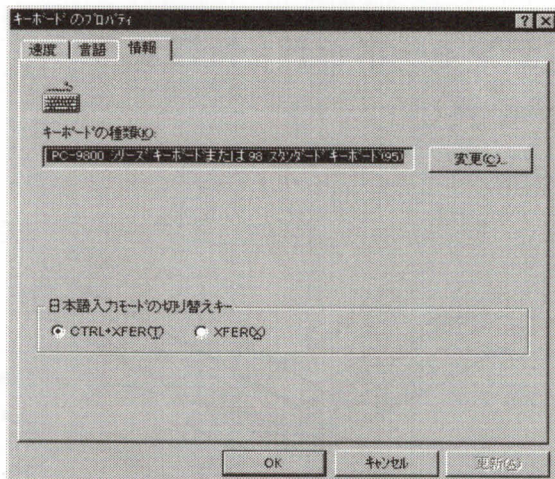
98標準キーボード(PC-9801-106)または98標準キーボード95(PC-9801-119)以外の外付けキーボードを接続した場合、レジュームの内容は保証されません。

- 3 電源をONにしてキーボードの設定をします。

■キーボードの設定をする Windows 95

別売のキーボードを本機に接続した場合、本機で使えるようにキーボードの設定をする必要があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックしてから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [キーボード]アイコンをダブルクリックします。
[キーボードのプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 3 [情報]タブをクリックします。
[情報]タブのウィンドウが表示されます。



- 4 [変更]ボタンをクリックします。
- 5 「モデル」に表示されている一覧の中から設定するキーボードをクリックします。
設定するキーボードが一覧にない場合は、[すべてのデバイスを表示]をクリックします。インストールディスクをお持ちの時は[ディスク使用]をクリックします。詳しくは、キーボードに添付されているマニュアルをご覧ください。
設定が終了すると、「再起動しますか」というメッセージが表示されます。
- 6 [はい]をクリックします。
本機が再起動されます。
これで、キーボードが使えるようになります。

MIDI対応機器と ジョイスティックを使う

本機には、シンセサイザーなどのMIDI対応機器やジョイスティックを接続することができます。ここでは、接続の方法と設定の変更方法について説明しています。詳しい接続方法については、MIDI/JOYSTICK変換ケーブルに添付のマニュアルをご覧ください。

MIDI対応機器およびジョイスティックの接続.....

MIDI対応ジョイスティックを接続するには、別売のMIDI/JOYSTICK変換ケーブルA(PC-9821N-K07)またはMIDI/JOYSTICK変換ケーブルB(PC-9821N-K08)が必要です。

- 1 本機の電源をOFFにします。



ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後にWindowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機背面のプリンタ用コネクタに、MIDI/JOYSTICK変換ケーブルを差し込みます。
- 5 MIDI/JOYSTICK変換ケーブルに、MIDI/JOYSTICK機器接続用のケーブルを接続します。



・本機にはMPU-401対応MIDI機器またはSound Blaster16対応ジョイスティックを接続することができます。各機器については、製造元または発売元にお問い合わせください。

・MIDI/JOYSTICK変換ケーブルには、MIDI/JOYSTICK変換ケーブルA(PC-9821N-K07)とMIDI/JOYSTICK変換ケーブルB(PC-9821N-K08)の2種類があります。

MIDI/JOYSTICK変換ケーブルAを使用してMIDI機器やジョイスティックを接続するときには、プリンタは接続できません。

MIDI/JOYSTICK変換ケーブルBを使用すると、本機にプリンタとMIDI対応機器の両方を接続することができます。

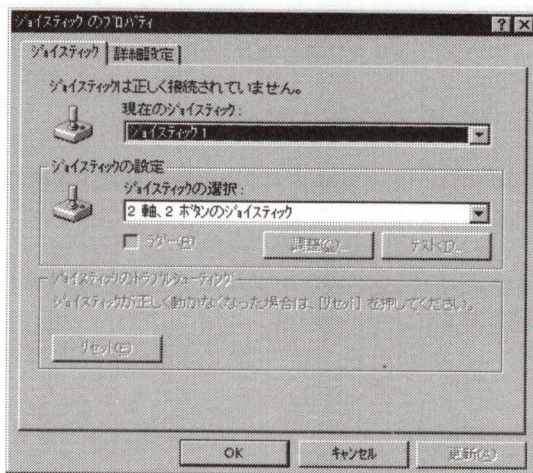
ジョイスティックの設定を変更する

- 1 [スタート]ボタンをクリックしてから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- 2 [ジョイスティック]アイコンをクリックします。

[ジョイスティックのプロパティ]ウィンドウが表示されます。



- 3 ジョイスティックに添付されていたマニュアルをご覧のうえ、各項目を設定してください。

- 4 設定が終わったら、[OK]ボタンをクリックしてください。

サウンド機器を使う

本機には各種サウンド機能が用意されており、外部オーディオ機器やマイクロホン、ヘッドホンなどのサウンド機器を接続することもできます。ここではサウンド機器を接続する方法とボリュームを調節する方法について説明しています。

本機のサウンド機能.....

■PCM録音/再生機能

PCM録音/再生機能は、内蔵のマイクロホンから入力した音声などのアナログ信号を、デジタル信号に変換していろいろな処理を加える機能です。人の音声などを、原音に近い音で再現できます。

インストールされているWindowsのサウンド機能を使えば、ソフトウェアに含まれる音声データを再生したり、入力した音声を編集したり、文書などに貼り付けたりできます。

■FM音源

FM音源は、音色・音程・音の強弱という、音の三要素をすべて表現でき、楽器の音色に近い音声や効果音を合成できます。

FM音源を使うと、ゲームなどの音楽の演奏や、エレクトリック楽器、アコースティック楽器など、いろいろな音声を楽しめます。

本機には、エンハンスドFM音源機能(標準FM音源[FM音源6音、リズム音源6音、SSG音源3音]、拡張FM音源[FM音源20音])が搭載されています。

■エンハンスド・ステレオ機能

擬似サラウンド効果によりサウンドの再生がよりよい音質で楽しめます。

■MIDI音源

MIDIは、Musical Instruments Digital Interfaceの頭文字を取ったもので、楽器同士を接続して演奏情報や音色情報をやりとりするための規格です。

このMIDI規格に対応した音源がMIDI音源です。

MIDIでは、音程や音色などの演奏に関する情報の他、設定を切り替えるための情報、テンポをコントロールするための情報などのさまざまな情報をやりとりできるので、MIDI音源により表現力豊かな演奏ができます。

■マイクロホン

本機には、マイクロホンが内蔵されています。また、市販のマイクロホンの本機のマイクロホン端子に接続して使用することもできます。マイクロホンから本機に音声を取り込んで、いろいろなアレンジをすることができます。

Windows 95では[サウンドレコーダ]を利用すると、簡単にマイクロホンを利用することができます。詳しくは、「マイクロホンのボリュームを調節する」(P.147)をご覧ください。

■内蔵スピーカ

本機にはステレオスピーカが内蔵されています。内蔵スピーカの音量調節は、本機左側面のスピーカ音量調節つまみで行ってください。背面側に回すと大きく、手前に回すと小さくなります。

Windowsでサウンド機能を利用しているときは、次の手順で音量調節できます。



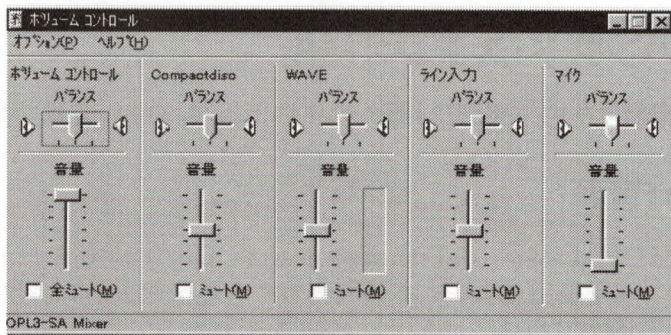
スピーカのボリュームを最小にしていると、各種の警告音が鳴りません。スピーカのボリュームはなるべく最小にしないでください。

■音量を調節する

●Windows 95で音量を調節する **Windows 95**

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]—[アクセサリ]—[マルチメディア]の順でポイントし、[ボリュームコントロール]をクリックします。

[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。



タスクバーの[音量]アイコンをダブルクリックして、[ボリュームコントロール]ウィンドウを表示させることもできます。

- 2 [ボリュームコントロール]の音量のつまみを上下にドラッグして、音量を調整します。
- 3 ボタンをクリックします。
[ボリュームコントロール]ウィンドウが閉じます。

[ボリュームコントロール]がインストールされていない場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションソフトの追加と削除]でインストールしてください。インストールの方法については、ヘルプの[キーワード]画面で、「Windowsファイル」の項目を検索してください。

●Windows 3.1で音量を調節する

Windows 3.1でサウンド機能を利用しているときは、[メイン2]グループの[ボリュームコントロール]を起動して、音量調節することができます(詳しくは、[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください)。

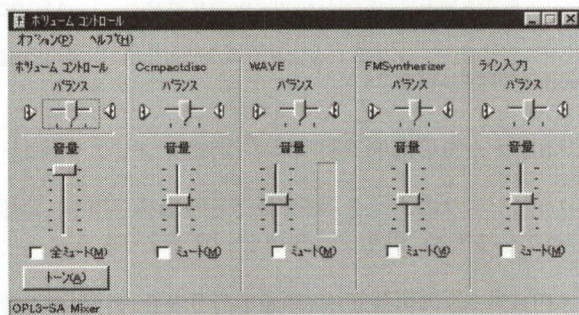
■エンハンスド・ステレオ機能のON/OFFを切り替える Windows 95

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]—[アクセサリ]—[マルチメディア]の順でポイントし、[ボリュームコントロール]をクリックします。

[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。

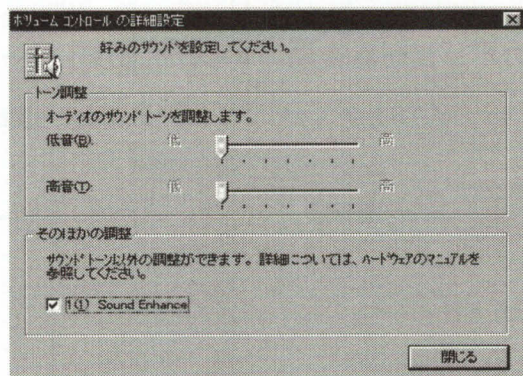
- 2 [ボリュームコントロール]の全ミュートの下に[トーン]ボタンが表示されていない場合は、[オプション]メニューの[トーン調整]をクリックします。

[トーン]ボタンが追加表示されます。



- 3 [トーン]ボタンをクリックします。

[ボリューム コントロールの詳細設計]ウィンドウが表示されます。



- 4 [そのほかの調整]の[Sound Enhance]チェックボックスをクリックします。サウンドエンハンス機能の設定は、チェックされていればON、チェックされていなければOFFです。
- 5 設定が終わったら、**X**ボタンを押してください。
[ボリューム コントロールの詳細設計]ウィンドウが閉じます。

■サウンド機能を利用する際の注意

本機では、本体内蔵のサウンド機能、または別売のPCカードを増設して、Windows 95上でマルチメディア機能を利用することができます。
利用できるマルチメディアの各機能、必要な周辺機器について次の表に示します。

ウェブフォームデータの録音、再生	○
MIDIデータの再生	○注2
MIDIデータの録音、再生	△注1

○：本体内蔵のサウンド機能で利用できます。

△：オプション機能の増設で利用できます。

X：利用できません。

注1：外部MIDI音源*を使用する場合はMIDI/JOYSTIC変換ケーブルA/B(PC-9821N-K07、PC-9821N-K08)をプリンタコネクタに接続することにより、利用できます。

*外部MIDIデータ音源は、GENERAL MIDI規格対応音源の使用を推奨します。

注2：FM音源での再生は可能です。

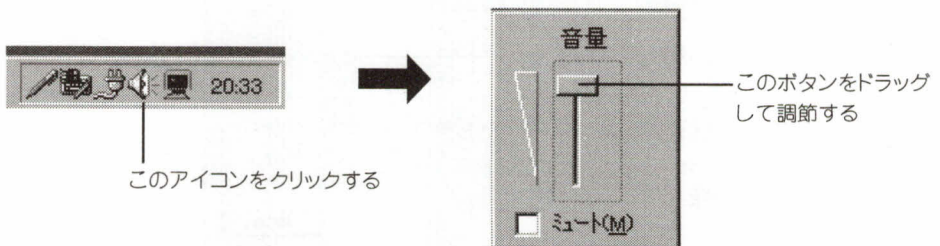


- ・MIDIデータの録音を行うには、別途アプリケーションソフトが必要です。
- ・MIDIデータの再生をFM音源で行う場合、同時に再生できる音の数が限られているため、再生できないデータがあります。
- ・MIDIデータの再生をFM音源で行う場合、外部MIDI音源をつないだ場合よりも音質が悪くなります。
- ・ボリュームコントロールに表示されても、ハードウェアにその機能がないときは、コントロールできません。



簡単に内蔵スピーカボリュームを調節する Windows 95

内蔵スピーカボリュームは、[音量]アイコンをクリックして表示される画面でも調節できます。



外部オーディオ機器を使う.....

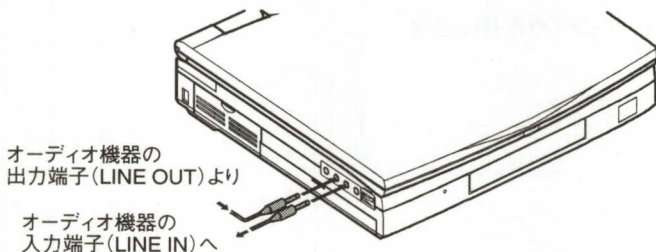
本機には市販のオーディオ機器を接続することができます。オーディオ機器を接続すると、迫力のあるサウンドが楽しめます。

●オーディオ入力端子への接続

オーディオケーブルのミニプラグを、本機左側面の「LINE IN」と書かれたミニジャックに差し込みます。

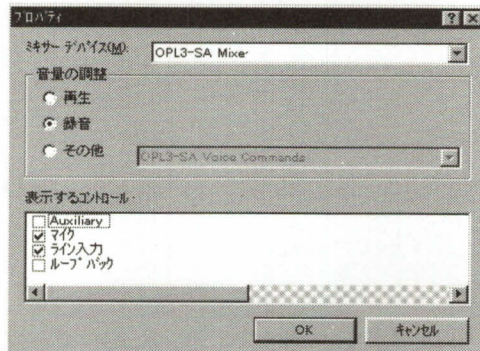
●オーディオ出力端子への接続

オーディオケーブルのミニプラグを、本機左側面の「LINE OUT」と書かれたミニジャックに差し込みます。

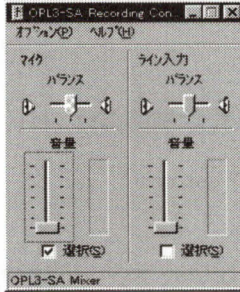


■ 外部オーディオからの録音レベルを調整する Windows 95

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]—[アクセサリ]—[マルチメディア]の順にポイントし、[ボリュームコントロール]アイコンをクリックします。
[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。
- 2 [オプション]メニューの[プロパティ]をクリックします。
[プロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 3 [音量の調節]で[録音]をクリックします。



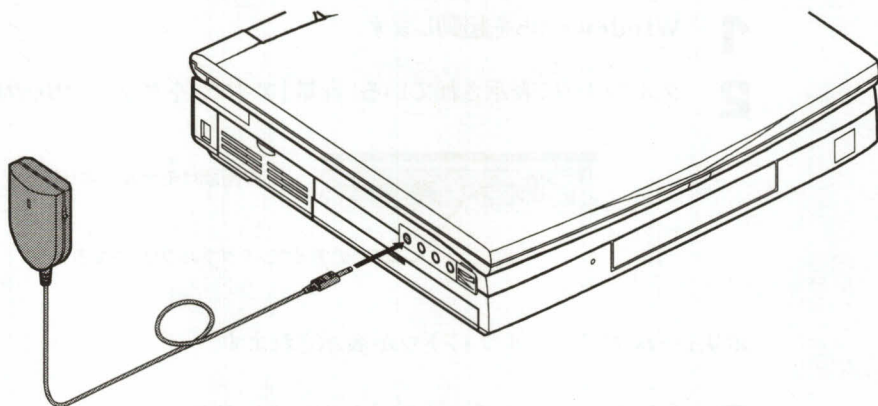
- 4 録音レベルを調整するデバイス(ライン入力)のチェックボックス がチェックされていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。
- 5 [ライン入力]の音量のつまみを上下にドラッグして、録音レベルを調節します。



- 6 をクリックします。
[プロパティ]ウィンドウが閉じます。

マイクロホンを使う.....

本機には内蔵のマイクロホンの他に市販のマイクロホンを接続することができます。マイクロホンを接続すると、音声を取り込んで、いろいろなアレンジをすることができます。マイクロホンは本機左側面の「MIC」と書かれたミニジャックに差し込みます。



ハウリング

マイクロホンを本機の内蔵スピーカに近づけると、スピーカからキーンという大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。この場合は、次の対策を行ってください。

- スピーカ音量調節つまみを回して、ボリュームを小さくする
- 98NOTEメニューでマイクボリュームを下げる
- マイクロホンを内蔵スピーカから遠ざける
- Windows 95の[音量]アイコンで表示される[ボリュームコントロール]ウィンドウの[マイク]の音量つまみでボリュームを小さくする

■マイクロホンのボリュームを調節する

●Windows 95を使用している場合

Windows 95を使用しているときは、マイクロホンのボリューム調節はWindows 95上で行います。98NOTEメニューでの設定は無効になりますので、注意してください。

- 1 Windows 95を起動します。
- 2 タスクバーに表示されている[音量]アイコンをダブルクリックします。

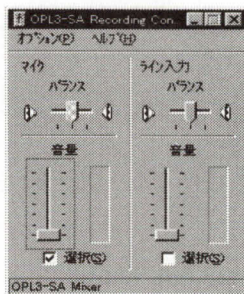


(この画面はモデルによって多少異なります)

このアイコンをダブルクリックする

ボリュームコントロールウィンドウが表示されます。

- 3 [オプション]—[プロパティ]をクリックします。
[プロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 4 [音量調整]の[録音]をクリックして[OK]ボタンをクリックします。
- 5 [マイク]の音量つまみの部分でボリュームを調節してください。



- 6 調節が終わったら、 ボタンを押して、この画面を閉じてください。

●その他のソフトウェアの調節

OSやアプリケーションソフトによって異なりますが、本機をMS-DOSモードで使用するときなどは、98NOTEメニューでマイクのボリュームを調節します(☞P.163)。

■マイクロホンから音を取り込む Windows 95

サウンドレコーダーを使って、マイクロホンから音声を録音することができます。サウンドレコーダーを使って録音したサウンドは、ファイルとして保存することができます。加工したり、他のアプリケーションに取り込んだりすることができます。サウンドレコーダーは[スタート]ボタン-[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]の順にポイントし、[サウンドレコーダー]をクリックすると起動することができます。

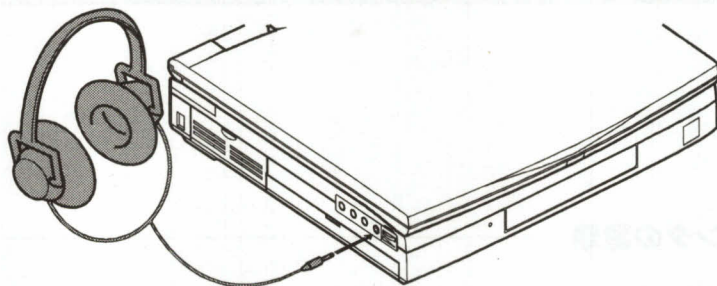


詳しい使い方はヘルプをご覧ください。

ヘッドホンを使う.....

本機には市販のヘッドホンを接続することができます。

市販のヘッドホンのミニプラグを、本機左側面のヘッドホン端子に接続します。



本機のヘッドホン端子は、ミニジャックです。インピーダンス16Ωのヘッドホンを接続することができます。

■ヘッドホンのボリュームを調節する Windows 95

ヘッドホンのボリュームを調節する方法は内蔵スピーカのボリュームを調節する方法と同じです。P.128をご覧ください。

■ヘッドホンのボリューム調節時の注意

[CDプレーヤー]などでオーディオCD再生中に、[コントロールパネル]にある[マルチメディア]アイコンをダブルクリックし、[音楽CD]タブでヘッドホンのボリュームを調節した場合、その変更が有効になるのは、次回[CDプレーヤー]などを起動したときからです。

プリンタを使う

プリンタは、パーソナルコンピュータが処理したデータや、画面に表示されているデータを紙に印刷する装置です。ここでは、プリンタを接続する方法とプリンタを使用するために必要な設定方法について説明しています。

プリンタを接続する.....

⚠注意



- プリンタの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、プリンタの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。



プリンタの種類

プリンタは印字方式の違いから、いくつかの種類に分けられます。

■ドットインパクトプリンタ(シリアルプリンタ)

インクリボンを紙に押し当て、インクリボンの上から、細いピンでドット(点)を打ち付けて印刷します。印刷音が比較的大きく、印刷品質もやや落ちますが、印刷コストが低いといった利点があります。

■熱転写プリンタ

熱で溶けるインクリボンを紙に押し当て、インクリボンの上から、熱したヘッドを押しつけて印刷します。印刷品質が比較的高く、鮮明なカラー印刷ができますが、その反面、印刷コストが高く、印刷速度も遅くなります。

■インクジェットプリンタ

紙にインクを吹き付けることによって印刷します。消費する電力も小さく、印刷音も静かなうえ、比較的早く印刷できます。

■ページプリンタ

コピー機と同じ原理で、トナーという細かい粉を紙に付着させて印刷します。消費電力はやや大きくなりますが、印刷速度が早く、高品質な印刷ができます。



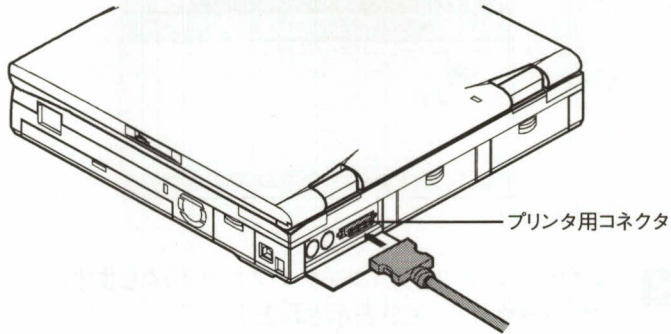
プリンタとの接続には、36ピンパラレルインタフェースに対応した別売のプリンタケーブル(PC-CA202/204)のご使用をおすすめします。従来の98NOTEシリーズ用のプリンタケーブル(PC-9801N-19、PC-9801LV-13)は接続できません。

- 1 本機とプリンタの電源をOFFにします。



ステータスインジケータにサスペンド表示がされているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後Windowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

- 2 本機の電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機背面のプリンタ用コネクタに、プリンタケーブルの小さい方のコネクタを差し込みます。



- 5 プリンタケーブルの大きい方のコネクタを、プリンタのコネクタに差し込み、ストップで止めます。



プリンタは、機種によって接続するコネクタの位置が異なります。詳しくは、使用するプリンタのマニュアルをご覧ください。

- 6 プリンタの電源ケーブルを、ACコンセントに接続します。
- 7 本機の電源コードを、ACコンセントに接続します。

プリンタの設定をする

Windows 95

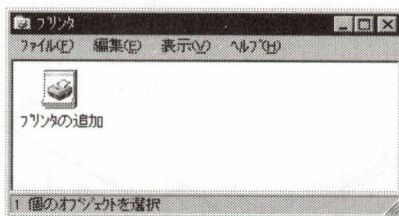
プリンタを使うにはどんなプリンタを使用するのか、設定する必要があります。



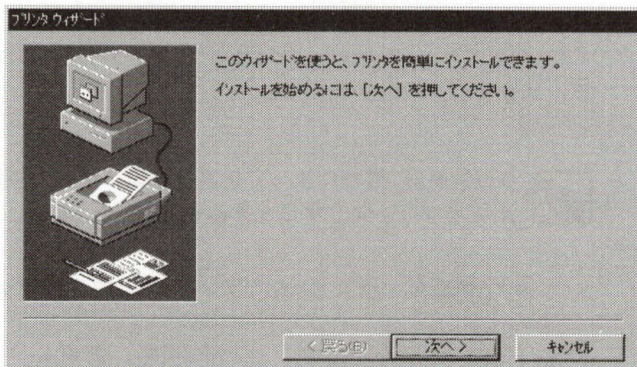
- ・プリンタの設定をする前にプリンタの製造元と製品(モデル)名を確認してください。
- ・プリンタドライバが組み込まれていないと、印刷出力時にフォントが不正になる場合があります。出荷時に組み込まれているプリンタドライバは削除しないでください。

1 プリンタが正しく接続されていることを確認します。

2 [スタート]ボタンをクリックし[設定]をポイントし、[プリンタ]をクリックします。[プリンタ]ウィンドウが表示されます。すでに設定済みのプリンタがある場合は、[プリンタ]ウィンドウにプリンタのアイコンが表示されています。

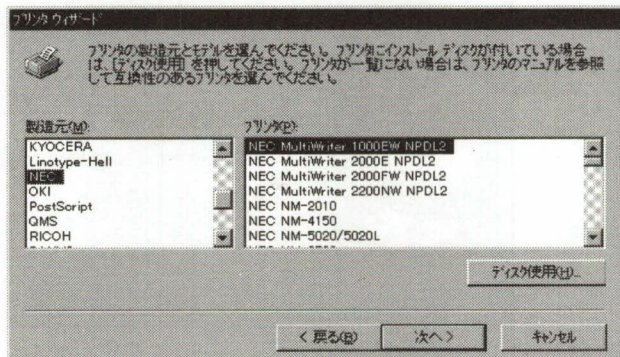


3 [プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。プリンタウィザードが表示されます。



4 [次へ]をクリックします。

- 5 表示されるリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ、または互換性のあるプリンタを選択します。

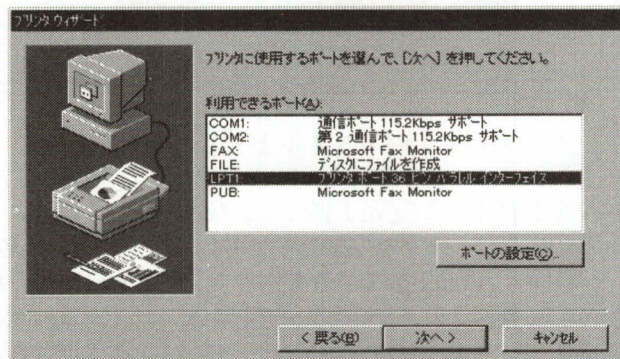


- 6 [次へ]ボタンをクリックします。



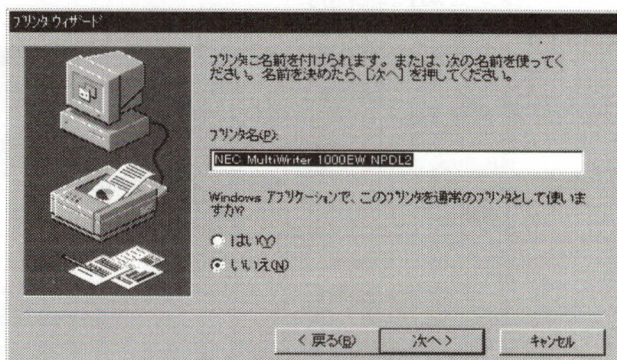
プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)がついている場合は、[ディスク使用]ボタンをクリックして、インストールディスクのデータをインストールします。

- 7 表示されるリストから、プリンタを使用できるポート(接続先)を選択します。

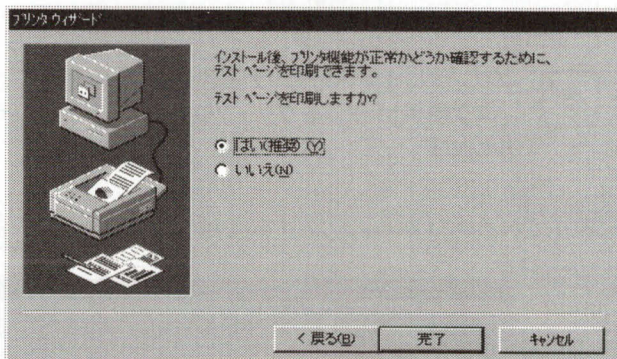


- 8 [次へ]ボタンをクリックします。

9 使用するプリンタに名前を付けます。



10 [次へ]ボタンをクリックします。



11 テストページを印刷する場合は「はい」を選択します。

12 設定が終了したら[完了]をクリックします。

手順5でインストールしなかった場合、インストールが必要な場合は、ここで[ディスクの挿入]画面が表示されますので、プリンタに添付されていたマニュアルをご覧ください。設定がすべて終了すると、新しく追加したプリンタのアイコンが[プリンタ]ウィンドウに表示されます。

ネットワーク上の共有プリンタを使う

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。

- 1 「プリンタの設定をする」の1～3の手順を行います。
- 2 [次へ]ボタンをクリックします。
- 3 画面上で「ネットワークプリンタ」をクリックします。

その後の手順は、「プリンタを設定する」と同じです。

CRTディスプレイを使う

本機には、別売のCRTディスプレイを接続できます。ここではCRTディスプレイを接続する方法について説明しています。

CRTディスプレイを接続する.....

△注意



- CRTディスプレイの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、CRTディスプレイの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

- 1 本機の電源をOFFにします。



ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後にWindowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

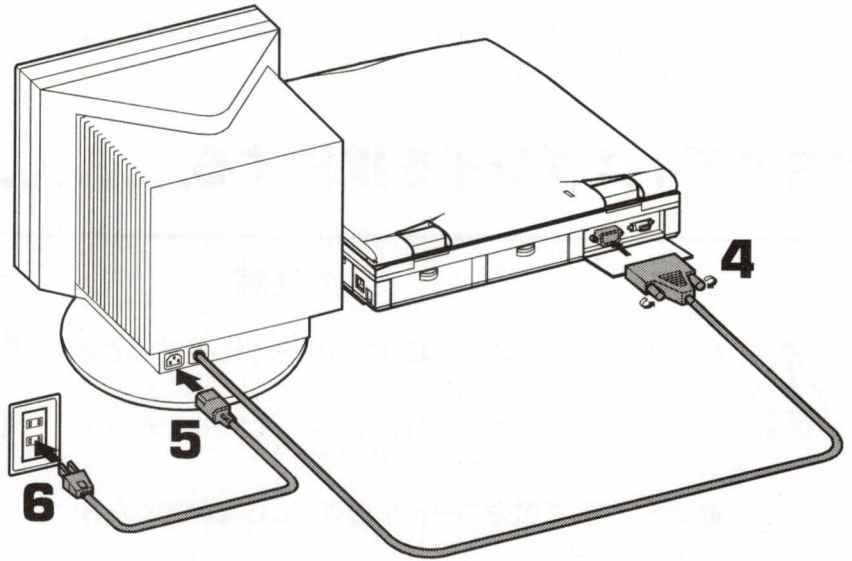
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。

- 3 本機からACアダプタを取り外します。

- 4 ディスプレイ用ケーブルのコネクタを本機背面のCRTコネクタに差し込み、ネジを回して固定します。

- 5 CRTディスプレイの電源ケーブルのコネクタを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込みます。

6 CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続します。



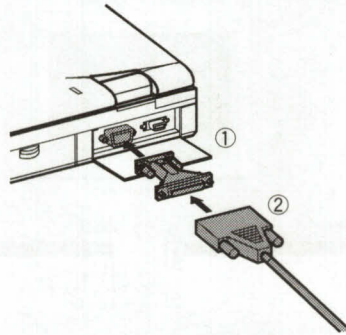
- CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。また、本機とは別に、CRTディスプレイ用に電源が必要です。
- 使用するディスプレイによっては、別売のディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)が必要です。
- ディスプレイ用ケーブルをディスプレイに接続する場合、ディスプレイ側のアナログRGBコネクタは15ピンタイプを使用してください。21ピンタイプのコネクタは使用できません。



ディスプレイ用ケーブルのディスプレイ側コネクタには、「固定されているタイプ」と「着脱できるタイプ」があります。着脱できるケーブルのときには、手順4と同様にしてケーブルをディスプレイに接続してください。

ディスプレイインターフェイス変換アダプタを使用する場合の接続方法

- ① ディスプレイインターフェイス変換アダプタを、本機背面のCRTコネクタに差し込み、ネジを回して固定します。
- ② ディスプレイ用ケーブルのコネクタをディスプレイインターフェイス変換アダプタに差し込み、ネジを回して固定します。



CRTディスプレイに合わせて 本機を設定する

Windows 95

別売のCRTディスプレイを使用する場合は、CRTディスプレイに合わせて、本機の設定を変更する必要があります。

● 設定の方法

- 1 CRTディスプレイが本機に正しく接続されていることを確認します。
640×400ドットの解像度を使用する場合は手順2へ、それ以外の場合は電源をONにしたあと手順3へ進んでください。
- 2 キーボードの **[GRPH]** と **[1]** または **[2]** のどちらかを同時に押しながら、本機の電源をONにします。**[1]** と **[2]** のどちらのキーを押すかは下の表を参照してください。すでに電源がONになっているときには、一度電源をOFFにしてからONにしておってください。

解像度(ドット)	水平走査周波数	設定方法
640×400	24KHz	[GRPH] と [1] を押しながら電源をONにする
	31KHz*	[GRPH] と [2] を押しながら電源をONにする[ご購入時の設定]

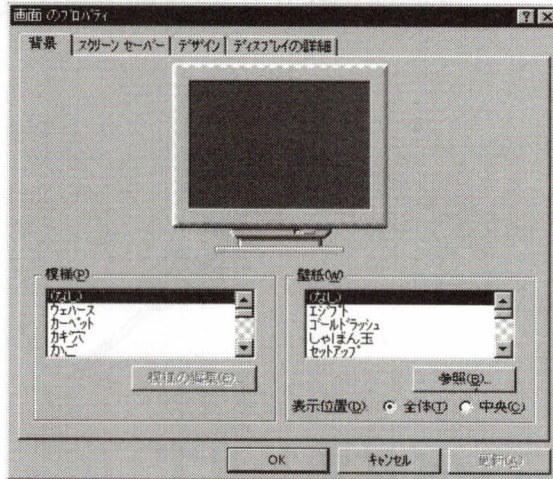
※: 31kHzに設定すると本機の液晶ディスプレイには画面が表示されなくなります。また、別売のCRTディスプレイを接続していないときには、31kHzで起動しても自動的に24kHzになります。

- 3** [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

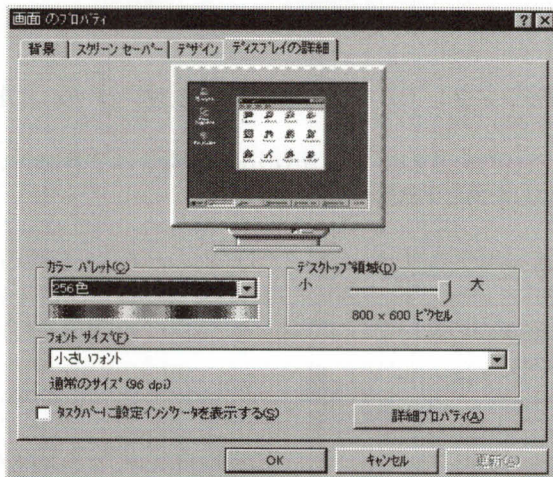
- 4** [画面]アイコン をダブルクリックします。

[画面のプロパティ]ウィンドウが表示されます。

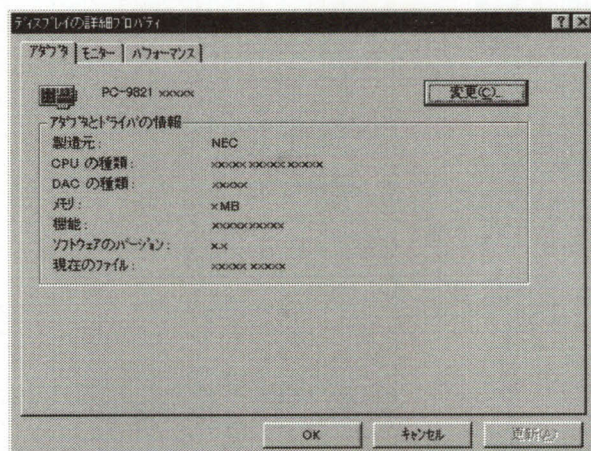


- 5** [ディスプレイの詳細]タブをクリックします。

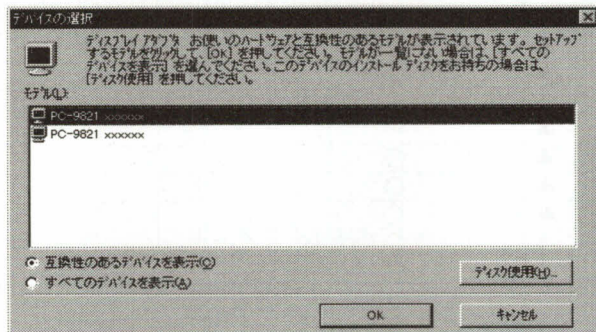
ディスプレイの詳細に関する画面が表示されます。



- 6 [詳細プロパティ]ボタンをクリックします。
 [詳細プロパティ]ウィンドウが表示されます。



- 7 [アダプタ]タブの画面の[変更]ボタンをクリックします。



- 8 以降は、CRTディスプレイに添付されているマニュアルをご覧の上、画面に表示される指示に従って操作してください。

CRTディスプレイの種類と解像度.....

解像度(ドット)		640×400		640×480	800×600	1,024×768
使用できる CRTディスプレイ	水平走査周波数	24kHz	31kHz	31kHz	47kHz	60kHz
	変換アダプタ の要/不要*1					
PC-KD1511	△	○	—	—	—	—
PC-KD1521	△	○	—	—	—	—
PC-KD854N	△	○	—	—	—	—
PC-KD1421	△	○	—	—	—	—
PC-KD1522	△	○	○	○	—	—
PC-KH1711	△	○	○	○	○*2	○*2
PC-KH2021	△	○	○	○	○*2	○*2
PC-KM141*3	▲*4	○	○	○	○*2	○
PC-KM151	△	○	○	○	○*2	○
PC-KM152*3	△	○	○	○	○*2	○
PC-KM153*3	△	○	○	○	○*3	○
PC-KM153R*3	▲*4	○	○	○	○*3	○
PC-KM153R2*3	▲	○	○	○	○	○
PC-KM154*3	▲	○	○	○	○	○
PC-KM171	△	○	○	○	○*2	○
PC-KM172*3	△	○	○	○	○*2	○
PC-KM173*3	▲*4	○	○	○	○	○
PC-KM173R	▲	○	○	○	○	○
PC-KM174*3	▲	○	○	○	○	○
PC-KM211*3	△	—	○	○	○	○
PC-KM212*3	▲	—	○	○	○	○
PC-KM291*3	▲	○	○	○	—	—
PC-KM411*3	▲	○	○	○	○	○
PC-KM651*3	▲	○	○	○	○*5	○
PC-TD151	△	○	○	○	—	—
PC-TD211	△	○	○	○	—	—

△:要

▲:不要

○:表示可能

*1:別売のディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)

*2:初めてこの解像度を使用する場合、画面位置補正(ディスプレイの前面スイッチ操作)が必要です。

*3:このディスプレイは、Windowsのパワーマネジメント機能に対応しています。

*4:CRTディスプレイに添付されている変換アダプタを使用して接続します。

*5:この解像度を使用する場合、画面位置補正(ディスプレイの前面スイッチ操作)が必要です。また、画面位置補正を行った後で他の解像度を使用する場合は、再度、画面位置補正を行う必要があります。



解像度と表示色を変更する方法についてはPart1の「画面表示」の「解像度と表示色を変更する」をご覧ください。

テレビを接続する

市販のビデオケーブルを使って本機にテレビを接続することができます。
ここでは、テレビを接続する方法について説明しています。
テレビで表示できる解像度や表示のしかたについてはPart2をご覧ください。

テレビを接続する

⚠注意



- テレビの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、テレビの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

- 1 本機の電源をOFFにします。



ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後Windowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機右側面のビデオ出力端子に市販のビデオケーブルを接続します。
- 5 ビデオケーブルをテレビの映像入力端子に接続します。



テレビを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。
また、本機とは別にテレビ用に電源が必要です。

コミュニケーションスロット を活用する

本機のコミュニケーションスロットに通信機器を接続すると、電話回線を通して通信することができます。

接続できる機器の種類

本機内部のコミュニケーションスロットには、次のような機器を接続することができます。

- ・FAXモデムボード(PC-9821NR-B05) (PC-9821Nr15/S14Fでは内蔵済)
 - ・100BASE-TXインタフェースボード(PC-9821NR-B06)
- 各機器の詳細については、各ボードのマニュアルをご覧ください。

コミュニケーションスロットに機器を取り付ける

⚠注意



感電注意

- コミュニケーションスロットの機器の取り付け/取り外しをするときは、本機の電源をOFFにしてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、コミュニケーションスロットの機器の取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。



・ コミュニケーションスロットの機器の取り付け/取り外しには+ (プラス) ドライバが必要です。

・ 本機でFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)を使用するには、98NOTEメニューの「入出力デバイスの設定」で「モデム」を{使用する}にする必要があります。

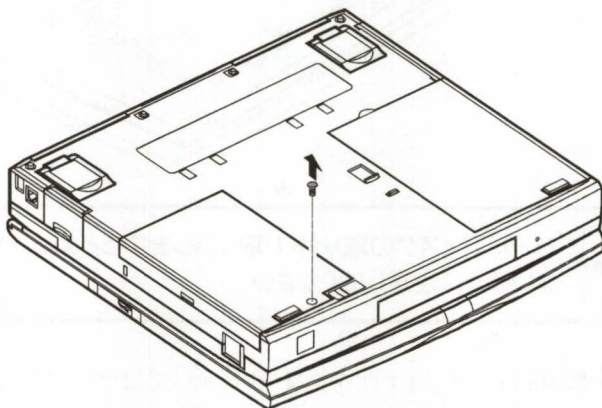
・ PC-9821Nr15/S14Fで内蔵のFAXモデムボードを取り外して別売の100BASE-TXインタフェースボードを取り付けるときには、接続されている回線(モジュラーコネクタ)を取り外してから下記の手順を行ってください。

- 1 本機の電源がOFFになっていることを確認します。

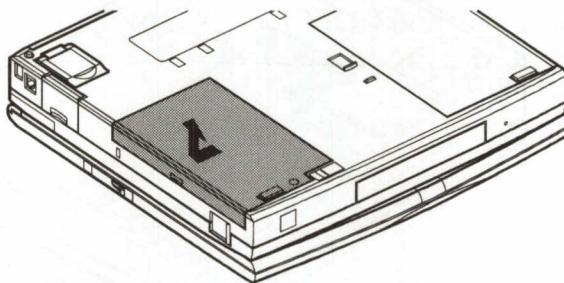


ステータスインジケータにサスペンド表示が表示されているときには、サスペンドスイッチを押していったんもとの状態に戻します。その後Windowsを終了し、本機の電源をOFFにします。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3 本機にケーブル類が接続されている場合は、それらをすべて取り外します。
- 4 本機のカバー(カラー液晶ディスプレイ)を閉じて、本機を裏返します。
- 5 図の位置のネジを1カ所プラスドライバーではずします。



- 6 ハードディスクのカバーを図の矢印の方向に押し上げて取り外します。



通信機能のいろいろ

電話回線を使って、さまざまな通信ができます。

■パソコン通信

パソコンやモデムをつなぎ、電話回線を通してパソコン通信サービスのホストコンピューターにつなぎ、情報交換をする通信をいいます。

パソコン通信を利用すると電子メール、チャット、会議、オンラインショッピング、データベース検索などが利用できます。パソコン通信のサービスを利用できるのは、会員に限られています。

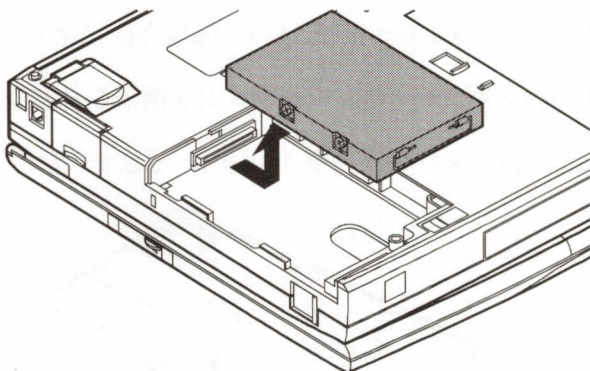
■インターネット

パソコン通信は一つのホストコンピューターの中につないだ会員のみがコミュニケーションをはかることができますが、これに対しインターネットは、会員に限らず国籍と加入電話の違いを越えて、世界中の人々とコミュニケーションをはかることができます。詳細は『アプリケーション操作ガイド』をご覧ください。

■FAX送受信

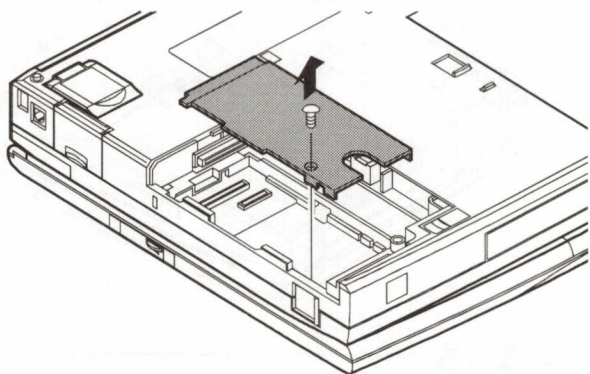
Microsoft Exchange、Cheyenne BitWareなどの通信ソフトを使って、パソコンで作成したデータをFAXで送ったり、FAXを受信したりすることができます。詳しくは『アプリケーション操作ガイド』をご覧ください。

- 7** ハードディスクを図の矢印の方向にスライドさせて取り外します。

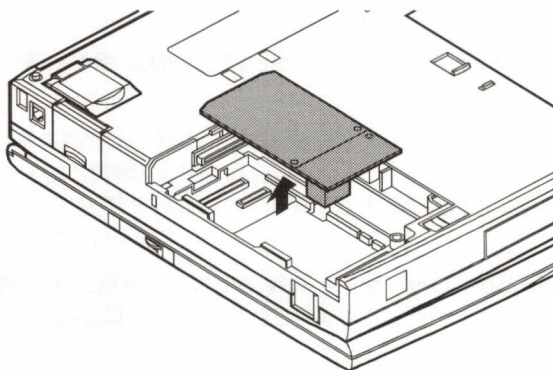


ハードディスクの取り付け/取り外しをするときは、ハードディスクに衝撃を加えないように注意してください。

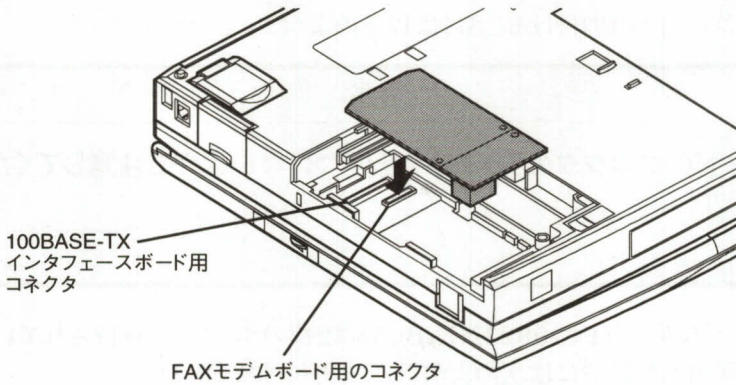
- 8** 図の位置のネジ1カ所をプラスドライバーではずしコミュニケーションスロットのカバーをはずします。



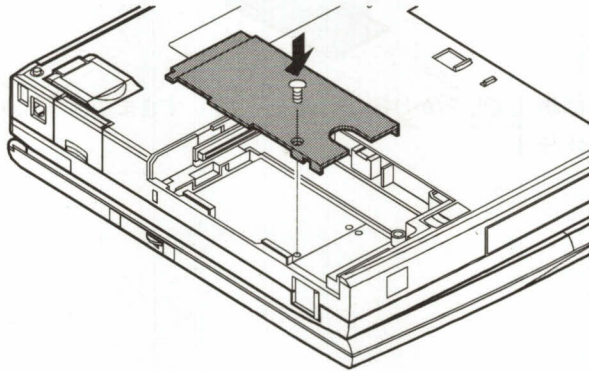
PC-9821Nr15/S14FではあらかじめコミュニケーションスロットにFAXモデムボードが取り付けられています。FAXモデムボードは図の矢印の方向へ取り外してください。



- 9** 位置に注意して取り付ける機器のコネクタを本機のコネクタにしっかり差し込みます。



- 10** 手順8で取り外したカバーを本機に取り付け、ボードといっしょにネジで固定します。



- 11** ハードディスクを取り外したときと逆の手順で本機に取り付けます。

- 12** ハードディスクのカバーを取り付け、ネジで固定します。

これで本機への機器の取り付けが完了しました。

電話回線への接続のしかたなどについては、それぞれの機器のマニュアルをご覧ください。



コミュニケーションスロットから機器を取り外すときには、接続されている回線(モジュラーコネクタ)を取り外してから、上記と逆の手順で機器を取り外してください。

■FAXモデムボードの取り付け方

PC-9821Nr15/S14Fで内蔵のFAXモデムボードを取り外した場合、再度コミュニケーションスロットへ取り付けるときには以下のようにしてください。

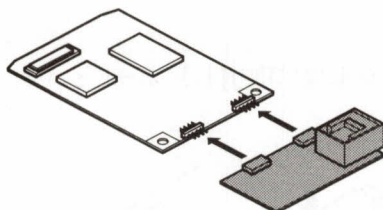
⚠注意



けが注意

- ボードのコネクタの先端で手を傷つけないように注意してください。

FAXモデムボード(PC-9821NR-B05)は2枚のボードから構成されています。本機に取り付けるときには次のようにして取り付けてください。



コネクタは奥までしっかり接続してください。すきまがあると本機に取り付ける際故障の原因となります。

シリアルコネクタに通信機器を接続する

本機背面のシリアルコネクタに通信機器を接続し通信機器の設定をすると、本機で通信することができます。

■シリアルコネクタに通信機器を接続する

本機背面のシリアルコネクタには、次のような別売の通信用の拡張機器を接続することができます。

- ・ 外付けモデム
- ・ モデム内蔵の多機能電話
- ・ 音響カプラ

本機に通信機器を接続する方法と通信機器を電話回線に接続する方法については、各通信機器のマニュアルをご覧ください。

■通信機器の設定をする

本機に通信機器を接続したら、通信機器の設定をする必要があります。通信機器の設定については、通信機器のマニュアルをご覧ください。



モデムについて

変復調装置をモデムといいます。一般の公衆回線は、電話で人が話をするときにはアナログ信号(音声)の受け渡しを行います。同じ回線を使って、コンピュータで作ったデータ(デジタルデータ)の送受信をする場合には、このモデムを使って、アナログデータとデジタルデータを変換しています。パソコンで通信するには、このデジタルデータのやりとりを行うのでモデムが必要です。

割り込みレベル・DMAチャネル・ROMアドレス空間

ここでは、本機内蔵の各種インターフェイスで使っている「割り込みレベル」「DMAチャネル」「ROMアドレス空間」について説明しています。

設定の変更.....

本機に周辺機器を接続して使用する場合は、周辺機器のインターフェイスが本機内蔵のインターフェイスと同じ「割り込みレベル」、「DMAチャネル」、「ROMアドレス空間」(下表参照)を使用しないように、周辺機器のインターフェイスの設定を変更してから取り付けてください。なお、周辺機器のインターフェイスが使用する「割り込みレベル」、「DMAチャネル」、「ROMアドレス空間」や設定の変更方法などについては、周辺機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

■本機が使用している割り込みレベル

割り込みレベル		INT0 (IRQ3)	INT1 (IRQ5)	INT2 (IRQ6)	INT3 (IRQ9)	INT41 (IRQ10)	INT42 (IRQ11)	INT5 (IRQ12)	INT6 (IRQ13)
内蔵フロッピーディスク インターフェイス	1Mバイト・1.44Mバイト1/F						◎※1		
内蔵マウスインターフェイス									◎※2
内蔵ハードディスクインターフェイス					◎※3				
MIDIインターフェイス						◎※4			
赤外線通信機能			◎※5※6						
内蔵サウンド機能								◎※7	
PCカードスロット		☆※9	☆	☆		☆		☆	
コミュニケーションスロット		○※8	○	○		○		○	

◎：工場出荷時の設定

※1：INT42は内蔵フロッピーディスクが使用するため、他の周辺機器では使用できません。

※2：INT6は内蔵の98スライドパッドが使用するため、他の周辺機器では使用できません。

※3：INT3はハードディスクが使用するため、他の周辺機器では使用できません。

※4：INT41は、98NOTEメニューの「動作環境の設定」の「サウンド」を「使用しない」に設定すると他の周辺機器で使用できます。

※5：98NOTEメニューで「赤外線通信機能」を「使用する」に設定した場合、INT1は赤外線通信機能が使用するため、他の周辺機器では使用できません。「使用しない」に設定すると、他の周辺機器で使用できます。Windows 3.1をご使用の場合で、「赤外線通信機能」を「使用しない」に設定した場合、PCカードの使用する資源の設定を変更してください。詳しくは「PCカードサポートソフトウェアマニュアル」の「資源の設定方法」をご覧ください。

※6：赤外線通信機能は、割り込みレベルINT1 (IRQ5)でのみ使用できます。他の機器でこの割り込みを使用しているときには「赤外線通信機能」を「使用する」に設定することができなくなります。「使用する」にするときには、必ずINT1 (IRQ5)が解放されることを確認してください。

※7：98NOTEメニューの「動作環境の設定」の「サウンド」を「使用しない」に設定すると、他の周辺機器で使用できます。

※8：別売の100BASE-TXインタフェースボード(PC-9821NR-B06)取り付け時に使用可能です。

※9：16ビットPCカードサポートを使用するPCカードでは使用できません。

☆：PCカードスロットを使用するアプリケーションソフト、またはPCカードに添付のドライバで設定します。ここで設定したINTは、他の周辺機器では使用できません。

また、PCカードスロットは、INT3、INT42、INT6には設定できません。

○：FAXモデムボード(PC-9821NR-B05)で使用可能です。

使用するOSによって設定を変更してください。



■本機が使用しているDMAチャンネル

DMAチャンネル インターフェイス	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7
内蔵フロッピーディスクインターフェイス			○					
内蔵サウンド機能		○						
赤外線通信機能								○

○:工場出荷時の設定

■本機が使用している「ROMアドレス空間」

インターフェイス	使用しているROMアドレス空間
ハードディスク/ CD-ROMインターフェイス	D8000h~DBFFFh



Part 4

システムの設定を変更する

本機のシステム設定を変更する方法を説明しています。

- 98NOTEメニューで設定する
- 98NOTEメニューユーティリティで設定する
- メモリスイッチ(98環境設定ユーティリティ)

98NOTEメニューで設定する

98NOTEメニューは、使用するアプリケーションソフトや接続する周辺機器に合わせて本機の使用環境を設定するための内蔵プログラムです。98NOTEメニューは、ご購入時にあらかじめ標準的な環境に設定されているので、特に必要ない場合は変更しないでください。ここでは、98NOTEメニューの起動方法、操作方法、設定できる各項目の概要について説明しています。

98NOTEメニューを起動する.....

98NOTEメニューは次の方法で起動します。

■本機の電源がOFFになっているときの起動のしかた

- 1 キーボードの[HELP]を押しながら電源スイッチをスライドさせます。

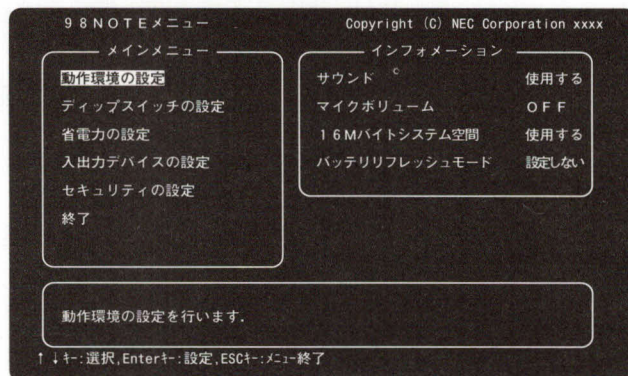


ハイバネーション状態のときには、この方法で98NOTEメニューを起動すると、保存されていた内容が失われます。



電源をONにして「ピポッ」という音がしたら、キーボードの[HELP]から手を離してください。「ピポッ」という音がする前に手を離すと、98NOTEメニューが起動しません。また、このときスピーカのボリュームを最小にしていると「ピポッ」という音が鳴らないためご注意ください。

98NOTEメニューの「メインメニュー画面」が表示されます。





■サスペンド状態のときの起動のしかた

- 1 キーボードの[HELP]を押しながらサスペンドスイッチを押します。



この方法で98NOTEメニューを起動すると、サスペンドの内容が失われます。



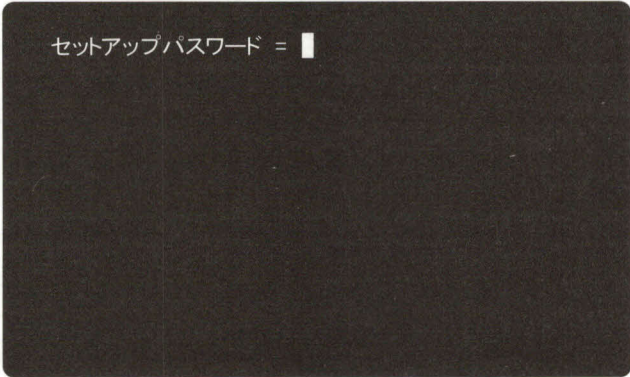
電源をONにして「ピポッ」という音がしたら、キーボードの[HELP]から手を離してください。「ピポッ」という音がする前に手を離すと、98NOTEメニューが起動しません。また、このときスピーカのボリュームを最小にしていると「ピポッ」という音が鳴らないため注意してください。

98NOTEメニューの「メインメニュー画面」が表示されます。

■セットアップパスワード設定中の起動のしかた

- 1 キーボードの[HELP]を押しながら、電源スイッチをスライドさせて電源をONにします。

次のような画面が表示されます。



セットアップパスワード = |

- 2 キーボードから、設定されているパスワードを入力します。



パスワードの入力中に、キーボードの[BS]を押して文字を修正することはできません。

3 キーボードの を押します。

正しいパスワードが入力されると、98NOTEメニューが起動します。



- 誤ったパスワードが入力されると、「パスワード不一致」と表示されます。正しいパスワードを入力してください。
- パスワードの入力に3回失敗すると、「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音のあと、自動的に電源がOFFになりますので、最初からやり直してください。



- パスワード設定中にハイバネーション状態にしたときも、上記と同様の手順で98NOTEメニューを起動することができます。
- ハイバネーション状態のときに98NOTEメニューを起動すると保存されていた内容が失われます。
- ハイバネーション状態から本機をONにして上記の手順を行った場合、パスワードの入力に3回失敗すると、「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音のあと、自動的に電源がOFFになってハイバネーション状態に戻ります。

■サスペンド中の起動のしかた

セットアップパスワードを設定しているときにサスペンド状態にした場合には、98NOTEメニューの起動時にセットアップパスワードを2回入力する必要があります。



サスペンド中に98NOTEメニューを起動すると、サスペンドの内容が失われます。

1 キーボードの **HELP** を押しながら、サスペンドスイッチを押します。

動作表示用LEDが点灯します。

セットアップパスワードの入力を求める「ピッピッピッ」という警告音が鳴ります(画面には何も表示されません)。

2 セットアップパスワードを入力します。



- ・パスワードの入力中に、キーボードの [BS] を押して、文字を修正することはできません。
- ・誤ったパスワードが入力されると、「ピーッピッピッ」と警告音が鳴ります。正しいパスワードを入力してください。
- ・パスワードの入力に3回失敗すると「ピー」という警告音のあと、自動的にサスペンド状態に戻りますので、最初からやり直してください。

3 キーボードの [Enter] を押します。

正しいパスワードが入力されると、「セットアップパスワード =」という画面が表示されるので、もう一度パスワードを入力し、[Enter] を押します。



- ・誤ったパスワードが入力されると、「パスワード不一致」と表示されます。正しいパスワードを入力してください。
- ・パスワードの入力に3回失敗すると、「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音のあと、自動的にサスペンド状態に戻りますので、最初からやり直してください。

98NOTEメニューが起動します。

98NOTEメニューを操作する.....

98NOTEメニューを起動すると、まずメインメニューが表示されます。各項目の設定は、メインメニューから設定画面を表示させて行います。

●メインメニュー メインメニューには設定できるメニューの一覧が表示されます。

白い四角

選択したメニューで選択できる項目と、現在の設定が表示されています。

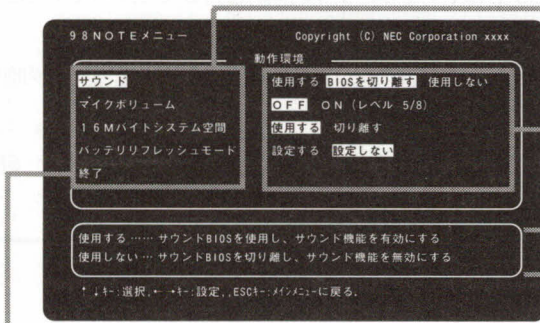
選択したメニューについてのヘルプメッセージが表示されます。

↑: 選択, Enter: 設定, ESC: メニュー終了

キーボードの [↑] [↓] を押して白い四角を設定したいメニューに合わせて [Enter] を押します。



●**設定画面** 設定できる各項目と設定値が表示されます。設定値を選択して設定します。



設定できる項目の一覧です。キーボードの↑↓を押して設定したい項目に白い四角を合わせます。

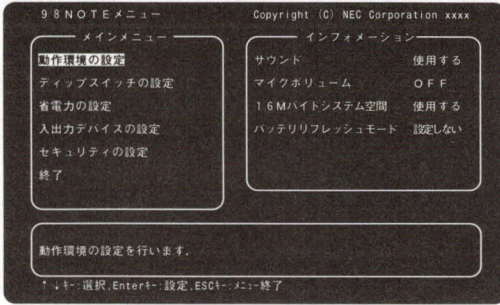
白い四角で表示されているものが設定値となります。キーボードの←→を押して選択します。

設定している項目についてのヘルプメッセージが表示されます。

キーボードのESCを押すか、↑↓を押して白い四角を「終了」に合わせて↵を押します。



●**メインメニュー**



メインメニューに戻ります。

98NOTEメニューを終了する.....

98NOTEメニューを終了すると、設定が有効になります。次の方法で、メインメニューを終了してください。

1 画面右側の各項目の設定値が、変更した設定値に変わっていることを確認します。

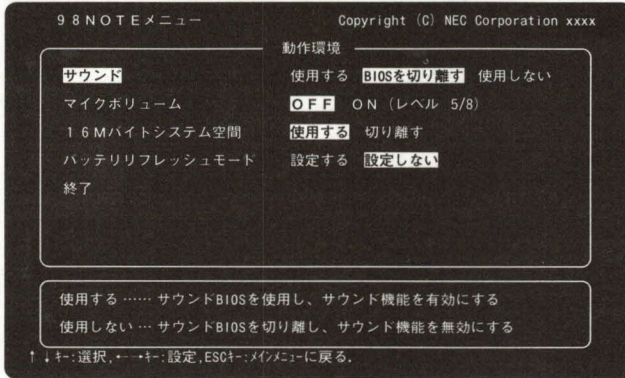
2 次のどちらかの方法でメインメニューを終了します。

- ・キーボードのESCを押す
- ・「終了」を選択し、キーボードの↵を押す

98NOTEメニューが終了し、本機が自動的に再起動します。これで設定が有効になります。

各メニューの設定

■動作環境の設定



●サウンド

内蔵のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。

サウンド機能とEMSを同時に使用し、EMSのページフレームアドレスをCC000h～CFFFFh番地に設定するときに設定します。



- ・EMSを使用するアプリケーションソフトを起動すると、「メモリが足りません」と表示されるときは、{BIOSを切り離す}に設定してください。
- ・Windows 3.1とMS-DOSでFM音源を使用する場合、「サウンド」を{使用する}に設定してください。ただし、この場合本機のPCカードスロットを使うことはできなくなります。

●マイクボリューム

マイクロホンの入力レベルを調節します。

{ON(レベル5/8)}に設定した場合、レベルはキーボードの **↑**、**↓** で変更できます。**↑** を押すとボリュームが大きくなり、**↓** を押すとボリュームが小さくなります。入力レベルは8段階で調節できます。

「サウンド」を{使用しない}に設定している場合、「マイクボリューム」の項目は設定できません。



Windowsでサウンドを使用しているときは、Windowsの機能を使って音量調節することができます(P.128)。

●16Mバイトシステム空間

メモリアドレスF00000h～FFFFFFhの空間を16Mバイトシステム空間と呼びます。このシステム空間を使用するOS、アプリケーションソフトを使う場合や、Windowsを使用する場合には{使用する}に設定してください。




{使用する}に設定し、メモリを16Mバイト(ユーザーズメモリ15.6Mバイト)以上搭載している場合、メモリチェック時に表示されるメモリ容量は、実際のメモリ容量より1Mバイト少ない容量が表示されます。

●バッテリーリフレッシュモード

バッテリーリフレッシュモードを使用するときに設定します。

バッテリーリフレッシュモードは、バッテリーを完全に放電させてバッテリーの能力を復旧させる機能です。

ステータスインジケータのバッテリー残量表示枠が点滅  したら、この機能を実行してください。

<バッテリーリフレッシュの手順>

- 1 本機からACアダプタを取り外します。
- 2 98NOTEメニューを起動します。
- 3 98NOTEメニューの「動作環境の設定」の画面で、バッテリーリフレッシュモードを{設定する}にします。



{設定する}にしたとき、ACアダプタを接続しているとACアダプタを取り外すようにメッセージが表示されます。何かキーを押してからメインメニューに戻り、98NOTEメニューを終了して本機の電源をOFFにします。ACアダプタをはずしてから再度はじめからやり直してください。

3分後にカラー液晶ディスプレイに「バッテリーリフレッシュ中」と表示されます。



- ・バッテリーリフレッシュモードを実行中に98NOTEメニューを終了すると、バッテリーリフレッシュモードは中断されます。
- ・バッテリーリフレッシュモードの実行中には、本機からバッテリーを取り外さないでください。

- 4 自然に電源がOFFになるとバッテリーリフレッシュモードの終了です。
- 5 ACアダプタを接続すると、動作表示用LEDが黄色に点灯し、バッテリーの充電が始まりますので、動作表示用LEDが消灯するまで充電してください。

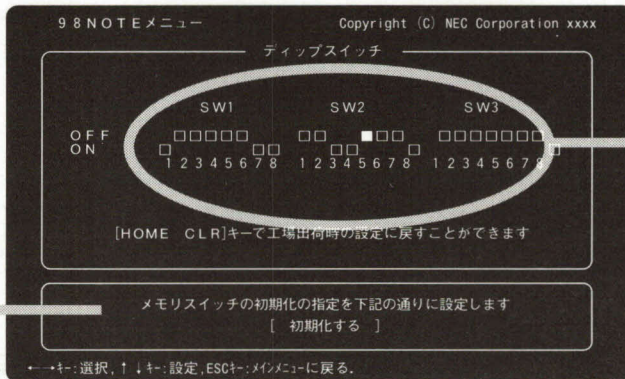


バッテリーリフレッシュに必要な時間は約1.6時間です。バッテリースロットとドライブベイの両方にバッテリーを取り付けているときは、バッテリーリフレッシュに必要な時間は約2倍になります。

■ディップスイッチの設定

メインメニューで「ディップスイッチの設定」を選択すると、次のような画面が表示されます。

ディップスイッチは、本機を機器の構成に応じて正しく動作させたり、機能を変更したりするための重要なスイッチです。ディップスイッチは、あらかじめ一般的な使用条件にそって、工場出荷時に設定されています。特に必要のない限りは、変更しないでください。



キーボードの で設定したいスイッチに反転表示を合わせ、 でON/OFFを設定します。

でご購入時の設定に戻ります。設定が終了したら、 を押してメインメニューに戻ります。

選択しているスイッチの説明と、現在の設定値が表示されています。

ご購入時の設定

ディップスイッチを変更した場合、SW2-5のみ設定と同時に有効になります。それ以外のディップスイッチについては、本機を起動しなおしたときから有効になります。

ディップスイッチの機能

それぞれのスイッチの機能とON/OFF時の設定値は次のとおりです。

●SW1

	スイッチ番号	スイッチの機能	ON	OFF
SW1	1	未使用	常にONの状態で使用してください。	
	2	未使用		常にOFFの状態で使用してください。
	3			
	4			
	5	シリアル伝送方式	注1参照	
	6			
	7	未使用	常にONの状態で使用してください。	
	8	グラフィックモード	拡張モード	基本モード

ご購入時の設定

注1 SW1-5、SW1-6シリアル伝送方式の選択

SW1-5	SW1-6		機能内容
ON	ON	BCI同期	送信タイミングに本機内部タイマを使用、受信タイミングにはモデムのクロックを使用
ON	OFF	ST2同期	送・受信タイミングとして、モデムより供給されるクロックを使用
OFF	ON	同期刻時	受信タイミングは受信データから作られるクロックを使用、送信は本機内部タイマを使用
OFF	OFF	調歩同期	送・受ともに本機内部タイマを使用

■ご購入時の設定

SW1-5、SW1-6(シリアル伝送方式)

通信をするときの、送信タイミングと受信タイミングを設定します。

SW1-8(グラフィックモード)

カラー液晶ディスプレイの画面表示を、拡張グラフィックモードで表示するか、基本グラフィックモードで表示するかを設定します。{ON}(拡張モード)に設定すると4,096色中16色表示に、{OFF}(基本モード)に設定すると8色中8色表示になります。

●SW2

	スイッチ番号	スイッチの機能	ON	OFF
SW2	1	未使用		常にOFFの状態で使用してください。
	2			
	3	未使用	常にONの状態で使用してください。	
	4			
	5	メモリスイッチ	初期化しない	初期化する
	6	固定ディスク	切り離す	使用する
	7	vfキー	使用しない	使用する
	8	GDCモード	5MHz	2.5MHz

■ご購入時の設定

SW2-5(メモリスイッチ)

メモリスイッチは、ディップスイッチと同じように、本機の状態を設定するスイッチです。メモリスイッチの内容は、Windows 95では、[コントロールパネル]の[98環境]で設定します。また、MS-DOSの場合は、SWITCHコマンドで設定します。設定方法は「メモリスイッチ」(P.183)をご覧ください。

このディップスイッチでは、電源をONにしたときなどに、変更したメモリスイッチの内容を初期化するか、変更した内容を保持するかを設定します。

メモリスイッチを変更する場合には、メモリスイッチの変更の前に必ずこのSW2-5を{ON}(初期化しない)にしてください。{OFF}(初期化する)のままで、電源をOFFにすると、メモリスイッチの内容がご購入時の状態に戻ってしまいます。

SW2-6(固定ディスク)

本機内蔵のハードディスクを使用するかどうかを設定します。{ON}(切り離す)にすると、内蔵のハードディスクは使用できなくなります。

SW2-7 (vfキー)

キーボードのvfキーを使用するかどうかを設定します。vfキーを使用するかどうかは、お使いになるアプリケーションソフトによります。なお、vfキーを使用するときは、キーボードの[**NUM**]をロックしてください。



メモリスイッチの内容は、本機内蔵のリチウムバッテリーによって保たれています。本機の電源をOFFにしたままの状態が2カ月ほど続くと、98NOTEメニューでメモリスイッチを{初期化しない}にしても、ご購入時の設定に戻ってしまいます。このような場合には、メモリスイッチを{初期化する}に設定し、一度98NOTEメニューを終了します。メニューが終了し、本機が再起動したのち、再度メモリスイッチを{初期化しない}にしてからメモリスイッチを設定しなおしてください。

SW2-8 (GDCモード)

グラフィック処理速度を選択します。

ご購入時には、高速にグラフィック描画ができるように{ON}(5MHz)に設定されています。市販のアプリケーションソフトの中には、まれにこの設定で正常に動作しないものがありますので、そのような場合は、{OFF}(2.5MHz)に設定してください。

●SW3

	スイッチ番号	スイッチの機能	ON	OFF
SW3	1	未使用		常にOFFの状態で使用してください。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8	未使用	常にONの状態で使用してください。	

 ご購入時の設定

■省電力の設定

98NOTEメニュー Copyright (C) NEC Corporation xxxx

省電力

省電力モード	フルパワー エコノミー カスタム
液晶ディスプレイ自動停止	設定する (約1分) 設定しない
内蔵固定ディスク自動停止	設定する (約3分) 設定しない
CPU自動停止	使用する 切り離す
LCD運動サスペンド/レジューム	使用する 使用しない
オートサスペンド	設定する (約13分) 設定しない
終了	

フルパワー…性能優先で動作します (推奨: A/Cアダプタ接続状態での使用)
 エコノミー…低消費電力で動作します (推奨: バッテリー駆動での使用)
 カスタム…任意の設定で動作します

↑ ↓: 選択, ← →: 設定, ESC+: メインメニューに戻る。



- ・次に本機を起動しなおしたときから設定内容が有効になります。
- ・設定時間後に有効となる機能を設定した場合、必ずWindows 95のCD-ROMの自動再生をOFFにしてください。ONのままだと機能が実行されない場合があります。

●省電力モード

本機の動作モードを設定します。「エコノミー」または「カスタム」にすると消費電力を抑えることができます。

項目	機能
フルパワー	本機の機能を最大限に使用するモードです。
エコノミー	液晶ディスプレイ自動停止(約1分)、内蔵固定ディスク自動停止(約1分)、CPU自動停止が自動的に設定されるモードです。
カスタム	液晶ディスプレイ自動停止、内蔵固定ディスク自動停止、CPU自動停止を自由に設定することができるモードです。



- ・「フルパワー」に設定すると、「液晶ディスプレイ自動停止」「内蔵固定ディスク自動停止」「CPU自動停止」は「設定しない」に固定されます。
- ・「エコノミー」に設定すると、「液晶ディスプレイ自動停止」「内蔵固定ディスク自動停止」「CPU自動停止」は「設定する」に固定されます。

●液晶ディスプレイ自動停止

{設定する}に設定しておく、キーボードやポインティングデバイス、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク、プリンタ、モデム(シリアルインターフェイス)を使用しないで設定した時間が経過すると、カラー液晶ディスプレイのバックライトが自動的に消灯します。キーボードやポインティングデバイスを使うと、バックライトが再び点灯します。

時間の設定は、キーボードの **ROLL UP**、**ROLL DOWN** で行います。**ROLL UP** を押すと、時間が長くなり、**ROLL DOWN** を押すと、時間が短くなります。最小約1分から最大約13分まで設定することができます。



ディスプレイの制御は、本機のカラー液晶ディスプレイに対してのみ機能します。別売のCRTディスプレイ(パワーマネジメント対応のものを含む)に対しては、機能しません。別売のCRTディスプレイの省電力機能についてはP.77をご覧ください。

●内蔵固定ディスク自動停止

内蔵のハードディスクのモータの制御時間を設定します。

{設定する}にしておく、アクセスしないで設定した時間を経過すると、内蔵のハードディスクの回転を自動的に停止します。再びアクセスを行うと、自動的に回転を始めます。時間の設定は、**ROLL UP**、**ROLL DOWN**で行います。**ROLL UP**を押すと、時間が長くなり、**ROLL DOWN**を押すと、時間が短くなります。最小約1分から最大約13分まで設定することができます。

●CPU自動停止

バッテリーで使用しているときに、消費電力を抑え、バッテリーでの使用時間をのばす機能です。



ACアダプタを接続しているときには、CPU自動停止は働きません。

●LCD連動サスペンド/レジューム

{使用する}にすると、液晶ディスプレイの開閉でサスペンド/レジュームすることができます。液晶ディスプレイを閉じると、作業中の内容が自動的にサスペンドされます。また、液晶ディスプレイを開けると、自動的にレジュームされます。



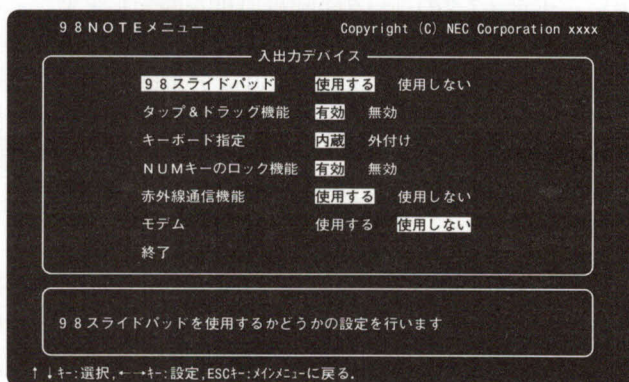
連続して液晶ディスプレイを開閉すると、本機に負担がかかります。フタの開閉は、少なくとも5秒以上の間隔をあげてください。

●オートサスペンド

オートサスペンドは、キーボードやポインティングデバイス、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク、プリンタ、モデム(シリアルインタフェース)、赤外線通信を使用しないで設定した時間が経過すると、自動的に本機をサスペンド状態にする機能です。作業を再開したいときには、サスペンドスイッチを押すとレジュームされます。

時間の設定は、キーボードの**ROLL UP**、**ROLL DOWN**で行います。**ROLL UP**を押すと、時間が長くなり、**ROLL DOWN**を押すと、時間が短くなります。最小約5分から最大約29分まで設定することができます。

■入出力デバイスの設定



●98スライドパッド

98スライドパッドを使用するかどうかを設定します。

{使用しない}にすると、98スライドパッドが使用できなくなり、ワープロなどのキー入力操作時の誤操作を防ぐことができます。

●タップ&ドラッグ機能

98スライドパッドでのタップ&ドラッグの操作(☞P.16)を有効にするかどうかを設定します。{無効}にすると、タップ&ドラッグの操作ができなくなります。

「98スライドパッド」を{使用しない}に設定している場合、「タップ&ドラッグ」の項目は設定できません。

●キーボード指定

本機に別売の外付けキーボードを接続した場合、本機のキーボードと外付けのキーボードのどちらを使うかを設定します。



「キーボード指定」は本機に別売の外付けキーボードを接続している場合のみ設定できます。

●NUMキーのロック機能

[NUM]のロック機能を使用するかどうかを設定します。

{無効}にすると、[NUM]をロックできなくなり、テンキー入力モードや [Vf] キーが使用できなくなります。

●赤外線通信機能

赤外線通信機能を使うかどうかを設定します。

赤外線通信機能を使うときは、{使用する}に設定してください。

{使用しない}にすると、割り込みレベルINT1 (IRQ5)が解放できます。



- ・「セキュリティの設定」で「赤外線通信機能I/Oロック」を「設定する」にしているときには「赤外線通信機能」の項目は設定できません。
- ・赤外線通信機能は、割り込みレベルINT1 (IRQ5)でのみ使用できます。他の機器でこの割り込みを使用しているときには「赤外線通信機能」を{使用する}に設定することができなくなります。
- ・{使用する}に設定するときには、必ずINT1 (IRQ5)が開放されていることを確認してください。



Windows 3.1をご使用の場合で、「赤外線通信機能」を{使用しない}に設定した場合、PCカードの使用する資源の設定を変更してください。詳しくは「PCカードサポートソフトウェアマニュアル」の「資源の設定方法」をご覧ください。

●モデム

モデムを使うかどうかを設定します。モデムを使うときには、{使用する}に設定してください。PC-9821Nr15/S10では、別売のFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)を取り付けた場合のみ設定できます。

コミュニケーションスロットにFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)が取り付けられていないときには設定できません。

■セキュリティの設定

98NOTEメニュー Copyright (C) NEC Corporation xxxx

セキュリティ

パワーオンパスワード	<input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する	<input type="button" value="変更する"/>
セットアップパスワード	<input type="checkbox"/> 使用しない	<input type="checkbox"/> 使用する	<input type="button" value="変更する"/>
シリアル I/Oロック	<input type="checkbox"/> 設定しない	<input type="checkbox"/> 設定する	
赤外線通信機能 I/Oロック	<input type="checkbox"/> 設定しない	<input type="checkbox"/> 設定する	
プリンタ I/Oロック	<input type="checkbox"/> 設定しない	<input type="checkbox"/> 設定する	
F D I/Oロック	<input type="checkbox"/> 設定しない	<input type="checkbox"/> 設定する	
終了			

このパスワードを設定すると、システム起動時にパスワード機能が働きます。

↑ ↓ キー: 選択, ← → キー: 設定, ESC+←: メインメニューに戻る。



- ・ I/OロックはWindows 3.1、Windows 95、Windows NT、OS/2にのみ対応しています。
- ・ MS-DOS用のアプリケーションソフトを利用する場合には、I/Oロック機能は使用できません。
- ・ Windows 95でI/Oロックを使用する場合には、98NOTEメニューの設定の前に「I/Oロックを使用するときの注意 **Windows 95**」(P.177)をご覧ください。
- ・ Windows NTでI/Oロックを使用する場合には、『再セットアップガイド』をご覧ください。

●パワーオンパスワード

パワーオンパスワードを設定すると、本機の電源をONにしたときに、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力しないと、本機を使用することができません。パスワードを知らない人が、無断で本機を使用するのを予防することができます。

パワーオンパスワードの設定方法はP.173、変更方法はP.174をご覧ください。



パワーオンパスワードを忘れると、本機を使用できなくなります。設定したパスワードは忘れないよう控えておくことをおすすめします。

パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要ですので、Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください(『サービス網一覧表』をご覧ください)。

- ・ パスワード解除処置は保証期間内でも有償です。
- ・ パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・ パスワード解除処置を依頼されるときには、下記のことをすべてご用意ください。
 - ①本機の購入を証明するもの(保証書等)
 - ②身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)
 - ③印鑑
- ・ パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応いたしかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

●セットアップパスワード

セットアップパスワードを設定すると、98NOTEメニューを起動するときに、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力しないと、98NOTEメニューを起動することができません。パスワードを知らない人が、無断で98NOTEメニューの設定を変えるのを予防することができます。

セットアップパスワードの設定方法はP.173、変更方法はP.174をご覧ください。



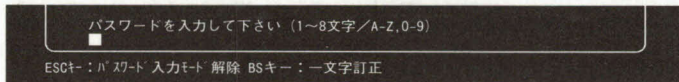
- ・セットアップパスワードを設定していない場合、使用者以外が故意に、または誤ってパワーオンパスワードやセットアップパスワードを設定してしまうと、本機が使用できなくなったり、98NOTEメニューが起動できなくなります。このような恐れがある場合は、セットアップパスワードを設定しておいてください。
- ・セットアップパスワードを忘れると、98NOTEメニューを起動できなくなります。設定したパスワードは忘れないよう控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください(『サービス網一覧表』をご覧ください)。

- ・パスワード解除処置は保証期間内でも有償です。
- ・パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・パスワード解除処置を依頼される際には、下記のをすべてご用意ください。
 - ①本機の購入を証明するもの(保証書等)
 - ②身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)
 - ③印鑑
- ・パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応いたしかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

●パワーオンパスワード、セットアップパスワードを設定する

パワーオンパスワード、セットアップパスワードとも、パスワードの設定方法は同じです。

- 1 キーボードの[↑][↓]を押して、「パワーオンパスワード」または「セットアップパスワード」を選びます。
- 2 キーボードの[←][→]を押して、{使用する}を選びます。
画面の下部に、パスワードの入力画面が表示されます。




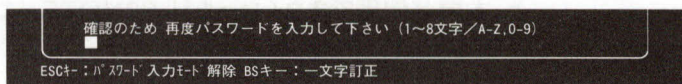
- 3 キーボードからパスワードを入力します。




- ・使用できる文字は、AからZまでのアルファベットと、0から9までの数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは、最小1文字から最大8文字まで入力できます。
- ・キーボードの[ESC]を押すと、パスワードの入力は中止され、{使用しない}に戻ります。

パスワードを入力すると、カーソルのところに「*」が表示されます。

- 4** キーボードの  を押します。
画面の下部に、次のように表示されます。






- 5** 確認のため、手順3で入力したパスワードをもう一度入力します。
パスワードを入力すると、カーソルのところに「*」が表示されます。
- 6** キーボードの  を押します。
入力したパスワードが正しい場合は、「OK!」と表示されパスワードの設定が終了します。

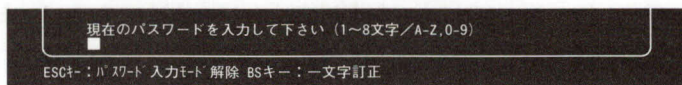



入力したパスワードが誤っている場合は、パスワードの設定は中止され、{使用しない}に戻ります。

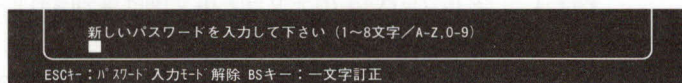
●パワーオンパスワード、セットアップパスワードの変更方法

パワーオンパスワード、セットアップパスワードとも、パスワードの変更方法は同じです。

- 1** キーボードの   を押して、「パワーオンパスワード」または「セットアップパスワード」を選びます。
- 2** キーボードの  を押して、{変更する}を選びます。
画面の下部に、パスワードの入力画面が表示されます。



- 3** キーボードから、現在使用しているパスワードを入力します。
パスワードを入力すると、カーソルのところに「*」が表示されます。
- 4** キーボードの  を押します。
入力したパスワードが正しい場合は、次のように表示されます。





入力したパスワードが誤っている場合は、パスワードの変更は中止され、{使用する}に戻ります。

5 キーボードから、新しいパスワードを入力します。



- ・ 使用できる文字は、AからZまでのアルファベットと、0から9までの数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは、最小1文字から最大8文字まで入力できます。
- ・ キーボードの[ESC]を押すと、パスワードの変更は中止され、{使用する}に戻ります。

パスワードを入力すると、カーソルのところに「*」が表示されます。

6 キーボードの[Enter]を押します。

7 確認のため、手順5で入力したパスワードをもう一度入力します。

8 キーボードの[Enter]を押します。

入力したパスワードが正しい場合、画面下部に「パスワードは変更されました」と表示されてパスワードの変更が終了し、{使用する}に戻ります。

●パワーオンパスワード、セットアップパスワードを解除する

パワーオンパスワード、セットアップパスワードとも、パスワードの解除方法は同じです。

1 キーボードの[↑][↓]を押して、「パワーオンパスワード」または「セットアップパスワード」を選びます。

2 キーボードの[←]を押して、{使用しない}を選びます。

画面の下部に、パスワードの入力画面が表示されます。

3 キーボードから現在使用しているパスワードを入力します。

4 キーボードの[Enter]を押します。

入力されたパスワードが正しい場合は、画面下部に「OK!」と表示され、パスワードが解除されます。



入力したパスワードが誤っている場合には、パスワードの解除は中止され、{使用する}に戻ります。

●シリアル I/Oロック

{設定する}にすると、次回起動時からはシリアルインターフェイスが使用できません。この機能により、シリアルインターフェイスからプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。

この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。



Windows 95使用時に「シリアルI/Oロック」を{設定する}にすると、赤外線通信に使用する通信ポート*がCOM1に自動的に割り当てられます。シリアル通信に使用する通信ポート*をCOM1に戻すには、いったん「シリアルI/Oロック」を{設定しない}、「赤外線通信機能 I/Oロック」を{設定する}にして、Windows95を起動し、再度「赤外線通信機能I/Oロック」を{設定しない}にしてWindows95を再起動してください。

*: 通信ポートの割り当ては、スタートメニュー→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」の[デバイスマネージャ]「コンピュータ」→「ポート(COMとLPT)」で確認することができます。

●赤外線通信機能 I/Oロック

{設定する}にすると、次回起動時からは赤外線通信機能が使用できません。この機能により、赤外線通信を利用してプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。



「入出力デバイスの設定」の「赤外線通信機能」が「使用しない」になっているときにはこの項目は設定できません。

●プリンタ I/Oロック

{設定する}にすると、次回起動時からはプリンタが使用できません。この機能により、プリンタからプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。

この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。

●FD I/Oロック

{設定する}にすると、次回起動時からはフロッピーディスクドライブが使用できません。この機能により、フロッピーディスクドライブを利用してプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。

この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。



Windows 3.1でFD I/Oロックを{設定する}にした場合、メモ리카ードは使用できません。また、CONFIG.SYSに以下の行がある場合、この行を削除してご使用ください。

DEVICEHIGH=A:¥DOS¥MCDRV.SYS

●I/Oロックを使用するときの注意 Windows 95

- ◆「セキュリティの設定」でI/Oロックを設定した場合、外部記憶装置(ハードディスク、光磁気ディスク装置等)を接続しないでください。
- ◆PCカードで接続されている外部記憶装置ではI/Oロック機能を使用することはできません。
- ◆シリアル I/Oロック以外のI/Oロックを設定する場合には、98NOTEメニューを起動する前に必ず次の操作を行ってください。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

2 [システム]アイコン  をダブルクリックします。

[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。

3 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。

4 I/Oロックの対象となる装置にマウスポインタを合わせクリックします。

5 [削除(E)]ボタンをクリックします。

対象となる装置が削除されます。

6 [OK]ボタンをクリックします。

デバイスマネージャが終了します。

7 Windows 95を終了します。

- ◆誤って、上記の操作を行わずにWindows 95を起動してしまったとき、[ディスプレイ]の競合エラーダイアログが表示される場合があります。この場合、次の操作を行ってください。

1 エラーダイアログの[キャンセル]ボタンをクリックします。


2 [ディスプレイ]の設定ダイアログが表示されますが、そのままの状態ですべてのボタンをクリックします([OK]ボタンをクリックした後、再起動を促すダイアログボックスが表示されますが[キャンセル]を選択し、再起動を行いません)。

3 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- 4** [システム]アイコンをダブルクリックします。
[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 5** [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 6** I/Oロックの対象となる装置にマウスポインタを合わせクリックします。
- 7** [削除(E)]ボタンをクリックします。
対象となる装置が削除されます。
- 8** [OK]ボタンをクリックします。
デバイスマネージャが終了します。
- 9** Windows 95を終了します。

◆ I/Oロックを{設定}の状態から{設定しない}に変更する場合は次の操作を行ってください。

- 1** 98NOTEメニューの[セキュリティの設定]で、I/Oロックを{設定しない}にします。
- 2** Windows 95を起動します。
- 3** [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントして[コントロールパネル]をクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 4** [ハードウェア]アイコンをダブルクリックします。
[ハードウェアウィザード]ウィンドウが起動します。
ハードウェアの自動検出を実行し、I/Oロックを{設定しない}に変更した装置の登録を行います。
- 5** [OK]をクリックします。
デバイスマネージャが終了します。
- 6** [スタート]ボタンをクリックし、[Windowsの終了(U)…]をクリックします。
- 7** [コンピュータを再起動する(R)]をクリックします。
- 8** [OK]ボタンをクリックします。
本機が再起動されます。

98NOTEメニューユーティリティ で設定する

98NOTEメニューユーティリティは、98NOTEメニューのうちよく使う設定項目を、MS-DOSやWindowsから直接設定変更できるようにしたユーティリティです。

ここでは、98NOTEメニューユーティリティの起動方法、操作方法、設定できる項目について説明しています。

各項目の概要については、「98NOTEメニューで設定する」をご覧ください。

98NOTEメニューユーティリティを起動する....

98NOTEメニューユーティリティを起動するには、次の方法があります。

■Windows 95をお使いの場合

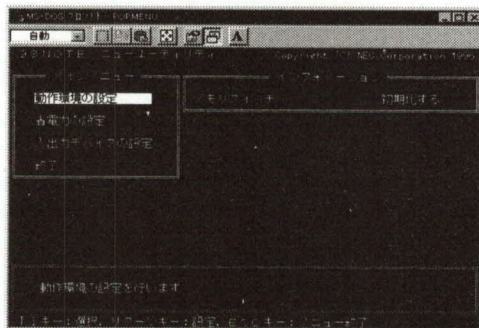
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム][アクセサリ]の順にポイントし、[98NOTEメニューユーティリティ]をクリックします。98NOTEメニューユーティリティが起動します。



98NOTEメニューユーティリティは、MS-DOSプロンプトから起動することもできます。起動方法は次の通りです。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]をクリックします。
- 2 メニューの中から[MS-DOSプロンプト]をクリックします。
- 3 「POPMENU」と入力して[Enter]を押します。

この方法で98NOTEメニューユーティリティを起動した場合、Windows 95のスタートボタンから起動したときと多少画面イメージが異なります。



■Windows 3.1をお使いの場合

- 1 プログラムマネージャの[メイン]アイコンをダブルクリックします。
[メイン]ウィンドウが表示されます。
- 2 [メイン]ウィンドウの中から[98NOTEメニューユーティリティ]アイコンをダブルクリックします。
98NOTEメニューユーティリティが表示されます。



98NOTEメニューユーティリティは、MS-DOSプロンプトから起動することもできます。起動方法は次の通りです。

- 1 プログラムマネージャの[メイン]アイコンをダブルクリックします。
[メイン]ウィンドウが表示されます。
- 2 [メイン]ウィンドウの中から[MS-DOSプロンプト]アイコンをダブルクリックします。
- 3 「POPMENU」と入力してキーボードの[Enter]を押します。

98NOTEメニューユーティリティを終了する....

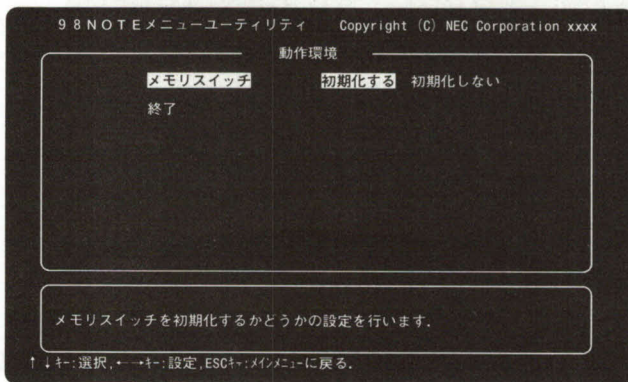
設定画面を終了すると、メインメニューに戻り、設定が有効になります。次の方法で、メインメニューを終了してください。

- 1 画面右側の各項目の設定値が、変更した設定値に変わっていることを確認します。
- 2 次のどちらかの方法でメインメニューを終了します。
 - ・ キーボードの[ESC]を押す
 - ・ 「終了」を選択し、キーボードの[Enter]を押す

98NOTEメニューユーティリティが終了し、WindowsまたはMS-DOSに戻ります。これで設定が有効になります。

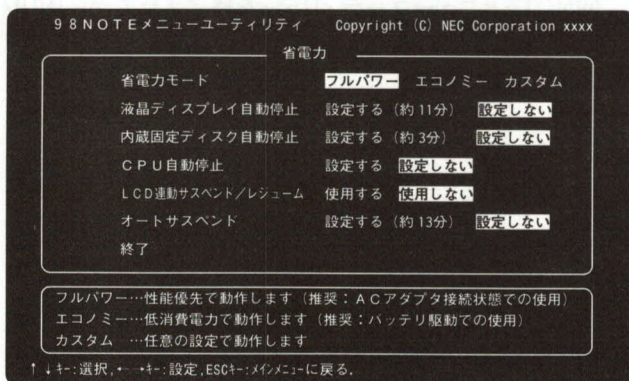
各メニューの設定

■動作環境の設定



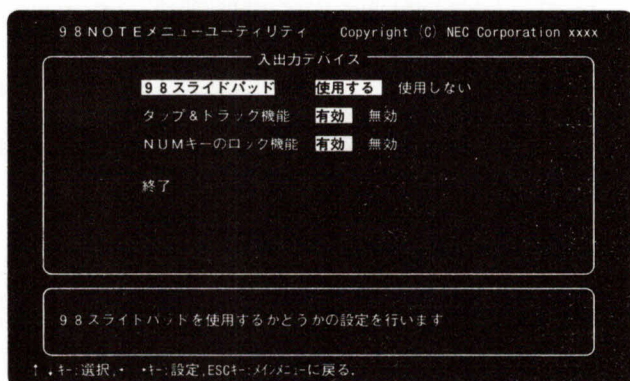
各項目の概要については、「98NOTEメニューで設定する」のP.163をご覧ください。

■省電力の設定



各項目の概要については、「98NOTEメニューで設定する」のP.168をご覧ください。

■入出力デバイスの設定



各項目の概要については、「98NOTEメニューで設定する」のP.170をご覧ください。



NUMをロックしている状態で98NOTEメニューユーティリティを起動し、「NUMキーのロック機能」を{無効}にしても、**NUM**のロックは解除されません。

98NOTEメニューユーティリティを終了させてから **NUM**を押してロックを解除してください。

メモリスイッチ (98環境設定ユーティリティ)

メモリスイッチは、コンピュータ本体内の専用メモリにあるソフトウェア的なスイッチです。98NOTEメニューと同様、本機の状態を設定することができます。通常はご購入時の状態のままで使用します。Windows 95をお使いの場合は、「98環境ユーティリティ」を使ってメモリスイッチを変更することができます。ここでは、変更する方法について説明しています。

メモリスイッチは、例えば次のような場合に変更します。

- ・RS-232Cのボーレートなどを設定する
- ・起動するドライブの検索順番を変更する(BOOT装置を変更する)
- ・オプションボードを使用する
- ・画面の表示色を変える

メモリスイッチを変更する前に.....

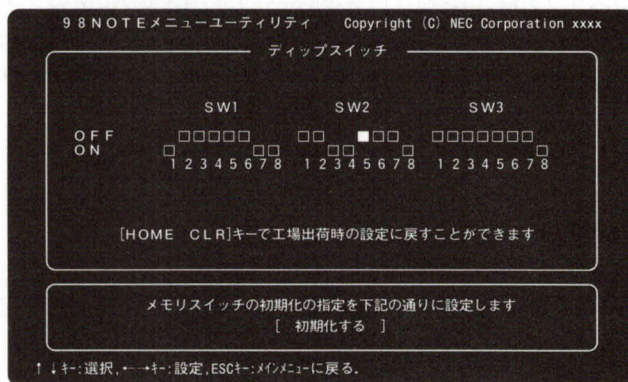


メモリスイッチを変更する前には、98NOTEメニューの「ディップスイッチの設定」の「メモリスイッチ」を{初期化しない}(SW2-5 ON)に設定してください。「メモリスイッチ」が{初期化する}(SW2-5 OFF)のままでは、メモリスイッチの変更は保持されません。そのため、変更後に電源をOFFにしたりすると、メモリスイッチの内容は初期化され、ご購入時の初期状態に戻ってしまいます。




メモリスイッチの内容は、本機内蔵のリチウムバッテリーによって保たれています。本機の電源をOFFにしたままの状態が2ヵ月ほど続くと、98NOTEメニューでメモリスイッチを{初期化しない}にしても、ご購入時の設定に戻ってしまうことがあります。このような場合には、メモリスイッチを{初期化する}に設定し、一度98NOTEメニューを終了します。メニューが終了し、本機を再起動したら、再度メモリスイッチを{初期化しない}にしてから、メモリスイッチを設定しなおしてください。このとき、ACアダプタを接続して本機の電源を約40時間ONのままにして、内蔵のリチウムバッテリーを充電してください。

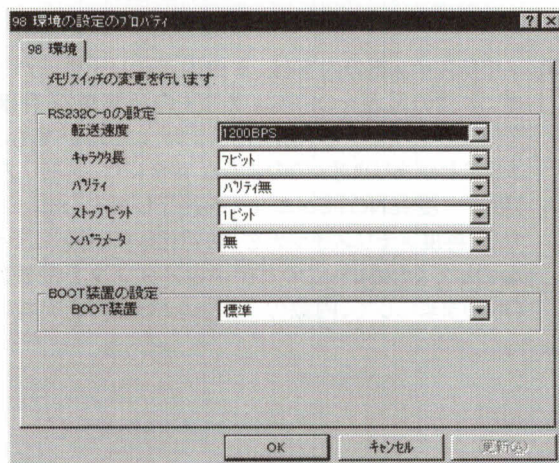
- 1 98NOTEメニューを起動し、「ディップスイッチの設定」を選択します。
- 2 「SW2」の「5」を選択し、でスイッチをON(下)にします。




メモリスイッチを変更する **Windows 95**

98環境設定ユーティリティで、本機のシステム環境を設定します。

- 1 Windows 95を起動して、[スタート]メニューをクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [98環境]アイコンをダブルクリックします。
[98環境の設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- 3** 次の表を参考にして、各項目を設定します。画面上の各項目にある  をクリックし、表示された中から選択したいものをクリックします。設定を変更するごとに[更新]ボタンをクリックします。

項目	内容
[転送速度]	RS-232Cの設定で、モデムのデータ転送速度を設定します。複数の速度で通信できるモデムもあるので、モデムのマニュアルを調べて、双方のシステムに使える通信速度を選んでください。
[キャラクタ長]	RS-232Cの設定で、2台のコンピュータ間でやり取りされるデータパケットのデータビット数を設定します。
[パリティ]	RS-232Cの設定で、転送データのパリティ属性の種類を設定します。
[ストップビット]	RS-232Cの設定で、転送データの終了ビット数を設定します。
[Xパラメータ]	RS-232Cの設定で、XON/XOFF制御を設定します。
[BOOT装置の設定]	システムを起動するディスク装置を指定します。



RS-232CやBOOT装置の設定は、MS-DOSモードのSWITCHコマンドで設定することもできます。MS-DOSプロンプトの画面から次のように入力してください。

SWITCH 

- 4** 設定を有効にする場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。変更しない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

- 5** 本機を再起動させます。

[スタート]ボタンをクリックし、[Windowsの終了]をクリックします。表示された[Windowsの終了]ウィンドウで[コンピュータを再起動する]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。

本機が再起動したらメモリスイッチの変更の作業は終了です。



付録

- Windows 95でMS-DOSモードを利用する
- 本機のお手入れ
- 本機の廃棄方法について
- ATコマンド(電話回線接続時)
- パソコン用語集
- 目的別索引
- 索引
- 98NOTEメニュー早見表
- 98NOTEメニューユーティリティ早見表
- 機能仕様
- FAXモデムボード機能仕様

Windows 95でMS-DOS モードを利用する

Windows 95

ここでは、Windows 95でMS-DOSモードを利用するために便利な、ユーティリティやMS-DOSコマンド、ドライバの使用方法や注意事項について説明しています。

コマンド書式の説明では、次のような意味で記号を使用しています。

< > …この中の項目は、必ず入力します。

[] …この中の項目は、必要に応じて入力します。

| …この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

MS-DOSモードを利用する.....

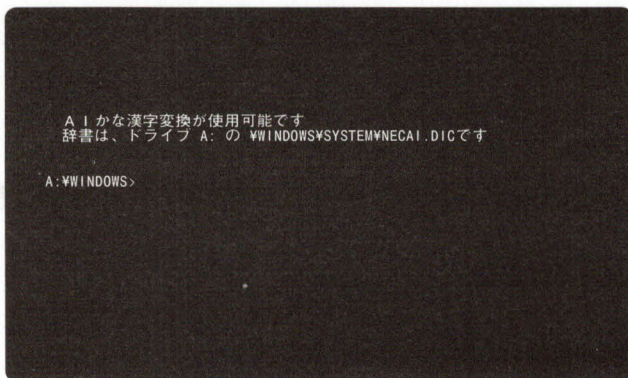
MS-DOSモードを利用すると、従来のMS-DOSで起動したときと同じような環境で本機を使うことができます。

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

■本機をMS-DOSモードで再起動する

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[Windowsの終了]をクリックします。
- 2 [MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。

本機がMS-DOSモードで再起動し、次の画面が表示されます。





■MS-DOSモードを終了する

- 1 コマンドプロンプトの画面から次のように入力してください。

EXIT 

Windows 95が再起動します。



MS-DOSモードとMS-DOSプロンプト

MS-DOSを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。

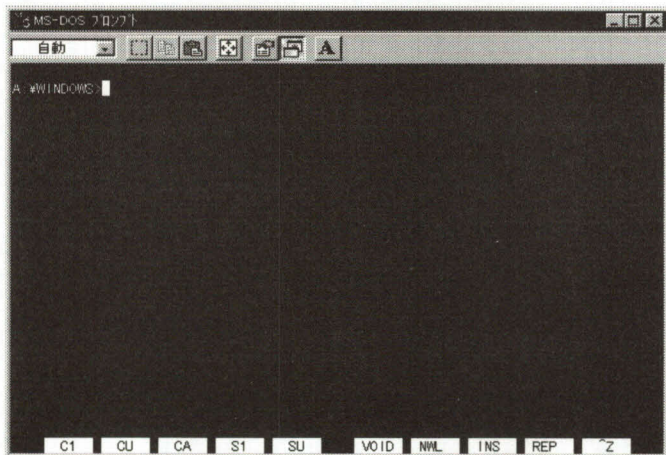
「MS-DOSモード」は、従来のMS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。

「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 95上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]をポイントし、[MS-DOSプロンプト]をクリックします。

「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。



なお、コマンドやアプリケーションによっては、「[MS-DOSプロンプト]」からは使用できないものもあります。

DOS環境設定ユーティリティ.....

従来からのMS-DOSの環境やMS-DOSアプリケーションを引き続きご利用になる方のために、DOS環境設定ユーティリティを用意しています。

DOS環境設定ユーティリティは、システム構築ファイル(CONFIG.SYS)と自動起動ファイル(AUTOEXEC.BAT)をMS-DOSモードで快適にご利用になるための設定を変更します。

Windows 95の起動ドライブのルートディレクトリにCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを作成します。既にCONFIG.SYSが存在する場合はそれを更新します。



Windows 95は、従来のWindows 3. XのようにMS-DOSをベースに動作はしていませんので、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定変更による影響はWindows 95にはありません。

■CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATはテキスト形式のファイルなので、[メモ帳]などのテキストエディタで編集/更新することができます。このDOS環境設定ユーティリティを使用すると、より簡単に編集/更新することができます。

●CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの編集

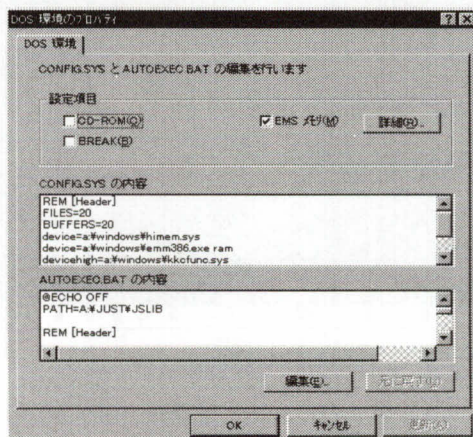
DOS環境設定ユーティリティで、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集します。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

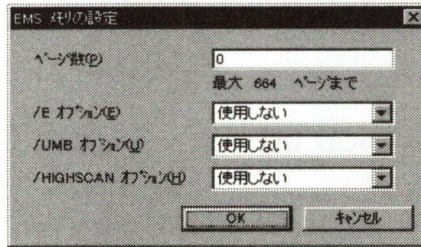
2 [DOS環境]アイコンをダブルクリックしてください。

[DOS環境のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [設定項目]の[CD-ROM]、[EMSメモリ]、[BREAK]を設定し、[CONFIG.SYSの内容]を変更し、[詳細]ボタンをクリックします。

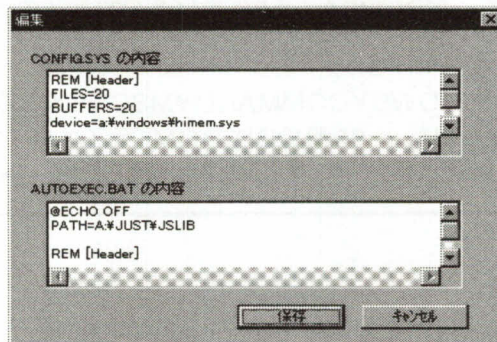
[EMSメモリの設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 4 [ページ数]、[/Eオプション]、[/UMBオプション]、[/HIGHSCAN]を設定した後、[OK]ボタンをクリックします。

- 5 編集したい内容を直接入力して設定するには、[編集]ボタンをクリックします。

[CONFIG.SYSの内容]と[AUTOEXEC.BATの内容]が表示されます。



- 6 入力した変更内容を有効にするには[保存]ボタンをクリックします。

[DOS環境のプロパティ]ダイアログボックスに戻ります。

- 7 今までのCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定を有効にする場合は、[OK]ボタンをクリックします。また、元に戻す場合は、[元に戻す]ボタンをクリックします。

●CONFIG.SYSの設定内容

CONFIG.SYSは、MS-DOSモードで使用するハードウェアの構成やメモリの環境を設定するファイルです。

CONFIG.SYSは、Windows 95の起動するドライブのルートディレクトリに作成されます。CONFIG.SYSの設定項目については、次の通りです。

◆CD-ROM

MS-DOSモードで使用するCD-ROMのドライブを組み込みます。次の書式で指定されます。

DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101

オプションスイッチ	機 能
/D:CD_101 /L:y	CD-ROMを使用するための指定をします。yはCD-ROMを割り当てるドライブ名です。



MS-DOSモードでCD-ROMを使用するには、CD-ROMドライブを組み込んだ後に、MSCDEX.EXEを実行する必要があります。

<書式例>

A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX.EXE/D:CD_101

なお、Windows 95用のCD-ROMドライブがインストールされていなければ、CD-ROMのチェックボックスは選択できません。

◆BREAK

プログラムまたは処理の実行を中止する[CTRL]+[C]の機能を、ディスクを対象とした読み書き作業などに拡張したり、設定の解除をします。次の書式で指定されます。

BREAK=[ON | OFF]

オプションスイッチ	機 能
ON	プログラムまたは処理の実行を中止する機能を拡張します。
OFF	拡張する設定を解除します。

◆EMSメモリ

プロテクトメモリをEMSメモリとして使えるようにします。また、コンベンショナルメモリを節約するために、UMBメモリを使用できます。次の書式で指定されます。

DEVICE=A:¥WINDOWS¥EMM386.EXE [RAM | /P=XXX | /E=XXXX-YYYY | /UMB | /HIGHSCAN]

オプションスイッチ	機 能
RAM	上位メモリの未使用メモリ領域をコンベンショナルメモリのように利用できます。
/P=XXX	使用するページ数を指定します。指定できる範囲は、0～664です。
/E=XXXX-YYYY	UMBとしてアロケートしない範囲を設定します(MS-DOSと同様)。
/UMB	RAMと同等です。
/HIGHSCAN	UMBまたはEMSとして使う上位メモリが使用できるかどうかをチェックするように指定します。

USKCGMコマンド.....

USKCGMコマンドは、ユーザが定義する文字パターン(ユーザ定義文字、または外字)を作成したり、ファイルへの保存やファイルから読み出したりするユーティリティです。また文字パターンをメモリに読み込んだり、プリンタに送って印字したりすることもできます。

●USKCGMコマンドの書式

USKCGMコマンドは、次の書式でコマンドプロンプトから実行します。

USKCGM [[<ドライブ名:>][<パス名>]<ファイル名>][/P]

<ファイル名>を指定すると、指定されたファイルを外字ファイル(ユーザ定義文字パターンを格納したファイル)として読み込み、その内容をパーソナルコンピュータ本体内のメモリに登録します。また、すべてのパラメータを省略すると、機能を選択するメニューが表示されます。

USKCGMコマンドのオプションスイッチ

オプションスイッチ	機 能
/P	<ファイル名>で指定した外字ファイルの内容をプリンタに送ります。以後そのプリンタはその文字パターンを印字できるようになります。

●USKCGMコマンドを使用する

ここでは、メニューを利用してUSKCGMコマンドを実行します。

●USKCGMコマンドの起動

コマンドプロンプトからUSKCGMコマンドを起動します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし[プログラム]をポイントし、[MS-DOSプロンプト]をクリックします。

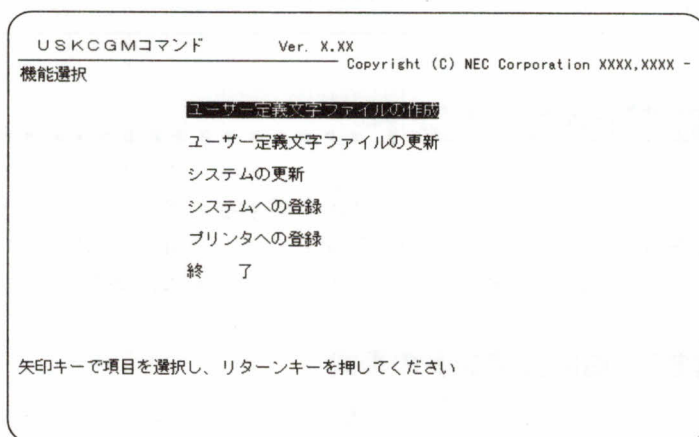
MS-DOSのコマンドプロンプトが表示されます。

- 2 コマンドプロンプトから次のように入力します。

USKCGM 




ユーザ定義文字管理ユーティリティ(USKCGM)が実行されます。

ユーザ定義文字管理ユーティリティの機能を選択するメニューが表示されます。

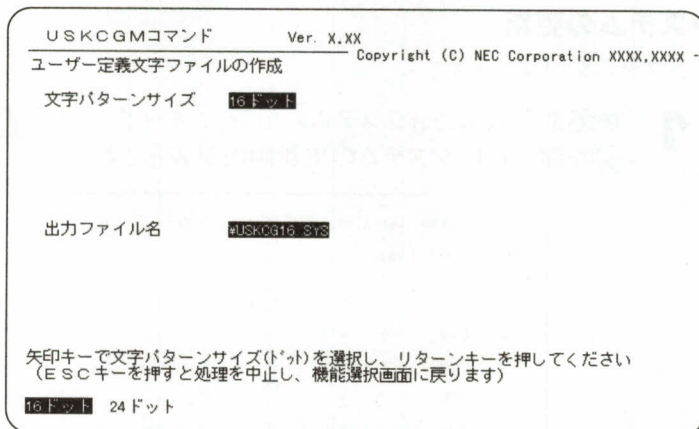


●ユーザ定義文字ファイルの作成

ユーザ定義文字ファイルを作成します。

- 1 機能選択画面で、[ユーザー定義文字ファイルの作成]にキーボードの   で白い四角を合わせた後、 を押します。

ユーザ定義文字ファイルの作成画面が表示されます。



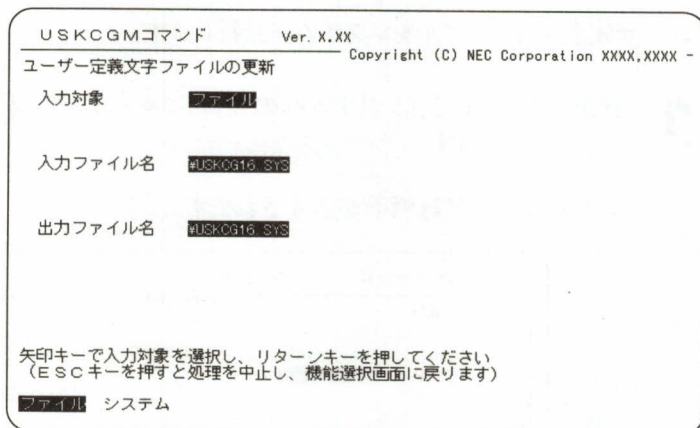
- 2 ユーザ定義文字ファイルの作成画面で、[文字パターンサイズ]と[出力ファイル名]を設定します。
- 3 ユーザ定義文字ファイルの作成を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの[Y] [↵]を押してください。ユーザ定義文字ファイルが作成されます。

●ユーザ定義文字ファイルの更新

ユーザ定義文字ファイルを更新します。

- 1 機能選択画面で、[ユーザ定義文字ファイルの更新]にキーボードの[↑] [↓]で白い四角を合わせ、[↵]を押します。

ユーザ定義文字ファイルの更新画面が表示されます。



- 2 ユーザ定義文字ファイルの更新画面で、[入力対象]、[入力ファイル名]、[出力ファイル名]を設定します。
- 3 ユーザ定義文字ファイルの更新を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの[Y] [↵]を押します。
ユーザ定義文字ファイルが更新されます。

●システムの更新

システムを更新します。

- 1 機能選択画面で、[システムの更新]にキーボードの \uparrow \downarrow で白い四角を合わせ、 \rightarrow を押します。システムの更新画面が表示されます。

USKCGM Ver. X.XX 1 . . . 5 . . . 10 . . . 15 .

現在のコード：7621

文字パターン：

N : 前進	0 : オフ
B : 後進	1 : オン
C : 削除	\uparrow : 上へ
R : 反転	\downarrow : 下へ
S : 参照	\leftarrow : 左へ
E : 終了	\rightarrow : 右へ

ESC: 処理中止 H : ホーム

JISコード：
(7621-767E, 7721-777E)

- 2 システムの更新画面で、システムの更新を設定します。
- 3 システムの更新を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの \downarrow \rightarrow を押します。
システムが更新されます。

●ユーザ定義文字ファイルのシステムへの登録

ユーザ定義文字ファイルをシステムに登録します。

- 1 機能選択画面で、[システムへの登録]にキーボードの \uparrow \downarrow で白い四角を合わせ、 \rightarrow を押します。

システムへの登録画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -

システムへの登録

入力ファイル名 **#USKCG16.SYS**

登録するファイル名を入力してください。(省略した場合はUSKCG16.SYSとなります)
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

- 2 システムへの登録画面で、[入力ファイル名]を設定します。
 - 3 システムへの登録を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの[Y]を押しします。
- ユーザ定義文字がシステムへ登録されます。



ユーザ定義文字をシステムへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名><パス名><入力ファイル名> [Y]

●ユーザ定義文字ファイルのプリンタへの登録

ユーザ定義文字ファイルをプリンタに登録します。

- 1 機能選択画面で、[プリンタへの登録]にキーボードの[↑][↓]で白い四角を合わせ、[Y]を押しします。

プリンタへの登録画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -

プリンタへの登録

入力対象	ファイル
入力ファイル名	USKCG24.SYS

登録するファイル名を入力してください。(省略した場合はUSKCG24.SYSとなります)
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

>

- 2 プリンタへの登録画面で、[入力ファイル名]を設定します。
 - 3 プリンタへの登録を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの[Y]を押しします。
- ユーザ定義文字がプリンタへ登録されます。



ユーザ定義文字をプリンタへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名><パス名><入力ファイル名> /P [Y]

AVGDRVコマンド、AVSDRVコマンド.....

拡張グラフィックドライバ(AVGDRV.SYSまたはAVGDRV.EXE)と拡張サウンドドライバ(AVSDRV.SYSまたはAVSDRV.EXE)を合わせて、拡張マルチメディア対応ドライバといえます。

Windows 95では、これらに該当するマルチメディア機能がインストール時に自動的に組み込まれますが、MS-DOSモードでマルチメディア対応のMS-DOSアプリケーションを使用する場合は、これらのドライバをインストールする必要があります。

本機でこれらのコマンドで利用するときは、本機をMS-DOSモードで再起動してください。

■AVGDRVコマンドについて

AVGDRV.SYSは拡張グラフィック機能を利用するためのデバイスドライバです。ウィンドウアクセラレータ機能を使用しないで、グラフィック表示を256色以上に表示することができます。AVGDRVコマンドでAVGDRV.SYSを組み込むことによって、拡張グラフィックス機能が利用できるようになります。

●AVGDRV.SYS、AVGDRVコマンドの注意事項

- ・AVGDRV.SYS、AVGDRVコマンドは、コンピュータ本体が拡張グラフィックス機能をサポートしている機種のみ、利用することができます。
- ・MS-DOSプロンプトでは、Windows 95のシステムのドライバが動作するため、AVGDRV.SYS、AVGDRVコマンドは使用しないでください。
- ・AVGDRVコマンドのスイッチ/Rでは、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで組み込んだAVGDRV.SYSを常駐解除することはできません。
- ・AVGDRVで/Eスイッチを指定する場合は、次のことを確認してください。
 - ・ページフレームがC0000H~CFFFFHの連続した64KBであること
 - ・連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能であること

●AVGDRVコマンドの書式

次の書式で[メモ帳]や[DOS環境設定ユーティリティ]などのテキストエディタを利用して、ADDDRV用定義ファイル、またはCONFIG.SYSに記述します。

DEVICE=[<ドライブ名:>][<パス名>]AVGDRV.SYS [/E | /C | /S | /R]

AVGDRVコマンドのオプションスイッチ

オプションスイッチ	機能
/E	ドライバの一部をEMSメモリに組み込み、メインメモリの消費を抑えます。
/C	数値演算コプロセッサを使用します。数値演算コプロセッサが実装されている場合にのみ指定できます。
/S	描画系の機能を切り離して、設定系の機能のみを組み込みます。
/R	拡張グラフィックドライバの常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで設定して組み込んだ場合は、解除できません。

●AVGDRVコマンドを使用する

拡張グラフィックドライバは、MS-DOSモードのコマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込むことができます。また、必要ない場合はメモリへの常駐を解除することもできます。

◆拡張グラフィックドライバの組み込み

拡張グラフィックドライバをメモリに常駐プログラムとして組み込むには、次のように入力します。

AVGDRV

◆拡張グラフィックドライバの解除

拡張グラフィックドライバをメモリから解除するには、次のように入力します。

AVGDRV /R

必要に応じてオプションスイッチを設定します。

■AVSDRVコマンドについて

AVSDRV.SYSは拡張サウンド機能を利用するためのデバイスドライバです。PCM音源を標準搭載している機種、またはPC-9801-86、PC-9801-73相当のサウンドボードを取り付けている機種で利用できます。AVSDRVコマンドでAVSDRV.SYSを組み込むことによって、拡張サウンド機能が利用できるようになります。

●AVSDRV.SYS、AVSDRVコマンドの注意事項

- ・インストール時に2種類のデバイスドライバを同時に選択した場合、デバイスドライバが正しくインストールされないことがあります。必ず1種類のみ選択してください。
- ・AVSDRV.SYSはコンピュータ本体が拡張サウンド機能をサポートしている機種のみ、AVSDRVコマンドは、コンピュータ本体がFM音源とPCM音源をサポートしている機種のみ、利用することができます。
- ・MS-DOSプロンプトでは、Windows 95のシステムのドライバが動作するため、AVSDRV.SYS、AVSDRVコマンドは使用しないでください。
- ・AVSDRVコマンドのスイッチ/Rでは、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで組み込んだAVSDRV.SYSを常駐解除することはできません。
- ・AVGDRVで/Eスイッチを指定する場合は、ページフレームがC0000H~CFFFFHの連続した64KBであることと、連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能であることを確認してください。

●AVSDRVコマンドの書式

次の書式で[メモ帳]や[DOS環境設定ユーティリティ]などのテキストエディタを利用して、ADDDRV用定義ファイル、またはCONFIG.SYSに記述します。

DEVICE=[<ドライブ名>:][<パス名>]AVSDRV.SYS [/E | /F | /P | /R]

AVSDRVコマンドのオプションスイッチ

オプションスイッチ	機能
/E	ドライブの一部をEMSメモリに組み込み、メインメモリの消費を抑えます。
/F	FM音源機能のみを組み込みます。
/P	PCM音源機能のみを組み込みます。
/R	拡張サウンドドライバの常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで設定して組み込んだ場合は、解除できません。

●AVSDRVコマンドを使用する

拡張サウンドドライバは、MS-DOSモードのコマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込むことができます。また、必要ない場合はメモリへの常駐を解除することもできます。

◆拡張サウンドドライバの組み込み

拡張サウンドドライバをメモリに常駐プログラムとして組み込むには、次のように入力します。

AVSDRV 

◆拡張サウンドドライバの解除

拡張サウンドドライバをメモリから解除するは、次のように入力します。

AVSDRV /R 


必要に応じてオプションスイッチを設定してください。

日本語入力機能.....

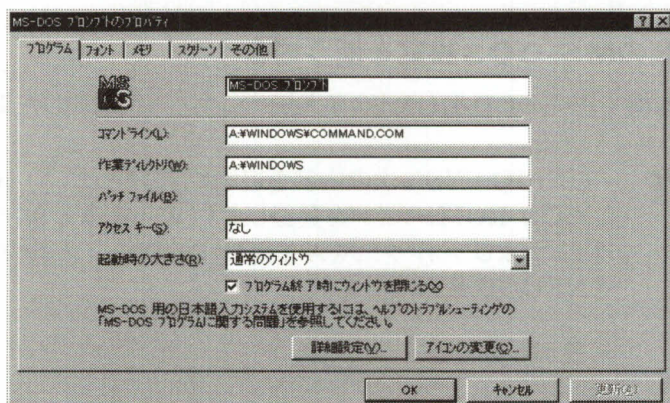
[MS-DOSプロンプト]上ではWindows 95のかな漢字変換、またはDOSかな漢字変換を使用し日本語の入力が行えます。DOSかな漢字変換が組み込まれていない場合は、自動的にWindows 95のかな漢字変換が動作し、入力できるしくみになっています。

DOSかな漢字変換の組み込み方法は次のとおりです。

1 [スタート]ボタンをクリックし[プログラム]をポイントして[MS-DOSプロンプト]をクリックします。

2 [プロパティ]ボタンをクリックします。

[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ウィンドウが表示されます。



3 [プログラム]タブをクリックし、[バッチファイル]に次のように入力します。

DOSIME.BAT

4 [OK]ボタンをクリックします。

NECAI DOSかな漢字変換はWindows 95のNECAIIME95と辞書を共有しており、登録した単語や学習情報をそのまま使用することができます。辞書を切り替えたい場合は、Windows 95のNECAIIME95、環境設定の[辞書]タブで行ってください。なお、Windows 95がインストールされているドライブ(通常は「A:」)のルートディレクトリにあるDOSIME.SYSファイル(ADDDRV用定義ファイル)の内容を書き替えれば、お好みのDOSかな漢字変換に変更することもできます。



- Windows 95上でWindows 3.1のかな漢字変換をお使いの場合は、[MS-DOSプロンプト]ではDOSかな漢字変換による日本語入力しか行えません。
- ADDDRVによりMS-DOSかな漢字変換を組み込む場合は、Windows 95用の「KKCFUNC.SYS」を使用してください。通常「KKCFUNC.SYS」は、WINDOWSディレクトリにあります。なお、従来のMS-DOS用KKCFUNC.SYSは使用できません。

CD-ROMドライバ.....

MS-DOSモードで、CD-ROMドライブを使用する場合は、次の手順が必要です。
CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATの編集方法は、「DOS環境ユーティリティ」の「CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する」(P.190)を参照してください。

●現在のMS-DOS設定を使う場合

本機で別売のCD-ROMドライブをドライブベイに増設した場合に関する内容です。

- 1 CONFIG.SYSに次の内容を追加し、接続されているCD-ROMドライブに対応したCD-ROMドライバを登録します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA:¥WINDOWS、インストールしたCD-ROMドライバをNECCD.SYSとします)。

<追加する内容>

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

- 2 AUTOEXEC.BATに次の内容を追加します(CD-ROMを割り当てるドライブをQドライブとします)。

<追加する内容>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX¥D:CD_101 /L:Q
```



内蔵のCD-ROMドライブとSCSI1モードまたはSCSI2モード用CD-ROMドライブを同時に使用する場合は、上記手順1、2それぞれの追加する内容を、次のように読み替えてください。

<手順1で追加する内容>

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCDB.SYS /D:CD_102
```

<手順2で追加する内容>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q
```

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD_102 /L:R
```

- 3 [Windowsの終了]から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択するか、[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ダイアログボックスの詳細設定で、[MS-DOSモード]および[現在のMS-DOS設定を使う]チェックボックスをONに設定し、MS-DOSプロンプトを起動します。



●新しいMS-DOS設定を指定する

新しいMS-DOS設定を指定する場合、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]をポイントし[エクスプローラ]をクリックします。

[エクスプローラ]ウィンドウが表示されます。

- 2 新しいMS-DOS設定を指定したいプログラムをクリックします。

プログラム名が反転表示されます。

- 3 [エクスプローラ]の[ファイル]メニューから[プロパティ]をクリックします。

- 4 [プログラム]タブをクリックして、[詳細設定]ボタンをクリックします。

- 5 [MS-DOSモード]および[新しいMS-DOS設定を指定する]チェックボックスをONに設定し、CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATのリストボックスに、次の内容を追加します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA:¥WINDOWS、インストールしたCD-ROMドライブをNECCD.SYS、CD-ROMを割り当てるドライブをQドライブとします)。

<CONFIG.SYSに追加する内容>

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

<AUTOEXEC.BATに追加する内容>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q
```

- 6 [OK]ボタンをクリックします。

[プログラムの詳細設定]ウィンドウが閉じます。

- 7 [OK]ボタンをクリックします。

[プロパティ]の画面が閉じます。

- 8 [エクスプローラ]で新しいMS-DOS設定を指定したプログラムをダブルクリックします。

MS-DOSモードで起動します。

●外付け用CD-ROMドライブを使う場合

本機で外付け(SCSI-1またはSCSI-2モード)用CD-ROMドライブを使用するには次の手順で行ってください。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]をポイントし[MS-DOSプロンプト]をクリックします。

2 コマンドプロンプトから次のように入力します。

CD ¥WINDOWS¥COMMAND

カレントディレクトリが変更されます。

3 次のように入力します。

COPY NECCD.SYS NECCD.ORG

NECCD.SYSのファイル名がNECCD.ORGに変更されます。

4 次のように入力します。

COPY NECCDB.SYS NECCD.SYS

NECCDB.SYSがNECCD.SYSにコピーされます。

5 「上書きしますか」のメッセージが表示されたらキーボードの を押します。

6 「現在のMS-DOS設定を使う場合」を参照して、CONFIG.SYS、AUTOEXEC. BATを変更してください。



本機で、上記手順を行うと本機内蔵のCD-ROMドライブは使用できなくなります。

本機で、上記手順を行ったあとで、本機内蔵CD-ROMドライブを使用する場合は、次の手順でCD-ROMドライブを元に戻してください。

- ① [スタート]メニューの[プログラム]から[MS-DOSプロンプト]を起動します。
- ② コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを変更します。

CD ¥WINDOWS¥COMMAND

- ③ 次のように入力します。

COPY NECCD.ORG NECCD.SYS

「上書きしますか」のメッセージが表示されたら「Y」と入力してください。

●CD-ROMドライブの注意事項

インストール時に2種類以上のドライブを同時に選択した場合、ドライブが正しくインストールされないことがあります。必ず1種類のみ選択してください。

本機のお手入れ

ここでは、本機のお手入れ方法を説明しています。

⚠注意



感電注意

- お手入れの前には、本機の電源をOFFにして電源コードを抜いてください。

電源コードのプラグがACコンセントに接続されたままお手入れすると、感電の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。



発火注意

- 電源コードのプラグにほこりがたまった状態で本機を使用しないでください。

電源コードのプラグにほこりがたまのまま長い間清掃しないと、プラグのピンの中で放電(トラッキング現象)が起こり、火災の原因となります。

■電源コード

電源コードのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがありますので、定期的に清掃することをおすすめします。

■本機外側

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。



- ・水や中性洗剤は、絶対に本機に直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本機の外装を傷めたり、故障の原因となります。

■液晶ディスプレイ

乾いた柔らかいきれいな布で、軽く拭いてください。



- ・水や中性洗剤は、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。液晶ディスプレイを傷めたり、故障の原因となります。

■フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブは、ひと月に一回程度を目安として、清掃することをおすすめします。

フロッピーディスクドライブの清掃用として、クリーニングディスクがあります(別売)。クリーニングディスクについては、ご購入元またはNECサービスセンター、サービスステーションにおといあわせください。

■キーボード

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。

キーのすきまにゴミなどが入った場合は、掃除機で吸い出すなどして、取り除いてください。ゴミがとれない場合は、最寄りのNECサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。



- ・水や中性洗剤は、絶対にキーボードに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本機の外装を傷めたり、故障の原因となったりします。

■スライドパッド

パッド上に汚れが付着した場合は、乾いたきれいな布で軽く拭いてください。

汚れがひどい場合は、水かうすめた中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。



- ・水や中性洗剤は、絶対に本機に直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。パッドを傷めたり、故障の原因となったりします。
- ・水や中性洗剤を使用した場合、乾いてから操作してください。濡れたままだと、マウスポインタが移動しなくなる場合があります。

本機の廃棄方法について

ここでは、本機の廃棄方法について説明します。本機を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。



バッテリーパック、サブバッテリー、リチウムバッテリーは、本機から取り外して、地方自治体の条例に従って廃棄してください。

バッテリーパックの廃棄について.....

本機に添付されているバッテリーパックは、ニッケル水素バッテリーです。本機から取り外して廃棄してください。バッテリーパックの取り外し方は、P.55をご覧ください。

△注意



発火注意



破裂注意

- バッテリーパックは、火の中に入れてください。
火の中に入れると、爆発したり、破裂したりすることがあります。

サブバッテリーの廃棄について.....

本機には、サブバッテリーが内蔵されています。サブバッテリーは、本機から取り外して廃棄してください。

■サブバッテリーの取り外し

バッテリーは、次の手順で取り外してください。



サブバッテリーの取り外しには+（プラス）ドライバが必要です。

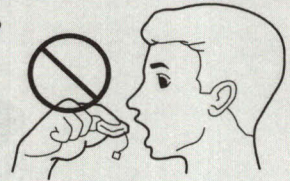
⚠ 警告



毒物注意

- サブバッテリーは、絶対に口に入れないでください。

サブバッテリー内部には、人体に有害な物質が含まれています。万一、口に入れたり飲み込んだりした場合は、すぐに吐き出し、うがいをして、医師に相談してください。



- サブバッテリーは、短絡（ショート）防止対策をしてください。また、他の電池と混ぜないでください。

端子に絶縁テープを貼るなどの短絡（ショート）防止対策をせずに乾電池など他の電池と混ぜると、化学反応がおこり、内部の液が漏れて皮膚などを痛めることがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 機器の取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま機器の取り外しをすると、感電の原因となります。



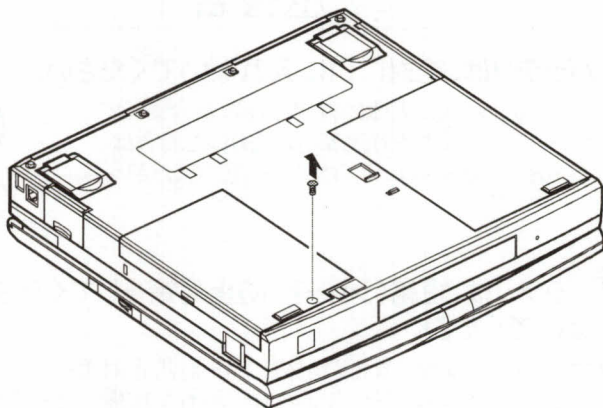
- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

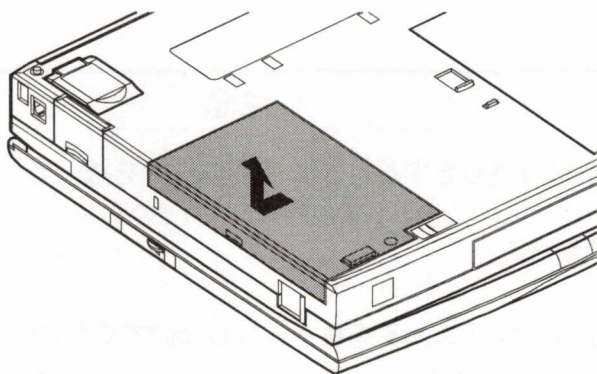
- 雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

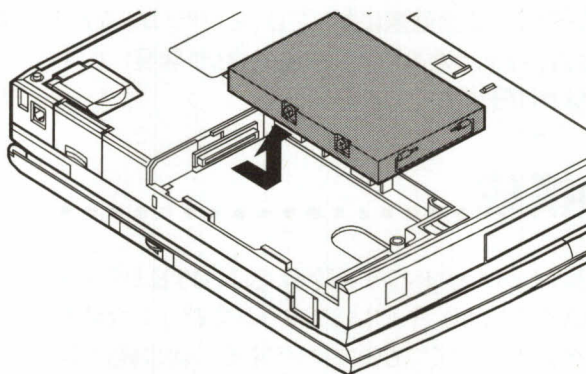
- 1** 本機の電源をOFFにして、電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 2** ACアダプタを本機から取り外します。
- 3** 本機にケーブル類が接続されている場合はすべて取り外します。
- 4** 本機のフタ(カラー液晶ディスプレイ)を閉じて本機を裏返します。
- 5** 図の位置のネジ1カ所をプラスドライバーで取り外します。



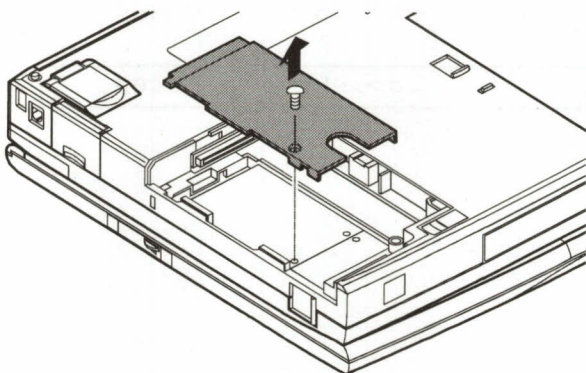
- 6** ハードディスクのカバーを矢印の方向へスライドさせ本機から取り外します。



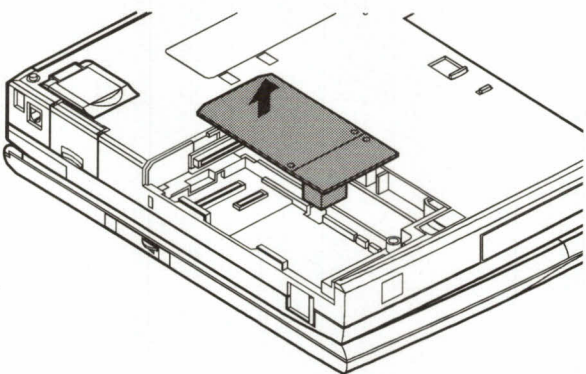
- 7** ハードディスクを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



- 8** 図の位置のネジをプラスドライバーで取り外し、モデムカバーを取り外します。



- 9** モデムボードが入っている場合は、ボードを矢印の方向に引き抜きます。



- 10** コミュニケーションスロット底部のミシン目部分をカッター等で切り取り、サブバッテリーを本機から取り外します。

- 11** サブバッテリーのケーブル先端部のコネクタを本機から引き抜きます。

ATコマンド(電話回線接続時)

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE(パソコンなどの端末機器)からのコマンドにより自動発着信を行うために米国Hayes社が開発したコマンド体系で“AT”で始まることからこのように呼ばれています。

コマンドの構成.....

ATコマンドセット(A/コマンドを除く)では、DTEが送る各コマンドラインはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターンで終了しなければなりません。ATシーケンスは、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、Aのようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は64です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、ラインの残りは無視されます。

A	T	コマンド列	CR
---	---	-------	----

ATコマンド一覧

■基本ATコマンド

種類	ATコマンド	機能
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答にしている状態で、応答する場合に使用する。
コマンドの再実行	A/	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの値には「AT」はつけない。また、最後の☐もつけない。
ITU-T規格の設定 ☆	B	300、1200bpsのスピードで接続する場合の通信規格を指定する。 B0 ITU-T規格(初期値)。初期値で使用してください。
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。 P …………… パルスダイヤル(ダイヤル回線)。 T …………… トーンダイヤル(プッシュ回線)。 W …………… 第2ダイヤルトーンを検出する(DDX等のダイヤルトーンを検出する)。 @ …………… 5秒間の無音状態を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。 , …………… S8レジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。構内交換機、ゼロ発信等でダイヤルを待つ場合に使用する。 0~9、*、# 相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「-」、「()」、「[]」等が使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。 : …………… ダイヤル後コマンドモードに戻る。 ! …………… 0.5秒間、回線をオンフック(回線断)する。 S=n …… &Znで登録した電話番号にダイヤルする。 L …………… 最後にかけた番号にリダイヤルする。 ^ …………… V.25コーリングトーンを出力する。断続の1300Hzコーリングトーンを出力する(データモード)。連続の1300Hzコーリングトーンを出力する(FAXモード)。
コマンドエコー有無の設定 ☆	E	DTE(パソコン側)から送られたコマンドのエコー(文字をそのまま送り返す)の有無を指定する。 E0 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。 E1 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す(初期値)。
回線の接続/切断	H	H0 回線を切断(オンフック)する。 H1 回線を接続(オフフック)する。
識別コード表示	I	モデムの識別コードを表示する。 I0 製品コードを表示する。 I1 ROMのチェックサムコードを表示する。 I2 ROMのチェックを実行する。 I3 メーカー名および品名を表示する。
モニタースピーカ最大音量設定 ☆	L	本機のボリュームが最大位置にあるときのスピーカの音量を設定する。 L0 音量小。 L1 音量小。 L2 音量中。 L3 音量大(初期値)。
モニタースピーカの動作設定 ☆	M	内部モニタースピーカのON、OFFのタイミングを指定する。 M0 スピーカを常にOFFにする。 M1 キャリアを検出するまでONにする(初期値)。 M2 スピーカを常にONにする。 M3 ダイヤル終了からキャリア検出までONにする。

☆AT & Wnでバックアップ可能

種類	ATコマンド	機能
自動モードの設定 ☆	N	相手モデムとの通信速度決定の方法を指定する(+MSコマンドも参照)。 N0 相手モデムとの通信速度決定を自動で行わない。 +MSの自動モード=0と同じ。 N1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う。 +MSの自動モード=1と同じ。
オンラインモードに戻る	O	オンラインモード中にエスケープコマンド(++)によってコマンドモードになったときに、再びオンラインモードに戻るのに使用する。 O0 オンラインモードに戻る。 O1 トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。
パルス回線(ダイヤル回線)モードの設定 ☆	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。
リザルトコードの設定 ☆	Q	リザルトコードをDTE(パソコン側)に返すか、返さないかのモードを指定する。 Q0 リザルトコードをパソコンに返す(初期値)。 Q1 リザルトコードをパソコンに返さない。
Sレジスタの読みだし	Sr?	Sレジスタrの内容を読みだす。ATS0? [OK]でS0レジスタの内容を読みだす。
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタnを設定する。 ATSr=n [OK]でrに設定したいレジスタの番号、nにレジスタの値を10進数で設定する。 ATS2=43 [OK]でS2レジスタに43(10進数)を設定する。
トーン回線(プッシュ回線)モードの設定 ☆	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。
リザルトコードタイプの設定 ☆	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。 V0 リザルトコードを数字表示に設定する。 V1 リザルトコードを文字表示に設定する(初期値)。 ※V0を指定した場合は、YVコマンドによる拡張は無効となり、CONNECT XXXXに対応する数字のみが返る(S95による指定は除く)。
接続リザルトコード拡張(エラー訂正)の設定 ☆	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 W0 接続時にDTEスピードのみを返す(初期値)。 (例 CONNECT 19200) W1 接続時にキャリアスピード、エラー訂正プロトコル、DTEスピードの順に返す。 W2 接続時にDCEスピードのみを返す。 注)本指定はS75のb0が0の場合のみ有効。
接続時のリザルトコードの設定 ☆	X	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 X0 リザルトコードの拡張は行わない。 X1 リザルトコードに接続時のスピードを付加する。1200bps以上のスピードで接続された場合、「CONNECT XXXX」とスピードを表示する。 X2 X1に加えて、ダイヤル時にダイヤルトーンの検出を行う。ダイヤル時に5秒以内にダイヤルトーンを検出できなかつたら「NO DIAL TONE」を表示する。 X3 X1に加えて、ビジートーン(話中音)の検出を行う。ビジートーンを検出したら「BUSY」と表示する。 X4 X2、X3をあわせて表示、または検出する(初期値)。
ブレイク信号の動作指定 ☆	Y	ブレイク信号に関する動作を指定する。 Y0 ブレイク信号を受信しても、回線を切断しない(初期値)。 Y1 ブレイク信号を1.6秒間以上受信すると、回線を切断する。回線切断時(ATH等のコマンド)は、ブレイク信号を相手モデムに4秒間送出する。 ※ダイレクト、ノーマルモード接続時のみ有効。エラー訂正プロトコル(V42、MNP)で接続されている場合は、プロトコルの動作に従う。

☆AT&Wnでバックアップ可能



種類	ATコマンド	機能
モデムの初期化	Z	<p>モデムを不揮発性メモリの保存内容で初期化する。</p> <p>Z0 不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。</p> <p>Z1 不揮発性メモリのプロファイル1の保存内容で初期化する。</p> <p>※このコマンドは完了までに約2秒かかり、実行中に他のコマンドは受け付けられない。</p> <p>なお、コマンド列の中にこのコマンドが含まれているときは、それ以降のコマンドは無視される。</p>
キャリア検出信号(CD)の動作 ☆	&C	<p>CD信号(DCD)の動作を指定する。</p> <p>&C0 CD信号を常にONにする。</p> <p>&C1 CD信号はキャリアが検出されるとONになる(初期値)。</p>
データ端末レディ(DTR)の動作 ☆	&D	<p>DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。</p> <p>&D0 DTR信号は無視し、常にONとして扱う。</p> <p>&D1 DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。</p> <p>&D2 DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる(初期値)。</p> <p>&D3 DTR信号がOFFになると、初期化される。(ATZコマンド実行状態になる)。</p>
リザルトコードのスピード表示 ☆	&E	<p>リザルトコードのスピード表示を指定する。</p> <p>&E0 DCEスピードを表示する(初期値)。</p> <p>&E1 DTEスピードを表示する。</p> <p>※S75のb0が1の場合のみ有効。</p>
パラメータの初期化 ☆	&F	<p>各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。</p> <p>※AT&Yコマンドは初期化されない。</p>
ガードトーンの設定 ☆	&G	<p>モデムのガードトーンの有無を指定する。</p> <p>&G0 ガードトーンなし(初期値)。</p> <p>&G1 ガードトーンなし。</p> <p>&G2 1800Hzのガードトーンあり。</p>
DTEのフロー制御 ☆	&K	<p>DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS,XON/XOFF)を指定する。</p> <p>&K0 フロー制御をしない。</p> <p>&K3 RTS/CTSフロー制御をする(初期値)。</p> <p>&K4 XON/XOFFフロー制御をする。</p> <p>&K5 透過XON/XOFFフロー制御をする。</p> <p>&K6 RTS/CTSとXON/XOFFフローを同時に行う。</p>
通信モードの設定 ☆	&M	<p>通信モードを指定する(&Qの一部コマンドと同様)。</p> <p>&M0 ダイレクト非同期モードで接続する。</p>
ダイヤルパルススピードの設定 ☆	&P	<p>ダイヤルパルスのスピードを指定する。</p> <p>&P0 ダイヤルパルスを10PPSにする(表示は&P1)。</p> <p>&P1 ダイヤルパルスを10PPSにする。</p> <p>&P2 ダイヤルパルスを20PPSにする(初期値)。</p>
通信モードの設定 ☆	&Q	<p>通信モードを指定する。</p> <p>&Q0 ダイレクト非同期モードで接続する。</p> <p>&Q5 エラー訂正プロトコルで接続する(初期値)。</p> <p>&Q6 ノーマルモードで接続する。</p>
RTS/CTSの設定 ☆	&R	<p>RTS/CTSの制御で、モデムがCTS線をどのように制御するかを指定する。</p> <p>&R0 V25bisのハンドシェイクに従って動作する。</p> <p>&R1 CTSはフロー制御が必要な場合のみOFFになる(初期値)。</p>
データセットレディ(DSR)の制御 ☆	&S	<p>DSR信号の動作を指定する。</p> <p>&S0 DSR信号は常にON。</p> <p>&S1 DSR信号が回線接続中にONになる(初期値)。</p>

☆AT&Wnでバックアップ可能

種類	ATコマンド	機能
テストモードの設定	&T	<p>モデムのテストを行う。</p> <p>&T0 テストを終了する。</p> <p>&T1 ローカルアナログループバックテストを行う。</p> <p>&T3 ローカルデジタルループバックテストを行う。</p> <p>&T4 相手側モデムとして、リモートデジタルループバックテストを許可する。</p> <p>&T5 相手側モデムとして、リモートデジタルループバックテストを禁止する。</p> <p>&T6 リモートデジタルループバックテストを行う(自己診断は行わない)。</p> <p>&T7 リモートデジタルループバックテストと、自己診断を行う。</p> <p>&T8 自己診断と、ローカルアナログループバックテストを行う。</p> <p>※テストコマンド実行後(AT&T0以外)は、必ず AT&T0を実行すること。</p> <p>ATS18レジスタと合わせて使用する。</p> <p>ループバックテストの詳細に関してはITU-TのV54を参照。</p> <p>ノーマルモード、またはダイレクトモードで実行すること。</p>
パラメータの書き込み	&W	<p>現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。</p> <p>&W0 不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。</p> <p>&W1 不揮発性メモリのプロファイル1に書き込む。</p> <p>※この値は、電源をオンしたとき(AT&Ynコマンドで0、1を指定)、またはATZnコマンドで初期化したときに使われる。各々のコマンドを参照。</p>
プロファイルの設定 ☆	&Y	<p>電源立ち上げ時のプロファイル読み込みを設定する。</p> <p>&Y0 プロファイル0を指定する。</p> <p>&Y1 プロファイル1を指定する。</p>
電話番号の保存 ☆	&Z	<p>ATDS=<n>コマンドでダイヤルする場合の、電話番号を指定する。</p> <p>&Zn=XXXXXXX</p> <p>n=0~3、XXXXは電話番号(34桁以下)</p> <p>例) AT&Z2=03-1234-5678</p> <p>ダイヤル番号バッファ2に指定の番号を保存する。</p> <p>※電話番号として使用できるのは、ATDコマンドの電話番号のうち「:」、「S=n」以外のコマンド。</p>
データ圧縮の指定 ☆	%C	<p>データ圧縮の方法を指定する。</p> <p>%C0 データ圧縮をしない。</p> <p>%C1 MNP5のデータ圧縮を行う。</p> <p>%C2 V42bisのデータ圧縮を行う。</p> <p>%C3 V.42bis/MNP5のデータ圧縮を行う(初期値)。</p>
リトレーニング等の自動再実行 ☆	%E	<p>回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング)、回線速度を変更するかどうかの指定をする。</p> <p>%E0 リトレーニングを自動で再実行しない。</p> <p>%E1 リトレーニングを自動で再実行する。</p> <p>%E2 回線速度の変更を可能にする(初期値)。</p> <p>%E3 リトレーニングの自動再実行を行うが、回線状態が切断レベルまで悪化した場合はすぐに回線を切断する。</p> <p>※データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものではない。</p>
最大ブロックサイズの設定 ☆	YA	<p>MNPで接続するときのブロックサイズを設定する。</p> <p>YA0 最大ブロックサイズ64</p> <p>YA1 最大ブロックサイズ128(初期値)</p> <p>YA2 最大ブロックサイズ192</p> <p>YA3 最大ブロックサイズ256</p>
ブレイク信号を送信	YB	n×100msのブレイク信号を送信する。

☆AT&Wnでバックアップ可能

種類	ATコマンド	機能																		
ブレイク信号の動作 ☆	YK	ブレイク信号を受けたときの動作を指定する。																		
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>オンラインモード時にパソコンからブレイク信号を受けた</td> <td>オンラインモード時に相手モデムからブレイク信号を受けた</td> </tr> <tr> <td>n=0</td> <td>コマンドモードになる。相手モデムにはブレイクを送らない。</td> <td rowspan="2">データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る</td> </tr> <tr> <td>n=1</td> <td>データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。</td> </tr> <tr> <td>n=2</td> <td>YK0と同じ</td> <td rowspan="2">バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る</td> </tr> <tr> <td>n=3</td> <td>バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る</td> </tr> <tr> <td>n=4</td> <td>YK0と同じ</td> <td rowspan="2">バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る</td> </tr> <tr> <td>n=5</td> <td>バッファのデータを送った後で相手モデムにブレイクを送る</td> </tr> </table>		オンラインモード時にパソコンからブレイク信号を受けた	オンラインモード時に相手モデムからブレイク信号を受けた	n=0	コマンドモードになる。相手モデムにはブレイクを送らない。	データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る	n=1	データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。	n=2	YK0と同じ	バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る	n=3	バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る	n=4	YK0と同じ	バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る	n=5	バッファのデータを送った後で相手モデムにブレイクを送る
			オンラインモード時にパソコンからブレイク信号を受けた	オンラインモード時に相手モデムからブレイク信号を受けた																
		n=0	コマンドモードになる。相手モデムにはブレイクを送らない。	データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る																
		n=1	データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。																	
		n=2	YK0と同じ	バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る																
		n=3	バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る																	
n=4	YK0と同じ	バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る																		
n=5	バッファのデータを送った後で相手モデムにブレイクを送る																			
通信モードの設定 ☆	YN	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。																		
		YN0 ノーマルモードで通信する。V.42、MNP等を使用しない。																		
		YN1 ダイレクトモードで通信する。																		
		YN2 V.42、MNPモードで接続する。 相手モデムがV.42、MNPモードでない場合は接続しない。																		
		YN3 V.42、MNPモードで接続する(初期値)。 相手モデムがV.42、MNPでない場合は、ノーマルモードで接続する。																		
		YN4 V.42モードで接続できる。 相手モデムがV.42でない場合は、接続しない。																		
YN5 MNPモードで接続する。 相手モデムがMNPでない場合は、接続しない。																				
		※V.42、MNPの場合は、V.42→MNPの順に相手モデムとの接続を試す。 &M、&Qコマンドも参照。																		
DTEのフロー制御 ☆	YQ	DTE (パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS、XON/XOFF)を指定する。 YQ0 フロー制御をしない。 YQ1 XON/XOFFフロー制御をする。 YQ2 RTS/CTSフロー制御をする。 YQ4 RTS/CTSとXON/XOFFフロー制御を同時に行う。 ※&Kコマンドを参照。																		
モデムの状態表示	YS	現在設定されているコマンドの一覧を表示する。 YS0 現在の状態を表示する。 YS1 保存されている状態を表示する。																		
拡張リザルトコードの指定 ☆	YV	拡張リザルトコードを指定する。 YV0 拡張リザルトコードを使用しない。 YV1 拡張コードにエラー訂正の表示をする。 /LAMP、/REL YV2 拡張コードにエラー訂正、圧縮を含んだ表示をする(初期値)。 /MNP、/LAPM /MNP5、/V42bis、 YV3 拡張コードに圧縮、またはエラー訂正を含んだ表示をする。 例えば、CONNECT 28800/LAPM/V42bis ※このコマンドはS75のb0が1の場合のみ有効。																		

☆AT &Wnでバックアップ可能

種類	ATコマンド	機能
変調方式の指定 ☆	+MS	<p>+MS=〈変調方式〉、〈自動モード〉、〈最低スピード〉、〈最高スピード〉2番目以降のパラメータは、省略可能(途中の省略は不可)。 相手モデムとの通信方式、手順、スピード等を指定する。</p> <p>変調方式</p> <p>0 :V.21 300bpsで接続される。 1 :V.22 1200bpsで接続される。 2 :V.22bis 2400/1200bpsで接続される。 9 :V.32 9600/4800bpsで接続される。 10 :V.32bis 14400~4800bpsで接続される。 11:V.34 28800~2400bpsで接続される(初期値)。</p> <p>自動モード 接続時の自動ネゴシエーションの指定を行う。 0:自動モード(V.8)を使用しない。 1:自動モード(V.8)を使用する(初期値)。</p> <p>最低スピード 最低の変調速度を指定する(初期値300) 300,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400 16800,19200,21600,24000,26400,28800が指定できる。</p> <p>最高スピード 最高の変調速度を指定する(初期値28800) 300,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400, 16800,19200,21600,24000,26400,28800が指定できる。</p>
エスケープ	+++	<p>オンラインモードのとき、パソコンから前後1秒間(S12レジスタで設定可能)の時間をあけて、「+++」のコマンドが入力されると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。 「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないので☑等は入力しないこと。</p>

☆AT & Wnでバックアップ可能



相手FAXが音声応答のFAXの場合、接続できない可能性があります。
その場合は以下のコマンドによりBUSYトーン検出をOFFにしてください。

コマンド構文: ATX0

■リザルトコード

数字	文字	内容
0	OK	コマンドを実行した
1	CONNECT	回線接続した(X0~X4時)
2	RING	呼び出し信号を検出した
3	NO CARRIER	キャリアが検出できないか、キャリアが消滅した
4	ERROR	<ul style="list-style-type: none"> ・ コマンド エラー ・ Iコマンドに値するチェックサムがNG ・ その他、動作不可のコマンドを実行した
5	CONNECT 1200	1200bpsで接続した(X1~X4時)
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンが検出できない ・X2、X4、Wコマンド設定時
7	BUSY	話中音が検出された
8	NO ANSWER	@コマンド使用時に、5秒間無音状態が検出できなかった
10	CONNECT 2400	DCE-DCE、DTE-DCE間を2400bpsで接続した
11	CONNECT 4800	DCE-DCE、DTE-DCE間を4800bpsで接続した
12	CONNECT 9600	DCE-DCE、DTE-DCE間を9600bpsで接続した
13	CONNECT 7200	DCE-DCE、DTE-DCE間を7200bpsで接続した
14	CONNECT 12000	DCE-DCE、DTE-DCE間を12000bpsで接続した
15	CONNECT 14400	DCE-DCE、DTE-DCE間を14400bpsで接続した
16	CONNECT 19200	DTE-DCE間を19200bpsで接続した
17	CONNECT 38400	DTE-DCE間を38400bpsで接続した
18	CONNECT 57600	DTE-DCE間を57600bpsで接続した
19	CONNECT 115200	DTE-DCE間を115200bpsで接続した
24	DELAYED	リダイヤル不可(S75 b1=0の場合)
33	FAX	自動モードでFAXモードになった
35	DATA	自動モードでDATAになった
40	CARRIER 300	0~300bpsのデータレートが検出された
46	CARRIER 1200	1200bpsのデータレートが検出された
47	CARRIER 2400	2400bpsのデータレートが検出された
48	CARRIER 4800	4800bpsのデータレートが検出された
49	CARRIER 7200	7200bpsのデータレートが検出された
50	CARRIER 9600	9600bpsのデータレートが検出された
51	CARRIER 12000	12000bpsのデータレートが検出された
52	CARRIER 14400	14400bpsのデータレートが検出された
53	CARRIER 16800	16800bpsのデータレートが検出された
54	CARRIER 19200	19200bpsのデータレートが検出された
55	CARRIER 21600	21600bpsのデータレートが検出された
56	CARRIER 24000	24000bpsのデータレートが検出された
57	CARRIER 26400	26400bpsのデータレートが検出された
58	CARRIER 28800	28800bpsのデータレートが検出された
59	CONNECT 16800	DTE-DCE間を16800bpsで接続した

数字	文 字	内 容
61	CONNECT 21600	DTE-DCE間を21600bpsで接続した
62	CONNECT 24000	DTE-DCE間を24000bpsで接続した
63	CONNECT 26400	DTE-DCE間を26400bpsで接続した
64	CONNECT 28800	DTE-DCE間を28800bpsで接続した
66	COMPRESSION:CLASS 5	MNPクラス5で接続した
67	COMPRESSION.V.42BIS	V.42bisで接続した
69	COMPRESSION NONE	圧縮無しで接続した
70	PROTOCOL:NONE	エラー訂正無しで接続した
77	PROTOCOL:LAP-M	エラー訂正 V.42LAPMで接続した
78	CARRIER 31200	31200bpsのデータレートが検出された
79	CARRIER 33600	33600bpsのデータレートが検出された
80	PROTOCOL:ALT	エラー訂正 MNP4で接続した
84	CONNECT 33600	33600bpsで接続した
91	CONNECT 31200	31200bpsで接続した
+F4	+FCERROR	FAXコマンドエラー

■Sレジスタ

Sレジスタ	機能	説明
S0	自動着信する呼び出し回数設定 ☆	呼び出し音(リング)の何回目で自動着信するかを設定。 S0=0 自動着信しない(初期値) S0=1~255 n回目の呼び出しを受けると自動着信。
S1	呼び出し回数のカウント	呼び出し音の回数をカウント。呼び出し音を検出されると、S1レジスタの値が+1される。なお、呼び出し音が止まってから8秒たつとS1は0になる。S0が0の場合は、S1は+1されない。初期値はS1=0。
S2	エスケープコードの文字設定 ☆	エスケープコードに使うキャラクタコードを0~127の値の間で設定。初期値はS2=43(キャラクタ「+」)。
S3	復帰(キャリッジリターン)コードの文字設定	復帰コードのキャラクタコードを0~127の値の間で設定。初期値はS3=13(16進数で0D)。
S4	改行(ラインフィード)コードの文字設定	改行コードのキャラクタコードを0~127の値の間で設定。初期値はS4=10(16進数で0A)。
S5	バックスペースコードの文字設定	バックスペースコードのキャラクタコードを設定。コマンドの1文字訂正に使用。0~32および127が設定可能。このレジスタには表示可能なコード(33~126)は設定できない。初期値はS5=8(16進数で08)。
S6	ダイヤル開始までの待ち時間 ☆	オンフックしてからダイヤルするまでの待ち時間を設定。Xコマンドがダイヤルトーンを検出しない場合(X0、1、3)に有効。ダイヤルトーンを検出する場合(X2、4)はS6レジスタの値は無効。3~10の値を秒単位で指定。初期値はS6=4(4秒)。
S7	接続待ち時間の設定 ☆	ダイヤルしてから接続されるまでの接続待ち時間を30~58の間で秒単位で設定。設定した時間内に接続されないと「NO CARRIER」がパソコンに返される。初期値はS7=50(50秒)。
S8	ポーズコマンドの時間設定 ☆	ダイヤル時のポーズコマンド「,」の待ち時間を2~255の値で秒単位で設定。初期値はS8=2(2秒)。
S9	キャリア検出の時間設定 ☆	相手モデムからのキャリアを検出する時間を設定。接続時に、設定した時間以上連続してキャリアが検出されると、回線を接続。1~255の値を0.1秒単位で設定。初期値はS9=6(0.6秒)。
S10	キャリア断検出の時間設定 ☆	回線の接続中に、設定した時間以上連続してキャリアが検出できない場合にキャリア断として回線を切断。1~255の値を0.1秒単位で設定。S10=255の場合はキャリア断を無視(キャリアが切れても回線を切断しない)。初期値はS10=14(1.4秒)。
S12	エスケープコードのガードタイムの設定 ☆	エスケープコマンド(++)の前後のガード時間を設定。エスケープコマンドの前後には、設定されたガード時間以上データの無い時間が必要であり、++との間はこの時間より短くなければならない。0~255の値を1/50秒単位で設定。初期値はS12=50(1秒)。
S18	テスト時間の設定 ☆	AT&Tで行われるテスト時間を設定。S18=0の場合は、テストは中断されるまで連続して行われる。0~255の値を1秒単位で設定。初期値はS18=0。
S24	スリープ時間の設定	モデムがスリープモードに入るまでの時間を設定。0~255の値を1秒単位で設定。0の場合はスリープモードに入らない。初期値はS24=10。
S25	DTR遅延設定 ☆	DTRが変化したことを検出するまでの遅延時間を0~255の値の間で0.01秒単位で設定。初期値はS25=5。

☆AT&Wnでバックアップ可能

Sレジスタ	機能	説明
S30	無通信タイマ ☆	データの送受信が行われない場合の回線切断タイマで、0～255の値の間で10秒単位で設定。S30=0の場合はデータの送受信が行われない場合でも回線切断は行われない。初期値はS30=0。
S38	回線切断の時間設定 ☆	切断コマンドATHO (DTR信号で切断するようにコマンドされているとき)によって切断されるまでの時間を設定。 S38=0～254の場合 設定した時間リモートモデムを待機させ、バッファ内のデータを読みとってから切断。データを送る前にタイムアウトしたときは「NO CARRIER」となり、タイムアウト前にすべてのデータを送出したときは「OK」を返す。 S38=255の場合 タイムアウトしないで、接続が切れるまで、またはデータを送り終わるまでバッファ内のデータを送信。 初期値はS38=20 (20秒)。
S75	拡張リザルトコード ☆	リザルトコードの形式を指定。 b0 リザルトコードの形式を指定。 =0 S95の指定に従う。 =1 1行ですべてのリザルトを返す(初期値)。 b1 リダイヤル規制のリザルトコードの形式を指定。 =0 「DELAYED」で返す。 =1 「NO CARRIER」で返す(初期値)。
S95	拡張リザルトコードの設定 ☆	リザルトコードの返し方を指定。 b0 CONNECTのスピードをDCEスピードで返す(W2)。 b1 /ARQのエラー訂正をCONNECTの後ろにつける。 b2 接続中にCARRIER XXXXのリザルトを返す。 b3 接続中にPROTOCOL XXXXのリザルトを返す。 b5 接続中にCOMPRESSION XXXXのリザルトを返す。 このSレジスタの指定は、S75のb0が0の場合のみ有効。初期値はS95=0。

☆AT & Wnでバックアップ可能

パソコン用語集

あ

■アイコン

ソフトウェアで、コマンド(命令)や処理を表現するために使用する絵文字。

ポインティングデバイスでアイコンの上にマウスポインタを動かしてクリックすることで、コンピュータにさまざまな指示を与えることができるようになっている。

■アクセス

メモリや周辺機器からデータを呼びだしたり、あるいは書き込んだりすること。

■アプリケーションソフト

文書作成、データ管理、表計算といった各々の作業を実行するためのソフトウェアのこと。

■インストール

オペレーティングシステム(OS)やアプリケーションソフトを、ハードディスクなどに組み込んで使用できる状態に設定すること。

■インターフェイス

装置と装置の境界部分。通常、パソコン本体と周辺機器とをつなぐコネクタを指すことが多い。

■ウィンドウアクセラレータ

Windowsの実行スピードを向上させ、Windowsの高解像度表示を実現できる機能のこと。

■液晶ディスプレイ

電圧のON/OFFにより、分子を規則正しく並べることのできる液晶を利用したディスプレイ。小型軽量で、どこにでも持ち運べるほか、低消費電力でバッテリー駆動が簡単にできるというのが大きな特長。液晶ディスプレイにはSTN型、TFT型などがある。

■オペレーティングシステム(OS)

ハードウェアとアプリケーションソフトの間で、プログラムの制御や管理、入出力の制御などを行うためのソフトウェア全般を指す。基本ソフトウェアともいう。

か

■カーソル

ディスプレイ画面上に文字や図形を入力、表示する位置を示すマークのこと。四角が画面上に点滅するもの、下線が点滅するものなどがある。

■拡張メモリ

メインメモリ以外である特定の手段をとることで、利用可能になるメモリ。

■起動

システムに電源を入れて、動作を開始すること。あるいは、プログラムを呼び出して、実行すること。「立ち上げる」ともいう。

■キャッシュメモリ

CPUとメインメモリの間に置かれるメモリ。キャッシュメモリを使用すると、CPUは、読み込みのためにいちいちメモリまでアクセスする必要がなくなるので処理速度が向上する。

■グラフィック

絵や図形などの画像のこと。PC-9800シリーズでは、文字とは違う画面に表示されるのが普通である。通常テキスト画面(文字画面)1枚とグラフィック画面2枚を持ち、それを重ね合わせてディスプレイ上に表示することができる。

■クロック周波数

パソコン本体に内蔵されているCPUの動作周波数のこと。同じCPUであれば、この数値が大きいほど、パソコンの処理速度は速い。

■コマンド

OSやアプリケーションソフト、周辺機器などに各種の処理を行わせるための命令のこと。

■コンピュータウイルス

コンピュータのプログラムに侵入し、ファイルの内容を破壊したり、プログラムを暴走させたりするなどの有害な動作をするプログラムのこと。

さ

■サスペンド

作業中の状態を一時的にメモリに保存すること。

■システムソフトウェア

オペレーティングシステムなど、コンピュータを動かすための基本的なソフトウェアのこと。

■システムディスク

システムソフトウェアが記録されているフロッピーディスクのこと。

このフロッピーディスクから、システムソフトウェアを読み込んでコンピュータを動作させる。

■周辺機器

プリンタ、ディスプレイ、モデムなどの、コンピュータ本体に接続して使用する、本機以外の機器全般のこと。

■初期化

周辺機器や記録媒体を使用できる状態にすること。どこにどういう情報を書き込むか、どの情報を読むかなどをコンピュータにわかるように、いわば区画整理をして、あるソフトウェアのもとで使用できる状態にすることを「初期化」または「Format(フォーマット)」という。

■シリアルインターフェイス

コンピュータと周辺装置の間でデータをやりとりする際に、1ビット単位でデータを送ることができる方式のこと。

■スクロール

画面に表示する範囲を、上下左右に移動させること。

■赤外線通信

赤外線を使って、コードレスで他の機器とデータのやりとりをすること。

■全二重通信

端末どうしの通信で、送信と受信が同時に行われる通信方式のこと。

■ソフトウェア

アプリケーションソフト、オペレーティングシステムなどプログラム全般のこと。

コンピュータ本体、周辺機器などのハードウェアに対して、このように呼ばれる。

た

■通信条件

パソコンと周辺機器などとの間で取り決める通信の条件。送信および受信側とは同じ条件に設定しなければ通信できない。

■通信速度

1秒間に送るデータの通信量。

bps (Bit per Second)の単位が使用される。

■ディップスイッチ

コンピュータの状態を変更するために使われるスイッチのこと。ON/OFFを切り替えることで、システムの状態を変更できる。

■データ

コンピュータが扱う情報のこと。文字データ、画像データなどがある。

■デジタルサンプリング機能

オーディオ入力端子やマイクロホンから入力した音声などのアナログ信号を、デジタル信号に変換してサンプリングする機能。人の声など、FM音源では再現できない音も、簡単に雑音の少ない原音に近い音で再現できる。

なお、本機のデジタルサンプリングは、PCM(Pulse Code Modulation)方式。

■デュアルスキャンSTN液晶ディスプレイ

液晶ディスプレイの表示方法の1つ。液晶の分子を90度より大きくねじることで、明暗のコントラストをよりはっきりとさせることができるSTN液晶を、上下に2分割して、同時に表示させることでさらに見やすくなったもの。

■同期通信

通信するデータにタイミングを合わせる信号を入れ、送信側と受信側で同期を取りながら転送を行う方式。

な

■入力装置

コンピュータに命令や情報などを入力するために用いる装置。代表的なものがキーボードである。マウスやイメージスキャナなども入力装置の一種。

■ネットワーク

複数のコンピュータを電話回線などの通信網でつなぎ、データでやりとりする形態のこと。パソコン通信やLANもネットワークの一種。

は

■バージョン

ソフトウェアやハードウェアなどの開発された順番を示す表現。通常は数字などで表され、新しく開発されたものほど数字が大きくなる。

■ハードウェア

コンピュータ本体や周辺機器などの機械類のことを総称して、ハードウェアという。これに対して、ハードウェアを動かすプログラムのことをソフトウェアという。

■ハードコピー

プリンタを用いて、紙にディスプレイ画面の表示と同様のコピーをとること。

■ハードディスク

補助記憶装置のひとつで、固定ディスクともいう。表面に磁性体を塗った円盤数枚からなる。1台のパソコンで複数のアプリケーションソフトを切り替えながら使用する場合、ハードディスクに登録しておく、いちいちフロッピーディスクを取り替えなくてよい。

■ハーフピッチ

接続用コネクタ内のピンの間隔が、従来のものより狭い仕様のもの。本機では、シリアルコネクタ、プリンタ用コネクタがハーフピッチ仕様である。

■バイト

コンピュータが扱うデータの基本的な単位。01000001のように、2進法8桁で表現される。また、2進法の1桁をビットと呼ぶ。つまり、8ビットで1バイトとなる。

■パソコン通信

電話回線などを介して、手元のパソコンを相手のパソコンや大型コンピュータ(ホストコンピュータ)などと接続し、情報(データ)をやりとりすること。

■バックアップ

ディスクやファイルのトラブルに備えて、予備のディスクやファイルを作成すること。

■パラレルインターフェイス

複数の線を使用し、データを並列(パラレル)に送る方式のこと。本機では、プリンタ用のコネクタがパラレルインターフェイスである。これに対して、データを1ビットずつ送るシリアルインターフェイスがある。

■半二重通信

端末どうしの通信で、送信と受信が同時に行えない通信方式のこと。送信と受信をくり返して通信を行う。

■ビット

コンピュータが扱う情報量の最小単位。0(ゼロ)か1のいずれかの情報をもつことができる。ビットが8つで8ビットとなり、これを1バイトという。

■非同期通信

データの前にスタートビット、後にストップビットを付けて送信する通信方式。これに対して同期通信がある。

■フォーマット

ディスクを初期化すること。あるいは書式のこと。

■プログラム

コンピュータが処理を行うためのコンピュータへの指示。命令語や条件文、データなどから構成される。アプリケーションソフトなどもこのプログラムの組み合わせである。

■プロンプト

コマンドの入力を受け付けていることを知らせる表示。MS-DOSではA>などの記号が表示される。

■ポインティングデバイス

ディスプレイの表示画面上のマウスポインタを動かして、特定の一点を指定するための入力装置。マウスや98スライドパッドなどに代表される。

■ホームポジション

キーを速く、正確に打つためには、指をキーボード上の一定の位置に置くことが大切で、この定位置をホームポジションという。左手の人差し指をF(は)キーに、右手の人差し指をJ(ま)キーに置き、それ以外の指はそれぞれの隣のキーに置くようにする。親指はスペースキーの上に置く。

ま

■マウス

画面上にある一点を指し示すための入力用周辺機器。形状がネズミに似ていることから、この名がある。

■マウスポインタ

98スライドパッドやマウスが画面上のどの位置を指しているかを示すもの。矢印の形をしているものがほとんどである。マウスカーソルともいわれる。

■メニュー

処理内容やコマンドの種類を一覧にして画面に表示したもの。ユーザは、この中から必要な処理を選択し、次の処理を行う。選択は、カーソルキーや98スライドパッドなどで行う。

■メモリ

内部記憶装置のこと。CPUがデータを処理する際に、そのデータを一時的に保管する場所をいう。自由にデータを読み書きできるRAM(ラム)と、書かれているデータを読み出すことしかできないROM(ロム)がある。一般RAMに書き込まれたデータは電源を切ると消えてしまうが、ROMに書き込まれたデータは消えることはない。

■メモリスイッチ

ディップスイッチ同様、コンピュータの状態を変更するために用いられるスイッチ。コンピュータ本体に内蔵されている不揮発性メモリを使って行うので、電源を切っても記憶されている内容は消えない。

■モデム

「MODEM: Modulator = 変調器、DEModulator = 復調器」という変復調器の英語から造語されたもので、データ(情報)通信に用いられる機器のこと。

電話回線の音声信号(アナログ信号)をコンピュータが処理できるデジタル信号に復調したり、あるいは、この逆の処理(変調)を行う。

や

■ユーティリティ

フロッピーディスクのフォーマットや、ディレクトリの管理など、OSのコマンドを使わなくても簡単に操作できるソフトウェアのこと。

ら

■ライトプロテクト

書き込み禁止のこと。大切なフロッピーディスクに誤って他の情報を書き込んでしまわないよう、ライトプロテクトノッチを押し上げるなどして、フロッピーディスク全体を保護する。

■レジューム

サスペンド内容をもとに復元すること。

わ

■割り込みレベル

CPUの作業中、周辺機器から命令が送られた場合などに、現在の作業を中断して、後からの命令を実行することを「割り込み」という。中断した作業は、割り込んだ命令が終了した後に改めて実行できる。CPUが作業を終了するのを待たずにすむため、効率のよい処理が可能になる。割り込みは幾つかのレベルに分けられ、INTまたはIRQという番号で区別されている。

英数

■ANK文字

アルファベット(Alphabet)、数字(Numeric)、カナ(Kana)文字のこと。すべて1バイト(8ビット)で表現される。

■CD-ROM

音楽用のCD(コンパクトディスク)と同じ形状をした読み出し専用の記憶媒体。文字データのほか画像など大量のデータを収められる。

■CPU

Central Processing Unitの略。人間の脳にあたるコンピュータの中心となる部分。

いろいろな演算や制御を行う。

■CRTディスプレイ

CRTとは英語のCathode Ray Tube(陰極線管)の略。

パソコンから送られた文字やグラフィックスを画面に表示する装置。

テレビのブラウン管と同じように、蛍光体に電子ビームを当てて文字やグラフィックスを描く仕組みになっている。

■DCコネクタ

交流電源をとるための端子。ACコンセントと、電源コードで接続する。

■DMAチャンネル

Direct Memory Access Channelの略。周辺機器とメモリのデータのやり取りを制御することによるCPUの負担を減らすため、コンピュータには、CPUを通さずにデータをやりとりするDMAコントローラが内蔵されている。DMAコントローラが持つデータの経路をDMAチャンネルという。

■Enterキー

コンピュータに作業の実行などを指示するキー。

■LAN(ラン)

Local Area Networkの略。

限定された場所・地域・建物の中にある複数のコンピュータを結び、データのやり取りができるようにしたネットワークのこと。

■MS-DOS

パソコンのオペレーティングシステムの一つ。

■OS(オーエス)

→オペレーティングシステム。

■PCM

Pulse Code Modulationの略。

人間の声や楽器の音など、アナログ信号で表される音声信号を、デジタル信号に変換する方式のこと。

■RAM(ラム)

Random Access Memoryの略。

自由に読み書きできるメモリのこと。プログラムのほとんどが、RAMに読み込まれて動作するようになっている。また、データもRAMに読み込んでから処理される。

■ROM(ロム)

Read Only Memoryの略。

読み出すことしかできないメモリのこと。システムソフトはROMに書き込まれていることが多い。また、漢字の字体のデータが記録されている漢字ROMもある。

■ROMアドレス空間

コンピュータ内部のROMの中は、バイト単位に「アドレス(番地)」と呼ばれる数値が付けられており、ROM中の情報が書き込まれている部分を「ROMアドレス空間」と呼ぶ。

■RS-232C

米電子工業学会(EIA)によって規定されたコンピュータと周辺装置とのインターフェイスの規格。

■SCSI(スカジー)

ハードディスクやCD-ROM装置などの周辺機器

を、コンピュータ本体に接続するためのインターフェイスの規格。ANSI(米国規格協会)が規格した。最大8台までのSCSI対応の周辺機器を鎖状につなぐことができる。

■TFT液晶ディスプレイ

Thin Film Transistor(薄膜トランジスタ)の略。液晶ディスプレイの表示方式の一つ。各画素に半導体のスイッチを組み込んだアクティブマトリクス方式のディスプレイで、半導体に薄膜トランジスタを使ったものをさす。

■Windows

Windows(ウィンドウズ)とは、「見ただけでわかる、誰でも簡単に操作できるOSを」という主旨で、アメリカのマイクロソフト社が開発したOSのこと。操作する内容は、ひと目でわかるさまざまな色のグラフィック(絵や図形)で画面に表示され、基本的なほとんどの操作はポインティングデバイスで行える。

目的別索引

本機を手入れする

本機を手入れする

液晶ディスプレイを手入れする	206
キーボードを手入れする	207
スライドパッドを手入れする	207
フロッピーディスクドライブ	207
電源コード	206

周辺機器を使う

周辺機器一覧	92
外部オーディオ機器を使う	131
別売のキーボードを使う	123
増設RAMボードを取り付ける	100
通信機器を使う	148
コミュニケーションスロットに機器を取り付ける	148
キーボード/テンキーボードを使う	123
プリンタを使う	136
ヘッドホンを使う	135
マイクロホンを使う	133
マウスを使う	122
ドライブベイに機器を取り付ける	119
CRTディスプレイを使う	141
PCカードを使う	105
MIDI機器を使う	125
ジョイスティックを使う	125
テレビを接続する	147

本機の設定を変更する

98NOTEメニュー

98NOTEメニューを起動する	158
98NOTEメニューユーティリティを起動する	179
98NOTEメニューを操作する	161
各メニューの設定	163
セキュリティ機能を使う	79、171
98NOTEメニューの一覧 (98NOTEメニュー早見表)	233
98NOTEメニューユーティリティの一覧 (98NOTEメニューユーティリティ早見表)	234

Windows 95

98スライドパッドの環境を設定する	21
-------------------------	----

DOS環境設定ユーティリティで設定する	190
解像度と表示色を変更する	42
キーボードの設定を変更する	15
プリンタの設定をする	138
CRTディスプレイの設定をする	143

メモリスイッチ

メモリスイッチを変更する	183
割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間 の設定を変更する	154

本機の機能を使いこなす

キーボード

キーの名前と働き	12
日本語入力	14
キーボードの設定	15
キーボードのお手入れ	207

98スライドパッド

98スライドパッドの使い方	16
98NOTEメニューで設定する	170
98スライドパッドのお手入れ	207
コントロールパネルで設定する	21

カラー液晶ディスプレイ

表示できる解像度と表示色を確認する	41
省電力機能を使う	77
解像度と表示色を変更する	42
画面を拡大表示する	46
密度変換機能を使う	45

フロッピーディスク

フロッピーディスクドライブを取り付ける	23
フロッピーディスクを入れる/出す	25
フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する	27
フロッピーディスクをライトプロテクトする	28
フロッピーディスクをバックアップする	29

ハードディスク

ハードディスクの領域を確認する	31
ハードディスクをメンテナンスする	32
ハードディスクをバックアップする	33

CD-ROMドライブ

CD-ROMをセットする/取り出す	35
強制的にCD-ROMドライブを取り出す	39

PCカード

PCカードを入れる	109
PCカードを取り出す	109

利用できるPCカードの種類を確認する	106
PCカードサポートの設定をする	112
Card Bus/ZVポート	105
増設RAMボード	
増設RAMボードを取り付ける	100
増設できたかを確認する	103
利用できる増設メモリを確認する	98
CRTディスプレイ	
CRTディスプレイを接続する	141
CRTディスプレイの設定をする	143
表示できる解像度と表示色を確認する	41、146
プリンタ	
プリンタを接続する	136
プリンタの種類を確認する	136
プリンタの設定をする	138
入力機器	
マウスを接続する	122
キーボード/テンキーボードを接続する	123
キーボードの設定をする	124
通信機器	
コミュニケーションスロットに 機器を接続する	148
シリアルコネクタに通信機器を接続する	153
赤外線通信機器を使う	87
ドライブベイ	
ドライブベイに機器を取り付ける	120
ドライブベイに取り付けられている機器	11
ドライブベイで利用できる機器を確認する	119
オーディオ機器	
マイクロホンを接続する	133
ヘッドホンを接続する	135
音量を調節する	128
バッテリー	
バッテリーを充電する	47
バッテリーパックでの使用時間	50
バッテリー残量を確認する	51
サスペンド/レジューム機能	
サスペンド/レジュームする	59
ハイバネーション機能	
ハイバネーションの設定をする	65
ハイバネーション機能を使う	68
セキュリティ機能	
セットアップパスワード	80
パワーオンパスワード	79
I/Oロック	80
通信機能	83

索引

ア

ウインドウアクセラレータ機能	42
液晶ディスプレイの自動停止	168
オートサスペンド	72、169
オーディオ出力端子	5、131
オーディオ入力端子	5、131

カ

解像度	41
外部オーディオ機器	131
かなキー	13
かなキーロック表示	10
カラー液晶ディスプレイ	2
輝度調節つまみ	3
キーボード	2、12、170
キーボード用コネクタ	4、123
キャップスキー	13
キャップスキーロック表示	10
空冷用ファン	3
クリック	18
クリックボタン	2、18
コミュニケーションスロット	6、148

サ

サウンド機能	127
サスペンド	58
サスペンド表示	9
サスペンドスイッチ	3、58
サブバッテリー	208
サムマウス	123
自動中断	73
周辺機器	92
省電力機能	72
省電力モード	168
初期化	27
ジョイスティック	92
シリアルコネクタ	5、153
シリアル I/Oロック	176
スキップセクタ	32
スキャンディスク	32
ステータスインジケータ	3、8
スピーカ	2、128
スピーカ音量調節つまみ	5、128
赤外線通信ポート	2、87
赤外線通信機能	87、171
セキュリティ機能	79
セットアップパスワード	80、173
増設用スロット	2、98
増設RAMボード	98

タ

タップ	19
タップ&ドラッグ	19、170
ダブルタップ	19
ダブルクリック	18
ツメ	6
ディップスイッチ	165
デフラグ	32
テンキーボード	123
電源スイッチ	3
動作環境の設定	163
動作表示用LED	2、7
盗難防止用ロック	3
ドライブ	96
ドライブ番号	30
ドライブベイ	2、11、119
ドライブベイアンロック	6、121
ドライブベイイジェクトレバー	6、121
ドラッグ	18、20

ナ

内蔵固定ディスク自動停止	72、169
入出力デバイスの設定	170
日本語入力システム	14
ニューメリックキー	13
ニューメリックキーロック表示	10

ハ

ハードディスク	30
ハードディスク表示	10
ハイバネーション機能	64、73
バックアップ	29、33
バッテリー残量表示	8
バッテリースロット	6、48
バッテリー	47
バッテリーフレッシュ	54、164
パワーオンパスワード	79、172
非常時ディスク取り出し穴	39
表示色	41
フォーマット	27
不良セクタ	32
プリンタ	136
プリンタ I/Oロック	176
プリンタ用コネクタ	4、137
フロッピーディスク	22
フロッピーディスクイジェクトボタン	23
フロッピーディスクドライブ	23
フロッピーディスクドライブ表示	9
フロッピーディスクドライブ用コネクタ	4、24
ヘッドホン端子	5、135
ホームポジション	15

マ

マイクボリューム	134、163
マイクホン	2、128、133
マイクホン端子	5
マウス	122
マウスポインタ	16
マウス用コネクタ	4、122
密度変換ユーティリティ	45
メモリスイッチ	183
メモリ容量	98
モデム	153、171

ヤ

ユーザーズメモリ	235
----------	-----

ラ

ライトプロテクト	28
ライトプロテクトノッチ	28
レジューム	58、82

ワ

割り込みレベル	154
---------	-----

英数字

16Mバイトシステム空間	163
16ビットPCカード	115
2DD	24
2HD	24
32ビットPCカード	112
98スライドパッド	2、16、170
98NOTEメニュー	158
98NOTEメニューユーティリティ	179
AUTOEXEC.BAT	190
AVGDRVコマンド	198
CD-ROMアクセス表示用LED	11
CD-ROMドライバ	202
CD-ROMドライブ	34
CDトレイジェクトボタン	36
CPU自動停止	72、169
CONFIG.SYS	190
CRTコネクタ	5、141
CRTディスプレイ	141
DCコネクタ	3
DMAチャンネル	154
DOS環境設定ユーティリティ	190
FAXモデムボード	83、148、237
FD I/Oロック	176
Hibernation設定ユーティリティ	65、73
I/Oロック	80、176
LCD連動サスペンド/レジューム	72、169

MIDI対応機器	125
MS-DOSモード	188
NUMキーのロック機能	170
PCカード	106
PCカードイジェクトボタン	5、110
PCカードサポート	112
PCカードスロット	5、109
PCM録音/再生機能	127
ROMアドレス空間	154
USKCGMコマンド	193

98NOTEメニュー早見表

動作環境の設定

サウンド	使用する	BIOSを切り離す	使用しない
マイクボリューム*1	OFF	ON(レベル5/8)	
16Mバイトシステム空間	使用する	切り離す	
バッテリーリフレッシュモード	設定する	設定しない	

ディップスイッチの設定

SW1-5、SW1-6(シリアル)	調歩同期	同期刻時	ST2同期	BCI同期
SW1-8(グラフィックモード)	基本モード	拡張モード		
SW2-5(メモリスイッチ)	初期化する	初期化しない		
SW2-6(固定ディスク)	使用する	切り離す		
SW2-7(vfキー)	使用する	使用しない		
SW2-8(GDCモード)	2.5MHz	5MHz		

省電力の設定

省電力モード	フルパワー	エコノミー	カスタム
液晶ディスプレイ自動停止*2	設定する(約11分)	設定しない	
内蔵固定ディスク自動停止*2	設定する(約3分)	設定しない	
CPU自動停止*2	設定する	設定しない	
LCD連動サスペンド/レジューム	使用する	使用しない	
オートサスペンド	設定する(約13分)	設定しない	

入出力デバイスの設定

98スライドパッド	使用する	使用しない
タップ&ドラッグ機能*3	有効	無効
キーボード指定*4	内蔵	外付け
NUMキーのロック機能	有効	無効
赤外線通信機能	使用する	使用しない
モデム*5	使用する	使用しない

セキュリティの設定

パワーオンパスワード	使用しない	使用する	変更する
セットアップパスワード	使用しない	使用する	変更する
シリアルI/Oロック	設定しない	設定する	
赤外線通信機能I/Oロック*6	設定しない	設定する	
プリンタI/Oロック	設定しない	設定する	
FD I/Oロック	設定しない	設定する	

…工場出荷時の設定です。

※1 「サウンド」が「使用しない」だと設定不可。

※2 「省電力モード」が「フルパワー」だと「設定しない」に、「エコノミー」だと「設定する」に固定される。

※3 「98スライドパッド」が「使用しない」だと設定不可。

※4 別売のキーボード接続時のみ設定可。

※5 FAXモデムボード(PC-9821NR-B05)接続時のみ設定可。

※6 「入出力デバイスの設定」の「赤外線通信機能」が「使用しない」になっているときには設定不可。

98NOTEメニュー ユーティリティ早見表

動作環境の設定

メモリスイッチ

初期化する 初期化しない

省電力の設定

省電力モード

フルパワー エコノミー カスタム

液晶ディスプレイ自動停止※1

設定する(約11分) 設定しない

内蔵固定ディスク自動停止※1

設定する(約3分) 設定しない

CPU自動停止※1

設定する 設定しない

LCD連動サスペンド/レジューム

使用する 使用しない

オートサスペンド

設定する(約13分) 設定しない

入出力デバイスの設定

98スライドパッド

使用する 使用しない

タップ&ドラッグ機能※2

有効 無効

NUMキーのロック機能

有効 無効

…工場出荷時の設定です。

※1 「省電力モード」が{フルパワー}だと{設定しない}に、{エコノミー}だと{設定する}に固定される。

※2 「98スライドパッド」が{使用しない}だと設定不可。

機能仕様

モデル		PC-9821Nr15/S14F	PC-9821Nr15/S10	
CPU		Pentium®プロセッサ クロック150MHz キャッシュメモリ16Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト		
メモリ	ROM	BIOS、98NOTEメニュー 128Kバイト		
	RAM	搭載メモリ16Mバイト(最大128Mバイトまで増設可能) *ユーザーズメモリ15.6Mバイト(最大127.6Mバイト)		
ディスプレイ表示機能	ビデオRAM	2Mバイト		
	表示素子	バックライト付 12.1インチTFTカラー液晶ディスプレイ*1		
	テキスト表示	英数カナ80文字×25行、80文字×20行 / 漢字40文字×25行、40文字×20行いずれか選択 文字単位にリバース、プリンク、シークレット指定可能、カラー8色表示(キャラクタ単位に指定可)		
	グラフィック表示	640×400ドット 4,096色中16色 640×400ドット 4,096万色中256色* 640×480ドット 4,096万色中256色 * : Windows 95のMS-DOSモードおよびMS-DOS 6.2で、拡張グラフィックドライバ使用時のみ表示可能		
	アクセラレータ機能	グラフィックアクセラレータチップ : Trident社製Cyber9385 _m 搭載(ビデオアクセラレーション機能搭載) * : インストール済みのWindows 95でソフトウェアMPEG再生機能を利用した場合のみ有効(ただし、密度変換時は使用不可)		
		640×480ドット 26万色中256色*1	800×600ドット 65,536色*1	
		640×480ドット 65,536色*1	800×600ドット 1,677万色*1	
		640×480ドット 1,677万色*1	1,024×768ドット 26万色中256色*2	
		800×600ドット 26万色中256色*1	1,024×768ドット 65,536色*2	
			1,280×1,024ドット 26万色中256色*2	
	*1 : ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現 *2 : CRTディスプレイ(別売)接続時のみ表示可能			
画面合成	テキスト画面とグラフィック画面の合成表示が可能			
漢字表示	JIS第1、第2水準漢字ROM標準装備、JIS第1、第2水準漢字 7,600字 ユーザ定義文字 188字、40×20/25行、テキスト画面とグラフィック画面の合成表示が可能			
キーボード	JIS標準配列(英数、かな)、本体との一体型 コントロールキー、12ファンクションキー Windowsキー、アプリケーションキー、HELP、COPY、BS、INS、DEL、XFER、NFER、NUMキー、 NUMキーキャンセル機能(98NOTEメニュー切り替え)			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	640K/1M/1.44Mバイトタイプの3モード対応3.5インチフロッピーディスクドライブ(標準添付品)を接続可能		
	ハードディスク	1.4Gバイトタイプハードディスク1ドライブ内蔵	1Gバイトタイプハードディスク1ドライブ内蔵	
	オーディオ	入力	マイク入力(モノラル)、ライン入力(ステレオ)	
		出力	ヘッドホン出力(ステレオ) ライン出力(ステレオ)	
インターフェイス	マウスインターフェイス	内蔵(98スライドパッドと同時使用可能)		
	プリンタインターフェイス	パラレルインターフェイス(ハーフピッチ36ピンコネクタ)		
	CRTインターフェイス	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインターフェイス・カラー) _r		
	ビデオ出力	ビデオ入力を持つ機器(TV、ビデオ等)へPC画像を出力可能		
	シリアルインターフェイス	1ch内蔵(最高115.2Kbps対応)		
	赤外線通信ポート	IrDA規格に準拠、データ転送速度4Mbps		
	FAXモデム	ライン(モジュラージャック)		
	テンキーインターフェイス	キーボード、テンキーボード接続可能		
	外付フロッピーディスクドライブインターフェイス	ハーフピッチ26ピン		
通信機能	モデム	データ転送速度最大33.6Kbps(V.34) エラー訂正 V.42/MNP4、データ圧縮 V.42bis/MNP5 ハンズフリー電話機能対応	オプション	
	FAX	データ転送速度最大14.4Kbps(V.17) FAX制御 EIAクラス1		
セキュリティ機能	あり			
サスペンド/レジューム機能	あり、LCD運動サスペンド/レジューム機能搭載(98NOTEメニューにより設定可能)			
ハイバネーション機能	あり			
98NOTEメニュー	本体ROMに内蔵(ディップスイッチの設定、動作環境の設定)			
カレンダー時計	リチウムバッテリーによるバックアップ			
サウンド機能	PCM録音/再生機能、エンハンスドFM音源機能(標準FM音源[FM音源6音、リズム音源6音、SSG音源3音]、 拡張FM音源[FM音源20音])装備、オーディオ入出力端子付			
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能		
デジタル動画(MPEG)再生機能	再生ソフトウェア標準添付			

モデル	PC-9821Nr15/S14F	PC-9821Nr15/S10
ドライブベイ	1スロット(平均10倍速*1CD-ROMドライブ*2内蔵済) *1: データ転送速度は、CDの最内周で6.6倍速、最外周で11倍速となります。 *2: CAV方式、データ転送速度1,500KB/S、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2)、フォトCD(マルチセッション)対応	1スロット(8倍速CD-ROMドライブ*内蔵済) *: データ転送速度1,200KB/S、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2)、フォトCD(マルチセッション)対応
コミュニケーションスロット	FAXモデムボード(PC-9821NR-B05)内蔵 別売の100BASE-TXインタフェースボード(PC-9821NR-B06)を取り付け可能	別売のFAXモデムボード(PC-9821NR-B05)または100BASE-TXインタフェースボード(PC-9821NR-B06)を取り付け可能
PCカードスロット	TYPE II×2スロット内蔵(TYPE III×1スロットとして使用可)(PC Card Standard準拠) CardBus / ZVボート対応	
電源	AC 100V±10%、50/60Hz (ACアダプタ*2経由)またはニッケル水素バッテリー*3(バッテリーバックDC9.6V、3,300mAh)	
サブバッテリー	ACアダプタ未接続時、バッテリー未接続時に、サスペンドの内容を保持(7.2V、70mAh)	
温湿度条件	10~35℃、20~80%*4(ただし結露しないこと)	
外形寸法	297(W)×247(D)×57.5(H)mm(突起部含まず)	
重量	約3.4kg(本体にバッテリーバック取り付け時)	
消費電力	約29W(内蔵オプション最大接続時 約45W)	

バッテリーパックの充電時間*5

	本機電源ON時	本機電源OFF時
充電時間	約4.0時間	約2.5時間

バッテリーパックでの使用時間*5*6

	バッテリースロットのみ バッテリー接続時	ドライブベイに バッテリーパック増設時
使用時間	約**~**時間	約**~**時間

バッテリーによるサスペンド内容の保持時間

本機の状態	保持時間
バッテリーフル充電時*7	約5日
バッテリーパックを本機から取り外してから*8	約1時間

※1 液晶ディスプレイは消耗部品です。

カラー液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調整具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

※2 ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

※3 バッテリーパックは消耗品です。

※4 18℃~28℃、45%~75%での使用を推奨。

※5 バッテリーパックの充電時間(本機電源ON時)と使用時間は、オプションの接続により変わる場合があります。

※6 バッテリーパックでの使用時間は、本機のご利用状況によって異なる場合があります。

※7 ドライブベイに別売のバッテリーパックを追加した場合、保持時間は約2倍になります。

※8 サブバッテリーのみの保持時間です。

FAXモデムボード機能仕様

機能概要

CPU I/F	<ul style="list-style-type: none"> ・16550A相当(I/Oアクセス、割り込み) ・プラグ&プレイモード対応
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・回線接続切り替え機能 ・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット ・V.34 ・V.32bis ・V.32、V.22bis、V.22、V.21 ・V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 ・V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 -V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット -AT -Sレジスタ ・ビルトインDTEインタフェース -最高115.2KbpsのDTEスピード -パラレル16550AUARTインタフェース ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・最高115.2Kbpsの自動フォーマット/スピード検出 ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAXモデム機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps
送信レベル	-9~15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10~40dBm*
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

*回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	33600/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:33600/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9~-15dBm (出荷時-15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm*
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

※回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発進/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)



98 NOTE

ステップアップガイド

PC-9821Nr15

1996年11月 初版

NEC

P

808-875488-016-A